

新編
新しい国語

2

東京書籍

2016.4～



目次



話すこと・聞くこと



書くこと



読むこと



古典

日本語

文法

漢字

言葉



学びの扉

言葉を感じる



巻頭詩

未来へ

谷川俊太郎



メッセー지를どう聞か

加賀美幸子

短歌を楽しむ

道浦母都子

短歌のリズムで表現しよう

日本語

方言と共通語

文法

敬語

「敬語釣り堀」で大漁を目指せ



字のない葉書

向田邦子

卒業ホームラン

重松 清



問題意識を持って聞こう

漢字

形の似た漢字



鰯節——世界に誇る伝統食

小泉武夫



要約する



テーマを立てて説明する



調べて考えたことを伝えよう

「食文化」のレポート

文法

用言の活用

ばらばら動詞カードをかたづけろ

漢字

漢字の意味

感想を深める

伝え方を工夫する

6
びょうしゃ
描写を
味わう



走れメロス 太宰 治
人物像を捉える

171 152

5
伝統文化を楽しむ



依頼状やお礼状を書く

146 142

漢詩

128 118

平家物語



枕草子・徒然草
まぐらのそうし つれづれぐさ

114



日本語のしらべ 落葉松
かからまつ

105 99

4
説得力を高める



説得力のある提案をしよう プレゼンテーション

98 90



反対意見を想定して書く 意見文

86 80



論証の組み立てを捉える

80



哲学的思考のすすめ 野矢茂樹
つがく のやしげき

80



読書への招待
小さな労働者 ラッセル・フリードマン／千葉茂樹・訳
本で世界を広げよう〈人権〉／本の世界を楽しもう

80

日本語

類義語・対義語

172

文法

助動詞

絵と助動詞を合わせよう

150

日本語

話し言葉と書き言葉

148

漢字

同訓異字

112

文法

助詞

文よ、助詞で大きく育て

111



効果的に表現する

7



読書への招待

歴史の物差し——水月湖の年縞

山根一眞

本で世界を広げよう〈科学・歴史〉／本の世界を楽しもう



「正しい」言葉は信じられるか

香西秀信



タウン誌の記事を推敲しよう



反論する



話し合いで問題を検討しよう リンクマップによる話し合い



想像を誘うように表現する



いきいきと描き出そう 短歌から始まる物語



詩の言葉

わたしが一番きれいだったとき

茨木のり子



読書への招待

坊っちゃん

夏目漱石

日本の名作を読もう／本の世界を楽しもう



漢字

同音異義語



小学校六年の漢字一覧

基礎編

◆ 学びを支える言葉の力

実用的な言葉の力

要約する

テーマを立てて説明する

論理的な言葉の力

論証の組み立てを捉える

反論する

創造的な言葉の力

人物像を捉える

想像を誘うように表現する

* ◆「学びを支える言葉の力」は「 学びの扉」と、「◆ 文法解説」は「 文法の窓」と併せて学べます。



◆ 文法解説

一年の復習

敬語

用言の活用

助詞

助動詞

用言活用表

助詞一覧表

助動詞活用表

資料編

カメレオン

アントン・チエーホフ／原 卓也・訳

白川郷——受け継がれる合掌造り

NHK「世界遺産」プロジェクト

読書活動を楽しもう／本と出会う

清少納言と紫式部 三角洋一

漢詩の世界 日原 傳

古典芸能に親しもう



話すこと・書くこと 題材例

発想・整理の方法

取材の仕方

(インタビュー・アンケート)

手紙の書き方

原稿用紙の使い方・推敲の観点

(条件作文)

【言葉の資料】

言葉を広げよう

学習用語一覧

新出漢字一覧

新出音訓一覧

常用漢字表

254 256 258 262 264 268 269 270

298 300 302 304 306

307 311 312 324 325

領域別 学習材一覧



書くこと						話すこと・聞くこと			系統
感性・創造	情報発信	通信・手紙	論証・説得	伝達	詩歌創作	話し合う	話す	聞く	
203	193	146	99	71	26	197	105	54	ページ
いきいきと描き出そう 短歌から始まる物語	タウン誌の記事を推敲しよう	依頼状やお礼状を書こう	反対意見を想定して書く 意見文	調べて考えたことを伝えよう 「食文化」のレポート	短歌のリズムで表現しよう	話し合いて問題を検討しよう リンクマップによる話し合い	説得力のある提案をしよう プレゼンテーション	問題意識を持って聞こう	学習材名
●情景や心情などをいきいきと表すように、描写を工夫して物語を作る。 ●書いた物語を読み合って、材料の活用の仕方などについて意見を交換し、自分の考えを広げる。						●表現の仕方や根拠の確かさに注意して聞き、自分の考えを広げる。 ●聞き手の立場や考えを想定して、説得力のある話を組み立てる。 ●資料や機器を活用して、分かりやすく印象的に話す。 ●さまざまなメディアを使って討論のテーマを決め、メリットとデメリットを出し合う。 ●テーマについて話し合って検討し、意見をまとめる。 ●自然や体験の描き方を工夫して、短歌を作る。 ●ふだんの生活やメディアなどで見聞きすることからテーマを決め、調査して自分の考えをまとめる。 ●調べて分かった事実や自分の考えが明確に伝わるように、構成を工夫してレポートを書く。 ●自分の立場を明確にして、分かりやすい構成で意見文を書く。 ●意見が効果的に伝わるように、根拠を具体的に記述したり、他の立場への反論を盛り込んだりする。			目標
・手紙を推敲する ・より効果的に伝わるように推敲する ・豊かに描写する ・意見交換の観点を持つ						・描き方を工夫する ・テーマを設定する ・レポートの構成を工夫する ・反論を考える ・分かりやすい構成で意見文をまとめる			言葉の力

読むこと

詩			読書			言葉とメディア	文学二	吟味・判断	構成・展開	文学一		言語感覚	
212	114	巻頭	214	174	80	186	152	90	60	37	32	21	18
わたしが一番きれいだったとき 落葉松			未来へ 坊っちゃん			「正しい」言葉は信じられるか 小さな労働者	走れメロス	哲学的思考のすすめ	鯉節——世界に誇る伝統食	卒業ホームラン 字のない葉書		短歌を楽しむ	メッセージをどう聞か
● 詩に表れているものの見方や考え方について、感想を持つ。			● 時を表すさまざまな表現に注意して詩の意味を捉え、読み方を工夫して音読する。			● 新聞記事を読み比べて、印象の違いについて話し合おう ● 事実の述べ方による、読み手に与える印象の違いについて考える。	● 場面の展開や表現の仕方について、自分の考えをまとめる。	● 筆者の考えなどについて、知識や体験と関連づけて自分の考えを持つ。	● 文章全体と部分との関係や、筆者の書き方の工夫に注意して、内容を読み取る。	● 登場人物の言葉や行動がどんな意味を持っているかに注意して、作品を読み味わう。		● 短歌の表現の工夫などを捉えて、鑑賞したことをまとめる。	● キーワードの意味に注意して、筆者の考えを捉える。
			● 文学作品を読み、登場人物の考え方や人柄などについて考える。			● 複数の情報源から情報を得て、比べながら自分の考えをまとめる。	● 人物や情景の効果的な描写に着目して、作品を読み深める。	● 論の進め方を捉え、文章の内容を読み取る。	● 文章の構成を捉え、要約する	● 登場人物の言葉や行動の意味に注意する		● 短歌を鑑賞する	

言葉

学びの扉／学びを支える言葉の力

古典

8

「言葉の力」を

探しに行こう

言葉を通して豊かに想像したり、深く思考したりする力。言葉を駆使して自分の思いや考えを相手に伝える力。そんな「言葉の力」を求めて旅に出よう。

一年では、登場人物の思いを想像したり、自分のものの見方を広くしたり、相手に分かりやすく伝えたりすることを中心に学んできた。二年では、人物像に着目して作品を味わったり、論の進め方を捉えて思考を深めたり、説得力を持って伝えたりすることを学んでいく。

言語

日本語の特徴や文法、漢字について学び、言葉への理解を深めよう。

話すこと・聞くこと

問題意識を持って聞くことを学ぼう。また、プレゼンテーションを通して説得力のある話し方を学んだり、問題を多面的に検討するための話し合いの仕方を学んだりしよう。

古典

古典の随筆や軍記物語、漢詩を読んで、古人の感性や考え方に触れよう。

書くこと

テーマを立て、調査し、レポートにまとめる方法や、説得力のある意見文の書き方を学ぼう。また、物語を創作することを通して、豊かな描写の仕方を学ぼう。

読むこと

登場人物の言動や、そこから分かる人物像に着目して、文学作品を味わおう。また、説明・評論文を読んで、論の進め方を捉えたり、思考を深めたりしよう。

学びを支える言葉の力

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各学習材には、社会生活で必要となるさまざまな「言葉の力」が示されている。

更にこの教科書には、各学習材の「言葉の力」の基礎となる「学びを支える言葉の力」を鍛える学習材がある。国語学習の基礎トレーニングとして、「学びを支える言葉の力」を学ぼう。

国語学習で身につけた「言葉の力」を、生活の中のさまざまな場面で生かしていこう。

学習の進め方・教科書の使い方

* 最初に巻末「言葉の力一覽」を確認し、一年の学習を振り返ろう。

扉



扉に、季節を感じられる
短歌と写真が載っているよ。



これから学ぶこと

これから学ぶことを確認し、学習の見
通しを持つ。

* の内容は、家庭で学ぶこともできる。

目標

目標を確認し、学習の流れを見通そう。

文章／脚注

文章を通して読み、脚注の言葉や漢字
を学ぼう。

言葉や漢字は、学習の前
に確認しておくといね。



● 「読むこと」の学習材の脚注で、言葉を学ぼう。

「記号の意味」

意：意味を調べよう。

文：短文を作ろう。

類：似た意味の言葉（類義語）を挙げよう。

対：反対の意味の言葉（対義語）を挙げよう。

● 「読むこと」「言葉」の学習材の脚注や末尾で、漢字を学ぼう。

新出漢字（黒の文字）

中学校で学ぶ漢字。「常用漢字表」の漢字のうち、小学校で学んだ漢字を除いたもの。

新出音訓（灰色の文字の、●の音訓）

小学校で学んだ漢字の、中学校で新たに学ぶ音訓。

「付表」の語（灰色の文字で示された語）

「常用漢字表」の「付表」の語のうち、中学校で学ぶもの。

「記号などの意味」

（ ）の漢字：複数の書き方がある場合、（ ）を用いて二通りの字形を示している。どちらで書いてもよい。

片仮名：音を示している。

平仮名：訓を示している。

太字：送り仮名を示している。

読むこと／古典

【基礎編】
学びを支える
言葉の力

● 問いを立てる

山田さんは「学びの扉」の扉を開くために、この問題の本に
たどり着いた。山田さんは、この問題の本にたどり着いた
かについて、次のように考えた。

この問題の本は、山田さんが、
「学びの扉」の扉を開くために、
たどり着いた。山田さんは、
この問題の本にたどり着いた
かについて、次のように考えた。

山田さんは、この問題の本にたどり着いたかについて、
次のように考えた。

山田さんは、この問題の本にたどり着いたかについて、
次のように考えた。

● テーマを立てて説明する

山田さんは、この問題の本にたどり着いたかについて、
次のように考えた。

山田さんは、この問題の本にたどり着いたかについて、
次のように考えた。

山田さんは、この問題の本にたどり着いたかについて、
次のように考えた。

● テーマを立てて説明する

山田さんは、この問題の本にたどり着いたかについて、
次のように考えた。

山田さんは、この問題の本にたどり着いたかについて、
次のように考えた。

山田さんは、この問題の本にたどり着いたかについて、
次のように考えた。

読み取る・考えを深める
目標を意識して、文章を読み取り、内
容や構成・表現について考えを深めよう。

言葉の力

学習のポイントを確認しよう。

広げる言葉・広げる漢字

使える言葉や漢字を増やそう。

資料編307ページの「言葉
を広げよう」にも、多くの
言葉が載っているよ。



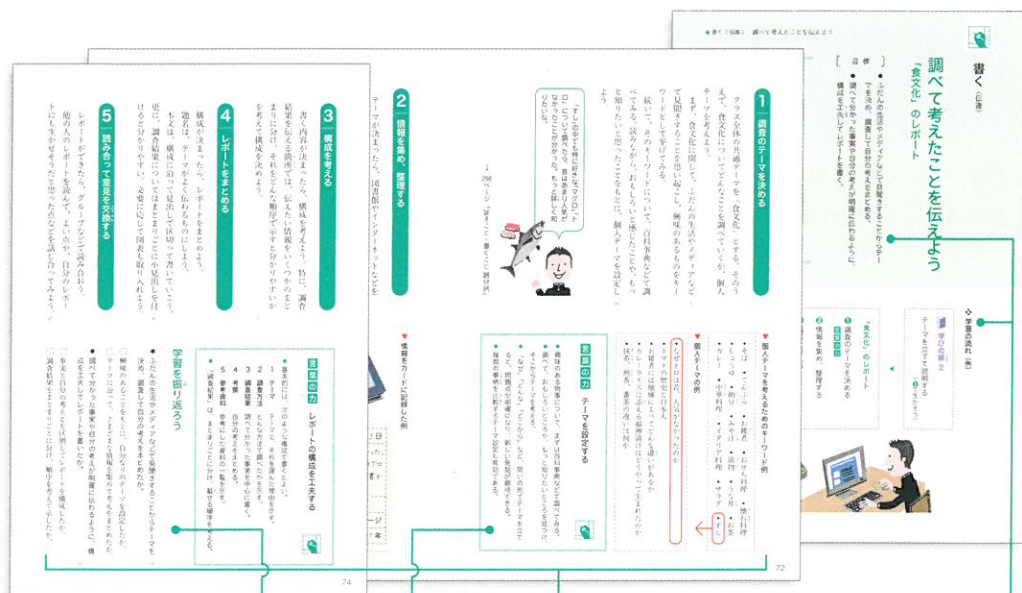
学びの扉 ↓ 学びを支える言葉の力

「学びの扉」で、基礎的な言葉の力を身につけよう。基礎編の
「学びを支える言葉の力」では、更に詳しく学ぶことができる。
ここで身につけた言葉の力は、「学びの扉」の前後の「読むこと」
「話すこと・聞くこと」「書くこと」の学習材で生かそう。

「学びの扉」と「学びを支える言葉の力」で学んだ
ことは、国語の学習だけではなく、ほかの教科の学習
や生活の中でも生かすことができるよ。



傍線……特別な音訓、用法のごく狭い音訓。
澄 (チヨウ) 澄みきる
頼 (チヨウ) 頼張る
納 (ナツ) 納める



目標／学習の流れ(例)

目標を確認し、学習の流れを見通そう。

「学びの扉」との関連が示されているよ。この学習材では、直前の「学びの扉」(テーマを立てて説明する)で学んだことを生かすんだね。



学習の手順・具体例

学習の手順(上段)に沿って、具体例(下段)を参考にしながら取り組もう。

言葉の力

学習のポイントを確認しよう。

学習を振り返ろう

学習を振り返って、自己評価をしよう。

* が示されている学習材では、関連するデジタルコンテンツ(音声や映像の資料)を利用するのも効果的である。

教科書の仕組み

この教科書には「本編」のほか、「基礎編」と「資料編」がある。

【基礎編】

●「学びの扉」の学習内容は、基礎編の「学びを支える言葉の力」で、更に詳しく学ぶことができる。(学習材名の下にページを示している。)

↓ 学びを支える言葉の力 239ページ

●「文法の窓」の学習内容は、基礎編の「文法解説」で、更に詳しく学ぶことができる。(学習材名の下にページを示している。)

↓ 文法解説 258ページ

【資料編】

●「読むこと」や「古典」の学習材に関連する読み物を、資料編に掲載している。(学習材中に適宜ページを示している。)

↓ 資料編 278ページ

内容や書き方を読み比べよう
白川郷—受け継がれる合掌造り

NHK「世界遺産」プロジェクト

●「話すこと・聞くこと」「書くこと」「言葉」の学習に役立つ資料や、読書活動・情報活用に関する資料を、資料編に掲載している。(学習材中に適宜ページを示している。)

↓ 298ページ「話すこと・書くこと 題材例」

読むこと（読書／詩）

言葉 (日本語探検／文法の窓／漢)

読書案内

小さな労働者

読書への招待

一九九一年の四月のある朝、ミシシッピ州バズカシ
にあるシェパードの牧場で、エミビがメダラに
向かふつてワーズを吐く。メダラは、カヌーの舟をに上りて
直つてエミビの外手手に出掛けてゐるは、エミビを入れる
ガブツでつて。エミビは早稲、一時は稲を満面の微笑目
を返して、一日中、下堀で冷たいエミビの殺をぬぐつてつて
この仕事初めてやっていたのは、稲のこぼしてした。矢の強
さ、この二十少年は、オリス・ハイオンが、一次探検大戦が
始まる例に四年間、撮影した、何千名もの働く子供たち
のうちの一人です。

【基礎編】
文法解説

用言の活用

[illegible]

試験科目	試験科目	試験科目
国語	英語	数学
社会	理科	外国語
音楽	美術	体育
家庭科	保健体育	職業科
総合学習	特別活動	その他

言葉

日本語探検

文法の窓 ↓ 文法解説

漢字道場

言葉の学習材で、日本語の特徴や文法、漢字について学ぼう。
基礎編の「文法解説」では、文法について更に詳しく学ぶことができる。

資料編312ページの「新出漢字一覽」には、二年で学習する漢字の画数や部首、筆順も載っているよ。

読むこと（読書）・読書案内



三か所にある読書の学習材（「読書への招待」）をきつかけにして、さまざまな本に手を伸ばしてみよう。学習材の後に掲載している「読書案内」を参考にとよい。「読書案内」は、「読むこと」の学習材の脚注欄の末尾や、資料編にも掲載している。

読むこと（詩）

資料編286ページの「読書活動を楽しもう」で紹介している読書活動にも取り組んでみよう。

三か所にある詩の学習材では、音読・朗読したり、内容を読み深めたりしよう。

これから1年間で学ぶこと

スタート!

3 伝え方を工夫する

60 読 鯉節——世界に誇る伝統食
世界一硬い食べ物「鯉節」の秘密。

69 学 要約する
前の学習材と併せて学ぼう。

70 学 テーマを立てて説明する
次の学習材で学びを生かそう。

71 書 調べて考えたことを伝えよう
「食文化」のレポート
僕は、マグロの秘密を。
君は何をレポートする?

77 言 用言の活用
ばらばら動詞カードをかたづけろ

78 画 漢字の意味

80 読 小さな労働者

2 感想を深める

32 読 字のない葉書
父の思い出は、葉書の
記憶とともに。

37 読 卒業ホームラン
最後の試合。
智の出番は……。

54 話 問題意識を持って
聞こう
それって事実?
それとも考え?

57 書 形の似た漢字

1 言葉を感じる

18 読 メッセージを
どう聞か
耳を澄まして。

21 読 短歌を楽しむ
言葉の写真、
言葉の音楽。

26 書 短歌のリズムで
表現しよう
風景、出来事。
リズムに乗せて。

28 言 方言と共通語

30 言 敬語
「敬語釣り堀」で
大漁を目指せ

*ここでは、1年間の学習の流れの例を示している。

*●の中の数字と文字は、各学習材のページと領域。

(話…話すこと・聞くこと/書…書くこと/読…読むこと/
古…古典/言…言葉/学…学びの扉)

効果的に表現する

186 読 「正しい」言葉は信じられるか

あの人は、「おせっかい」か
「世話好き」か。

193 書 タウン誌の記事を推敲しよう

町の魅力、伝えます。

196 学 反論する

次の学習材で学びを生かそう。

197 話 話し合いて問題を検討しよう

リンクマップによる話し合い
メリットとデメリットを
てんびんに掛ける。

202 学 想像を誘うように表現する

次の学習材で学びを生かそう。

203 書 いきいきと描き出そう

短歌から始まる物語
情景が広がる。物語が動き出す。

210 言 同音異義語

212 読 わたしが一番きれいだったとき

214 読 坊っちゃん

ゴール!



伝統文化を楽しむ

118 古 枕草子・徒然草

ものの見方、人の見方。

128 古 平家物語

無常の世に生きた武士たち。

142 古 漢詩

詩仙と詩聖、中国の名詩。

146 書 依頼状やお礼状を書く

思いを手紙にしたためて。

148 言 話し言葉と書き言葉

150 言 助動詞

絵と助動詞を合わせよう

描写を味わう

152 読 走れメロス

真っ赤な夕日は、刻々と沈む。

171 学 人物像を捉える

前の学習材と併せて学ぼう。

172 言 類義語・対義語

174 読 歴史の物差し ——水月湖の年編

説得力を高める

90 読 哲学的思考のすすめ

「恥ずかしい」を哲学する。

98 学 論証の組み立てを捉える

前の学習材と併せて学ぼう。

99 書 反対意見を想定して書く 意見文

反対意見を迎え撃て。

105 読 説得力のある提案をしよう プレゼンテーション

プレゼンで、人を動かす。

111 読 助詞

文よ、助詞で大きく育て

112 言 同訓異字





写真・竹内敏信

桜ばないのち一ぱいに咲くからに生命をかけてわが眺めたり

岡本かの子

1

言葉を感じる



読む〈言語感覚〉

メッセージをどう聞くか
短歌を楽しむ



書く〈詩歌創作〉

短歌のリズムで表現しよう

- ◆ 日本語探検 方言と共通語
- ◆ 文法の窓 敬語

「敬語釣り堀」で大漁を目指せ

メッセージをどう聞か

加賀美幸子

あるとき、埼玉県大宮市（現在のさいたま市）近郊のある農家を訪ねた。

朽ちかけた茅ぶきの屋根、崩れかけた土壁、かしいだ柱。にもかかわらず少しもみすばらしくなく堂々とした風格を備えているのは、風雪にさらされて、耐えぬいてきた家の歴史がそのままその形に現れているからであろうか。

その家のあるじは、新しく建て替えたかと言う。新しいことだけがよいことではないのだから。家だけではない。辺りを見ると、今は使っていないが、かつて大切な役目を果たしていた古い農機具などが、しまい込まれず、邪魔にならない所で、そのまま、息をしているのだ。納屋の天井にはおじいさんやお父さんが使った馬の鞍や麦打ち機が当時の姿のまま下げられ、蔵に入るとすぐ石臼、田下駄、糸紡ぎ機、木の鋤等々、みんな見える所に置かれている。

「資料館などに、隔離保存はしたくない。家の奥にもしまい込みたくない。使われていた暮らしの中に、そのままそっと置いておきたい。畑やたんぼを守ってきた父母、祖父母、その前の代の人々につながる物たちなのだから。」

農作業も変わって、ほとんどの家は、古い農機具などは処分してしまったけれど、先代、



読む〈言語感覚〉

「目標」

● キーワードの意味に注意して、筆者の考えを捉える。

2 茅ぶき

茅で覆うこと。茅とは、屋根の材料に使う丈の高い植物の総称で、スキ・チガヤ・スゲなど。

8 麦打ち機

麦の穂から実を落とすための道具。

9 石臼

穀物や豆をすり潰して粉にするための道具で、石でできているもの。

9 田下駄

たんぼで作業するときに足が泥に沈み込むを防ぐための履き物。

9 糸紡ぎ機

綿や繭から糸を作るための道具。

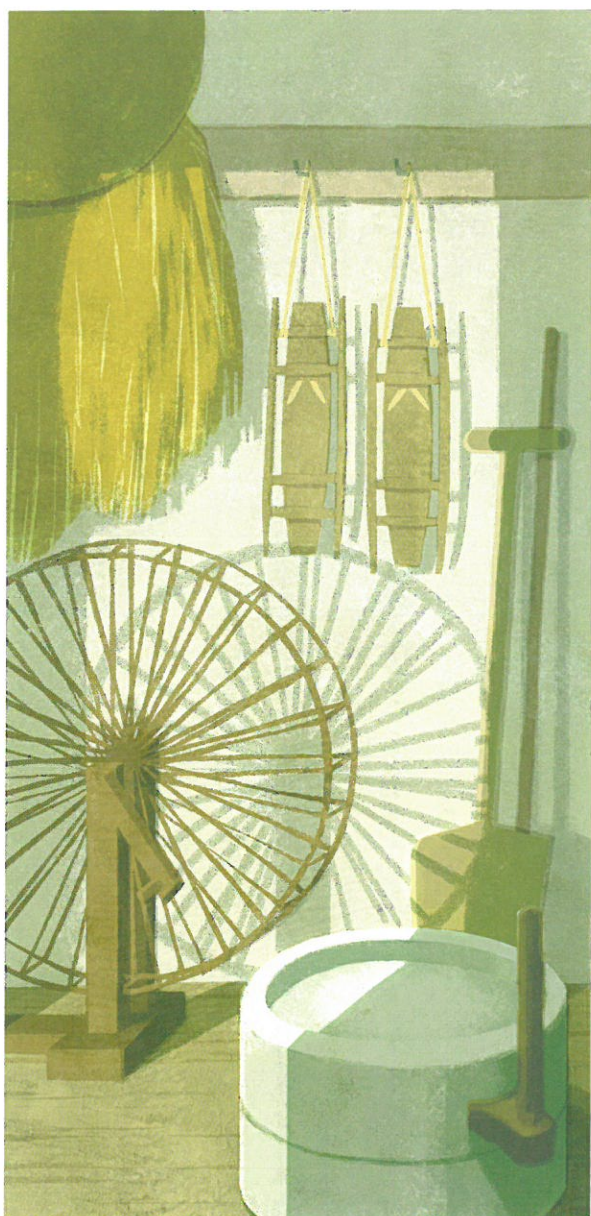
9 鋤

土を掘り起こすための道具。

1 意 近郊

2 意 かしぐ

3 文 風格



先々代やその前の代が、土地と作物に一生をささげたそのあかしを、だいじにしておいてやりたい。そしてときどき見ながら、自分もその気持ちを つないで、畑やたんぼを守っていききたい。一度壊したら元には戻らないし、物の形がなければ、自然に忘れてしまう。それでは何だか先祖がかわいそうだ。」とあるじは言う。

処分された多くの物、多くのあかし。たんぼも少なくなった。自然もだんだん消えていく。何でも一度なくしてしまうと、元には決して戻らない。……胸がちくちく痛くなった。私自身も何と多くの物をなくし、何と多くの事々を忘れ去ってきたことか……。

5

1 意 あかし

3 壊 カイ
こわれる

破壊 はかい

9 蔵 くら

11 奥 (オウ)
おく

奥地 おくち

11 隔 カク
へだてる

間を隔てる あいだをへだてる

9 白 キュウ
うす

白歯 しろは

5 替 タイ
かえる

代替 だいたい

2 壁 ヘキ
かべ

岸壁 がんぺき

2 朽 キュウ
くちる

不朽の名作 ふくしゅうのめいさく

1 郊 コウ
コウ

郊外 こうがい

古い家や昔の機具からのメッセージをだいに捉えて、静かに堂々と暮らす農家のある
 じの言葉が忘れられない。更に、そこからは生きるうえでの大きなメッセージが聞こえて
 きた。

私たちの暮らしにはメッセージがあふれている。テレビや書物、人の言葉、自然の様子、
 出来事、その他、世の中に存在する全ての事や物には、メッセージがあるはずだ。耳を澄
 まし、目を凝らして、人や物事の言葉や様子をだいに聞き取り読み取り、自らを見つめ
 ながら、慌てずゆっくり歩いていきたい。

世の中のさまざまなメッセージの中から何を感じ、何を捉えるか。メッセージの捉え方
 はそのままその人間の在り方、生き方を表すのではないだろうか。

絵・高田美穂子



加賀美幸子

一九四〇「昭和15」年、東京都出身。アナウンサー。

著書に「ことばの心に耳をすませば」「ことばの心・言葉の力」などがある。

出典 「こころを動かす言葉」による。

〇「メッセージ」という言葉がどんな意味で使われているかに注意して、筆者の考えを捉えよう。

5

6 凝 (ギョウウ) ころす
 5 澄 (チヨウ) すむ

凝固 (ギョウコ) 澄みきる

読書案内

言葉に関する随筆を読む

こころを動かす言葉

加賀美幸子



短歌を楽しむ

道浦母都子

短歌は、千三百年以上の歴史を持つ日本独自の伝統文学です。五・七・五・七・七、たった三十一文字で、人々の思いや美しい光景を写真のようにとらえることができます。人や自然との一瞬の出会いを半永久的なものにしてくれる不思議な力を持つ言葉の器（形式）ともいえます。

小説やエッセーを散文とよび、短歌や俳句、詩を韻文とよびますが、韻文の「韻」は響きという意味を表します。つまり、韻文は散文と違って、響く文、音楽を奏でる文と理解することが可能です。その点をしっかり念頭に置き、短歌を声に出して繰り返し読んでみると、三十一文字の中に美しいメロディーが流れていることに気づくはずで、そのメロディーを楽しみながら、短歌を鑑賞してみましよう。

金色のちひさき鳥のかたちして銀杏ちるなり夕日の岡に

与謝野晶子

この一首は、初句から結句までをひと息に読むと、「ちひさき鳥」の「ち」「ひ」「き」「り」など、たびたび登場する「母音のイ」の響きの美しさが分かるはずです。この歌に描かれ



読む〈言語感覚〉

「目標」

●情景や心情を表す語句に注意して、短歌を読み味わう。

●短歌の表現の工夫などを捉えて、鑑賞したことをまとめる。

鑑

（かんがみる）

図鑑

岡

（おか）

岡山県

器

（うつわ）

2 三十一文字

短歌を仮名で表した場合の基本的な文字数。三十一音。短歌のことを「三十一文字」とよぶこともある。

10 与謝野晶子

一九四二〔昭和17〕年



大阪府出身。歌集に「みだれ髪」などがある。

11 初句から結句まで

短歌を構成する五・七・五・七・七のそれぞれを、初句・二句・三句・四句・結句という。

ているのは、夕日の沈^{しず}もうとしている岡に銀杏の葉が散っている光景です。夕日を受けて、きらきらと金色に光って舞^まい落ちる銀杏の葉。作者は、それを見て、まるで金色の小さな鳥のようだと言っています。「銀杏が鳥に？」と不思議に思うかもしれませんが、作者は、自分の感じたありのままを言葉にし、短歌としています。心で思うこと、感じたことを素^す直^なに表現する大切さを示してくれる一首です。

5

海を知らぬ少女の前に麦藁帽^{むぎわらぼうし}のわれは両手をひろげていたり

寺山修司^{てらやましゆうじ}

夏休みの光景でしょうか。少女を前にして少しはにかみながら立っている少年の姿が浮かんできます。少年は、どこかの海を見てきた。その大きさを、両手を広げて、まだ海を見たことのない少女に語り聞かせているのです。このとき、少女はどんな様子で聞いているのでしょうか。次々と想像を広げてみたくなる一首です。この作品は、初句の「海を知らぬ」が六音であるなど「字余り」となっていますが、声に出して読んでみると、短歌のリズムからさほど外れていないことが分かります。つまり、「字余り」や「字足らず」であっても、短歌のメロディーが滑らかに流れていけば、あまり問題にはなりません。

10

観覧車回れよ回れ想^{おも}ひ出は君には一日^{ひとひ}我^わには一生^{ひとよ}

栗木京子^{くりききょうこ}

この作品からは、観覧車に乗っている一組のカップルが想像できます。ゆったりと大きく回る観覧車。大空へ上^{のぼ}っていく観覧車に乗って楽しみの絶頂にあるはずなのに、なぜか

15

6 寺山修司



一九三五〔昭和10〕年
一九八三〔昭和58〕年
青森県出身。歌集に『空には本』などがある。

11 字余り

短歌の基本の音数よりも多くなっていること。逆に、音数が少ない場合を「字足らず」という。

14 栗木京子



一九五四〔昭和29〕年、愛知県出身。歌集に『水惑星』などがある。

4 文ありのまま

7 意はにかむ

12 類さほど

16 意絶頂

13 滑

カ
ツ
コ
ツ
す
べ
る
な
め
ら
か

円滑^{えんかつ}



道浦母都子

出典 本書のための書き下ろし

一九四七「昭和22」年、和歌山県出身。歌人。
歌集に「無援の抒情」「はやぶさ」などがある。

切ない思いが伝わってくるようです。この作品では、「回れよ回れ」で、一度、切って読んでみましょう。ここまでは、観覧車への呼びかけの言葉となっています。このように、二句で短歌の意味が切れている場合を「二句切れ」といいます。また、この作品では「君には一日我には一生」と「対句」表現になっている点にも注目しましょう。「君」と「我」、「一日」と「一生」、対照的な言葉を使うことによって、二人の思いの違いを際立たせています。相手にとってはたった一日の出来事かもしれないけれど、自分にとっては一生記憶に残るほどの体験だということです。相手を思う気持ちの強さが感じられる一首です。

ここまで、短歌を三首読んできました。自分一人で読んでみたときに想像したものと鑑賞文の内容が多少違っていても、問題はありません。短歌は、定型を持った詩、つまり、詩の一つの形ですので、読者が感じたまま、思ったままに鑑賞していいものなのです。

短歌は長い伝統を持つ定型詩ですが、決して難しいものではなく、今をいきいきと映せる文学であることが、よく理解できたことでしょう。短歌を鑑賞するときには、読んで感じた印象から、想像の翼を自由に広げることが大切です。さまざまな短歌をそらんじて、快い音楽を楽しむように、作品鑑賞を試みてみましょう。

10

5

13 翼 ヨク
つばさ

主翼 しゅよく

4 対 ツイ

1 意 切ない

5 文 対照的

13 意 そらんじる

読書案内

短歌の世界に親しもう

短歌をよむ



依万智 たけ まち

短歌五首

くれないの二尺伸びたる薔薇の芽の針やはらかに春雨のふる

最上川の上空にして残れるはいまだうつくしき虹の断片

白鳥は哀しからずや空の青海のあをにも染まずただよふ

不来方のお城の草に寝ころびて
空に吸はれし

十五の心

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかさ

↓ 巻頭「扉の短歌七首」

正岡子規

斎藤茂吉

若山牧水

石川啄木

俵 万智

1 正岡子規 一八六七〔慶応3〕
一九〇二〔明治35〕年
愛媛県出身。歌集に「竹
乃里歌」がある。

2 斎藤茂吉 一八八二〔明治15〕
一九五三〔昭和28〕年
山形県出身。歌集に「赤
光」などがある。

2 最上川 山形県を流れる川。

3 若山牧水 一八八五〔明治18〕
一九二八〔昭和3〕年
宮崎県出身。歌集に「海
の声」などがある。

4 石川啄木 一八八六〔明治19〕
一九一二〔明治45〕年
岩手県出身。歌集に「一
握の砂」などがある。

4 不来方 岩手県の盛岡を指す古称。

7 俵 万智 一九六二〔昭和37〕
年、大阪府出身。歌集
に「サラダ記念日」な
どがある。



短歌を読み味わい、鑑賞したことをまとめよう

【目標】

- 情景や心情を表す語句に注意して、短歌を読み味わう。
- 短歌の表現の工夫などを捉えて、鑑賞したことをまとめる。

読み取る

① 「短歌を楽しむ」で取り上げられている三首について、鑑賞文を参考にして情景や心情を捉えよう。また、音読して短歌のリズムを味わおう。

② 「短歌五首」を読み、それぞれの歌に詠まれている情景や心情を想像したり、気に入った歌を暗唱したりしてみよう。

考えを深める

③ 「短歌五首」（あるいは、「扉の短歌七首」を加えた十首）から一首を選び、鑑賞したことをまとめよう。

たすけ 短歌から読み取ったことや想像したこと、表現の工夫として感じられたことなどを挙げよう。鑑賞したことを発表し合うのもよい。

10

5

言葉の力

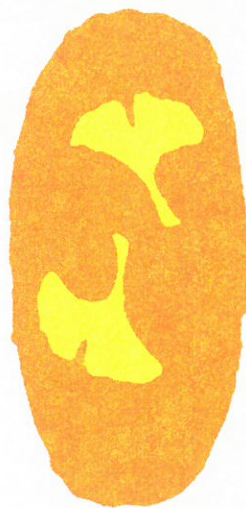
短歌を鑑賞する



- 短歌の形式を理解する。短歌は、五・七・五・七・七の三十一音を定型とする。
- 音読して、短歌のリズムを感じ取る。
- 句切れに注意して、音読や意味の理解に役立てる。
- 語句の意味や表現技法などに注意して、情景や心情を捉える。
- 読み取ったことから、想像を広げていく。

20

15





書く〈詩歌創作〉

短歌のリズムで表現しよう

[目標]

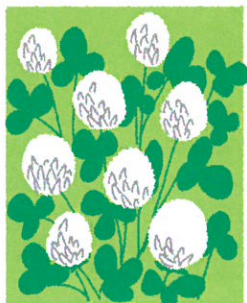
- 自然や体験の描き方を工夫して、短歌を作る。

1 短歌の題材を見つける

身近な自然や自分の体験などを思い起こして、心を動かされたこと、心に残っていることをメモとして書き出そう。思いつくままに短い言葉で書き出してもよい、いったん文章にまとめてみてもよい。

2 短歌のリズムに合わせて、描き方を工夫する

書き出した言葉をもとにして、五・七・五・七・七の短歌のリズムに合うように、言葉を並べてみよう。



10

5

短歌は、五・七・五・七・七のリズムを持った定型詩である。自然の風景や体験したことなどを題材にして、一瞬感じた心の動きや、じっくり深めた自分の思いを、短歌のリズムに乗せて表現してみよう。

メモの例

原っぱにシロツメクサ
がたくさん咲いていて、
きれいだった。踏むのが
かわいそうだと思った。

自然を見て感じた
ことをまとめてみた
よ。



僕と友達

↓ 中学二年 十四歳
帰り道 黙っていた
自転車を押して歩いた

体験から思いつく
言葉を書き出したん
だ。



短歌のリズムに合わせて言葉を並べた例

一面のシロツメクサの原っぱを踏むのはとても惜しい気がする
話すこと見つからなくて自転車を押してゆくのは十四の二人

いったん言葉を並べてみた後で、更に言葉を選び直したり、並べ替えたりしながら表現を練りあげよう。繰り返す声に出すうちに、短歌のリズムに合った言葉が見つかることもある。辞書を使って、言葉の意味を確かめたり、意味の似ている別の言葉を探したりするのもよい。

言葉の力

描き方を工夫する



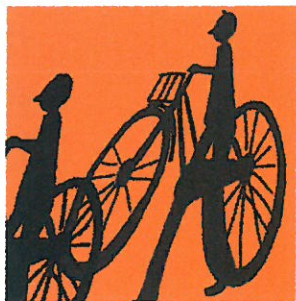
- 鮮明な印象を与えるように言葉を選ぶ。
- 読者が想像を広げたいかなるように書く。

3

清書して読み合う

短歌ができたら、丁寧に清書しよう。

グループやクラスでお互いの短歌を読み合い、よいと思った表現や、どんな場面を想像したかなど、感想を述べ合おう。



15

10

描き方を工夫する

シロツメクサの原っぱの、誰にも踏まれていないきれいな様子を表現したい。それには「まっさらな」という言葉を使ったらいいかな。



単に「自転車」というだけでなく、「銀の自転車」にしたほうが、場面の印象がくっきりしそうだ。



短歌の完成例

どうしても踏むのが惜しいまっさらなシロツメクサの輝く野原

話すこと見つからなくて押してゆく銀の自転車十四の二人

試験の日みんな余裕の顔に見え僕もしてみる余裕のふりを

ゆつくりと線路は右に傾いて君の駅へと続くタンポポ

金色の小さな円を描きつつ虻が飛び込む美術教室

見逃した球の悔しさ思い出し汚れたグラブ丁寧に拭く

方言と共通語

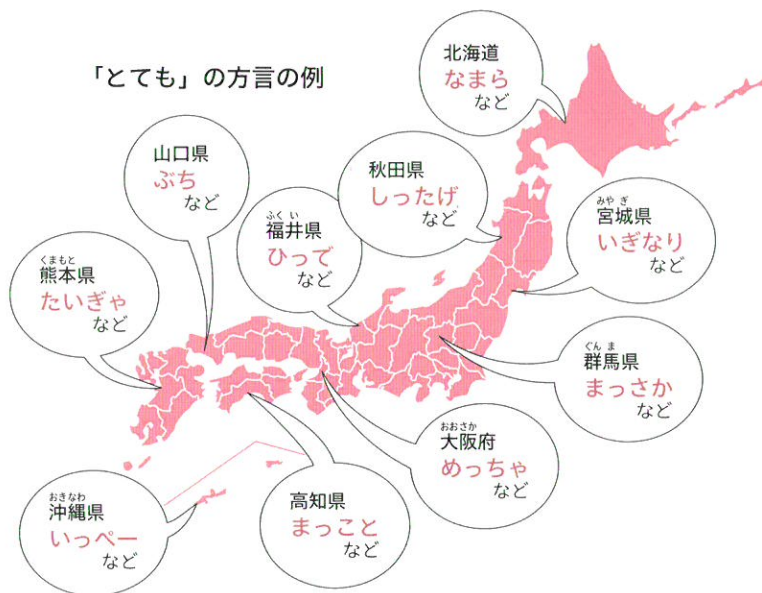
方言と共通語

日本の各地で使われる日本語の姿は地域ごとに異なる。例えば、「雨」の「あ」を高く言うか、「め」を高く言うか、疲れたときに「疲れた」「こわい」「えらい」「きつい」のどれを使うか、同じ野菜を「なす」と言うか「なすび」と言うかなどは、地域によって違う。ある地域の言葉が、こうした違いをいくつも持ち、他の地域の言葉とは異なる場合、その言葉を、「(その地域の)方言」という。

一方 放送・新聞・雑誌などのマスメディア、あるいは教科書などで使われる日本語には地域差が感じられない。これはどこでも通用するようにと、主に東京の言葉をもとに作られてきた言葉で、「(全国)共通語」という

共通語が改まった場面で使われるよそ行き
の言葉であるのに対し、方言は、生活に密着
したふだん着の言葉だといえる。例えば、家

「とても」の方言の例



で家族と話す場合には方言を使い、町でよそから来た知らない人と話すときには共通語を使うといったような使い分けが行われている。

4
疲

つひ
かれる

疲労 ひろう

● 方言の変化とこれから

通信手段・交通機関が非常に発達した現代では、言葉は瞬(また)く間に伝わり、人の行き来も頻(しん)繁(ぱん)に行われる。その結果、生活の言葉である方言が共通語の言い方に置き換(か)えられるという変化が進んでいる。

共通語化とは逆に、方言が共通語に取り入れられることも少なくない。例えば、「そうじゃん」などの「じゃん」は関東の方言から、「しんどい」は関西の方言から、それぞれ共通語に入って使われるようになったといわれる。

一方、共通語に置き換えることが難しいと思われる方言もある。例えば、方言の中には、共通語と同じ形であるために方言と気づかない語がある。共通語の「辛い(からい)」は、「(とうがらし・カレーなどの) ひりひりする味」を表すが、西日本地域では「(みそ汁などの) 塩辛い味」も表すことがある。また、「直す」は、西日本地域で「修理する」という意味のほか「かたづけ」するという意味も持つこと

がある。これらは、共通語と同じ形の語なのだが、方言にしかない意味を持つ。

また、生活に根差(ねさ)していて方言でしか表せないと感じられる語がある。北海道・東北地域の「いずい(体(からだ)にちよつとした違和感(わいかん)がある)」や、中国・九州地域の「はぶてる(怒(おこ)つてすねる、膨(は)れっ面(つづ)をする)」などは、それに代わる共通語を見つけない。こうした語はどの方言にもある。

方言は、その土地に育った人々にとって、自分の気持ちをいちばん素直(すなは)に表現できる、身近で愛着のある言葉である。方言がなくなってしまうのではないかと心配する人もいるが、生活の言葉としての方言が完全になくなることはないだろう。



4 頻 (しん)

16 辛 (しん)

頻度 (しんど)
辛苦 (しんく)



① 共通語のいくつかの言葉を、自分の住んでいる地域の発音・アクセントで言ってみて、共通語と比べてどう違っているのかを確かめてみよう。

② 次の文を、自分がふだん使う言葉ではどのように言うか確かめてみよう。

- ㊦ ごみを捨てる。
- ㊧ うちの猫(ねこ)はとても大きい。
- ㊨ この字は読めない。
- ㊩ 早く来なさい。

敬語

「敬語釣り堀」で大魚を目指せ

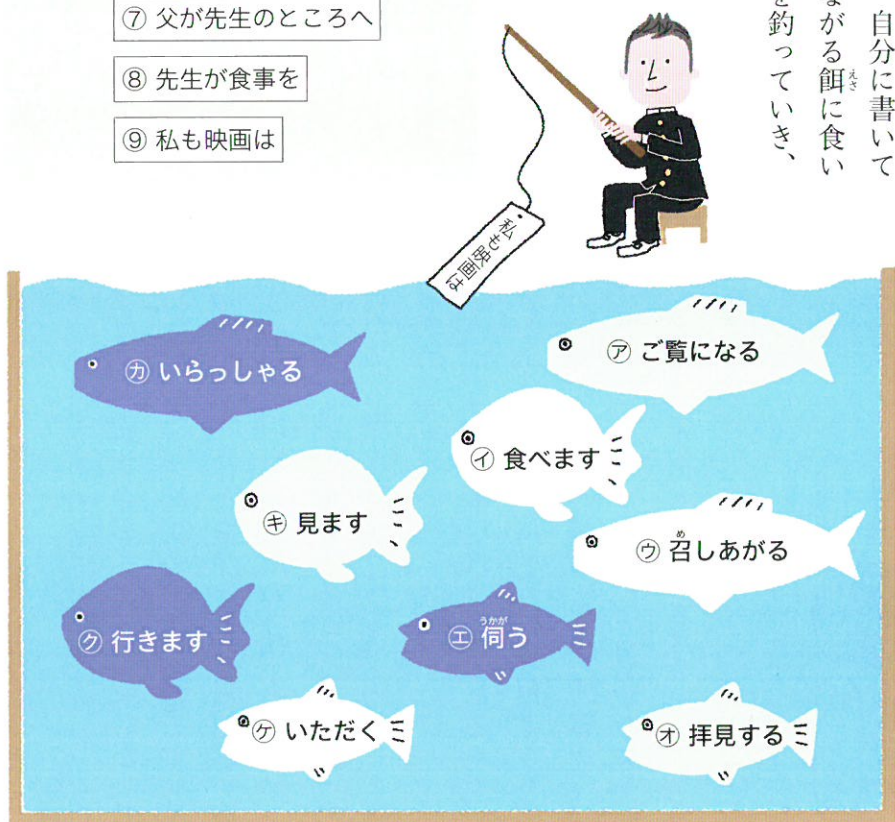
D



文法解説
256 ページ

「敬語釣り堀」の魚たちは、自分に書いてある敬語にいちばんうまくつながる餌に食いつく。一つの餌で一匹ずつ魚を釣っていき、全ての魚を釣り上げよう。

- 【餌】
- ① 先生が私の描いた絵を
 - ② はい、遠足に
 - ③ ええ、朝はパンを
 - ④ 先生が私の家に
 - ⑤ 夕食に招かれてごちそうを
 - ⑥ 先生の作品を
 - ⑦ 父が先生のところへ
 - ⑧ 先生が食事を
 - ⑨ 私も映画は



考えよう

「敬語釣り堀」の魚たちは三種類の敬語に分類できる。それぞれの名前とその使い方を答えよう。



写真・鈴木理策

草わかば色鉛筆の赤き粉のちるがいとしく寝て削るなり

いろえんぴつ

こ

ね

けつ

クス

北原白秋

2

感想を深める



読む〈文学〉

字のない葉書

はがき

卒業ホームラン



話す・聞く〈聞く〉

問題意識を持って聞こう

◆漢字道場 形の似た漢字

字のない葉書

むこうだくにこ
向田邦子

死んだ父は筆まめな人であった。

私が女学校一年で初めて親もとを離れたときも、三日にあげず手紙をよこした。当時保険会社の支店長をしていたが、一点一画もおろそかにしない大ぶりの筆で、

「向田邦子殿」

と書かれた表書きを初めて見たときは、ひどくびっくりした。父が娘宛ての手紙に「殿」を使うのは当然なのだが、つい四、五日前まで、

「おい邦子！」

と呼び捨てにされ、「ばか野郎！」の罵声や拳骨は日常のことであつたから、突然の変わりように、こそばゆいような晴れがましいような気分になつたのであろう。

文面も折り目正しい時候の挨拶に始まり、新しい東京の社宅の間取りから、庭の植木の種類まで書いてあつた。文中、私を貴女と呼び、

「貴女の学力では難しい漢字もあるが、勉強になるからために字引を引くように。」という訓戒も添えられていた。

ふんどし一つで家中を歩き回り、大酒を飲み、かんしゃくを起こして母や子供たちに手



読む〈文学〉

「目標」

●登場人物の言葉や行動がどんな意味を持っているかに注意して、作品を読み味わう。

●登場人物のものの見方や考え方にについて、自分の考えを持つ。

1 意 筆まめ

2 意 ……にあげず

9 意 こそばゆい

5 娘 むすめ

孫娘

8 拳 ケン

握り拳

1 威 イ

威力

12 疎 (うとむ)

疎遠

15 遭 あう

遭難

を上げる父の姿はどこにもなく、威厳と愛情にあふれた非の打ちどころのない父親がそこにあった。

暴君ではあったが、反面照れ性でもあった父は、他人行儀という形でしか十三歳の娘に手紙が書けなかったのであらう。もしかしたら、日頃気恥ずかしくて演じられない父親を、手紙の中でやってみたのかもしれない。

手紙は一日に二通来ることもあり、一学期の別居期間にかなりの数になった。私は輪ゴムで束ね、しばらく保存していたのだが、いつとはなしにどこかへ行ってしまった。父は六十四歳で亡くなったから、この手紙の後、かれこれ三十年付き合ったことになるが、優しい父の姿を見せたのは、この手紙の中だけである。

この手紙も懐かしいが、最も心に残るものと言われれば、父が宛名を書き、妹が「文面」を書いたあの葉書ということになる。

終戦の年の四月、小学校一年の末の妹が甲府に学童疎開をすることになった。既に前の年の秋、同じ小学校に通っていた上の妹は疎開をしていたが、下の妹はあまりに幼く不憫だというので、両親が手放さなかったのである。ところが三月十日の東京大空襲で、家こそ焼け残ったものの命からがらのめに遭い、このまま一家全滅するよりは、と心を決めたらしい。

妹の出発が決まると、暗幕を垂らした暗い電灯の下で、母は当時貴重品になっていたキラコで肌着を縫って名札を付け、父はおびただしい葉書にきちょうめんな筆で自分宛ての宛名を書いた。

15

10

5

18 肌 はだ

18 縫 ぬウ

3 性 ショウ

3 意 暴君

13 意 不憫

18 類 おびただしい

12 甲府

山梨県甲府市。

12 学童疎開

太平洋戦争末期、空襲の被害を避けるため、大都市の児童を地方都市や農村に移住させたこと。

14 東京大空襲

一九四五年三月十日にあった、米軍の爆撃機による東京への大規模な空襲。八万人以上の死者が出て、約二十七万戸の家屋が焼けた。

17 暗幕

黒い幕。空襲に備えて、光が外に漏れないように電灯を覆っていた。

17 キラコ

光沢のある薄い白木綿布。

「元氣な日はマルを書いて、毎日一枚ずつポストに入れなさい。」
と言って聞かせた。妹は、まだ字が書けなかった。

宛名だけ書かれたかさ高な葉書の束をリュックサックに入れ、雑炊用の丼を抱えて、妹は遠足にでも行くようにはしゃいで出かけていった。

一週間ほどで、初めての葉書が着いた。紙いっぱいはみ出すほどの、威勢のいい赤鉛筆の大マルである。付き添っていた人の話では、地元婦人会が赤飯やぼた餅を振る舞って歓迎してくださったとかで、かぼちやの茎まで食べていた東京に比べれば大マルにちがいがなかった。

ところが、次の日からマルは急激に小さくなっていった。情けない黒鉛筆の小マルはついにバツに変わった。その頃、少し離れた所に疎開していた上の妹が、下の妹に会いに行つた。

下の妹は、校舎の壁に寄りかかって梅干しの種をしゃぶっていたが、姉の姿を見ると種をぺっと吐き出して泣いたそう。

間もなくバツの葉書も来なくなった。三月目に母が迎えに行ったとき、百日ぜきを患っていた妹は、しらみだらけの頭で三畳の布団部屋に寝かされていたという。

妹が帰ってくる日、私と弟は家庭菜園のかぼちやを全部収穫した。小さいのに手をつけると叱る父も、この日は何も言わなかった。私と弟は、ひと抱えもある大物から手のひらに載るうらなりまで、二十数個のかぼちやを一行に客間に並べた。これくらいしか妹を喜ばせる方法がなかったのだ。

夜遅く、出窓で見張っていた弟が、

20

15

10

5

3 雑炊

野菜を炊き込んだおかゆ。当時は、食糧難のために水分の多い雑炊を食べていた。

14 百日ぜき

百日ぜき菌によって起こる病気で、せきの発作を主な症状とする。主に幼児がかかる。

15 しらみ

哺乳類の皮膚に寄生して血液を吸う、体長一〜四ミリメートルの小さな虫。

18 うらなり

つるの末になった、小さくて味の落ちる実。

3 意 高さ高

5 文 威勢のいい

3 炊

炊 スイ たく ご飯を炊く

3 井

井 どんぶり 牛井

5 鉛

鉛 エン なまり 鉛色

7 迎

迎 ゲイ むかえる 出迎える



向田邦子

出典 「向田邦子全集」

一九二九「昭和4」年～一九八一「昭和56」年 東京都出身。放送作家、随筆家、小説家。作品に「父の詫び状」「眠る盃」「思い出トランプ」などがある。



絵・伊藤絵里子

「帰ってきたよ！」
と叫んだ。茶の間に座っていた父は、はだして表へ飛び出した。防火用水桶の前で、痩せた妹の肩を抱き、声をあげて泣いた。私は父が、大人の男が声を立てて泣くのを初めて見た。

あれから三十一年。父は亡くなり、妹も当時の父に近い年になった。だが、あの字のない葉書は、誰がどこにしまったのかそれともなくなったのか、私は一度も見えていない。

5

読書案内

同じ筆者の作品を読もう

父の詫び状

向田邦子



7 茎 (ケイ) くき

地下茎 (ちかけい)

13 吐 (ト) はく

吐息 (といき)

17 叱 (シツ) しかる

叱責 (しっせき)

2 瘦 (ソウ) やせる

痩せ我慢 (やせがまん)

3 肩 (ケン) かた

肩を並べる (かたをならべる)



て

び

き

作品から感じたことや考えたことを伝え合おう

【目標】

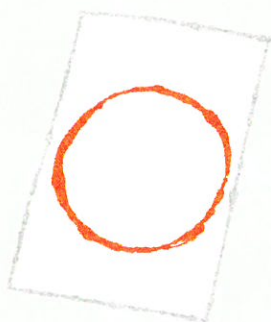
- 登場人物の言葉や行動がどんな意味を持っているかに注意して、作品を読み味わう。
- 登場人物のものの見方や考え方について、自分の考えを持つ。

読み取る

- ① この随筆の前半部分（32・1～33・11）を読んで、「私」が手紙を通して父についてどのようなことを発見したのかを捉えよう。

たすけ 父の「手紙の言葉遣い」と「ふだんの言葉遣い」に着目しよう。

- ② 後半部分（33・12～35・6）を読んで、末の妹が「疎開に出發する前」と「帰宅するとき」に父がとった行動や態度から、父のどんな思いが伝わってくるかを考えてみよう。



10

考えを深める

- ③ 「あれから三十一年」（35・5）が過ぎて、「私」は父のことをどのような思いで振り返っているのだろうか。話し合ってみよう。

たすけ 少女時代の「私」と、大人になった「私」では、父に対する思いにどんな違いがあるのだろうか。

言葉の力

登場人物の言葉や行動の意味に注意する



- 登場人物の言葉から心情を捉えるときには、言葉の内容だけでなく、どんな言葉遣いをしているかということにも着目するとよい。
- 行動や態度からは、言葉にならない思いが読み取れることもある。

20

15



読む〈文学〉 「言葉の力」登場人物の言葉や行動の意味に注意する (36ページ) の学びを生かして読もう。

卒業ホームラン

重松 清

天気はよかったが、朝のニュースによると、午後からは風が強くなるだろうとのことだった。

平日より少し華^{はな}やいだスーツを着た天気予報のキャスターは、「行楽にお出かけのかたはセーターを一枚余分に持っていかけたほうがいいかもしれませんね。」と愛^{あい}想よく笑っていた。

「ねえ、お父さん、春^{はる}一番かなあ。」

スポーツバッグの中身を点検しながら、智^{さとし}が言った。

「どうなんだろうな。」と徹夫^{てつお}は首をひねり、使い込んだノートに「強風の可能性あり。」と走り書きした。去年の四月から使い始めて、これが最後のページだ。表紙にサインペンで書いた「富士見台クリッパーズ 第六期活動記録」の文字も一年間でずいぶん色あせた。

10

5

少年野球チームの監督^{かんどうく}を引き受けてから、六年がたった。三十代の後半は、ほとんど全ての日曜日を河川敷^{かせんしき}のグラウンドで過ごしてきたことになる。チームが結成^{けつせい}された頃^{ころ}には小学校一年生だった智も、来週、卒業式を迎^{むか}える。長かったような気もするし、あつという間だったようにも思う。

智はスポーツバッグのチャックを閉め、そばに置いていた金属バットを手にとった。

「素振^{すぶ}りしてくるね。」

「あんまり時間ないぞ。」

「大丈夫、ウォーミングアップだから。」

庭に出た智と入れ替^かわりに、妻の佳枝^{よしえ}がキッチンからリビングに顔をのぞかせた。

25

20

15

「ねえ、あなた……。」

「難しいよ。実力の世界だからな。」

徹夫がぼつりと返すと、佳枝は「智のことじゃないわよ。」とため息交じりに言った。「典子のこと。」

「何だよ。」拍子抜けした思いが、声を不機嫌にしてしまふ。「まだ寝てるんだろ、あいつ。」

「今日、塾の模試なんだけど、もう全然行く気ないみたい。何べん起こしても、眠たいからって、それだけ。」

中学二年生の典子の様子が、秋頃からおかしい。何事に対してもやる気をなくしてしまった。担任の教師によると、授業中もぼんやりと窓の外を見ているだけで、ひどいときには教科書を開こうとすらしないのだという。

難しい年頃だというのは、分かる。

しばらくは扱いづらいだろう、とも覚悟していた。

だが、親や教師に反抗するのではなく、一年後に迫った高校受験のプレッシャーでいらだつのでもなく、自分がいなければいけない場所からさりと立ち去っていくような態度が気になってしかたない。

冬休みに、一度きつく叱った。塾の冬期講習のお金を佳枝から預かったまま申し込みをせず、そのお金を全部

友達との遊びに使ってしまったのだ。

だが、典子はたいして悪びれもせず、「来年は受験なんだぞ。」と繰り返す徹夫をむしろ哀れむように見て、言った。

「頑張ったって、しょうがないじゃん。」

真顔だった。「頑張ったら、何かいいことあるわけ？その保証あるわけ？」と続け、徹夫が返す言葉に詰まってしまうのを見込んでいたように、「ないでしょ？」と言った。そのときの、まるで幼い子供に教諭するような口調は、今も徹夫の耳の奥に残っている。

頑張れば、いいことが——「ある。」とすぐに言っただけでなかったのは、親として間違っていたかもしれない。それでも、今もう一度同じことをきかれても、やはり言葉に詰まってしまうだろう。「ある。」と答えると、うそとまでは言わなくとも、何か大きなごまかしをしてしまふことになるだろう。

ユニフォームに着替えたところに、山本君の父親から電話がかかってきた。

今日の試合に息子を先発出場させてもらえないか、と



いう。

「田舎から年寄りが出てきてるんですよ。せっかくなんで孫の晴れ姿を見せてやりたくてね、最後の試合ですし、どうでしょう、何とかありませんかねえ……。」

いつものことだ。ゆうべは奥島君の母親から、応援の人数の都合があるので試合に出られるかどうか教えてほしい、という電話があった。

ふざけるな、と監督として思う。だが、父親として立場を入れ替えてみると、その気持ちも分からないではない。

「先発はちょっと難しいんですが、試合には出てもらいますよ。」

徹夫は顔をしかめ、それを悟られないよう、棒読みのような口調で言った。

窓越しに、庭で素振りを続ける智の姿が見える。波打つようなスイング。バットを上から振り下ろしてボールを地面にたたきつけるんだ、と何度言っても、アッパースイングの癖は最後まで直らなかった。

こう、こうなんだ、と徹夫はダウンスイングの身振りをしながら座卓の前に座り直し、チームのノートをまた

広げた。

ノートには、日曜日ごとの練習や試合の記録が細かく書きつけてある。

去年の四月から先週までに十九試合こなしてきた。今日が二十試合目——智たち六年生にとっては最後の試合になる。

結成以来のメンバーだ。一年生の頃から鍛えぬいてきた。そのかいあって、戦績は十九勝〇敗。ずば抜けた選手がいるわけではなく、試合はいつも接戦になるが、それをものにする粘り強さがある。

ここまで来たら、全勝のまま小学校を卒業させてやりたい。それが六年間頑張ってきたことへの何よりのご褒美になるはずだ。

ペンを取り、今日の試合のスターティングメンバーをノートに書き入れた。

補欠は七人。補欠組もレギュラー組と分け隔てなく練習させ、試合のときにはピンチヒッターやピンチランナーでなるべく出番を作ってやるように心がけてきた。背番号16——ベンチ入りの最後のメンバーを書き込んだ。

〈加藤智〉

十六人いる六年生の、しんがり。

公平に実力を判断した結果だった。

いや……本当に公平に見るなら、智よりもうまい五年生は二、三人いる。実力主義を貫くのなら、智に背番号16を与えることはできない。

痛いほど分かっている、そこまでは監督に徹しきれなかった。父親の自分を少しだけ残してしまった。補欠の子供の親についていけず、遣ってしまうのは、その後ろめたさのせいかもしれない。

素振りを続ける智に「そろそろ出かけるぞ。」と声を掛けようとしたら、間延びしたあくびといっしょに典子がリビングに入ってきた。まだパジャマ姿だった。ぼさぼさの髪を手ですきながら、目をしょぼつかせて、「おはよう。」と気のない声で言う。

「おまえ、模試サボるのか。」

「うん、まあね。」

「急いだら、まだ間に合うんじゃないのか。」

「いいよ、そんなの。トイレに下りただけだから、もうちょっと寝るし。」

むっとしかけた徹夫をいなすように、典子は庭に目をやって「智、張りきってるじゃん。」と言った。

「最後の試合だからな。」気を取り直して返す。「模試に行かないんだったら、応援に来るか？」

鼻で笑われた。

冗談やめてよ、というふうに。

「試合に出るの？ 智。」

「……ベンチに入ってるんだから、可能性はあるよ。」

「ないじゃん。」ぴしやりと。「いつものパターンじゃん、それ。」

典子の言うとおりでた。

智は、今まで一度も試合に出ていない。

今日も、よほどの大量リードを奪うか奪われるかしない限り、チャンスはないだろう。

「最後なんだから、出してやればいいのに。」

典子の声に、父親をとがめるような響きはなかった。

ごく自然な言い方で、だからこそ、胸が痛む。

同じことは、ゆうべ佳枝からも言われた。

きつと、智も心の奥ではそう思っているだろう。

だが、智は補欠の七番手だ。監督の息子だ。チームに

20

は二十連勝が懸かっている。出せない、やはり。

「実力の世界だからな。」と徹夫は言った。「あいつも、もうちょっとうまけりゃいいんだけどなあ。」と続け、

口にしたとたん、ひどい言い方をした、と思った。

典子は黙って窓から離れ、座卓に置いてあったみかんを一つ取って、それを手のひらで弾ませながら言った。

「ふうん、どんなに真面目に練習しても、下手な子は試合に出してもらえないんだあ。」

そうじゃない——とは言えない。

「やっぱり、頑張ってもいいことないじゃん。ね、そうでしょ？ お父さんがいちばんよく分かってるんじゃないの？」

「試合に出ることだけが野球じゃないんだ。」

「だったら智にきいてみたら？ 試合に出たいって言うと思うよ。」

「……努力することがだいじなんだよ。結果なんて、本当はどうでもいいんだ。」

「じゃあ、今日の試合、負けてもいいじゃん。」

屁理屈だ。それが分かっているのに、言い返す言葉が見つからない。

40

35

30

25

典子は部屋を出がけに、徹夫を振り向いた。

「努力がだいじで結果はどうでもいいって、お父さん、本気でそう思ってる？」

徹夫は黙って、小さくうなずいた。

「智ってさあ、中学生になったら、あたしみたいになるかもよ。頑張っても、なあんにもいいことないじゃん、って。」

典子が二階に引き揚げた後、徹夫は思った。

屁理屈を並べ立てていたのは、本当は自分のほうだったのかもしれない。

午前十時の試合開始に合わせて、九時から練習を始めた。二十連勝の懸かった、しかもこのチームで最後の試合というせいもあるのか、レギュラー組の動きがどうも硬い。特にエースの江藤君は、いつになくコントロールが悪く、ブルペンでしきりに首をかしげている。

相手チームは、練習を見ただけでも相当鍛えられているのが分かる。特にピッチャーは体が中学生並みに大きく、球も速い。地区の取り決めて、肘に負担のかかる変化球は投げさせないことになっているが、直球一本でも

手こずりそうだ。

④ ノックを終え、ベンチに戻ってメンバー表に名前を書き入れていった。

スタメンの欄はノートに書いたとおりで埋まったが、控え選手のところまで迷った。江藤君の調子を見ると、ピッチャーがもう一人いたほうがいい。新チームのエースになるはずの五年生の長尾君を控えに入れておくべきかもしれない。

「富士見台クリッパーズさん、いいですか？」

主審がベンチにメンバー表を取りに来た。

「はい……すぐに。」

まなざしを横に滑らせると、智が見えた。他の選手がおざなりに済ませる膝の屈伸運動を、智一人だけ、丁寧に、一所懸命にやっている。

「監督さん、いいですか？」

主審に促され、補欠の欄のいちばん下に「加藤」と走り書きして渡した。

そのとき、バックネット裏で歓声があがった。振り向くと、四番バッターの前島君の両親が「目指せ不敗神話祈・二十連勝」と書いた横断幕を広げていた。

徹夫は、相手チームのベンチに向かいかけた主審を慌
てて呼び止めた。

メンバー表の〈加藤〉を二重線で消して、横に〈長尾〉
と書き込んだ。

智は下級生といっしょにベンチの横に並び、グラウン
ドの選手たちに声援を送っていた。

最後の試合に、出場どころかベンチ入りすらできな
かったのに、智の様子はふだんと変わらない。どこか気
まずそうな六年生の仲間に「頑張れよ。」と声を掛け、
自分と入れ替わって五年生でただ一人ベンチ入りした長
尾君にも笑顔で接する。

俺なら、そんなことはできなかった。高校時代を振り
返って、徹夫は思う。負けず嫌いの性格だった。野球だ
けでなく、勉強でも他のスポーツでも、負けたくないか
ら必死に頑張ってきた。それが報われたこともあったし、
報われなかったことも、もちろん、ある。

頑張ればいいことが——「ある。」とはやはり言えな
くとも、「あるかもしれない。」くらいなら典子に言っ
てやれるかもしれない。「いいことがあるかもしれないから、

頑張る。」と言葉を並べ替えてもいい。

だからこそ、本音をいえば、徹夫にはよく分からない
のだ。

「いいことがないのに、頑張る」智の気持ちだ。

監督としても、親としても、それは決して口にはでき
ないことなのだが。

試合は二回を終わって〇対〇。相手チームのエースは
予想以上の好投手だった。一方、江藤君の調子は予想以
上に悪い。球が高めに浮き、スピードも切れもない。

三回裏、相手チームの先頭打者がフォアボールで出塁
した。続く打者はきっちり送りバントを決め、しかも江
藤君が打球の処理にもたついてしまい、ノーアウト一、
二塁。打線はクリーンアップに回る。

江藤君は、次のバッターの初球にワイルドピッチをし
た。ランナーは二、三塁に進む。徹夫は敬遠のサインを
送った。だが、頭に血が上った江藤君の目には入ってい
ないようだ。

まずいぞ、と思う間もなく江藤君は投球動作に入った。
もうタイムもかけられない。

スパーン！ と快音が響く。

左中間にライナーで飛んだ打球はぐんぐん伸びて、レフトの前島君の差し出すグローブのはるか上を越えていった。

致命的な三点が、入った。

救援のマウンドに登った水谷君も打ち込まれた。三番手の長尾君も、火のついた相手チームの打線には通用しなかった。

五回の裏を終わったところで○対八。相手チームのエースは相変わらず絶好調で、まだ一安打しか許していない。攻略の糸口は見つからない。たとえ見つけても、長尾君が追加点を奪われるほうが先だろう。

「監督さん。」

シヨートの吉岡君の父親が小走りにベンチ裏に来て、言った。

「もう試合の勝ち負けはいいですから、補欠の子もみんな出してあげましょうよ。せつかく今まで頑張ってきたんですから。」

徹夫は黙ってうなずき、帽子を目深にかぶり直した。今日なら、出せた。この試合なら、智を出しても誰からも文句は言われなかった。



あいつの努力を最後の最後で無駄にしたのは、俺だ。
腕組みをして、地面に落ちる自分の影をにらみつけて、
思う。

後悔はしない。勝つためにベストを尽くしたのだ。

それでも——俺は智の父親として、この監督のことを
一生許さないだろう。

六回表の攻撃で、山本君をピンチヒッターに送った。

一家の声援を受けて、ツースリーまで粘ったが、最後は
空振り三振。思い切りスイングしてよじれてしまった背
中の14の数字が、一瞬、智の背負った16に見えた。

悔しそうな顔で引き揚げてくる山本君に、ベンチの横
から励ましの声が飛んだ。

「惜しい惜しい、ナイススイング！」

智だった。

徹夫と目が合った。

智は、元気出さなくちゃね、というふうにはほほ笑み、
うつむいて、もう顔を上げなかった。

試合が終わった。○対十の完敗、いや、惨敗だった。

バックネット裏に、佳枝の姿があった。母親どうしのお
しやべりの輪から少し離れた所にぼつんとたたずんで、

20

15

10

5

こっちを見ていた。典子は、やはりいない。誘っても来
なかったというより、最初から佳枝が誘わなかったのか
もしれない。そのほうがいい。今日の試合だけは、見ら
れたくなかった。

川を吹き渡る強い風が、グラウンドの土ぼこりを舞い
上げる。天気予報より少し早く、試合が最終回に入った
頃から風が強くなっていた。

加藤——と呼びかけて、試合はもう終わったんだと思
い直し、父親に戻った。

「智、ちよつと残ってる。」

智は一瞬きよんとした顔になったが、すぐに「オッ
ス！」と帽子を取って答えた。

ベンチに座って、敵も味方も観客も引き揚げたグラウ
ンドを徹夫はぼんやりと眺めた。

「お父さん。」隣に座った智が言った。「いいの？ もう
すぐ打ち上げ始まっちゃうんじゃない？」

「いいんだ、どうせ先に始めてるさ。」

徹夫は笑いながら言って、緩んだ頬がしばまないうち
に続けた。

35

30

25

「智、今日、残念だったな。」

「しょうがないよ、江藤君調子悪かったし、向こうのピッチャーすごかったもん。」

「いや、そのことじゃなくてさ……おまえのこと、試合に出せなくて……。」

「いいってば。」

声は明るかったが、顔はさっきと同じようにうつむいてしまった。徹夫と反対側の隣に座った佳枝が、智の肩越しにこっちを見ていた。目が合うと、しょうがないわよ、と小さくうなずく。

典子は朝食を終えると、自転車で遊びに出かけたらしい。仲良しの友達^{みな}は皆、塾の模試を受けているのに、誰とどこで遊ぶつもりなのだろう。当てもなく自転車を走らせ、暇をつぶすだけのために本屋やCDショップをのぞく典子の姿を思い描くと、腹立たしさよりも悲しみのほうが胸に湧いてくる。

頑張れば、いいことがある。努力は必ず報われる。そう信じていられる子供は幸せなんだと、今気づいた。信じさせてやりたい。大人になって「お父さんの言ったこと、うそだったじゃない。」と責められてもいい、十

20

15

10

5

四歳^{さい}やそこらで信じることをやめさせたくはない。だが、そのために何を語り、何を見せてやればいいのか、分からない。

徹夫は智にきいた。

「中学に入ったら、部活はどうするんだ？」

答えは間を置かずに戻ってきた。

「野球部、入るよ。」

佳枝が、「今度は別のスポーツにしたら？」と言った。

「ほら、サッカーとかテニスとか。」

だが、智には迷うそぶりもなかった。

「野球部にする。」

「でもなあ、レギュラーは無理だと思うぞ、はつきり言うて。」

「うん……分かってる。」

「三年生になっても球拾いかもしれないぞ。そんなのでいいのか？」

「いいよ。だって、僕、野球好きだもん。」

智は顔を上げてきっぱりと答えた。

一瞬言葉に詰まった後、徹夫の両肩から、すうっと重みが消えていった。頬が内側から押されるように緩んだ。

40

35

30

25

拍子抜けするほど簡単な、理屈にもならない、忘れかけていた言葉を、久しぶりに耳にした。

徹夫は、ベンチから立ち上がった。

「ピンチヒッター、加藤！」

無人のグラウンドに怒鳴り、智のグローブを左手に着けた。

「どうしたの？ お父さん。」

「智、バットを持って打席に入れ。」

「はあ？」

「ほら、早くしろ。」

智の返事を待たずに、試合で使わなかったまっさらのボールをグローブに収め、マウンドに向かってダッシュした。

智がケースからバットを出す。佳枝も立ち上がって、

「やだあ、ほこりすぎいいえ。」と風にあおられる前髪を手で押さえながら、とことことグラウンドに出てきた。

徹夫は苦笑交じりにグローブを佳枝に放った。佳枝はそれを両手と胸で受け取り、「どのへんで守ればいい？」ときいた。

「もっと、ずうっと後ろだ。」

20

「そんなに飛ぶ？」

「あたりまえだろ、ホームラン、出るかもしれないぞ。」

佳枝は「何言ってるの。」と笑ったが、可能性がない

わけではない。風はホームベースから外野に向かって吹いている。智のアップースイングなら、うまくいけば

——千発打って一発の割合だろうが、風に乗って外野の頭を越えることもありうる。それを親が信じてやらなくて、誰が信じるというんだ……。

はにかんだ様子で何度か素振りをした智は、小さく一礼して打席に入った。

「三球勝負だぞ。」

「うん……。」

「内角球を怖がるな、後ろに下がると外角低めについていけないぞ。」

「はい……。」

「返事が違うだろ、腹に力を入れて。」

「オッス！」

「よし、そうだ。ボールを最後まで見て、食らいつくようにして振るんだぞ、いいな。」

「オッス！」

40

35

30

25

徹夫はマウンドの土をならし、ボールをこねて滑りを止めた。例えば山なりのスローボール、そんなものを投げるつもりはない。レギュラー組の打撃練習のときと同じように、速球を投げ込んでやる。それが、野球が大好きな少年に対する礼儀だ。

⑩ ワインドアップのモーションで、投げた。ど真ん中だったが、智は空振りした。完全な振り遅れで、バットとボールも大きく隔たっている。ボールを拾いに行く背番号16に、「しっかり見ろ！」と怒鳴った。

二球目も空振り。外角球に上体が泳いだ。

「腰が据わってないからだめなんだ、いつも言ってるだろう！」

智は半べその顔で「オッス！」と返す。叱られて悲しいんじゃない、打てないのが悔しいんだ、と伝えるように、徹夫に投げ返す球は強かった。

最後の一球だ。手は抜かない。内角高めのストレート^⑪。

智はバットを思い切り振った。

快音とまではいかなかったが、確かにボールはバットに当たった。

フライが上がる。ビュンと音を立てて、強い風が吹い

た——が、打球は風に乗る前に落下し始め、佳枝の手前でバウンドした。

「ホームラン！」

佳枝がグローブをメガホンにして叫んだ。「智、今のホームランだよ！ ホームラン！」と何度も言った。

徹夫も少しためらいながら、右手を頭上で回した。打席できよんとする智に、ダイヤモンドを一周しろと顎で伝えた。

だが、智は納得しきらない顔でたたずんだまま、バットを手から離さない。徹夫をじっと見つめ、徹夫もまっすぐに見つめ返してくるのを確かめると、帽子の下で白い歯をのぞかせた。

「お父さん、今のショートフライだよね。」

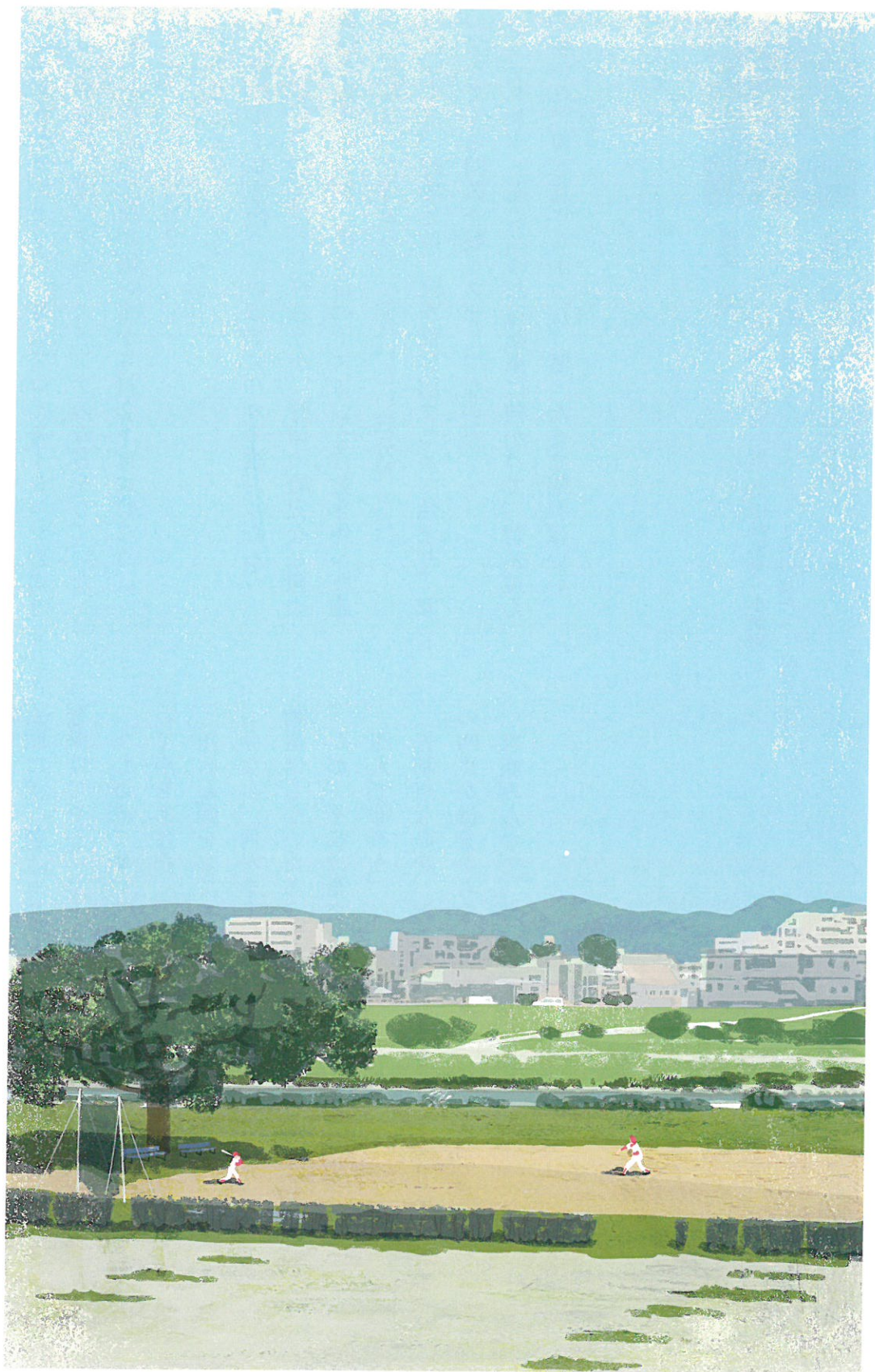
来月から中学生になる息子だ。

あと数年のうちに父親の背丈を抜き去るだろう。

徹夫は親指だけ立てた右手を頭上に掲げた。アウト。

一打数ノーヒットで、智は小学校を卒業する。

不満そうな佳枝に構わず、徹夫はマウンドを降りた。ゆっくりと智に近づいていき、声が届くかどうかぎりぎりのところで「ナイスバッティング。」と言った。



聞こえなかったようだ。智はスローモーションのようにバットを振って、ダウンスイングの練習をしていた。

「智、家に帰って荷物置いてから打ち上げに行こう。」

「うん……いいけど？」

「帰ろう。」

野球のルールを作ったのはアメリカの誰だったろう。

いや、イギリス人だっただろうか。野球の歴史など徹夫は何も知らないが、ホームベースという言葉を作った誰かさんに「ありがとう。」を言いたい気分だった。

家——だ。野球とは、家を飛び出すことで始まり、家に帰ってくる回数を競うスポーツなのだ。

バックネット裏にとめた自転車に向かって、智と並んで歩いた。何も話さなかった。黙ったまま帰ればいい。

10

玄関には、智より先に入るつもりだ。「お帰り！」と声を掛けてやる。ホームインの瞬間を見届けてやる。

少し遅れて歩いていた佳枝が、「あ。」と土手の方を向いて声をあげた。「あなた、ほら、やっぱり来てる。」

知らん顔をしていた。

今なら、何かをあいづに話してやれるかもしれない。

納得はしないだろうが、伝えることはできるだろう。

だが、それは全て家に帰ってからのことだ。

四人で帰ろう。

先制点なのか、追加点になるのか、劣勢に立たされての四点かは分からないけれど。

家族みんなで、ホームインしよう。

絵・木内達朗

25



重松 清

一九六三「昭和38」年、岡山県出身。小説家。作品に「ナイフ」「エイジ」「きみの友たち」などがある。

出典 「日曜日の夕刊」による。

15

20

注

- ① 春一番
春先に、その年初めて吹く強い南風。
- ▼40 ページ
- ② スターティングメン
バー
試合の最初から出場する選手。スタメン。
- ▼42 ページ
- ③ ブルペン
野球場の一角に設けられた投手の練習場。
- ④ ノック
守備練習のため、球を打って捕らせること。
- ▼43 ページ
- ⑤ クリーンアップ
野球で、打順三番・四番・五番を打つ強打者。
- ⑥ ワイルドピッチ
暴投。

- ⑦ 敬遠
打者にヒットを打たれることなどを避けて、わざとフォアボール（四球）になるように投球すること。
- ▼44 ページ
- ⑧ ライナー
地面に触れずに直線的に飛ぶ打球。
- ⑨ マウンド
ピッチャーが投球の際に立つ、グラウンドの盛り上がった所。
- ▼48 ページ
- ⑩ ワインドアップの
モーション
投手が投球直前に両腕を頭上に上げる動作。
- ⑪ ストレート
直球。
- ⑫ ダイヤモンド
野球場の、本塁と他の三つの塁に囲まれた正方形の区域。
- ⑬ ショートフライ

新出漢字

内野のショート（遊撃手）の守備範囲に飛んだフライ。

- 5 援
エン
援助
- 29 諭
ユ
教諭
- 7 塾
ジュク
塾生
- 5 嫌
ケン
嫌気
- 5 拍
ハク
拍手
- 15 川
セン
川
- 14 督
トク
督促
- 14 監
カン
監視
- ▼37 ページ

- 8 揚
ヨウ
抑揚
- ▼42 ページ
- 39 屈
クツ
退屈
- 13 奪
ダツ
奪回
- 6 冗
ジョウ
冗長
- ▼41 ページ
- 34 髪
ハツ
頭髮
- 25 貫
カン
貫通
- 10 粘
ネン
粘土
- 7 鍛
タン
鍛練
- ▼40 ページ
- 2 田舎
イナカ
田舎
- 20 卓
タク
卓球
- 18 癖
ヘキ
潔癖

- 38 緩
カン
緩和
- 13 惜
セキ
惜敗
- 4 尽
ジン
尽力
- 4 悔
カイ
悔しい
- ▼45 ページ
- 11 笑顔
エガオ
笑顔
- 12 俺
オレ
俺たち
- ▼43 ページ
- 32 膝
ヒザ
膝頭
- 29 審
シン
審査
- 24 控
コウ
控え室
- 23 欄
ラン
空欄
- 18 肘
ヒジ
肘鉄砲

- 29 納
ナツ
納
- 36 掲
ケイ
掲示
- 27 顎
ガク
顎関節
- 11 据
ス
据える
- 5 儀
ギ
儀式
- ▼48 ページ
- 33 怖
コワイ
恐怖
- ▼47 ページ
- 14 暇
ヒマ
休暇
- ▼46 ページ
- 16 笑
エム
笑
- 38 (頬) 頬
ホオ
頬張る



て

び

き

作品から感じたことや考えたことを伝え合おう

【目標】

- 登場人物の言葉や行動がどんな意味を持っているかに注意して、作品を読み味わう。
- 登場人物のものの見方や考え方について、自分の考えを持つ。

読み取る

① 典子と徹夫の会話の場面（40・31～42・10）から、徹夫の「監督」「父親」としての思いを捉えよう。また、典子は徹夫、

智、典子自身についてどのように思っているのだろうか。

② 次のそれぞれのときの徹夫の思いを考えてみよう。

- ・ 「一瞬言葉に詰まった後、徹夫の両肩から、すうっと重みが消えていった。頬が内側から押されるように緩んだ。」（46・39）
- ・ 「家族みんなで、ホームインしよう。」（50・25）

考えを深める

③ 徹夫、佳枝、典子、智から一人を選び、どんな人物で、自分はその人物に対してどう考えるかを紹介し合おう。

④ 「卒業ホームラン」と「字のない葉書」とを読み比べ、作品に描かれている家族や父親像について、感じたことや考えたことをまとめてみよう。

15

10

5



読書案内

さまざまな作品に触れよう



父のようにはなりたくない

阿部夏丸

カメレオン

アントン・チエーホフ／
原卓也・訳



きみの友だち

重松清

↓ 資料編 272 ページ

広がる言葉

① 「卒業ホームラン」には、「負けず嫌いの性格だった。」

(43・13)のように、人物の人物柄、性格などの人物像を表す言葉が用いられている。「負けず嫌い」の人とは、どんな場面でもどんな行動をとる人なのかを考えてみよう。

す言葉が用いられている。「負けず嫌い」の人とは、どんな場面でもどんな行動をとる人なのかを考えてみよう。

② 例に倣い、1～3の人物像を表す言葉を考えて、書き出そう。

出そう。

③ 例に倣い、1～3の人物像を表す言葉を考えて、書き出そう。

④ 例に倣い、1～3の人物像を表す言葉を考えて、書き出そう。

⑤ 例に倣い、1～3の人物像を表す言葉を考えて、書き出そう。

⑥ 例に倣い、1～3の人物像を表す言葉を考えて、書き出そう。

⑦ 次の、人物像を表す言葉のリストに、一つ付け加えよう。

真摯 ロマンチスト さばさばしている 傲慢
冷静沈着 自信家 一筋縄ではいかない 陽気
熱しやすく冷めやすい ()

↓ 307ページ「言葉を広げよう」

広がる漢字

次の傍線部の漢字を読んでみよう。

① りっしんべん・こころ(心)の漢字

② 後悔はしない。

③ 嫉妬心を抑える。

④ 未熟さゆえの失敗に悩む。

⑤ 自作が雑誌に載って悦に入る。

⑥ 誤解を招いて遺憾に思う。

⑦ 怨念の強さに驚く。

⑧ 異常な物音に戦慄が走る。

⑨ 優美な芸術作品に憧憬を抱く。

24 悦 エツ
23 悩 ノウ
22 嫉 シツ
14 傲 ゴウ
14 摯 シ

悦 苦悩 嫉妬 傲然 真摯

28 憬 ケイ
28 憧 ショウ
27 慄 リツ
26 怨 (エン)
25 憾 カン

憧憬 憧憬の地 凛然 怨霊 遺憾の意



話す・聞く〈聞く〉

問題意識を持って聞こう

[目標]

● 表現の仕方や根拠の確かさに注意して聞き、自分の考えを広げる。

1

主観的な表現に気づく

日常生活では、事実を伝えているように聞こえる表現に、話し手の考えや気持ち、つまり主観が表れた表現が交ざっていることが多い。それら全てをよく吟味せずに受け入れてしまうと、的確な判断ができなくなることもある。

下の㉠㉡を聞いて、話し手の主観が表れている表現を指摘してみよう。



5

相手の話を聞くときには、正確に聞き取るだけでなく、「自分もそう思う。」「本当にそうだろうか。」「自分の考えとはここが違う。」などと考えながら聞くと、自分の考えを確かめたり広げたりすることができると。問題意識を持ち、相手の話を吟味して聞く練習をしよう。

㉠ 富士山は、二〇一三年に世界文化遺産に登録されました。

富士山は日本一高く、世界一美しい山なのです。

㉡ 犬に餌を与えることを、「犬に餌をやる」と言う人もいれば、「犬に餌をあげる」と言う人もいます。「餌をやる」という言い方は、「餌をあげる」に比べて冷たい印象を与えます。

㉢ 行く先々で、たいへん多くの人々が足を止めて私の演説に聞き入り、拍手をしてくださいます。私の訴えは、圧倒的な支持を得ているのです。

㉣ その条例案には、世論調査で四十パーセントもの市民が反対しています。それにもかかわらず、昨日の議会で可決されてしまいました。

㉤ 経済や文化の国際的な結び付きが、昔に比べて強くなっている今、私たちに最も必要なのは、英語力です。

2

考えと根拠を吟味する

相手の考えを聞くときには、根拠としてどんなことが述べられているかに注意する必要がある。下の(1)の㉠㉡を聞いて、根拠に当たる部分を指摘してみよう。



複雑な話を聞き取るときには、聞き取りメモを取ると分かりやすい。下の(2)の話を、メモを取りながら聞いてみよう。

メモをもとに、話し手の主張したい考えとその根拠を捉え、同意できるか、質問や反論をしたいところはないか、考えてみよう。

アンケートの結果、残り八十パーセントの人からどんな回答があったのかが分からない。



10

5

(1)

㉠ 映画を見る前に原作は読まないほうがよいと思います。なぜなら、原作の内容が変えられていて、がっかりしたことがあるからです。

㉡ 一度学習したことをもう一度繰り返し返すと頭に入りやすい。だから、家庭学習は、予習よりも復習に力を入れるべきじゃないかな。

㉢ 海外の映画は字幕付きで見るといい。オリジナルの声の演技が味わえるからね。

(2)

先日行った、「図書室をもっと利用してもらうにはどうしたらよいか」というアンケートでは、約二十パーセントの人から「本を増やすべき」という回答がありました。しかし、私は図書室の本を増やすのではなく、現在ある本をもっと利用してもらう方法を考えるべきだと思います。

図書委員会の調査によると、まだ一度も借りられたことのない本が多くあるそうです。また、一見おもしろくなさそうでも、中学生として読んでおくべき本が、図書室にはたくさんあると思うからです。

20% — 本を増やす

↑
ある本をもっと利用

・借りられたことのない本
・読んでおくべき本

3

複数の発言を聞いて自分の考えを述べる

下は、「コンビニエンスストアの夜間営業は自粛すべきかどうか」というテーマで行われた、テレビ番組での討論である。

聞き取りメモを取りながら聞いて、疑問に思ったところや調べなければならぬと思ったところを挙げたり、自分の考えを述べたりしてみよう。



言葉の力

聞き取ったことを吟味する



- 事実を伝えている表現と、話し手の主観（考え、印象や感想、心情）が表れている表現とを区別する。
- 考えについては、なぜそう考えるのかという根拠を捉えたうえで、根拠が確かなことか、同意できることかを吟味する。
- 主観が表れている表現や、考えの根拠について、数値を使うなどして客観的に述べるとどうなるかを検討してみる。

司会者 それでは、Aさん、ご意見をお願いします。

A はい。夜間のコンビニのあかあかとした照明は、省エネが常識になっている世の中で、全く無駄だと思います。そんなに明るくするほど、夜中にコンビニを使う人って多くないと思うんですよ。ですから、省エネという観点から考えて、コンビニの夜間営業はやめるべきだというのが私の意見です。

司会者 Bさん、今の点に関していかがですか。

B 夜間のコンビニの明るい照明は、周りを照らして、夜遅く帰宅する人の安全を守ってくれてもいると思うんです。危ないめに遭ったときに駆け込むこともできます。また省エネについてですが、コンビニでは大きな冷蔵庫や冷凍庫のほうに電気を使っているでしょうし、夜間営業をしていなくてもこれらの電源は切ることができませんね。そうすると、夜間営業をやめても、省エネの効果は僅かなものでしょう。

司会者 なるほど。省エネという面ではあまり効果がなくて、安全という面ではかえって悪い影響があるということがですね。安全に関しては、誰にとっても安全かということが重要だと思います。警視庁の統計によると、商店への侵入強盗の件数が多いのは、深夜〇時から早朝六時までの間なんです。つまり、コンビニの店員にとっては、強盗という危険があるんです。そのうえで、少なくとも照明の分は省エネできるところを考えると、やはり深夜営業はやめるべきでしょう。

形の似た漢字

部首だけが違う漢字

部首が意味を、それ以外の部分が音を表す漢字（形声文字）はたいへん多い。そのため、互いに部首だけが違う漢字がたくさんある。次の例は、「反」が共通していて部首が違う漢字のグループである。

例 坂（はん）（つちへん） 板（はん）（きへん）

版（はん）（かたへん） 返（へん）（しんによう）

形が似た部首

部首の中にも、形が似たものの組がある。

例 複（こもへん） 神（しめすへん）

優（にんべん） 従（ぎようにんべん）

海（さんずい） 冷（にすい）

10

5



問題

① 次は、部首だけが違う漢字二つの組である。□に入るのはどちらの漢字だろうか。

1 梅 侮 軽 □ 2 棒 倅 年 □

3 推 准 奨 □ 4 涉 抄 交 □

5 個 箇 性 □ 6 薄 簿 名 □

7 泳 詠 遠 □ 8 濟 劑 錠 □

② 次の傍線部の漢字を、部首の意味を手がかりにして正しく覚えよう。

1 「ネ」 神や祭りなどの意味を表す。

神社 礼拝 祈願 座禅

2 「イ」 行くことや道などの意味を表す。

往復 徒歩 遠征 追従

10

5

下14 征 セイ	下12 禅 ゼン	下8 錠 ジョウ	下8 剂 ザイ	下8 詠 (エイ)	下7 簿 ボ	下7 箇 カ	下6 抄(抄) チョウ	下6 涉 ショウ	下6 奨 ショウ	下6 准 ジュン	下5 倅 ホウ	下5 侮 (ブ)
征服	禅寺	錠前	薬剤師	朗詠	簿記	訂正箇所	進抄	干涉	奨励	准看護師	倅給	侮辱

全体の形が似た漢字

全体の形が似た漢字もある。

例 網……綱 緑……縁

諭……論 載……戴

一画の違い

一画、すなわち一本の線や一つの点の有無が違いとなる漢字もある。

例 木……本

王……玉

次のような例にも注意が必要である。

例 恵……穂

「恵」にも「穂」にも点がない。

例 專……博 縛 簿 簿

「專」には点がないが、「博」などにはある。

10

5

③ 次は、全体の形が似ている漢字二つの組である。それぞれの□には、どちらの漢字が入るだろうか。

1 柔……桑

□らかな日差しが□畑に降り注ぐ。

2 選……遷

□都の候補地を□ぶ。

3 忘……忌

嫌なことを□避け、□却する。

4 衷……喪

王の死を□心より悔やみ、□に服す。

④ 次の傍線部の漢字をもとに、一画を加えたり引いたりして、別の漢字にしよう。

3 1 刃物 総帥

↓ ↓

4 2 排斥 元旦

↓ ↓

15

10

5

下8	下16	下16	下15	下15	下10	下10	下9	下8	下6	下4	下4	上11	上11	上4
忘	旦	帥	斥	刃	喪	衷	却	忌	遷	桑	柔	穂	恵	戴
ボウ	タン	スイ	セキ	ハ(ジン)	モ	チュウ	キヤク	(イム)キ	セン	クワ	ジユウ ニユウ ヤワラカ ヤワラカイ	ホ(スイ)	メグモ	タイ
旦那	統帥	斥候	両刃	記憶喪失	折衷案	返却	忌中	変遷	桑の実	優柔不断	稲穂	恩恵	戴冠式	



夏木立ひかりちらしてかがやける青葉の中にわが青葉あり

荻原裕幸

写真・鎌形 久

3

伝え方を工夫する



読む〈構成・展開〉

鯉節——世界に誇る伝統食

学びの扉 要約する

学びの扉 テーマを立てて説明する



書く〈伝達〉

調べて考えたことを伝えよう

「食文化」のレポート

文法の窓 用言の活用

ばらばら動詞カードをかたづけろ

漢字道場 漢字の意味

鰹節かつおぶし——世界に誇る伝統食ほこ

小泉武夫こいずみたけお

皆さんは、世界一硬い食べ物は何だと思われるでしょう。その答えは、日本の鰹節です。

鰹節というと、お好み焼きなどに振りかけるおがくずのようなふわふわの食べ物と思いきや、浮かべるかもしれません。しかし、そのふわふわのものは正確には鰹節を削った削り節で、鰹節とは本来削る前の状態のものをいいます。鰹節は、名前からも分かるとおり魚の鰹の加工品なのですが、とても硬く、鰹節どうしをたたき合わせるとカーンと拍子木を打ったような音がします。昔はこの家庭でも、この硬い鰹節を買ってきてかなで削って食べていました。か

10

5



カンバト
乾鰹



干し肉



鰹節と鰹節削り器



読む〈構成・展開〉

「目標」

● 文章全体と部分との関係や、筆者の書き方の工夫に注意して、内容を読み取る。

● 筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ。

12 拍子木

堅い木で作った、二本の四角い棒状の用具。打ち合わせて鳴らし、拍子を取ったり、合図したりする。

8 類 本来

1 硬

コウ
かたい

硬貨こうか

んなで削って食べる魚なんて世界中どこを探してもありません。硬いことでよく知られている中国の乾鮑^{カンパオ}やヨーロッパの干し肉と比べても、鰹節は圧倒的に硬いのです。

鰹節が硬いのは、乾燥^{カンソウ}しているからです。例えばイカを乾燥させたスルメが硬いように、鰹節も鰹を乾燥させているから硬いのです。

では、いったいどのように加工すれば、刺し身で食べられる柔らかい鰹を、かなで削らなくてはならないほどの硬さにまで乾燥させることができるのでしょうか。その秘密を鰹節の製法から探^{さぐ}ってみましょう。

鰹節を作るには、まず、新鮮な鰹を三枚におろします。そのおろした身の部分を「節」というのですが、これを一度煮^にた後、冷まして身を引き締めます。次に、節から骨・皮・うろこなどを取り除き、これを底が簀^すの子になっている木の箱に入れ、下からまきをたいて数日かけていぶします。こうすると節の表面は燻^{くん}製^{せい}になります。中にはまだ水分が残っています。この状態を「荒節^{あらぶし}」といいます。

荒節の表面を削って整形したら、次はいよいよカビ付けとよばれる工程です。節を四、五日間日光で乾燥させてから、カビ付け用の桶^{おけ}に並べます。この桶は何十年と使っているので、桶の内側には鰹節菌^{きん}がたくさんすみ着いています。鰹節菌というのはカビの一種で、カビといっても、病気や腐敗^{ふはい}を起こす悪玉カビではなく、人間にとっていい仕事をしてくれる善玉カビです。このカビ桶に節を入れておくと、一週間から十日で節の表面全体にびっしりとカビが生えてきます。これを一番カビといいます。十日目辺りでいったんこれを取り出し、はけできれいにカビを落として再び日干しし、再度カビ桶に入れると、一週間から十日でまたカビが密生してきます。これが二番カビです。この後同様の操作を繰り返し、

20

15

10

5

9 煮^(シヤ)
にやる

15 菌^{キン}

16 腐^フ
くさる
くされる
くさらず

20 繰^{くる}

7 探^{さぐる}

2 文 圧倒的

2 乾鮑

鮑^{あひ}の肉を干して乾燥させたもの。
中国の高級食材。

2 干し肉

鳥獣^{ちゆうじゆう}の肉を乾燥させたもの。

8 三枚におろす

魚を料理するときに、頭を落としてから、身を片身二枚と中骨の三つに切り離^{はな}すこと。

10 簀の子

竹や板を、間を空けて並べ、横板に打ち付けたもの。

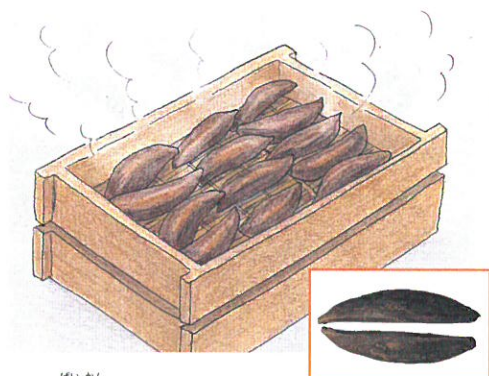
雑煮^{ぞうじ}

殺菌^{さつきん}

魚が腐る

糸を繰る

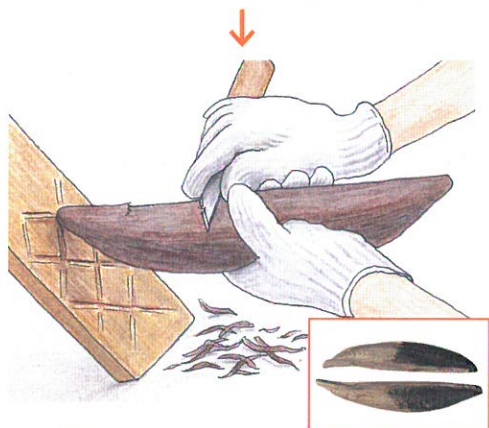
【 鰹節の製法 】



④ 焙乾

下からまきををたいて数日かけていぶす。

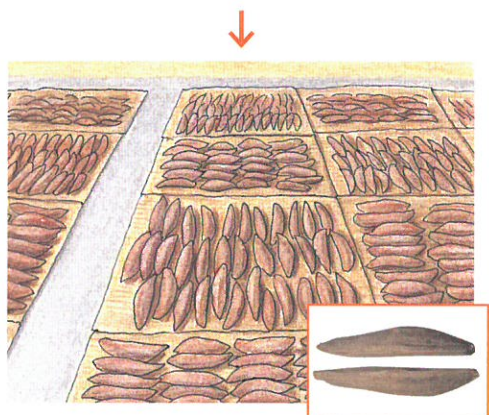
荒節



⑤ 削り

節の表面を削って整形する。

はだかぶし
裸節

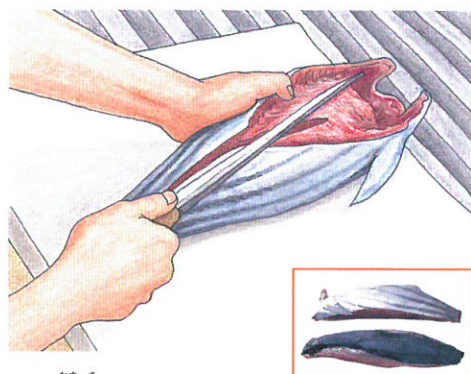


⑥ 日乾・カビ付け

日光で乾燥させてから、カビ付け用の桶に並べ、室に入れてカビを付ける。

表面にカビが付いたら、はけでカビを落として再び日干しし、再度カビを付ける。これを数回繰り返す。

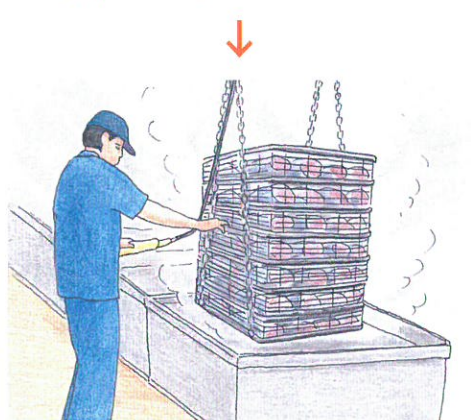
鰹節の完成



① 生切り

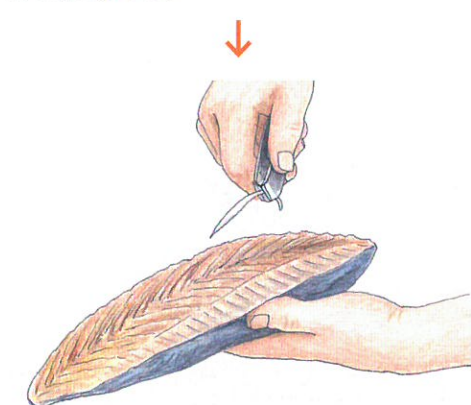
鰹を三枚におろす。

節



② 煮熟

煮籠に並べて釜で煮る。その後、冷まして身を引き締める。



③ 骨抜き

骨・皮・うろこなどを取り除く。

三番カビ、四番カビまで付けて、ようやく鰹節はできあがります。

この間、鰹節菌は何をしているかというと、実は節からどんどん水分を吸い取っているのです。カビは、ほかの微生物に比べその生育にたいへん多くの水分を必要とします。湿度の高い梅雨時にさまざまなカビが生えてくるのもそのためです。鰹節菌はまず節の表面でびっしりと繁殖して、そこから水分を吸い取って生きていきます。節の表面の水分が吸い取られると、そこは乾燥状態になるので、更に奥の水分がその乾燥した表面にじみ出てきます。鰹節菌はまたその水分を吸い取ります。こうして、三番カビ、四番カビが生えてきた頃には、節の内部の水分はほとんどなくなっています。

このように、カビ付けの工程で、鰹節菌にどんどん水分を吸い取らせることによって、鰹節を硬く乾燥させているのです。

それにしても、なぜこんなに手間暇かけて鰹節を乾燥させるのか、皆さんは不思議に思いませんか。乾燥しているということにはどんな意味があるのでしょうか。

例えば、ここに生のイカとスルメがあるとします。これらをしばらく放置すると、生のイカには腐敗菌が付きます。生のイカには水分がたっぷりあるため腐敗菌はみるみる繁殖して、イカはすぐに腐ってしまいます。ところが、乾燥したスルメでは、同じ腐敗菌が「あ、スルメだ。これはうまさうだぞ。」と食いついたとたんに即死してしまいます。スルメは乾燥しているため、腐敗菌の細胞の水分は逆にスルメに吸収されてしまい、腐敗菌は死んでしまうのです。生のイカが腐り乾燥したスルメが腐らないのは、そういう理由からです。スルメを腐らせようと思ったら水に浮かせておけばすぐに腐ります。

つまり、乾燥した食べ物、微生物が増殖できないために腐らない。鰹も乾燥させるこ

3 湿
しめる

16 即
ソク

17 胞
ホウ

4 梅雨
つゆ

11 意 手間暇

12 文 意味がある

14 類 みるみる

18 類 理由

空気が湿る

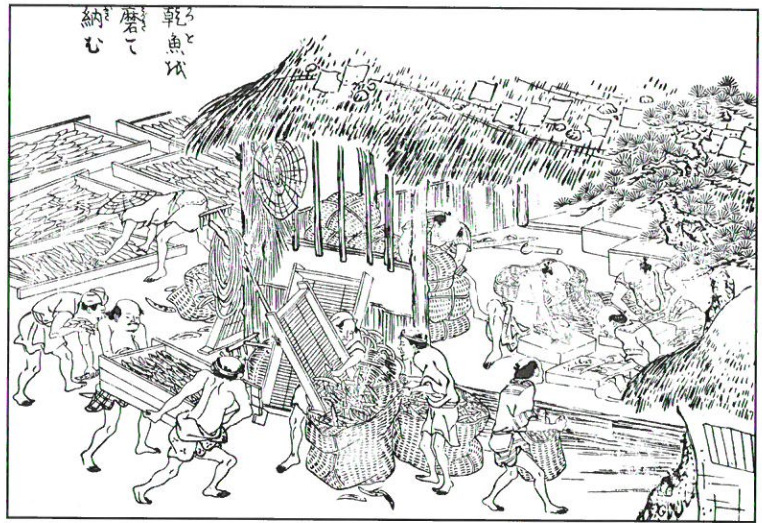
即断

同胞

とで、保存ができるようになるのです。

今の鰯節のようにいぶしてから乾燥し、カビ付けをするようになったのは、江戸時代の元禄年間（一六八八年～一七〇四年）の頃といわれています。湿度の高い環境を好むカビの性質をみごとに見ぬいた鰯節の製法は、世界に類例がなく、我が国の先達たちの知恵の深さとユニークな発想には舌を巻きます。鰯節菌を巧みに応用した驚異の乾燥術は、食べ物と保存するための、冷蔵庫のなかった昔からの偉大なる知恵なのです。

さて、鰯節には、ほかにも食べ物としてたいへん優れていることがあります。カビ付けをした鰯節は、うまみ成分を極めて多く含みます。ですから、鰯節を削ってだしを取ると、料理はたちどころに美味になります。このうまみの主な成分はアミノ酸とイノシン酸です。鰯節菌は鰯節の水分を吸って繁殖する一方で、タンパク質分解酵素を生産して、鰯のタンパク質をアミノ酸に分解しているのです。こうして、鰯節にはアミノ酸が蓄積されます。また、鰯節にはイノシン酸も蓄積されています。このアミノ酸とイノシン酸の相乗効果で、鰯節はがぜんおいしくなるのです。



江戸時代の鰯節作りの様子

17 アミノ酸

生物の細胞の主成分であるタンパク質を構成する。

17 イノシン酸

動物の筋肉組織中にある化学物質。

18 酵素

生体内で作られ、生体内の化学反応の仲立ちをするタンパク質。

7 意 先達

8 意 舌を巻く

16 類 たちどころに

20 意 相乗効果

20 類 がぜん

9 巧 コウ
たくみ

技巧

11 偉 イ
えらい

偉い人

18 酵 コウ

発酵

19 蓄 チク
たくわえる

力を蓄える

2 汁 ジュウ
しる

果汁

2 脂 シ
あぶら

合成樹脂

更に、この鰹節にはもう一つ驚くべきことがあります。それは鰹節でだしを取るとき、汁の表面に脂が浮いてこないことです。鰹節を作る工程に脂を除く工程はありません。しかし、鰹というのは本来脂をたくさん持っている魚です。ではあの脂はどこへ消えたのでしょうか。それは、やはり鰹節菌が、鰹の油脂成分をみごとに分解しているのです。鰹節菌は油脂分解酵素を出して、油脂成分を脂肪酸とグリセリンに分解し、その分解したものを食べているのです。

日本のだしといえば、昆布、しいたけ、鰹節がいわゆる三種の神器です。この三つからはいずれもすばらしいうまみが出て、しかも脂は出ません。西欧料理や中国料理のだし取りでは、とりがらや牛の尾、豚の足や骨、魚介類などを煮込むため、油脂成分がスープの上に浮いてきます。しかし日本のだしには脂がない。脂がなくておいしいだしを持ったからこそ、日本料理は繊細になってきたわけです。懐石料理はすばらしい日本の料理ですが、それが世界からも芸術的なものとして評価されるのは、鰹節のだしという伝統技があったからこそなのです。

以上のように、鰹節は、日本人の知恵の結晶ともいえるすばらしい保存食品であり、日本料理の発展のための原動力ともなりました。鰹節は、日本人が声を大にして世界に誇れる食べ物なのです。

しかし、今や、家庭で鰹節を削ることはほとんどなくなってしまいました。それだけではなく、鰹節でだしを取ることもさえ少なくなってしまいました。では鰹節に取って代わったのは何かというと、うまみ調味料です。これを使えばだしは容易に取れるので、鰹節を使わなくてもよくなったのです。

5 鰹
ボウ

9 豚
ブタ

11 織
セン

14 品
ショウ

12 技
わざ

7 意 三種の神器

11 意 繊細

15 文 声を大にする

18 文 取って代わる

5 脂肪酸

5 油脂を構成する成分の一つ。

5 グリセリン

油脂を構成する成分の一つ。医薬品や化粧品などに用いられる。

11 懐石料理

茶の湯の席で、茶の前に出す簡単な料理。一汁三菜が一般的。

19 うまみ調味料

うまみ成分を化学的に合成した調味料。化学調味料ともいう。

皮下脂肪

養豚

繊維

水晶



文章の内容を踏まえて伝統について話し合おう

【目標】

- 文章全体と部分との関係や、筆者の書き方の工夫に注意して、内容を読み取る。
- 筆者のものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ。

読み取る

- ① この文章を、鰹節のすばらしさについて書かれている第一・第二のまとまりと、筆者の考えが書かれている第三のまとまりに分けてみよう。続いて、第一のまとまりを、更に四つのまとまりに分けてみよう。

5

②

この文章を、筆者が鰹節を「世界に誇れる食べ物」(65頁)と考えている理由が分かるように、次の二通りの仕方でも約してみよう。

- 百字程度で簡潔に要約する。
- 文章の流れに沿って三百字程度で要約する。

③

筆者が、分かりやすく伝えたり、読み手をひきつけたるするために工夫している箇所を探してみよう。

たすけ 読み手への問いかけや、筆者の気持ちが強く表れている表現に注目しよう。

10

考えを深める

- ④ 祭り、風呂敷、打ち水など、昔から受け継がれてきた伝統や知恵を身の回りから探し、それを受け継いでいくことの大切さや難しさについて話し合ってみよう。

15

言葉の力

文章の構成を捉え、要約する



長い文章の構成を捉えるには、次のようにするとよい。

- 問いや話題を提示している文や段落、内容のまとめに当たる文や段落を見つけ、それを手がかりに文章をいくつかのまとまりに分ける。

- まとまりどうしの関係を捉える。

要約するときには、構成を捉えることに加えて、目的や相手に応じて内容を選んだり絞ったりすることが必要である。

25

↓ 69ページ



学びの扉1

要約する

広がる言葉

① 「鰹節——世界に誇る伝統食」には、「鰹節は、日本人の知恵の結晶ともいえる……」(65・14)のような比喩的に使われる言葉が用いられている。このような言葉を、文章中から探そう。

② 例に倣い、1〜3に示した言葉を、比喩的な意味で用いて、短い文を作ってみよう。

③ 例 金づち ↓ 私は金づちなので、海水浴は苦手だ。

1 原石 ↓

2 オアシス ↓

3 背伸びをする ↓

④ 次の、比喩的に使われる言葉のリストに、一つ付け加えよう。

(組織の)	司令塔	(勝負の)	鬼	(生活が)	潤う
黄色い(声)	単細胞(な人)	(正義を)	貫く		
(打線の)	ブレーキ	(			

↓ 308 ページ「言葉を広げよう」

15

10

5

広がる漢字

次の傍線部の漢字を読んでみよう。

① さんずい(シ)の漢字

- 1 汁の表面に脂が浮いてこない。
- 2 山頂近くに美しい滝がある。
- 3 絹織物は光沢があって美しい。
- 4 この海域には浅瀬が多い。

② 食に関する漢字

- 1 一度煮た後、冷ます。
- 2 同じ釜の飯を食った仲だ。
- 3 昨晩は麺類で夕食を済ませた。
- 4 紅茶に蜂蜜を垂らす。

24	23	22	14
瀬	沢	滝	塔
せ	さわ	たき	トウ

瀬戸物	沢の水	滝つぼ	金字塔
せともの	さわのみづ	たきつぼ	きんじとう

29	29	28	27
蜜	蜂	麵	釜
ミツ	はち	メン	かま

蜜の味	蜂起	乾麵	茶釜
みつあじ	はちき	かんめん	ちやがま

25

20



学びの扉 1

要約する



↓ 学びを支える言葉の力 234 ページ

要約って、文章を短くすることでしょう？
どうしてそんなことをするの？



文章は一本の木にたとえることができる。筆者の言いたいことが一本の幹で、それに「言い換え」や「具体例」や「補足」といった枝葉が付いている。



そこで、思い切って枝葉を切り落としてみよう。「例えば」で始まる具体例や「ただし」で始まる補足の部分は、多くの場合に切り落とすことができる。同じ内容を言い換えて

5

いるところは、どちらか一方を残せばよい。
そうすると、筆者の言いたいことがはっきりと見えてくる。更に、そうすることによって、一本の木の姿、つまりその文章の組み立ても、よりよく捉えられるようになる。

そうか。要約って、ただ短くするだけじゃないんだね。



どのくらい枝葉を切り落とすかは、どのくらいの長さの要約を作るかによる。そうして枝葉を切り終わったら、残った部分をつないで、自然な文章に仕上げよう。

百字や二百字といった字数の制限を決めてもよい。その字数でまとめる練習をすることによって、的確で簡潔な表現をする力が身につく。

要約の練習をすると、文章を読む力と書く力が、すごく鍛えられるよ。



20

15

10





レポートを書くんだけど、何から始めていいかも分からなくて……。



由実さんが困っている。環境問題^{かんぎょうもんじ}に関することで、何かテーマ^{てま}を見つけて書かなければいけない。枚数は自由。けど由実さんはテーマが見つからない。

① 図書館に行こう

ただじっと考えていても何も思いつかない。図書館に行つて関係がありそうな本を探そう。タイトルと目次を見て、興味が持てそうな本を見つけよう。

② メモを取ろう

最初はじっくり読まなくてもいい。大まかに目を通し、どんなことが書いてあるかをメモしよう。

③ 問いを考えよう

そうしたら、そのメモをもとに、問いを考える。見つけてきた本が十分に活用できるような問いを考えよう。

15

10

5

由実さんはごみ問題の本を借りてきた。そして、この本にはどんなことが書かれているのか、メモを取ってみた。さあ、これをもとにどんな問いが考えられるだろう。

- ・ごみ問題の現状と深刻さ。
- ・ごみ処理の仕方。焼却^{しょうきゃく}と埋め立て。
- ・多くの国では、ごみは燃やさずに埋め立てている。
- ・ごみ処理用地と住民の問題。
- ・家庭ごみの有料化のこと。
- ・消費者がごみを減らすだけでなく、生産者がごみになるような包装をしないこともだいじ。
- ・ごみを減らすには、ごみの再使用とリサイクル。

例えば、「ごみはどのように処理されるのか」という問いが考えられる。ほかにもいろいろな問いを考えてみよう。

うまい問いが立てられれば、それがレポートのテーマになるよ。



30

25

20



書く〈伝達〉

調べて考えたことを伝えよう 「食文化」のレポート

目標

- ふだんの生活やメディアなどで見聞きすることからテーマを決め、調査して自分の考えをまとめる。
- 調べて分かった事実や自分の考えが明確に伝わるように、構成を工夫してレポートを書く。

調べてみて分かった事実と、それに対する自分の考えを報告するために、レポートを書いてみよう。レポートは、さまざまな学習の際に、また、社会生活のさまざまな場面で、調査結果を報告するのに役に立つ。

ここでは「食文化」について、自分で調べたいテーマを決めて、分かった事実や考えたことをレポートの形式でまとめ、グループやクラスの中で伝え合おう。

❖ 学習の流れ（例）

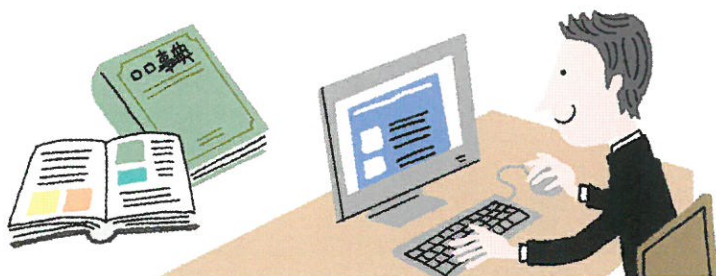
学びの扉 2

テーマを立てて説明する

（①で生かそう）

「食文化」のレポート

- ① 調査のテーマを決める
言葉の力
 - ② 情報を集め、整理する
 - ③ 構成を考える
言葉の力
 - ④ レポートをまとめる
 - ⑤ 読み合って意見を交換する
言葉の力
- 学習を振り返ろう



1 調査のテーマを決める

クラス全体の共通テーマを「食文化」とする。そのうえで、食文化についてどんなことを調べていくか、個人テーマを考えよう。

まず、食文化に関して、ふだんの生活やメディアなどで見聞きすることを思い起こし、興味のあるものをキーワードとして挙げてみる。

続いて、そのキーワードについて、百科事典などで調べてみる。読みながら、おもしろいと感じたことや、もっと知りたいと思ったことをもとに、個人テーマを設定しよう。

「すし」の中でも特に好きな「マグロ」「トロ」について調べたら、昔はあまり人気がなかったことが分かった。もっと詳しく知りたいな。



↓ 298 ページ 「話すこと・書くこと 題材例」

個人テーマを考えるためのキーワード例

- そば
- てんぷら
- 納豆
- みそ汁
- 漬物
- うな丼
- お茶
- カレー
- 中華料理
- イタリア料理
- サラダ
- すし
- お雑煮
- おせち料理
- 懐石料理

個人テーマの例

- なぜトロは昔、人気がなかったのか
- トマトの歴史と日本人
- お雑煮には地域によってどんな違いがあるか
- カレーライスに添える福神漬はどうやって生まれたのか
- 抹茶、煎茶、番茶の違いは何か

言葉の力

テーマを設定する



- 興味のある物事について、まずは百科事典などで調べてみる。
- 調べて、おもしろいところや、もっと知りたいところを見つけ、そこからテーマを考える。
- 「なぜ」「どんな」「どこから」など、問いの形でテーマを立てると、問題点が明確になり、新しい発見が期待できる。
- 複数の事柄を比較するテーマ設定も有効である。

2

情報を集め、整理する

テーマが決まったら、図書館やインターネットなどを利用して、調査を進めていこう。

書籍や新聞などの活字メディアからは、比較的、信頼性の高い情報が得られることが多い。何冊かの本の目次を見て、テーマに関係のありそうな部分に絞って読んでいくとよい。

インターネットは、多くの情報を手軽に得ることができて便利である。ただし、不確かな情報が掲載されている場合もあるので、同じ話題について、ほかの情報源にも当たって確認してみることが大切である。

調べて分かったことは、カードなどに記録しておこう。

集めた情報を整理して、レポートの中に盛り込む内容を取捨選択しよう。情報が不足していると思ったら、更に調べて補おう。また、調べて分かったことから感じたことや考えたことなどもメモしておこう。

↓
300ページ「発想・整理の方法」

15

10

5

▼
情報をカードに記録した例



調べた項目	マグロの味の評価	7月3日
・江戸時代の頃まで、マグロはおいしくない魚だと思われていたようだ。 (インターネット上の情報。更に調べてみたい。)		
書名(資料名)	みんなの質問回答	
著者・编者	Fu	
出版社(URL)	ht	

調べた項目	マグロの味の評価	7月3日
・江戸時代前期、マグロの味に対する評価は低かった。 ・江戸時代の料理書「江戸料理集」(1674)には、「マグロは、下魚でご馳走には使えない。」(現代語訳)と書かれている。		
書名(資料名)	マグロのすべて	
著者・编者	河野博, 茂木正人・編	48 ページ
出版社(URL)	〇〇社	2007 年

インターネットで得られた情報は、書籍にも当たって確認するとよい。

3

構成を考える

書く内容が決まったら、構成を考えよう。特に、調査結果を伝える箇所では、伝えたい情報をいくつかのまとまりに分け、それをどんな順序で示すと分かりやすいかを考えて構成を決めよう。

5

4

レポートをまとめる

構成が決まったら、レポートをまとめよう。

題名は、テーマがよく伝わるものにしよう。

本文は、構成に沿って見出しで区切って書いていこう。更に、調査結果についてはまとまりごとに小見出しを付けると分かりやすい。必要に応じて図表も取り入れよう。

10

5

読み合って意見を交換する

レポートができたら、グループなどで読み合おう。

他の人のレポートを読んで、よい点や、自分のレポートにも生かせそうだと思った点などを話し合ってみよう。

15

言葉の力

レポートの構成を工夫する



- 基本的には、次のような構成で書くことよい。
 - 1 テーマ テーマと、それを選んだ理由を示す。
 - 2 調査方法 どんな方法で調べたかを示す。
 - 3 調査結果 調べて分かった事実を中心に書く。
 - 4 考察 自分の考えをまとめる。
 - 5 参考資料 参考にした資料の一覧を示す。
- 「調査結果」は、まとまりごとに分け、載せる順序を考える。

学習を振り返ろう

- ふだんの生活やメディアなどで見聞きすることからテーマを決め、調査して自分の考えをまとめたか。
- 興味のあることをもとに、自分なりのテーマを設定したか。
- テーマに沿って、さまざまな情報を集めて考えをまとめたか。
- 調べて分かった事実や自分の考えが明確に伝わるように、構成を工夫してレポートを書いたか。
- 事実と自分の考えとを区別してレポートを構成したか。
- 調査結果をまとまりごとに分け、順序を考えて示したか。

30

25

▼ レポートの完成例

マグロ・トロは日本でどのように受け入れられていったのか

2年1組 石田正太

基本的な構成の順番に沿って、見出して区切る。

1 テーマ

私の好きな食べ物は「すし」である。特に「トロ（マグロの中でも脂の多い腹の部分）」がいちばん好きなすし種である。その「トロ」について調べてみると、昔はマグロそのものが今ほど人気のある食べ物ではなかったことや、今では好まれている「トロ」が昔は見向きもされなかったことが分かり、興味が湧いた。

そこで、「マグロ・トロは日本でどのように受け入れられていったのか」というテーマを立てて、詳しく調べてみることにした。

図書館、インターネット、インタビュー、アンケートなどの方法がある。

2 調査方法

- ・学校図書館や地域の図書館にある百科事典・その他の事典で、「マグロ」「トロ」について調べて基本情報を集める。
- ・集めた基本情報をもとに、インターネットで検索して大まかに調べ、更に図書を探して詳しく調べる。

調べて分かった事実を中心に書き、まとまりごとに小見出しを付けるとよい。ここでは、(1)～(3)のまとまりに分け、時間順に配列している。

3 調査結果

(1) マグロが不人気だったわけ

江戸時代の中頃まで、マグロは人気がなかった。主な理由として、次の3点が挙げられる。「第1に」「第2に」といったナンバリングによって内容を整理するのもよい。

第1に、効果的な保存ができなかった。当時、マグロは主に東北や九州で水揚げされており、人口の多い江戸まで運ぶのに時間がかかった。冷蔵庫などもなく、白身魚と比べても、マグロのような赤身魚は鮮度が落ちやすかった。

第2に、味の好みが変わっていった。「江戸料理集」（1674年）には、「マグロは、下魚で馳走には使えない。」（現代語訳）と書かれている（現代語訳の引用は、「マグロのすべて」48ページより）。当時は、脂っこくない淡泊な食べ物が好まれており、マグロの味に対する評価は低かった。

第3に、マグロの呼び名がよくなかった。マグロはかつて「しび」とよばれ、「死日」を連想させるということから、不吉な魚とされていた。一方、カツオは「勝つ」につながるということで、人気があった。

引用箇所はかぎ括弧でくくり、出典を示す。

（次ページに続く）

(2) マグロが食べ始められた理由

江戸時代後期には、食材としてのマグロが広く受け入れられていった。その要因として、19世紀前半から半ばにかけて、江戸の近海でマグロの豊漁が続き、価格が急落したことが挙げられる。人々は新鮮なマグロを手軽に消費し、食べきれない分はしょうゆに浸して保存した。そうすることで鮮度の低下を防ぎ、生臭さを消すこともできた。すし店がマグロの赤身を使い始めたのもこの頃からで、切り身をしょうゆ漬けにしてすし種にしたところから「づけ」とよばれるようになった。

(3) トロはいつから人気のすし種となったのか

明治時代になっても、マグロはすし種として人気が出るには至らなかった。脂の特に多い「大トロ」に至っては、鮮魚店で最も安いぐらいの値がついていた。

しかし、大正時代(1912年～1926年)になって、東京・日本橋のすし店が、マグロの腹身をすし種として取り入れ、トロという呼び名で売り出すと、次第に人気が出てきた。背景として、日本人の好みも、西洋料理の影響を受け、肉類と同じように脂肪を含む食品へと変わりつつあったこともある。第二次世界大戦後、食料の不足、特に動物性タンパク質と脂肪分の欠乏という事情もあり、トロの人気はいっそう高まっていった。その後の冷凍技術の発展も、マグロ・トロの普及に役立った。

4 考察

マグロ・トロに対する評価が変化してきた過程を調べてみると、食材の評価を決める要因がいろいろあることに気づく。例えば、保存のしやすさ、味、名前による印象、供給量、価格、栄養分などである。そうした要因が、その時代の人々の価値観と結びつくことで、食文化が形成されていくのだろう。

5 参考資料

- 本の場合、書名のほか、著者名(編者名)、出版社名、出版年を書く。インターネットの情報は、ウェブページ名、URLなどを書く。
- ・「世界大百科事典」(加藤周一・編、〇〇社、2007年)
 - ・「マグロのすべて」(河野博、茂木正人・編、〇〇社、2007年)
 - ・「たべもの起源事典」(岡田哲・編、△△出版、2003年)
 - ・「江戸前の味」(長崎福三・著、□□書店、2000年)
 - ・「かつお・まぐろと日本人」(海老沢志朗・著、□□書店、1996年)

用言の活用

ばらばら動詞カードをかたづけろ



文法解説
258 ページ

さ	せ	し	来 ^こ					書 ^か こ	書 ^か	…ナイ …レル …ウ、ヨウ
						読 ^ん	走 ^つ	書 ^い		…マス …タ、ダ …テ
する	来る	食べる	起きる	読む	走る	書く				…切る …言 ^い …カラ
		食べる								…トキ …コト …ノ
			起き ^れ							…ハ
せよ		食べよ	起きよ	読 ^め						…い …(命令) …て言 ^い 切 ^る

左の、ばらばらになった動詞カードを整理して、上の活用標本箱の中にかたづけよう。

起き	来 ^こ	起きろ	書く	食べろ
来る	書 ^け	読む	走 ^ら	
食べ	走 ^れ	すれ	書き	
	走 ^ろ			

用言

活用する（語の形が変化する）自立語で、それだけで述語になることがでる単語。動詞・形容詞・形容動詞の三種類がある。

動詞

動作や変化や存在の意味を表す単語。言い切りの形が五十音図のウ段の音で終わる。



考えよう

次の動詞を活用させて、活用標本箱に整理してみよう。

出る 飛ぶ 落ちる
言う 聞く 教える
似る

漢字の意味

似た意味の漢字

次は、意味が似た漢字の例である。

例 船

舟…小舟

舶…舶来

艇…救命艇

艦…軍艦

「ふね」を意味する最も一般的な漢字は「船」だが、このようにほかにもいくつかの漢字がある。これらはどれも「ふね」を表すが、それぞれ意味が少しずつ違う。例えば、「舟」は「(人力でこぐ) 小型のふね」を表す。

反対の意味の漢字

次は、意味が反対になる漢字の例である。

例 真↑偽

利↑害



① 似た意味を持つ漢字どうしを結び付けて、熟語を作ろう。

舞 純 把 軌

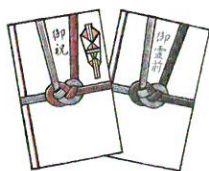
道 粹 踊 握



②

反対の意味を持つ漢字どうしを結び付けて、熟語を作ろう。

盛 慶 是 禍
非 福 弔 衰



下10	下13	下13	下12	下12	下11	下7	下6	下6	下5	上13	上5	上4
盛	衰	禍	弔	是	慶	軌	踊	把	粹	偽	舶	艇
セイ	スイ おとろえる	カ	チヨウ とむらう	ゼ	ケイ	キ	ヨウ おどる	ハ	スイ いき	ギ (にせ) いつわる	ハク	テイ

体が衰える	禍根	霊を弔う	是認	慶賀	常軌	ダンスを踊る	把持	粹がる	本心を偽る	船舶	艦艇
からだ	かこん	れい	ぜにん	けいが	じょうき	おど	はじ	いき	ほんしん	せんぼく	かんてい

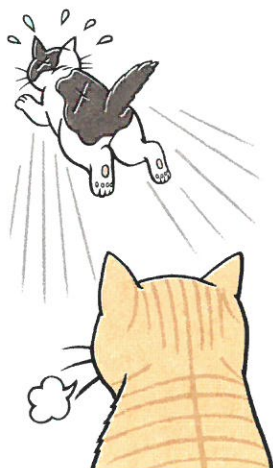
複数の意味・思いがけない意味

多くの漢字は複数の意味を持つ。それらが意味のうえにつながりを持つこともあるが、次のように、つながりが見えない思いがけない意味を持つこともある。

北

北風：(方位の)「きた」
敗北：「にげる」

「北」は互いに背を向けている二人の人間をかたどった漢字で、もともと「背く」「背中」の意味を表す。したがって、敵に背中を見せて逃げることを「敗北」という。また、太陽に向かったときに背中がある方向の「きた」を表すことにもなった。



10

5

③ 次の各組について、傍線部の漢字の意味の違いを調べよう。

12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
泥水	洞穴	名著	篤実	先輩	雨露	亜流	清廉	散漫	風雪	横断	手相
...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...	...
拘泥	洞察	顕著	危篤	輩出	暴露	東亜	廉価	漫画	雪辱	専横	宰相



10

5

下13	下9	下3	上9	下14	下13	下12	下11	下10	下9	下8	下7	下6	下5	下3
穴	暴	相	背	拘	洞	顕	篤	輩	露	亜	廉	漫	辱	宰
ケツ	バク	ショウ	ソムク	コウ	ドウ	ケン	トク	ハイ	ツロウ	ア	レン	マン	ジョク	サイ
													(はずかしめる)	

拘束	洞穴	顕微鏡	篤志家	同輩	披露	亜熱帯	廉売	漫然	屈辱	主宰
----	----	-----	-----	----	----	-----	----	----	----	----



小さな労働者

一九二一年の二月のある朝、ミシシッピ州ビロクシーにあるシーフードの缶詰工場で、マニユエルがカメラに向かつてポーズをとっています。カキ殻の山を背にして立つマニユエルが両手に提げているのは、エビを入れるバケツです。マニユエルは早朝三時に鳴る笛の音で目を覚まし、一日中、工場で冷凍したエビの殻をむくのです。この仕事に初めて就いたのは四歳のときでした。①気の強そうなこの少年は、②ルイス・ハインが第一次世界大戦が始まる前の数年間に撮影した、何千人もの働く子供たちのうちの一人です。

10

5



マニユエル、5歳 ミシシッピ州の缶詰工場にて

ラッセル・フリードマン
ちばしげき
千葉茂樹・訳

十九世紀、アメリカでは働く子供の数が増え続けていました。アメリカの産業は活発になり、工場でも鉱山でも、安い賃金で雇^よえるたくさんの労働者を必要としたからです。マニユエルの写真が撮^とられた頃^{ころ}には、正規の労働者として働く十六歳未満の子供たちが二百万人もいたといわれています。その多くは、週に六日、一日に十二時間以上働き、賃金は極めて安く、労働環境は危険で不健康なものでした。

アメリカの至る所で、学校に通い、元気に遊んでいるはずの子供たちが、生きるために働いていたのです。

一九〇〇年代の初めになると、幼い子供を働かせることは、子供を奴隷^{とれい}にしているのと同じことだと気づく人が増えました。彼らは、長時間にわたる労働は子供から教育の機会を奪^{うば}い、よりよい未来を築くチャンスを潰^{つぶ}してしまうことになる^と抗議^{こうぎ}しました。子供の頃から働かされることによって、無学なまま、貧しく、悲惨^{ひさん}な人生を送ることになってしまふのです。

社会の改革を目指す活動家たちは、子供には侵^{おか}すことのできない権利があると主張しました。とりわけ、子供時代を労働者としてではなく、子供のままでいる権利を

強調しました。

ニューヨークで教師の傍^{かたわ}ら写真家としても活動していたルイス・ハインは、そうした考えを持つ活動家の一人でした。彼は、写真には真実を語る大きな力があることを知っていました。産業の担^にい手として働かされる子供たちを救いたいという思いが高じた末に、ハインは教師を辞^やめ、全米児童労働委員会という団体の取材カメラマンになりました。

ハインは、いろいろな方法を使って数多くの現場へ潜^{もぐ}り込みました。いずれも調査が歓迎^{かんげい}されることなどない、写真が公開されては困るような場所ばかりでした。ときには、彼の真の目的に気づいた工場主から暴力を受け、危険なめに遭^あわされたこともあります。ふだんは控^{ひか}えめで恥ずかしがり屋の、鳥を思わせるような細身の男ルイス・ハインは、二十世紀の初めに、働く子供たちの真実の姿を記録することに命を懸^かけたのです。

「百聞は一見にしかず。」とルイス・ハインは語っています。もし児童の労働の真実の姿を目にしたならば、人々はこの悪夢を終わらせる法律の制定を求めるにちがいないと彼は信じていました。

④綿紡績工場ではたくさんの子供たちが、いろいろな種

類の仕事に就いていました。いずれも長時間に及ぶ厳しい仕事です。女の子たちは「スピナー」とよばれる仕事で雇われていました。彼女たちは機械の横の長い通路を行き来して機械の糸くずを払い、回転する糸巻き機の糸が切れていないか気を配ります。糸が切れたらできるだけ早く糸の先を見つけ出して、つながなくてはなりません。彼女たちは週に六日、一日十一時間から十二時間もの間、立ちっぱなしで働きました。

ハインは次のように書いています。

「身長百三十センチメートル、体重はせいぜい二十キログラムほどの少女が、朝の六時から夜の六時まで働きづめです。小さな彼女がいちばん上の紡錘の作業をするためには、機械の枠をよじ登らなければなりません。」

⑥アメリカ最大の産炭地であるペンシルベニア州の炭坑では、何千人という十四、十五歳の少年たちが、合法的に雇われていました。更に、ときには九歳にも満たない何千人もの少年たちが、非合法的に雇われていました。

⑧州の児童労働法は、実質的には全く役に立っていませんでした。労働者の年齢を証明する書類の提出を求めています。

なかったからです。

年若い子供たちの多くは、「ブレイカー・ボーイ」とよばれる仕事に就いていました。すすで顔を真っ黒にした少年たちは、「石炭シュート」とよばれる装置の上に、何列も並べて据え付けられた木製の簡単な座席に座ります。そして、石炭シュートの上から次々と流れてくる石炭の上にかがみ込んで、石ころなどの不純物を拾い上げるのです。

ハインは、一九一三年にはテキサス州を回って、綿花畑で働く子供たちを写真に撮り、話を聞きました。綿花摘みは「かがみ込み仕事」といわれています。熱い日差しの下での単調でつらい仕事です。綿花を次々と摘み取って腰の袋に入れ、一歩踏み出してはまた摘むという動作を延々と繰り返します。

「どの綿花畑にも、ほんの僅かな温かい人間性をも見いだすことができません。」

ハインはそう語っています。

ハインは児童労働についてのパンフレットやブックレットを自分自身でデザインし、写真展も企画しました。また、写真に付ける説明文も自分で書きました。一点一



上：スピナーの少女、サディー

中：作業中のブレーカー・ボーイたち

下：下は5歳から上は9歳までの綿花摘み

次ページの写真を見てください。
 ⑨ 八十年という時間の向こうから、
 カリフォルニア州の紡績工場で働く一人の少女が私たちのことをまっすぐに見つめています。彼女の瞳は、残酷なほど厳しい労働に就く少女の苦しみを訴えかけてきます。しかし、ハインはこの一枚の写真の中に、彼女の人間性と、

児童労働法の絶対的な必要性を、これほど説得力のある形で訴えたものはかつてなかった。彼の写真は幼

点、写真と文章の最も効果的な組み合わせを、いろいろと試しながら書きました。ハインは、自分が発展させた写真と文章を組み合わせたこの新しい表現方法を「フォトストーリー」と名付けました。
 アラバマ州のバーミングハムで行われた会議の会場で、ハインの写真の展覧会を見たある新聞記者は、写真が放つ強力な力に打たれて、次のように書いています。

い哀れな労働者たちの苦しみを、惨めさを、無秩序を、そして健全な生活からは全てにおいてかけ離れた姿を描き出す。彼の写真は、これまでに目にしたどんな文章よりも雄弁に真実を語る。見るもおどましく、この文明化された世界に存在することを認めがたい真実を。

ハインは自分の写真を見た人がショックを受け、怒りを感じることを望んでいました。写真によって世論を動かそうと願い、その願いは実現したのです。彼の写真は、子供たちを過酷な労働から救い出すための強力な武器となりました。

威厳^{いげん}と生命力をもとらえているのです。

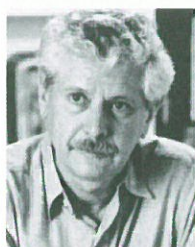
あるとき彼の友人が、ハインがとらえた子供たちは、
どうして美しいのだろうと尋ねた^{たず}ことがあります。それ
に対してハインはこう答えました。

「私はただ、美しい子供たちを写しただけです。」

恐らく^{おそ}彼は、子供の気持ちをとらえる方法を知ってい
たのでしょう。恐らく彼のほほ^え笑み、優しい言葉、手の
ぬくもりが、彼が子供たちの仲間であることを知らせた
のでしょう。彼は全ての子供の中に美を見いだし、子供
たちは彼を信頼^{しんらい}しきって、彼の向けるレンズに応えたの
です。

10

5



ラッセル・フリードマン

訳者

千葉茂樹

一九二九年生まれ。アメリカのノンフィクション作家。

一九五九「昭和34」年、北海道出身。翻訳家^{ほんやく}。

出典 「ちいさな労働者」による。

○それぞれの写真やハインの仕事について、気づいたことや感想を話し合ってみよう。



紡績工場の少女

注

▼ 80 ページ

① ルイス・ハイン

一八七四年～一九四〇年
アメリカの写真家。



② 第一次世界大戦

一九一四年に始まった、ヨーロッパを中心とした世界的規模の戦争。

▼ 81 ページ

③ 労働環境

働く場所の状態。

▼ 82 ページ

④ 綿紡績工場

綿の糸を紡ぐ工場。

⑤ 紡錘

糸を紡いで巻き取る用具。

⑥ 産炭地

石炭を産出する地域。

⑦ 炭坑

石炭を採掘するために掘られた穴。

⑧ 児童労働法

児童の労働時間や労働規約などについて定めた法律。当時は規制も緩く、子供を雇う企業にとっては抜け穴が多かった。

▼ 83 ページ

⑨ 八十年

出典の「ちいさな労働者」が書かれたのは一九九四年、日本で翻訳が出版されたのは一九九六年である。

新出漢字

▼ 80 ページ

缶

カン

空き缶

殻

カク

地殻

凍

トウ

凍える

撮

サツ

撮る

提

・さげる

就

・つくる

▼ 81 ページ

雇

コトウ

雇用

奴

ド

守銭奴

隷

レイ

隷属

惨

(ザン) (みじめ)

大惨事

侵

シン

侵害

潜

セン

潜水

辞

・やめる

紡

ボウ

混紡

枠

わく

窓枠

坑

コウ

坑道

齢

レイ

高齡

摘

テキ

指摘

袋

(タイ) ふくろ

紙袋

踏

トウ

雑踏

僅

キン

僅差

(僅) 僅

わづか

僅差

企

キ

企てる

企

くわだてる

企てる

▼ 83 ページ

哀

アイ

悲哀

秩

チツ

秩序

瞳

ドウ

瞳孔

試

・ためす

● 本を読み、その魅力について自分の考えをまとめる。

↓ 286ページ「読書活動を楽しもう」

読み比べよう

わたし8歳、カカオ畑で
働きつづけて。

岩附由香／白木朋子／水寄僚子



児童労働のない社会をつくって
いくためには、それが実現可能だ
ということ信じて、そのために
できることを一つ一つ積み重ねて
いくことが大切なのです。

(95ページより)

教育も受けられず、農園や工場
などで長時間働き続ける子供たち
なかには、兵士として戦闘に駆り
出される少年も。世界各地の実態
と、その背景にあるさまざまな事
情を紹介しながら、彼らを救済す
る方法を探る。

イクバルの闘い

フランチェスコ・ダダモ



イクバルの名前は、今、世界じゆ
うの何千万人という子どもたちを
暴力や奴隷扱いから解放する闘い
の象徴となっています。

(218ページより)

十歳でじゅうたん工場に売られ、
三年間働きつづめた少女ファ
ティマの前に現れた少年、イクバ
ル。彼は工場主と戦って仲間を解
放し、続いて「児童労働解放戦線」
での活動を始めるが……。パキス
タンの実話をもとにした物語。

このTシャツは児童労働で
作られました。

シモン・ストランゲル



働いても働いても一日たったの
六クロネ（約八十七円）しかも
らえないそう。うえ死にしても
おかしくないくらい額の。

(21ページより)

都会で何不自由なく暮らす少女、
エミリーエ。ふとした出会いから、
彼女は各国の児童労働の悲惨な実
態を告発する運動に加わる。「物
を安く買える」ことの意味を、鋭
く問いかける小説。

もう、死なせない！

桃井和馬



大人たちはどうして憎みあうの？
大人たちは正しく生きているの？
大人たちはなぜ、自分だけが幸せ
になりたいと思うの？
なぜ？ どうして？

(62ページより)

紛争、搾取、薬物、幼児虐待、
エイズ、経済格差……。さまざま
な問題の中で生きる子供たちは、
それでも、澄んだ瞳をカメラに向
けてくる。「子どもの権利条約」
の条文とともに、世界各地の子供
たちの姿を紹介する写真集。

アンネの日記

アンネ・フランク

わたしの望みは、死んでからも生き続けること。



第二次世界大戦時、ユダヤ人迫害を逃れて隠れ家に潜伏したアンネ。日記を書くことで自分を支え、極限の日々をみずみずしく生きた少女の、十三歳から十五歳まで。

あなたはそっとやってくる

ジャクリン・ウッドソン

恋をする二人には、肌の色は問題じゃなかった。



学校の同級生、白人のエリーと黒人のジェレマイアは恋に落ちた。しかし、周囲は戸惑いを隠せない。米国に今も残る人種問題を背景に描かれた、初恋の物語。

半分のふるさと

イサンクム

母はチマチヨゴリを着て学校にやってきた。



戦前に広島で生まれた著者が、終戦の年、一九四五年に十五歳で韓国へ帰国するまでを、細やかにつづった自伝。不当な差別の中でも、母は民族の誇りを貫いた。

空飛ぶ車イス

木島英登

慣れと度胸で、どこへでも行けるんだ。

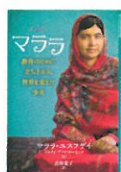


ラグビー練習中のけがのため、高校三年生で両足の自由を失った著者が、世界三十九か国を旅した各国のバリアフリーの状況にも、細やかな観察と考察が及ぶ。

マララ

マララ・ユスフザイノ
パトリシア・マコーミック

銃弾は、少女の思いを撃ち抜かなかった。



パキスタンで、女子の教育機会の充実を訴えていたマララは、その考えを否定する武装勢力によって銃撃され、重傷を負う。それでもマララの思いは揺るがなかった。

いっしょに走ろう！

星野恭子

人と人が支え合い、世界は広がっていく。



世界記録を狙う義足の陸上選手や、日本代表に選ばれた全盲のマラソンランナー。彼らの挑戦の陰には、支えになってくれる人々の存在があった。

両手を奪われても

マリアトウ・カマラン
スーザン・マクリーランド

わたしには両手がない。でも、声がある。



内戦で少年兵によって両手を切断され、難民となった、シエラレオネの少女マリアトウ。彼女が過酷な運命を生きぬき、ユニセフ特別代表として声をあげるまで。

ハンセン病だった私は幸せ

金城幸子

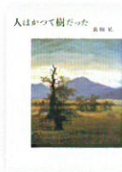
多くの出会いをくれたのは、この病。



ハンセン病の両親から生まれ、自らも八歳で発症。療養所、進学、就職、結婚などでさまざまな苦難を経験し、今は語り部として活動する著者が語る半生。

人はかつて樹だった

長田 弘

木の下に立ち止
まってみよう。

木は、人の原初の記憶を思い出させる。森の大きな木の後ろには、過ぎた年月が隠れている。人生を深く見つめる詩集。

時の旅人

アリソン・アトリー

階段を上ると、
そこは四百年前
の世界だった。

ペネロピーは、古い農場で、王位継承権争いに揺れる十六世紀の英国に迷い込む。悲劇の結末を知る少女の心の痛みと成長を描く。

今昔ものがたり

杉浦明平

平安時代、闇は
もっと暗く、深
かった。

古い空き家の怪、真夜中の葬式、キツネや化物との知恵比べ。怖い話、不思議な話など、「今はむかし」で始まる三十九の物語。

カイウスはばかだ

ヘンリー・ウィンターフェルト

小さな落書きが
大事件に発展。
犯人は誰だ？

時は古代ローマ。無実の友人を救うために犯人を追う少年たちに、謎の占い師が立ちはだかる。どんな返しが痛快な物語。

楽隊のうさぎ

中沢けい

演奏が終わった。
「ブラボオ！」
と、声が響いた。

小学校では内気だった克久だが、中学校では吹奏楽部に入部した。大会に向けて猛練習を重ねるうち、心の中で何かが変化していく。

穴 HOLES

ルイス・サツカー

ついてないだけ
の人生なんて、
あるものか。

スタンリーは、無実の罪で矯正キャンプに入れられた。砂漠の真ん中で一日中穴掘り作業をする毎日。しかし、これには裏があった。

風が強く吹いている

三浦しをん

「走る」ってど
ういうことかを
知るために。

挫折の果てに陸上を諦めた走と清瀬は、素人集団十人で箱根駅伝に挑む。それは一人一人の、人生を変える戦いだった。

鉄は魔法つかい

畠山重篤

さまざまな顔を
持つ鉄と、生命
のつながり。

カキの養殖には、山から川を伝って流れ込む鉄が要る。三陸の海で養殖業を営む著者が説く、「いのち」をつなぐ鉄の役割。

虹^{にじ}よ立て夏の終^{おわ}りをも生きてゆくぼくのいのちの頭上^{かみ}はるかに

早坂^{はやさか}
類^{るい}



写真・高砂淳二

4

説得力を高める



読む^{よむ} 〈吟味・判断〉

哲学的^{てつがく}思考のすすめ



学びの扉^{とら} 論証の組み立てを捉える



書く 〈論証・説得〉

反対意見を想定して書く

意見文



話す・聞く 〈話す〉

説得力のある提案をしよう

プレゼンテーション

◆ 文法の窓 助詞

文よ、助詞で大きく育て

◆ 漢字道場 同訓異字

哲学的思考のすすめ

野矢茂樹

試験の問題には正解がある。だけど、まだ誰も正解にたどり着いていない、正解があるかどうかさえ分からない、そんな問題もある。いや、そういう問題のほうが多い。だから、考える力を身につけるには、試験勉強だけしていたのではだめだ。ときには正解のはっきりしない問題を、じっくりと、そう、哲学的に、考えてみよう！

何も難しいことを考えようというのではない。哲学的に考える、それは物事を根本的に考えぬこうとすることだ。身近であたりまえとされていることほど、根本的なところはあやふやになっている。例えば、「恥ずかしい」という感情は誰でも経験したことのあるありふれたものだ。だけど、そもそも「恥ずかしい」ってどういう感情なのだろう。「恥ずかしいって、どういうことですか？」と尋ねられて、きちんと答えられるだろうか。たぶん、そんなことは考えたことがなかっただろうし、今もうまく答えられないにちがいない。でも、考えてみよう。

根本的な問いかけには簡単に答えは出せない。だから、どうしたって哲学的に考えることは試行錯誤になる。いろいろな考えを検討しながら、手探りで少しずつ前進する。ここでは、一つの例として「恥ずかしい」という感情について考えてみることで、そんな哲学



読む（吟味・判断）

「目標」

- 論の進め方を捉え、文章の内容を読み取る。
- 筆者の考えなどについて、知識や体験と関連づけて自分の考えを持つ。

意 哲学

5 文 根本的

7 類 感情

7 類 ありふれた

13 意 試行錯誤

哲

恥

13 錯

チ	はじる	はじ	はじらう	はずかしい	サク
先哲	無恥	錯覚			

的な考え方を体験してみよう。さて、問題はこうだ。

恥ずかしいって、どういうことだろう？

とはいえ、こんなふうに正面きって問いかけても、何をどう考えてよいかわからないのではないだろうか。また、辞書みたいに「恥ずかしいとは、これこれの感情である。」と一言で答えたからといって、恥ずかしさについてよく分かったということにもならない。

「恥ずかしいとは何か」と大上段に問うのではなく、まず恥ずかしいということについて、疑問に思うことを挙げてみよう。そしてその中から、今の自分にも考えられそうな問いはないだろうか、探してみる。さあ、どういう疑問が湧くだろうか。

同じことでも、恥ずかしいかどうか、人によって違う場合があるのはなぜだろう？ 人間以外の動物も恥ずかしがるのだろうか？ 恥ずかしいと感じるのは、どういときだろうか？ そうそう。そんな感じ。こういう疑問を考えながら、「恥ずかしい」という感情の姿を浮き彫りにしていく。それじゃあ、どういときに恥ずかしいと感じるのか、この疑問から考えていこう。この問いかけなら、すぐにあれこれ考えることができそうだ。

ふだんの生活の中で、どういときに私たちは恥ずかしいと感じるだろうか。まず具体的に考えてみよう。どうかな？ 例えば、授業で先生に当てられたのに答えられなかった。グループでダンスをしていて、自分だけ動きを間違えてしまった。「万里の長城」を「万里の頂上」と書いてしまった。こんな答えが思いつきそうだ。

いくつか考えたら、その共通点を考えてみよう。具体例を「一般化」するわけだ。ここに出した具体例は全て失敗の例になっている。そうすると、この三つの具体例を根拠にして、「人は失敗したときに恥ずかしいと感じる。」という結論が導けそうだ。

8 湧
ユウ
わく

3 文 正面きって

6 意 大上段

12 意 浮き彫りにする

14 対 具体的

18 類 対 一般

16 万里の長城

中国の北側の国境近くにある長大な城壁。歴代の王朝が防衛のために築いたもの。一九八七年に世界遺産に登録された。

湧出
ゆうしゅつ

20

15

10

5

一歩考えが進んだ。だけど、これで終わりじゃない。更に考えよう。この結論にどのくらい説得力があるか、検討してみる。そのために、ここで出した結論に当てはまらない具体例はないか、探してみよう。ある考えに対して、その考えに当てはまらない具体例を「反例」とよぶ。反例があるなら、その考えにはまだ説得力がないということになる。どうだろう。失敗したのだけれども恥ずかしいとは思わない、そんなことはないだろうか。もしそういうことがあれば、それは反例になる。考えてみよう。

例えば、スポーツ選手が世界記録に挑戦して失敗する。これは全然恥ずかしいことではない。同様に、先生の出した問題に答えられなくても、それがすごく難しい問題で誰も答えられないなら、あなたが答えられなくても恥ずかしいわけではない。でも、失敗は失敗だ。だとすると、失敗しても恥ずかしいときもあれば、恥ずかしいときもあるということだ。では、どういう失敗が恥ずかしくて、どういう失敗が恥ずかしくないのだろう。

「劣等感」ということが関係するかもしれない。誰もできないようなことに挑戦して失敗しても劣等感を感じない。だけど、みんなができていることに自分だけ失敗すると劣等感につながる。だから、恥ずかしいと感じる。

よし、また一歩、考えが進んだ。劣等感につながるような失敗をする、恥ずかしくなる。では、この考えにはどのくらい説得力があるだろうか。正しそうな感じがする。私自身、人がしないような失敗をして、「何やってんだ。だめだなあ。」と思うとき、確かに恥ずかしいと感じる。そして誰にでもそういう経験はあるだろう。しかし、実は一つあたりまえのを見逃している。あまりにもあたりまえだけど、恥ずかしいという感情にとって本質的なこと。それは、誰も見ていないところで失敗しても、別に恥ずかしくはないと

12 劣
レツ
おとる

7 挑
チョウ
いどむ

20 意 本質的

19 文 あまりにも

12 意 劣等感

3 意 反例

2 文 説得力

勢いが劣る

記録に挑む

いうことだ。不得意な科目を一人で勉強していて、しょっちゅう間違うとしても、そのたびに恥ずかしくなったりはしない。もちろん、劣等感を持つ。「ああ、だめだなあ。」と思う。だから、頑張る。だけどそれは恥ずかしいというのは違う。

この点をもっとはっきりとさせるために、「悔しい」という気持ちと比較してみよう。ある事柄について考えるとき、それと似ているけれども異なっている別の事柄と比較してみること、理解がいつそう深まることがある。比較して考える、これもうまく考えるためのだいたいな技術の一つだ。「恥ずかしい」と「悔しい」、どこが共通していてどこが違うだろう。比較してみよう。

悔しさの場合には、人が見ているかどうかはどうでもよい。失敗するとそれだけで、誰も見えていなくとも、悔しいと感じる。それに対して、恥ずかしさの場合にはそうではない。失敗そのものが恥ずかしいという感情を生むわけではなく、その失敗が人に見られていたので、恥ずかしいと感じる。ここに恥ずかしいという感情の特徴がありそうだ。

恥ずかしさの正体が、少し見えてきた。でも、まだ考えていないことはないだろうか。もう一度、どういふときに恥ずかしいと感じるかを具体的に考えてみよう。ここまでは、失敗をしたときのことを考えてきた。だけど、恥ずかしいのは失敗したときだけ？ 失敗していないのに恥ずかしくなることはないだろうか。考えてみよう。（「まだ考えるの？」という声が聞こえてきそう。そう。まだまだ考える。哲学的な思考はゆっくりと進む。そんなゆっくりした思考の歩みを、楽しんでほしいな。）

まず具体例を考えよう。失敗したわけではないのに、恥ずかしくなったこと。あるでしょ？ 例えば、人前でおなかがグーと鳴ってしまった。ちよつと、恥ずかしい。お母さん

4 較

カク

6 類

いつそう

比較的

の買ってきた服を着なくちゃいけないのだけど、何だか子供っぽくて恥ずかしい。一人でいい気分で大声を出して歌を歌っていたら、すっかり友達に聞かれていた。別にいいじゃないと言う人もいるかもしれないけど、私だったら、これはけっこう恥ずかしい。最近では電車の中で化粧けしょうをしている女性を見かける。だけど、人前で化粧するなんて恥ずかしくてできませんという女性もいる。こういう恥ずかしさは、失敗によって引き起こされるわけではない。劣等感につながるわけでもない。

さあ、新しい問題が出てきた。人前でおなかが鳴ると恥ずかしいのは、どうしてか？ 中学二年になって子供っぽい服を着ていると恥ずかしいと感じる。どうしてだろう？

もうあとはみんなそれぞれに考えてみてほしいけれど、私の考えを述べてみよう。私は、「共感」ということが鍵かぎになると思う。おなかが鳴ったときも、みんなが「そうだよなあ、おなかすいたよねえ。」と共感してくれるならば、恥ずかしくはない。逆に、みんなが静かにだいたい話を聞いているときに、一人だけおなか鳴って雰囲気ふんいきを壊こわしちゃったりすると、すごく恥ずかしい。これは、自分のおなか鳴ったことが、周りの人たちに共感をもつて受け入れてもらえるかどうかの違いじゃないだろうか。

周りの人たちの共感という観点から考えると、人が見ている前で劣等感につながる失敗をしたときに恥ずかしくなるということも、説明できそうだ。世界記録への挑戦が失敗しても恥ずかしくないのは、みんながそれを共感をもって受け入れるからだろう。逆に、自分の努力不足や不注意のために失敗したときには、周りの人たちに共感をもって受け入れてもらうのは無理だろうなど、私は感じる。だから、恥ずかしいのではないか。

もし周囲の共感を求める気持ちが強くないのであれば、恥ずかしいという気持ちも強く

20

15

10

5

4
化
ケ

10
鍵
ケン
かぎ

4
粧
シヨウ

10
文
鍵になる

10
意
共感

鍵盤
けんぱん

雪化粧
ゆきげしやう



野矢茂樹

出典

本書のための書き下ろし

一九五四「昭和29」年、東京都出身。哲学者。
著書に「哲学の謎」「論理トレーニング101題」などがある。

起こらないことになる。共感を求める気持ちが皆無^{かいむ}ならば、部屋の中に一人でいるときと同じで、恥ずかしくもならない。電車の中で化粧することを恥ずかしいと思わない人たちというのは、つまり、そういうことなのではないだろうか。

周囲から共感をもって受け入れられていないと感じるとき、それが恥ずかしいという感情を引き起こす。だから、失敗ということは恥ずかしいという感情にとって、本質的なことではない。本質的なのは周囲の共感があるかどうかだ。共感があれば失敗しても恥ずかしくはないし、共感がなければ失敗していかなくとも恥ずかしいと感じる。これが私のいちおうの結論になる。さて、この結論にはどのくらい説得力があるだろう。反例はないだろうか。まだ検討していないほかの考えはないだろうか。

こんなふうに、あたりまえに思っている身近なことを問い直してみよう。ほかの感情についてでもいいし、もっと別のことでもいい。「幸せって何だろう。」「人に優しく^{やさ}するってどういうことだろう。」「どうすればほかの人と分かり合えるのだろう。」「——まだまだいろいろある。さあ、考えてみよう！

10

5

1 意皆無

読書案内

哲学の本に挑戦しよう

はじめて考えるときのように

野矢茂樹





て

び

き

考えるための技術を学び、実際に考えてみよう

【目標】

- 論の進め方を捉え、文章の内容を読み取る。
- 筆者の考えなどについて、知識や体験と関連づけて自分の考えを持つ。

読み取る

① この文章で筆者は、「恥ずかしいって、どういうことだろう?」(91・2)という問いに対する論証を行っている。まず、論証の結論を述べている段落を見つけよう。

② 論証の中心になる部分(91・14~94・14)を、四つの段階に分けよう。

③ この文章で使われている「うまく考えるためのだじじな技術」(93・6)を、できるだけたくさん挙げてみよう。

【たすけ】「考えるための技術」は、筆者が特に用語を提示して説明しているところ以外でも使われている。



10

5

考えを深める

④ 筆者の結論について反例やほかの考えの可能性がないかを話し合ったり、「あたりまえに思っている身近なこと」(95・10)から何かを選んで実際に考えたりしてみよう。

【たすけ】学んだ「考えるための技術」を使って考えてみよう。

言葉の力

論証を吟味する



- 論証を吟味するときには、まず、結論(筆者の考え)とその根拠を捉える。
- 次に、示されている根拠が正しいかどうか、また、根拠から結論が適切に導かれているかどうかを吟味する。例えば、結論について、反例やほかの考えの可能性がないかを考える。

↓ 98 ページ

学びの扉 3

論証の組み立てを捉える

20

15

広がる言葉

① 「哲学的思考のすすめ」には、「しよつちゅう間違うとしても……」(93頁)という頻度を表す言葉が用いられている。同じくらしいの頻度を表す言葉を挙げてみよう。

② 1～3の()に当てはまる、頻度を表すさまざまな言葉を入れてみよう。

1 彼は()約束を破るので、全く信頼できない。

2 彼女は明るい性格だが、()無口になる。

3 真冬だというのに、暖かい日がこんなに続くことはない。

③ 次の、頻度を表す言葉のリストに、一つ付け加えよう。

たまに	たびたび	ときどき	常に	未曾有
よく	年がら年中	めったに	おりおり	
頻繁に	四六時中	まれに	()	

↓ 309ページ「言葉を広げよう」

15

10

5

広がる漢字

④ 次の傍線部の漢字を読んでみよう。
抽象的な語で使われる漢字

8	7	6	5	4	3	2	1
明瞭	模倣	実践	分析	抽象	特殊	普遍	比較
(対 曖昧)	(対 創造)	(対 理論)	(対 総合)	(対 具体)	(類 特別)	(類 一般)	(類 対比)

□ □ □ □ □ □ □ □

□ □ □ □ □ □ □ □

25

20

24	22	21	19	13
析	殊	遍	抽	曾
セキ	シユ	ヘン	チュウ	ソウ

解析	殊	遍歴	抽選	曾祖母
かいせき	しゆ	へんれき	ちゆうせん	そうそぼ
	殊に			
	おいしい			

27	27	27	26	25
味	曖	瞭	倣	踐
マイ	アイ	リヨウ	ホウ	セン
			(ならう)	

読書三昧	曖昧	一目了然	模倣犯	実践的
どくしょさんまい	あいまい	いちりきりようぜん	もほうはん	じっせんてき



誰かに自信満々に言われると、つい信じてしまうのだけど……。



見せかけの説得力と本当の説得力を見分けないといけないね。



声の大きさや自信満々な態度が生み出す説得力は見せかけのものにすぎない。本当の説得力があるかどうかを見分けるには、まず、どういう**根拠**からどういう**結論**が導かれているのかを捉える必要がある。

1 根拠と結論を区別して取り出そう。

② 動物を好きな人に悪い人は絶対いない。だから、動物好きの馬場さんは悪い人ではない。

③ 由実さんは僕のことを嫌いにちがいない。だって、バレンタインデーに何もくれなかったもの。

10

5

④ 外は雨が降っているよ。歩いている人がみんな傘を差しているからね。

⑤ ①②では、それぞれ自分の考えに説得力を持たせるために根拠を挙げている。このように根拠を述べて自分の考えを主張することを**論証**とよぶ。

でも、説得力が弱い論証もあるんじゃないかな。



⑥ ①の②③のうち、説得力が十分にあるものほど、説得力が弱いものはどれだろうか。



考えよう

⑦ ②で説得力が弱いと判断した論証は、どこに問題があるのだろうか。

25

20

15





書く〈論証・説得〉

反対意見を想定して書こう 意見文

目標

- 自分の立場を明確にして、分かりやすい構成で意見文を書く。
- 意見が効果的に伝わるように、根拠を具体的に記述したり、他の立場への反論を盛り込んだりする。

人が違えば意見が違う。私たちの暮らす社会では、同じ問題についても人によってさまざまな意見がある。では、他の人と意見が対立したとき、どうするか。自分の意見に説得力を持たせるためには、意見を支える根拠を示さなければならない。更に、相手の意見を支える根拠が適切かどうかを検討することも重要である。

❖ 学習の流れ（例）

意見文

- ① 的確な反論を考える練習をする
 - ② 自分の立場を決め、根拠を考える
 - ③ 反対の主張の根拠を予想し、反論を考える
言葉の力
 - ④ 自分側の根拠を再検討する
 - ⑤ 意見文を書く
言葉の力
 - ⑥ 完成した意見文を読み合う
- 学習を振り返ろう



1 的確な反論を考える練習をする

「和食と洋食ではどちらがよいか」という問題について、Aさんが下のように意見を述べた。

この意見に反対の立場であるとき、Aさんの挙げた根拠に対して的確に反論することが必要になる。二つの根拠のうち、第一の根拠に対しては、例えば下のような反論が考えられる。では、第二の根拠に対しては、どのような反論が考えられるだろうか。話し合ってみよう。

続いて、逆の立場からも考えてみよう。同じ問題について、Bさんが下のように意見を述べた。この意見に反対の立場であるとき、二つの根拠のそれぞれに対して、どのような反論が考えられるだろうか。

ここで練習したことを生かして、これから、説得力のある意見文を書く学習に取り組もう。



▼ Aさんの意見

私は、洋食よりも和食のほうがよいと思う。その根拠は二つある。

第一に、日本の伝統的な食事であり、日本人に適している。
第二に、低カロリーの食品が多い。カロリーを控えめにすることは生活習慣病の予防につながる。

▼ 第一の根拠に対する反論の例

伝統的だから適しているとは限らない。例えば衣服では、和服ではなく洋服のほうが、現代の私たちの生活に適している。

▼ Bさんの意見

私は、和食よりも洋食のほうがよいという意見だ。次の二点が、その根拠である。

第一に、成長期に必要なタンパク質や脂肪をとりやすい。
第二に、短時間で簡単に準備ができる。例えば食パンはトースターで焼くだけでよい。

2 自分の立場を決め、根拠を考える

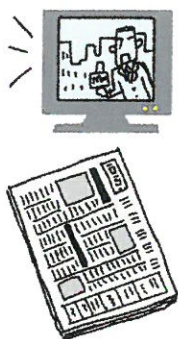
私たちの社会には、異なった二つの意見が対立するよ
うな問題がいろいろある。そんな問題の中から一つを選
び、自分の考えを意見文にまとめてみよう。

問題は、下に挙げた「さまざまな問題」から選んでも
よいし、新聞の投書欄などで議論されている話題などか
ら探してもよい。

選んだ問題について、二つの対立する意見のうちのど
ちらに賛同するか、まずは自分の立場を決めよう。

立場が決まったら、その意見を支える根拠をなるべく
多く考えて、書き出してみよう。根拠はできるだけ具体
的に書くとうい。

下の例の場合には、活字メディアの長所や映像メディ
アの短所を考えてみると、根拠を見つけやすい。



10

5

▼ さまざまな問題

- 中学生の使う辞書は、書籍と電子辞書のどちらがよいか
- 日本語は、縦書きと横書きのどちらがよいか
- 読書は、定評のある名作を読んだほうがよいか、自分の好き
な作品を読んだほうがよいか
- 外国語は、英語が特によくできたほうがよいか、それとも、
不十分であっても複数の外国語ができたほうがよいか
- 私たちの生活で、映像メディア（テレビ、ビデオ等）と活字
メディア（本、新聞等）のどちらがより役に立っているか

▼ 自分の立場（主張）を決める

◎ 活字メディアのほうが役に立っている。

▼ 根拠を考える

- (1) 活字メディアは、言葉が印刷されているので、情報が固定
され、保存しやすい。映像メディアは、情報が次々に流れて
消えてしまい、必要な情報を保存するのに手間がかかる。
- (2) 活字メディアは、利用者の都合に合わせて、好きなときに、
好きな場所で利用することができる。

...

3

反対の主張の根拠を予想し、反論を考える

この問題に関して、自分とは反対の主張を持った相手を想定し、その人は何と言うだろうか、と予想してみよう。つまり、反対の主張の根拠をいくつか考えてみる。

意見文を書くときには、自分側の根拠を挙げるだけでなく、相手側の根拠に対する的確な反論を盛り込むと、論の説得力を高めることができる。そこで、予想される相手側の根拠に対して、反論を考えてみよう。

5

言葉の力

反論を考える



- 反論をするときには、相手側の主張の根拠をよく検討する。
- 相手側の根拠に反する実例（反例）はないかを探してみる。
- 相手側が長所として述べていることについて、別の見方はできないかを考えてみる。

反対の主張の根拠を予想する

反対の主張 「映像メディアのほうが役に立っている。」

予想される根拠

(1) 映像メディアは、活字メディアと違い、それに集中しなくても、また、他の仕事をやりながらも、情報を得ることができる。

(2) 映像メディアでは、実際に起きたことを、現実に近い形で具体的に見ることがができる。活字メディアでは、言葉から想像するしかないなので、理解が抽象的になる。

...

反論を考える

根拠(1)に対する反論

そのようなやり方で情報を受け取れるのは、映像メディアの情報量が表面的で、意味のある情報の量が少ないからではないのか。



4

自分側の根拠を再検討する

②で考えた自分側の根拠についても、どのように反論される可能性があるかを考えてみよう。その結果、自分側の根拠が弱いと思ったら、練り直すようにしよう。

5

意見文を書く

これまで検討してきたことをもとに、意見文を書こう。分かりやすい文章構成でまとめるようにしよう。

言葉の力

分かりやすい構成で意見文をまとめる



意見文は、次のような構成で書くことよい。

- 1 自分の主張を述べる。
- 2 主張の根拠を挙げる。根拠が複数あるときには、「第一に」「第二に」という書き方（ナンバリング）を用いることよい。
- 3 反対の主張の根拠を予想し、それに反論する。
- 4 まとめる（改めて主張を述べる）。

意見文の完成例

私たちの生活では、活字メディアのほうが映像メディアよりも役に立っている。

第一に、活字メディアは、言葉が印刷されているので、情報が固定され、保存しやすい。映像メディアは、情報が流れていつてしまい、必要な情報を保存するのに手間がかかる。だから、勉強や仕事をするときに、私たちが利用するのはたいてい活字メディアである。

第二に、活字メディアは、利用者の都合に合わせて、好きなときに、好きな場所で利用することができる。映像メディアの多くは、発信者の都合によって情報が流されるので、利用者はそれに合わせなくてはならない。録画するにしても限界がある。

この意見に対して、「映像メディアは、それに集中しなくても、他の仕事をやりながらでも情報を得ることができるので、忙しい現代人向きであり、活字メディアよりも便利だ。」という人がいるかもしれない。しかし、そんなやり方で情報を受け取れるのは、結局のところ、映像メディアの情報が表面的で、意味のある情報の量が少ないからではないだろうか。映像メディアは、情報の詳しくさと深さとは、活字メディアに及ばない。

以上の理由により、私は、活字メディアのほうが、より私たちの生活に役立っていると考ええる。

まとめ

反対の主張の根拠への反論

根拠 2

根拠 1

主張

意見文が完成したら、互^{たが}いに読み合い、内容や構成について、意見を述べたり助言をしたりしてみよう。

学習を振り返ろう

- 自分の立場を明確にして、分かりやすい構成で意見文を書いたか。
- 自分の立場（主張）を意見文の中で明確に示したか。
- 「主張」「根拠」「反対の主張の根拠への反論」「まとめ」の順で書くなど、分かりやすい構成で書いたか。
- 意見が効果的に伝わるように、根拠を具体的に記述したり、他の立場への反論を盛り込んだりしたか。
- 自分の主張に説得力を持たせるために、根拠を具体的に記述したか。
- 他の立場への的確な反論を盛り込み、論の説得力を高めたか。





話す・聞く〈話す〉

説得力のある提案をしよう プレゼンテーション

【目標】

- 聞き手の立場や考えを想定して、説得力のある話を組み立てる。
- 資料や機器を活用して、分かりやすく印象的に話す。

誰かに何かを提案し、それを実行してほしいと考えるとき、単に「やってほしいから」という理由で提案するのでは、聞き手に納得してもらうことは難しい。説得力のある話を組み立てたり、資料や機器を活用して分かりやすく話したりする工夫が必要になる。

ここでは、聞き手に行動を起こしてもらうことを目的として、提案型のプレゼンテーションをしてみよう。

❖ 学習の流れ（例）

プレゼンテーション

- ① グループの提案を決める
- ② 提案と理由をまとめて中間報告をする
- ③ 提案理由を練りあげる
- ④ 話の組み立てを考える
言葉の力
- ⑤ 資料を準備してリハーサルをする
言葉の力
- ⑥ プレゼンテーションと質疑応答を行う

学習を振り返ろう



1 グループの提案を決める

実習や見学など、校外での体験をもとに、何かクラス
の友達に向けて提案したいことはないだろうか。

四〜六人のグループを作って話し合い、グループの提
案を一つ決めよう。このとき、各自が提案したいことに
関する資料を持ち寄って話し合うのもよい。

持ち寄る資料としては、体験の中で収集した資料、写
真、体験後にまとめたレポートなどが考えられる。

2 提案と理由をまとめて中間報告をする

提案が決まったら、自分たちの提案とその理由を簡単
にまとめ、各グループの代表が中間報告として発表しよ
う。中間報告は、ほかのグループの提案のよいところを
参考にしたり、質問を考えたりするためのものである。
メモを取りながら聞くとよい。

10

▼さまざまな提案

- 地域の図書館を利用しよう
- 自転車の乗り方を見直そう
- 地元の昔話を伝えていこう
- 防災の知恵を歴史に学ぼう
- カッコいい大人になるために必要なこと
- 十八歳でする一人旅の計画を立てよう
- やる気に火をつけるには？
- クラス全員で創作劇に挑戦しよう
- 月一日、全員が自分で作ったお弁当を持参しよう
- 野菜の直売所を利用しよう

▼中間報告の例

私たちのグループは、Dさんの農家での職業体験のもとに、
「野菜の直売所を利用しよう」という提案をします。
この提案をしようと思ったのは、直売所では旬の新鮮な野菜
を買うことができるし、農家にとってもお客さんと触れ合うこ
とが励みになるという話を聞いたからです。皆さんに直売所の
よさを知ってもらい、利用してほしいと考えています。

3 提案理由を練りあげる

中間報告が終わったなら、提案理由を練りあげる。聞き手に同意や納得をしてもらい、自分たちの提案を実行してもらえようなものになるように工夫しよう。説得力を高めるために、更に資料や情報が必要なときは、図書館やインターネットで調べたり、体験先に問い合わせたりするとよい。

聞き手からどんな質問や意見が出るかを予想して、その答えを用意しておくこともだいじである。



↓
300ページ「発想・整理の方法」

▼ 提案理由を練りあげる

- A 消費者にとってよい点は、旬の野菜を買いやすることだね。でも、そもそも旬の野菜って、何がいいんだろう。
- B 旬の野菜は栄養価が高いって聞いたことがあるよ。図書館で、裏付けになる資料を探せるかも。
- C いいね。それと、農家にとっての利点は、野菜を食べる人と触れ合うことが、仕事への励みになるってことだったよね。
- D そう。でも、それだけじゃなくて、直接野菜を売ることって、流通に関わる支出を抑えられる、という話もあったよ。
- E それも提案理由に加えたほうがいいね。
- A ところで、直売所の野菜って、種類が少ないってことはない？ あと、すぐ売り切れることもありそうだね。
- B それは、質問として出るかもしれないね。
- D この辺りは何軒かの農家が共同の直売所を使うシステムになっているから、量が少なすぎるということはないそうだよ。
- E あと、「そもそも、農家を支えることに意味を感じません。」のような意見が出たらどうする？
- C ええと、そういうえば、畑を守ることが地域の緑を守ることにつながる、という話があったよね。
- A 地域の緑に占める農地の割合って、どれくらいなんだろう。
- B あ、それ、少し前の広報誌で見た記憶がある。図書館にバックナンバーがあると思うから、調べてみるね。

4 話の組み立てを考える

提案理由を練りあげたら、話す内容を具体的に話し合い、何の説明を中心にするか、説明の順序をどうするかなど、話の組み立てを考えよう。

話の組み立てができたなら、発表の分担や時間配分などを決めて、構成表にまとめよう。発表は、質疑応答を含めて五分間とする。

言葉の力

説得力のある話を組み立てる



- 最初に提案を述べ、続いてその理由を柱立てて示す。
- 提案理由は具体的に述べる。数値を使うことで説得力が増すこともある。
- 聞き手の立場や気持ちになって質問や意見を予想し、答えとなる内容の示し方を工夫する。
- 聞き手が知りたいと思うことは、短所であっても素直に述べる。

▼ 話の組み立てを考える

消費者と農家、それぞれにとってのよい点を、理由の①、②としよう。

野菜の種類や量の話は、買う人の立場に立った話だから、理由①に付け足して、いっしょに説明するのはどうかな。

▼ 構成表の例

- (1) 提案 (30 秒) 担当：A
野菜の直売所を利用しよう
- (2) 理由① (1 分 30 秒) 担当：B と C
消費者にとってよいことがある。
・旬の新鮮な野菜を買うことができる。
(販売している野菜の種類が少ない時期もあるが、量が少なすぎるということはない。)
- (3) 理由② (1 分) 担当：D
農家にとってもよいことがある。
・流通に関わる支出を抑えられる。
・お客さんと触れ合うことが励みになる。
- (4) 理由②の補強 (1 分) 担当：E
地元の農業を支えることが、地域の緑を守ることにつながる。
- (5) 質疑応答 (1 分) 担当：全員



5

資料を準備してリハーサルをする

構成が決まったら、資料や機器の使用について話し合い、準備をしよう。そして、声の大きさや話す速さ、視線や身振りにも注意して、リハーサルを行おう。

言葉の力

資料や機器を活用する



- 写真や絵で示すと分かりやすく伝わる。
- 数値や複雑な内容は、グラフや表、図にまとめる。
- 文字や図表の大きさ、色遣いなどを見やすいものにする。
- パソコンやOHPなどの機器を使ったり、資料を提示するタイミングを工夫したりして、印象に残る演出をする。
- 資料のどこに注目すればよいかを、指差しや言葉で伝える。

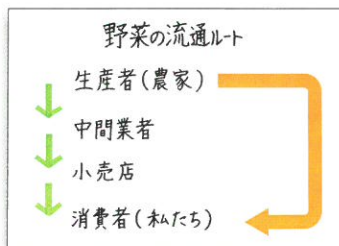
6

プレゼンテーションと質疑応答を行う

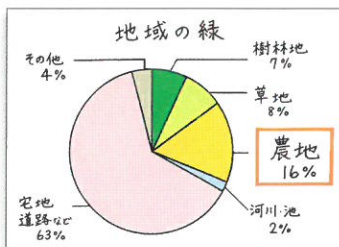
グループごとに前に出て、プレゼンテーションと質疑応答を行おう。聞き手は、感想を述べてもよい。

▼ 資料の例

【図】



【グラフ】



農地の割合を示すのに円グラフがいいね。色分けをして、強調したい文字を線で囲んだよ。



学習を振り返ろう

- 聞き手の立場や考えを想定して、説得力のある話を組み立てたか。

- 提案理由を練りあげ、説得力のあるものにしたか。

- 質問や意見を予想し、答えとなる内容の示し方を工夫したか。

- 資料や機器を活用して、分かりやすく印象的に話したか。

- 写真や絵、グラフや図表を取り入れて資料を作成したか。

- 機器を活用したり資料の提示方法を工夫したりしたか。

▼プレゼンテーションの例

A 私たちのグループは、皆さんに「野菜の直売所を利用しよう」という提案をします。(資料①提示) 直売所を利用することで、私たち消費者にとっても、生産者である農家にとってもよいことがあるからです。

B 皆さんは、農地の近くに直売所が設置されていることを知っていますか。直売所では、毎日、旬の新鮮な野菜を買うことができます。(資料②提示) これは、

私の家の近くの直売所で買ったものですよ。おいしいでしょう。「野菜事典」によると、旬の野菜は栄養価も高いそうです。

C 採れたての野菜を中心に販売しているため、直売所では、扱っている種類が少ない時期もあります。しかし、複数の農家が共同で売っているの、店頭に並ぶ量が少なすぎるといことはありません。

D 更に、私たちが直売所を利用することで、農家にとってもよいことがあります。先月、私は、農家のNさんのお宅で職業

資料①

野菜の直売所を利用しよう

旬の野菜で元気!
地域の緑も守ろう。

資料②

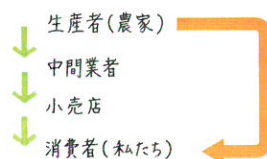


体験をしました。そのときに聞いたお話によると、地元の直売所は、農家が直接野菜を売る場であるため、中間業者などへの支出を抑えることができるそうです。(資料③提示) こちらの図をご覧ください。緑の矢印(指差し)が、野菜の一般的な流通ルートです。直売所で買えば、オレンジの矢印(指差し)になります。また、直売所でお客さんと触れ合うことが、仕事への励みにもなっていると伺いました。直売所を利用することで、私たちは農家を支えることができます。

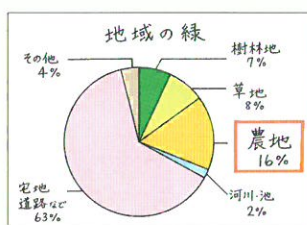
E しかし、そもそも「農家を支えることに大きな意味を感じない。」という人もいます。でも、実は意味があるのです。(資料④提示) 私たちの住む地域は緑豊かな所ですが、地元の広報紙によると、ご覧のとおり、地域の緑の約十六パーセントが農地です。これは、宅地や道路などの緑に続いて大きな割合で……

資料③

野菜の流通ルート



資料④



助詞

文よ、助詞で大きく育て



↓ 文法解説 262ページ

□で示した述語の前に、○で示した助詞を使った文節を付け足して、どんな文を長くしよう。用意された助詞を最も多く使えた人が優勝だ。A〜Cのそれぞれで、下の①〜③の手順でやってみよう。

【グループ A】

の を に へ
より て や

とる なる あげる

【グループ B】

ば ので けれど のに
し ながら つつ

喜ぶ 楽しい 残念だ

【グループ C】

は も こそ さえ
まで だけ くらい

見る 行く する

① まず、□で示した三つの述語

から、好きなものを一つ選ぶ。

② 次に、選んだ述語の前に、○で示

した助詞を使った文節を付ける。

例 を ↓ 魚 を + 食べる

● 魚 を 食べる

③ その後は、○で示した助詞を使っ

た文節を自由に付け加えていく。付け加える位置は、好きなところでよい。ただし、同じ助詞は一度しか使ってはいけない。

例 に ↓ お屋 に

● お屋 に 魚 を 食べる
● 魚 を お屋 に 食べる

助詞

活用のない付属語（それだけで一文節になれない単語）で、語句と語句の関係、細かい意味、話し手・書き手の気持ちなどを表す。



考えよう

次の傍線部の助詞は、上のA〜Cのどのグループに入るだろうか。

① 木の葉がひらひらと舞い落ちる。

② テレビはあまり見ないが、新聞は毎日読む。

③ いくら読んでも意味が分からない。

④ こんな川くらい子供でも飛び越えるよ。

用言の同訓異字

同じ訓読みを持つ、似た意味の漢字が複数ある場合、それらを同訓異字という。同訓異字の大部分は用言に相当し、特に動詞が多い。

例 打^うつ……碁^ごを打つ

打ち破る

撃^うつ……銃^{じゅう}を撃つ

迎え撃つ

討^うつ……敵^{かたき}を討つ

返り討ち

次は、同訓異字の数が多いものの例である。

例 取^とる……手^てに取る

採^とる……決^{けつ}を採る

捕^とる……魚^{いさ}を捕る

執^とる……筆^{ひつ}を執る



10

5



1 次の傍線部を漢字で表すとき、()の同訓異字のどちらを用いるだろうか。

1 医師^{いし}が患者^{かんじや}をみる。(見る 診る)

2 訃報^{ふほう}に接し、故人^{こじん}に手^てをあわせる。(合わせる 併せる)

3 学校^{がっこう}におく^おれる。

(遅れる 後れる)

4 溪流^{けいりゅう}は流れがはやい。(早い 速い)

5 音量^{りやうりやう}をしぼる。(絞る 搾る)

6 病氣^{びやうき}がな^なおる。(直る 治る)

7 体裁^{ていさい}をととの^とえる。

(整える 調える)

8 幾何^{きか}学^{がく}をき^きわめる。

(極める 究める)

15

10

5

下12 体^{たい}
・テイ

下8 後^ご
・おくれる

上7 敵^{てき}
・かたき

上7 討^う
・うつ

下10 搾^{さく}
・しぼる

下9 溪^{けい}
・ケイ

下6 併^{へい}
・あわせる

下5 訃^ふ
・フ

下4 診^{しん}
・みる

下4 患^{かん}
・(わづらう)

上12 執^{しつ}
・とる

上6 銃^{じゅう}
・ジュウ

上5 碁^ご
・ゴ

牛^{うし}の乳^{ちち}を搾^{しぼ}る

溪流^{けいこう}

併用^{へいよう}

訃報^{ふほう}

診察^{しんさつ}

患部^{かんぶ}

執筆^{しつしつ}

銃声^{じゅうせい}

碁石^{ごいし}

撮る……写真を撮る

収める……本を箱に収める

納める……税金を納める

修める……学問を修める

治める……国を治める

体言の同訓異字

次は、体言（名詞）に相当するものである。

例 後……後の祭り 後を引く

跡……戦場の跡 跡をくまます

痕……弾の痕 血の痕が残る

「うしろ」「のち」という意味の場合は「後」、
「残されたしるし」という意味の場合は「跡」、
「痕」を用いる。「痕」は、特に傷などの場

合に使う。

10

5

② 次の各組の同訓異字を使って、それぞれ文を作ろう。

1 のぼる（上る 登る 昇る）

2 たつ（断つ 裁つ 絶つ）

3 おかす（犯す 侵す 冒す）

4 はかる（測る 図る 諮る）

5 すすめる

（進める 勧める 薦める）

6 かえる（変える 換える 替える）

7 おろす（下ろす 降ろす 卸す）

10

③ 次の傍線部を漢字で表すとき、（ ）の同訓異字のどちらを用いるだろうか。

1 あぶら身の多い肉。（油脂）

2 彼のうた声が好きだ。（歌 唄）

3 かた破りな行動。（型 形）

4 人間わざとは思えない。（業 技）

5 あしの指を戸に挟む。（足 脚）

15

5

下13 調 ことこのう
ことこのえ

下14 何 カ

下15 究 さわめる

上10 痕 コン
あと下5 冒 ボウ
おかす下6 諮 シ
はかる下8 勧 カン
すすめる下8 薦 セン
すすめる下10 卸 おろす
おろし

下14 唄 うた

下4 断 たつ

下4 裁 たつ

下6 図 はかる

下16 業 わざ

痕跡 こんせき

冒険 ぼうけん

諮問 しもん

勧誘 かんゆう

推薦 たいせん

卸商 しょう

小唄 しょう



落葉松 か ら まつ

北原白秋 きたはらはくしゅう

一

からまつの林を過ぎて、
からまつをしみじみと見き。
からまつはさびしかりけり。
たびゆくはさびしかりけり。

5

二

からまつの林を出でて、
からまつの林に入りぬ。
からまつの林に入りて、
また細く道はつつけり。

10

三

からまつの林の奥も おく
わが通る道はありけり。
霧雨のかかる道なり。 きりさめ
山風のかよふ道なり。 う

15

四

からまつの林の道は
われのみか、ひとまかよひぬ。
ほそぼそと通ふ道なり。
さびさびといそぐ道なり。

20

五

からまつの林を過ぎて、
ゆゑしらず歩みひそめつ。
からまつはさびしかりけり、
からまつとささやきにけり。

六

からまつの林を出でて、
浅間嶺にけぶり立つ見つ。
浅間嶺にけぶり立つ見つ。
からまつのまたそのうへに。

七

からまつの林の雨は
さびしけどいよよしづけし。
かんこ鳥鳴けるのみなる。
からまつの濡るるのみなる。

八

世の中よ、あはれなりけり。
常なけどうれしかりけり。
山川に山がはの音、
からまつにからまつのかぜ。



北原白秋

出典 「白秋全集」

一八八五「明治18」年～一九四二「昭和17」年 福岡県出身。詩人、歌人。
詩集に「邪宗門」「水墨集」など、歌集に「桐の花」などがある。

○ 詩に描かれた情景や心情を捉え、リズムを感じ取りながら朗読しよう。

詩人と作品

北原白秋

(二八八五年一月二十五日〜一九四二年十二月二日)

北原白秋は、福岡県南部の柳川の出身です。若くして詩や短歌に才能を発揮し、詩集「邪宗門」や「思ひ出」では、色彩鮮やかで情感に富む光景を、鋭い言語感覚で描き出しました。その感覚は、短歌「草わかば……」(31ページ)を収めた歌集「桐の花」にも生かされています。また、童謡の創作にも力を注ぎ、優れた歌詞を数多く書きました。

若い頃の彩りに満ちた作風から、のちには水墨画の世界にも通じる淡々として趣深い作風に至り、詩集「水墨集」を出しました。「落葉松」もその中に収められた一編です。



「水墨集」
(1923 年刊)



北原白秋の故郷・柳川

読書案内

詩集を読もう



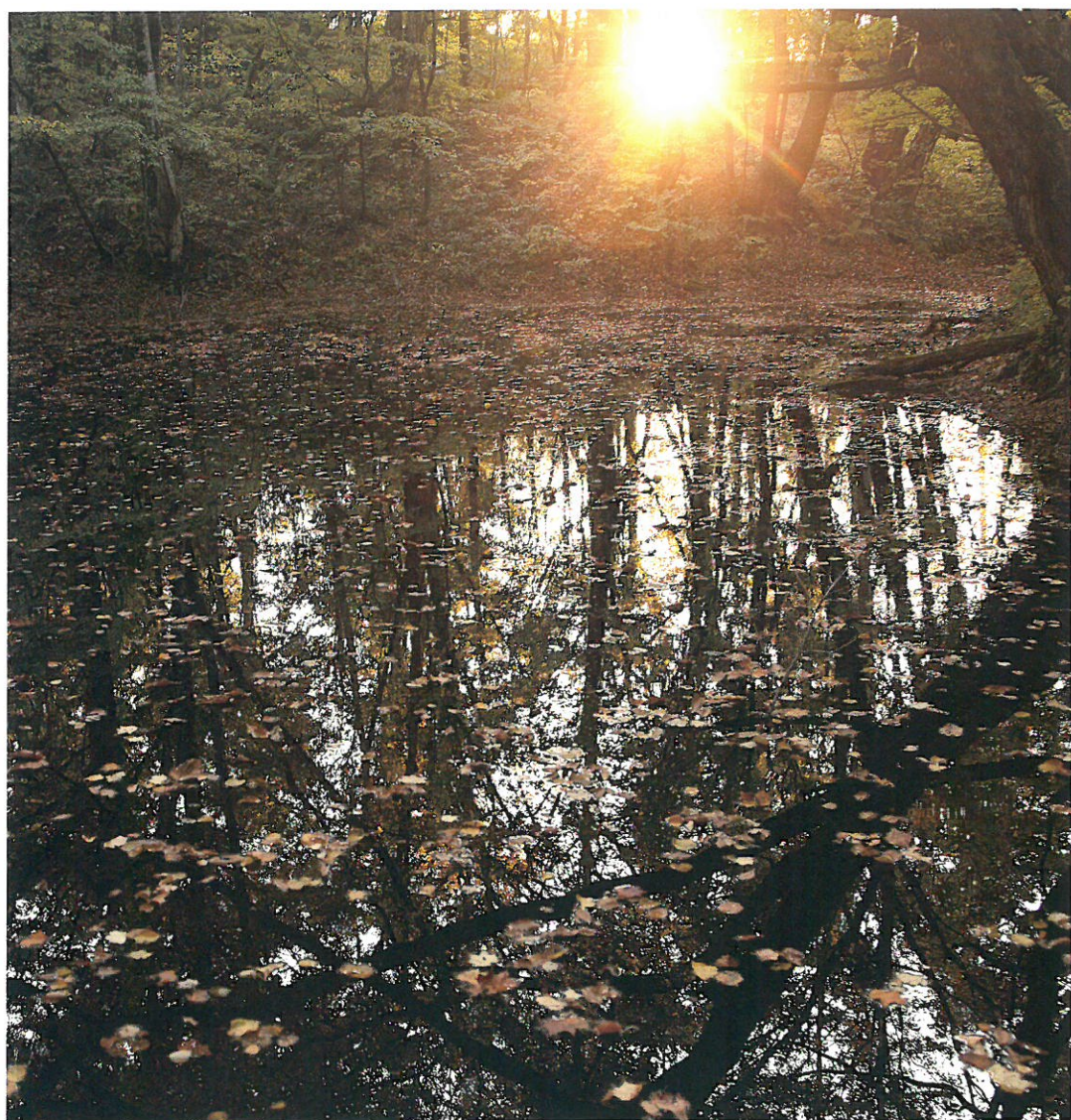
北原白秋詩集

北原白秋



萩原朔太郎詩集

萩原朔太郎



写真・志水哲也

おくやまに紅葉踏み分けなく鹿の声きくときぞあきは悲しき

モミジ

猿丸大夫

5

伝統文化を楽しむ



古典

まくらのそうし

枕草子・徒然草

へいけものがたり

平家物語

漢詩



書く〈通信・手紙〉

依頼状やお礼状を書く

◆日本語探検 話し言葉と書き言葉

◆文法の窓 助動詞

絵と助動詞を合わせよう

枕草子・徒然草



見聞きしたことや経験したこと、感じたことや考えたことなどを、自由な形式で書き記した文章を、随筆ずいひつといいます。例えば、「メッセージをどう聞くか」（18ページ）や「字のない葉書」はがき（32ページ）も随筆です。創作ではなく、自分の体験をもとに書きつづるもので、筆者の個性やものの見方、考え方がよく表れている場合が多く、小説とはまた異なる魅力みりょくを備えています。

古典の中にも、随筆と見なしてよい作品があります。とりわけ、平安時代に清少納言せいしょうなごんによって書かれた「枕草子」と、鎌倉時代の末に兼好法師けんこうほふしによって書かれた「徒然草」が有名です。初めに、「枕草子」の第一段を読んでみることにしましょう。

春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山際やまぎは、少し明かりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。

明け方
だんだん

明るくなって
紫がかった雲が

たなびいている（のがよい）

10

5



古典

「目標」

●筆者のものの見方や考え方、表現の仕方を捉える。

●見聞きしたことや体験したことをもとに、表現を工夫して随筆を書く。

6 清少納言

生没年未詳。父は歌人の清原元輔。

7 兼好法師

一・二・三・四・五・六・七・八・九・十・十一・十二・十三・十四・十五・十六・十七・十八・十九・二十・二十一・二十二・二十三・二十四・二十五・二十六・二十七・二十八・二十九・三十・三十一・三十二・三十三・三十四・三十五・三十六・三十七・三十八・三十九・四十・四十一・四十二・四十三・四十四・四十五・四十六・四十七・四十八・四十九・五十・五十一・五十二・五十三・五十四・五十五・五十六・五十七・五十八・五十九・六十・六十一・六十二・六十三・六十四・六十五・六十六・六十七・六十八・六十九・七十・七十一・七十二・七十三・七十四・七十五・七十六・七十七・七十八・七十九・八十・八十一・八十二・八十三・八十四・八十五・八十六・八十七・八十八・八十九・九十・九十一・九十二・九十三・九十四・九十五・九十六・九十七・九十八・九十九・一百

9 山際

空の、山と接する辺り。

9 紫

ここでの紫は、赤みを帯びた紫色。

2 随

ズイ

随意

7 鎌

かま

鎌首

9 紫

シ

紫外線

夏は夜。月の頃はさらなり、闇もなほ、螢の多く飛びちがひたる。また、ただ

月の（明るい）頃は言うまでもない（ことで）、闇（夜の頃）もやはり 飛び交っている（のがよい）

一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。雨など降るもをかし。

趣がある

秋は夕暮れ。夕日の差して山の端いと近うなりたるに、鳥の寝所へ行くとして、

たいへん近くなった頃に

（帰って）行くというので

三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。まいて雁などの連ねたるが、

急いで飛んでいくのさえしみじみと心ひかれる

列を作って（飛んで）いるのが

いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言

見えるのは

また

ふべきにあらず。

言うまでもない（ほど趣がある）

冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさ

早朝

言うまでもない（ことで）

らでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭持て渡るも、いとつきづきし。昼に

そうでなくてもたいへん寒いときに

炭を持っていくのも

似つかわしい

なりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も、白き灰がちになりてわろし。

だんだん暖かくなって（寒さが）緩んでいくと

白い灰ばかりになってみっともない

5

1 螢
ほたる

螢光灯
けいこうとう

7 霜
（ソウ）
しも

初霜
はつしも

1 螢

ホタル科の甲虫の総称。

3 山の端

山の、空に接しているところ。「山際」の対。

際」の対。

4 雁

カモ目の水鳥の総称。ガン。

7 さらに

ここでは、雪や霜がなくても。

9 火桶

木製の丸火鉢。



清少納言（上村松園筆）

清少納言は、時々刻々と変化する自然の中で、ある瞬間、ふと自ら感じ取った情景の美しさをみごとに表現しています。そしてまた、春のあけぼのの雲の色、秋の夕暮れ時のねぐらに急ぐ鳥、冬の朝の炭火の支度といった、それまで和歌にはほとんど詠まれなかった素材に目を向けて、そこに読者の深い共感を呼ぶ情趣を発見していることには、驚嘆させられます。研ぎ澄まされた、豊かな感受性の持ち主だったのですね。

もう一つの「徒然草」は、次のような序段から始まります。

つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて、心に移りゆくよしなしごとを、
何もすることがないままに 一日中

そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

何という当てもなく書きつけていると

妙に変な感じがしてくることだ

3 度
●タク

4 嘆
タン
なげく
なげかわしい

4 趣
シユ
おもむき

不運を嘆く

趣のある庭

心にゆとりのあるときに、何か書き留めておきたいことを書き始めてみると、次々に思い浮かぶことが出てきて、気ままに書きつけていくうちに、不思議な気分になってしまうというのですから、そのまま随筆の定義になりそうな文章です。「よしなしごとを、そこはかとなく書きつ」けたというのは、いちおう謙遜の気持ちを表しているのでしょう。

「枕草子」には跋文があつて、清少納言も、「ただ心一つに、おのづから思ふことを、戯れに書きつけたれば」(自分一人の心の中に、自然に思い浮かぶことを、遊び心で書きつけたので)というように書き記していました。清少納言の得意とするところは、自然に、ついても、人のしぐさについても、美しいと感じた決定的な瞬間の映像を鮮やかに描き出すことであつたようです。

では、「徒然草」はどうでしょう。「徒然草」は、「枕草子」に触発されて書かれた作品ではありますが、人生や自然を見据える兼好法師の目は、人としての好ましい生き方、たしなみ、知恵といったことに向けられています。序段からは、新しい方向に進み出ようとする兼好法師の意気込みと戸惑いまで読み取ることができるともいわれています。

それでは、「枕草子」と「徒然草」からもう一段ずつ読んで、清少納言と兼好法師の感性や考えに触れてみましょう。

兼好法師(「徒然草画帖」より)



謙
ケン
謙虚
けんきょ
遜
(遜)
ソン
不遜
ふそん
跋文
5
著書の末尾に記す文。後書き。

枕草子

「枕草子」の成立は平安時代、十世紀末から十一世紀の初めにかけての頃と考えられています。作者の清少納言は、一条天皇の中宮（のちに皇后）定子に仕えた女房です。

「枕草子」には、約三百段に及ぶ文章が順不同に並んでおり、「山は」「鳥は」のように「……は」という書きだしや、「にくきもの」「めでたきもの」のように「……もの」で始まる章段が全体の約半分あります。

定子の住まいの日常を女房の立場から記録して賛美する章段や、自然や人間についての自由な感想や回想を書き留めた章段もあります。

物事を知的に捉え、感覚的に表現しているのが特色で、「をかし」の文学と評されています。

10

5



「枕草子」（古活字本・黒川文庫蔵）

4 一条天皇

九八〇年（一〇一一年）九八六年に即位。藤原道長と協調して政務を執り、在位中は貴族の文芸・文化が栄えた。

4 中宮（のちに皇后）

「中宮」「皇后」は、平安時代の后の称号。一条天皇のとき、藤原道隆の娘定子が中宮から皇后になり、藤原道長の娘彰子の中宮となった。

5 女房

天皇・皇族や貴族に仕える女性。房（小分けした個室）を与えられたことにちなむ呼び名。

5 房

ボウ

ひとふさ

4 宮

グウ

九月くぐわつばかり、夜よ一夜ひとよ降り明あかしつる雨アメの

〔第一二五段〕

九月ばかり、夜一夜降り明かしつる雨の、

今朝はやみて、朝日いとけざやかに差し出いで
たるに、前栽ぜんざいの露つゆはこぼるばかりぬれかかり
たるも、いとをかし。透垣すいがいの羅文らんもん、軒のきの上な
どは、かいたる蜘蛛くもの巢ねのこぼれ残りたるに、
雨のかかりたるが、白き玉つらぬを貫つらぬきたるやうな
るこそ、いみじうあはれにをかしけれ。

少し日たけぬれば、萩はぎなどの、いと重げな
るに、露の落つるに、枝うち動きて、人も手
触れぬに、ふと上かみぎまへ上あがりたるも、いみ
じうをかし。と言いひたることどもの、人の心
には、つゆをかしからじと思おもふこそ、またを
かしけれ。

15

10

5

九月頃、一晚中降って夜明けまで
続いた雨が、今朝はやんで、朝日が
たいへん鮮やかに差し始めたときに、
庭先に植えた草木の露はこぼれるほ
どにぬれかかっているのも、たいへ
ん趣がある。透垣の羅文、軒の上な
どでは、張り巡らしてある蜘蛛の巣
が破れ残っているところに、雨がか
かったのが、(まるで)真珠しんじゆを貫き通
しているようであるのは、たいそう
しみじみとした感じがして趣がある。
少し日が高く昇ると、萩などが、
たいへん重そうなのに、露が落ちる
と、枝が動いて、人も手を触れない
のに、さつと上の方へ跳ね上がった
のも、たいそう趣がある。(と(私が)
言っているいろいろなことが、(ほ
かの)人の心には、全く趣がないだ
ろうと思うのが、またおもしろい。

15

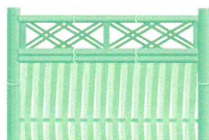
10

5

上1
九月
旧暦きよれきの九月。

上6
透垣の羅文

透垣は、板や竹で
少し隙間すきまを空けて
作った垣根かきね。羅文は、
透垣の上に、細い木
や竹をひし形に組ん
で飾りにしたもの。



上6
軒

屋根の端はの、壁や柱から外に張り
出した部分。

上10
萩

秋に紅紫色や白色
の花をつける低木。
秋の七草の一つ。



● 出典 「新編日本古典文学全集」

資料編 ↓ 290ページ

歴史的な背景を知ろう

清少納言と紫式部

みずよういち
三角洋一

徒然草

「徒然草」の成立は、鎌倉時代の元弘元（一二三二）年頃とされています。作者の兼好法師は、俗名を卜部兼好といい、出家後、兼好と称しました。後二条天皇に仕え、歌人として活躍したほか、古典学者としても知られていました。

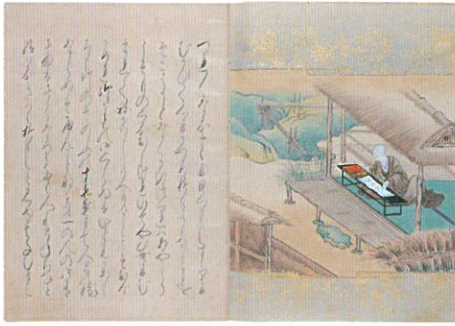
5

「徒然草」は通常、序段と第二百四十三段までの総計二百四十四段から成るとされ、それぞれの章段はそれほど長いものではありません。人生や自然について自由な精神を働かせた感想や意見、思ひ出、逸話や滑稽談、さまざまな知識などが書き留められています。味わい深い内容であるため、古くから数多くの読者によって読み継がれてきました。

10



「徒然草」（写本）



奈良絵本「徒然草」

11	10	5	4	3	4
稽(稽)	逸	躍	称	俗	後二条天皇
ケイ	イツ	ヤク おどる	シヨウ	ソク	一二八五年〜一三〇八年 一年に即位。
稽古	逸材	胸が躍る	称賛	民俗	

仁和寺にある法師「第五十二段」

仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拝
まざりければ、心憂く覚えて、あるとき思ひ
立ちて、ただ一人、徒歩より詣でけり。極楽
寺・高良などを拝みて、かばかりと心得て帰
りにけり。

5

さて、かたへの人にあひて、「年ごろ思ひ
つること、果たしはべりぬ。聞きしにも過ぎ
て尊くこそおはしけれ。そも、参りたる人ご
とに山へ登りしは、何事かありけん、ゆかし
かりしかど、神へ参るこそ本意なれと思ひて、
山までは見ず。」とぞ言ひける。

10

少しのことにも、先達はあらまほしきこと
なり。

仁和寺にいた法師が、年を取るま
で石清水八幡宮を拜んだことがな
かったので、残念に思つて、あると
き思い立って、ただ一人で、徒歩で
参詣した。極楽寺や高良社などを拜
んで、これだけだと思ひ込んで歸っ
てしまった。

5

そして、仲間に向かつて、「長年
願つていたことを、果たしました。
(話)に聞いていたのにも勝つて尊
くいらつしやいました。それにして
も、参詣した人がみんな山に登つて
いたのは、何事があったのか、知り
たかつたけれども、神に参詣するこ
とが本来の目的なのだと思つて、山
(の上)までは見ていません。」と
言つたのだつた。

15

少しのことにも、指導者がいてほ
しいものである。

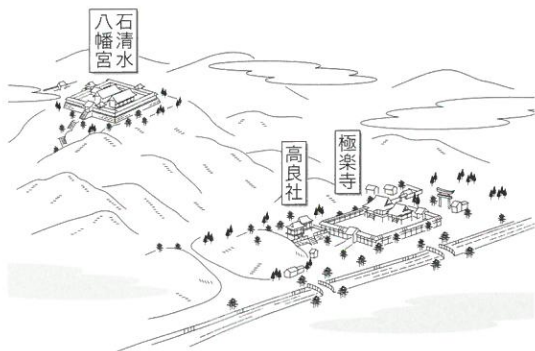
10

上4 詣 (ケイ)
もうでる

初詣で

上1 仁和寺
京都市右京区御室にある真言宗の
寺。

上2 石清水
京都府八幡市男山の山上にある石
清水八幡宮。麓に極楽寺と高良社と
があった。



● 出典 「新訂徒然草」



て

び

き

古人に倣^{なま}って短い随筆を書く

〔目標〕

- 筆者のものの見方や考え方、表現の仕方を捉える。
- 見聞きしたことや体験したことをもとに、表現を工夫^{くふう}して随筆を書く。

読み取る

① 「枕草子」の筆者は、「九月ばかり、夜一夜降り明かしつる雨の」の中で、どのようなものを「をかし」と感じていたのだろうか。

② 「徒然草」の筆者は、「仁和寺にある法師」のどのような行動に対して「少しのことにも、先達はあらまほしきことなり。」(125上¹³)と考えたのだろうか。

考えを深める

③ 「枕草子」と「徒然草」の四つの章段から、よい表現だと思うところや、おもしろい目のつけどころだと思うところを探し、発表し合おう。

10

書く

④ 「枕草子」や「徒然草」に倣^{なま}って、見聞きしたことや体験したことをもとに、短い随筆を書いてみよう。



古典コラム ― 係り結び

「徒然草」第五十二段の文章中に、「聞きしにも過ぎて尊くこそおはしけれ。」(125上⁸)とあります。通常なら、文末は「おはしけり」となるところですが、「尊く」の部分強調するために、途中に「こそ」が入ったことによって、文末の活用形が変化しました。

また、「『……』とぞ言ひける。」(125上¹²)は、『……』の言葉の部分を強調する「ぞ」が入ったことによって、文末の結び部分の「言ひけり」の形が変化しています。

この「こそ」「ぞ」のような助詞を係りの助詞といい、係りの助詞と文末の結び方との関係を係り結びといいます。係りの助詞には、次のようなものがあります。

- ぞ・なむ・こそ……前の語を強調する。
- や・か……疑問などの意味を表す。

読書案内

さまざまな随筆に触れよう

方丈記

鴨長明／濱田浩一郎・訳



木



幸田 文

猫の散歩道



保坂和志

さるのこしかけ



さくらももこ

行く河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。よどみに浮かぶうたかたは、かつ消え、かつ結びて、久しくとどまりたる例なし。世の中にある人と栖と、またかくの如し。

(冒頭より)

しかし、花よりもその根に、おどろいた。千年の古藤というからには、根まわり何十尺と数える太さもさることながら、その形状のおどろおどろしいのには、目が圧迫された。

(32ページより)

夏から秋の夕方、日没間近に空の低いところを、紙が風に舞うように、黒い影みtainのが、ゆらゆら飛んでいたら、それはコウモリだ。

(169ページより)

私は、毎日何か書いている。書くのが好きなのだ。それが仕事でラッキーだったと思う。毎日、必ず絵を描くか文章を書いているのだが、用事のない時ですら何か書いている。

(104ページより)

火事、竜巻、地震。八百年前、都を襲った数々の災害を経て、筆者は何を伝えようとしたのか。「枕草子」「徒然草」に並ぶ、日本古典三大随筆の一つ。

随筆の名手による、木に関する十五編の随筆集。幼少期から草木に魅せられ、さまざまな樹木を見てきた筆者が、生命に対する深い洞察を書きつづる。

特別な体験、非日常の空間だけに驚きや発見があるわけではない。何気ない、いつもの景色を切り取った文章に、繊細な感性が表れている。

漫画「ちびまるこちゃん」で有名な筆者が、日々の生活で感じたことをユーモアたっぷりに紹介するエッセー集。独特の語り口も親しみやすい。

へい け もの がたり 平家物語



「平家物語」は、鎌倉時代の十三世紀に成立した軍記物語で、十二巻から成ります。原作者は、「徒然草」では信濃前司行長とされていますが、よく分かっていません。貴族の漢文の日記・記録や、さまざまな戦語りの見聞・体験談に基づいて、知識人と僧侶が協力して作りあげたといわれています。

内容は、平安時代の末期、武士の家から身をおこして太政大臣にまで昇った平清盛を中心に、平家一門の興亡のありさまを描いたものです。清盛亡き後、目覚ましい活躍をするのが、京都に攻め入った木曾義仲と、その義仲を討った後、平家を滅亡させた源義経です。「平家物語」が描き出したのは、これらの英雄の活躍にとどまらず、新時代を担う武士の気風や生き方、更に戦乱に明け暮れた時代と社会のありさまでした。

「平家物語」は物語として読まれただけでなく、琵琶法師によって琵琶に合わせて語られました。その語りは平曲とよばれて、広い階層の人々に親しまれました。

10

5



古典

「目標」

- 表現の特徴に注意して朗読し、古典の世界を楽しむ。
- 描かれた状況や心情を読み取り、武士の価値観や生き方について考える。

1 十二巻 十四世紀に成立した灌頂巻を含めると、十三巻から成る。

5 平清盛 一一一八年～一一八一年 平家の棟梁で、時の権力者。

7 木曾義仲 源義仲。一一五四年～一一八四年 源頼朝・義経のいとこ。

7 源義経 一一五九年～一一八九年 幼名は牛若丸。源頼朝の弟。

10 琵琶法師 平安時代より見られた、琵琶を弾く盲目の僧。鎌倉時代になり、「平家物語」を琵琶に合わせて語る平曲が成立した。

3 僧 ソウ

3 侶 リョ

僧院 そういん

伴侶 はんりょ

祇園精舎
ぎをんしやうじや
オンシヨウジヤ

祇園精舎の鐘かねの聲こゑ、諸行無常しよぎやうむじやうの響ひびきあり。娑羅しやら双樹さうじゆの花の色いろ、盛者必衰じやうしやひつすいのことわりを表あらわす。おごれる人も久ひさしからず、ただ春の夜よの夢ゆめのごとし。たけき者ものもつひには滅ほろびぬ、ひとへに風ふうの前まへの塵ちりに同じ。

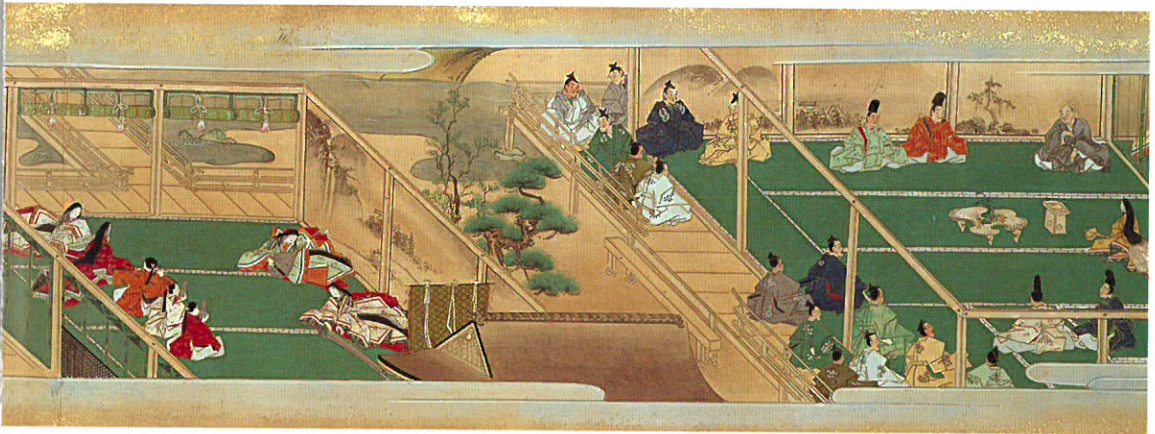
遠く異朝いてうをとぶらへば、秦しんの趙高てうかう、漢かんの王莽わうまう、梁りやうの周伊しうい、唐たうの禄山ろくさん、これらは皆みな、旧主先皇きうしゆせんかうの政せいにも従したがはず、楽しみを極きはめ、諫めいさめをも思おもひ入れず、天下てんかの乱らんれんことを悟さとらずして、民間みんかんの愁うれふるところを知らざさつしかば、久ひさしからずして、亡なじにし者ものどもなり。

近く本朝ほんてうをうかがふに、承平しやうへいの将門まさかど、天慶てんぎやうの純友すみとも、康和かうわの義親ぎしん、平治へいちの信賴のぶより、これらはおごれる心こゝろもたけきことも、皆みなとりどりにこそありしかども、間ま近くは六波羅ろくはらの入道前にふだうさきの太政大臣たいていだいじん平朝臣たいちのあつそん清盛きよせい

15

10

5



3 戦
いくさ

2 鐘
かね
シヨウ
ウ

25 帝
テイ

帝王
ていおう

1 精
シヨウ
ウ

17 承
うけたまわる

1 祇園精舎 釈迦が仏教の教えを説いたインドの寺。

2 娑羅双樹 娑羅は、インド原産の常緑の高木。淡黄色の花をつける。釈迦が入滅したとき、悲しみのために花の色が白く変わったとされている。



7 趙高 秦の始皇帝の死後、二世皇帝を立てて権力を振るった大臣。

7 王莽 漢の平帝を毒殺し、のちに自ら皇帝となって国を新と号した。

8 周伊 梁の武帝の臣だったが、皇帝の寵愛を笠に着て横暴を極めた。

8 禄山 唐の玄宗皇帝が楊貴妃を愛

公と申しし人のありさま、伝へ承るこそ、心も詞も及ばれね。
およ 承るは うけたまは 心も詞も

祇園精舎の鐘の音には、諸行無常の響きがある。娑羅双樹の花の色は、勢いの盛んな者も必ず衰えるという道理を表している。権勢を誇っている人も長くは続かず、まるで（短くはない）春の夜の夢のようである。勇猛な者もついには滅んでしまふ、（その様子は）全く風の前の塵と同じである。

遠く外国（の例）を探せば、秦の趙高、漢の王莽、梁の周伊、唐の禄山、これらは皆、もと仕えていた主君や皇帝の政治にも従わず、栄華を極め、（人の）いさめをも心に留めず、天下が乱れるだろう（という）ことを理解しないで、民衆が嘆き訴えることを顧みなかったため、長続きせずに、滅んでしまった者どもである。

近く我が国（の例）を探すと、承平の将門、天慶の純友、康和の義親、平治の信頼、これら（の者ども）はおごった心も勇ましきも、皆それぞれに（たいしたもの）あったけれども、最近（の例）では六波羅の入道前太政大臣平朝臣清盛公と申した人のありさまを、人づてにお聞きすると、心（に思い描くこと）も言葉（に言い表すこと）も不十分なほどである。

35

30

25

20



はし すみ ほう え
 栄華の日々を送る平家の人々。右端上部の墨色の法衣を着た人物が平清盛。（「平家物語絵巻」より）

して政治を怠ったときに、反乱を起こした。
 13 将門 関東で承平の乱を起こした
 13 純友 瀬戸内海で天慶の乱を起こした藤原純友。
 14 義親 康和の変で流罪になったが、従わず殺された源義親。
 14 信頼 源義朝とともに平治の乱を起こした藤原信頼。



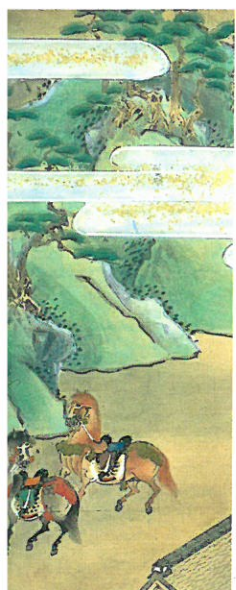
琵琶法師
 （「七十一番職人歌合」より）



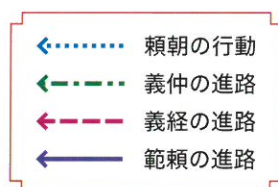
に飛び出す。



平家の兵は義仲軍に追い詰められ、倶利伽羅峠の谷に次々と落ちていく。



一気に駆け下りる。



源平の合戦

1 石橋山の戦い

治承四（一一八〇）年八月、源頼朝は平家討伐のために伊豆（静岡県）で挙兵するが、石橋山（神奈川県小田原市）の戦いで大敗する。

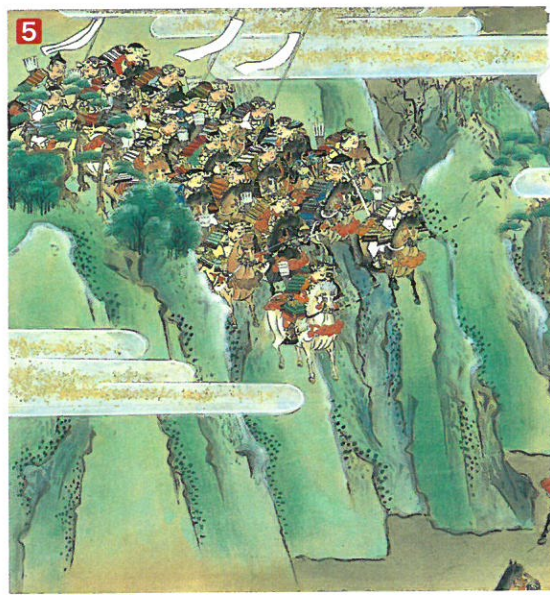
その後、頼朝は鎌倉（神奈川県鎌倉市）を本拠地とする。また、同年九月、木曾義仲も木曾（長野県）で挙兵する。

2 富士川の戦い

同年十月、源氏軍と平家軍は富士川（静岡県富士市）を挟んで陣を構える。夜中、水鳥の飛び立つ音を聞き、敵の襲来かと驚いた平家軍は、戦わずして敗走する。



4 一番乗りの名誉を得ようと、二人の武将が宇治川の急



5 義経は鴨越からまず馬を落とし、無事着地するのを見

清盛は熱病で命を落とす。

3 倶利伽羅峠の戦い

寿永二（一一八三）年五月、加賀（石川県）・越中（富山県）

まで進んだ平家軍を義仲軍が迎え撃つ。義仲軍は日暮れを待ち、平家軍の背後に回って一斉に旗を掲げ声をあげる。

慌てて逃げる平家の兵は、倶利伽羅峠（富山県小矢部市と石川県河北郡津幡町の境）の谷に次々と落ちていく。

同年七月、義仲軍が京に迫ると、平家は六歳の安徳天皇（清盛の孫）を伴って都を離れ、西国へ向かう。

一方、京では、後白河法皇と義仲との対立が深まる。

4 宇治川の戦い

義仲を討てという法皇の命令を受けた頼朝は、弟の範頼、義経を大将とする大軍を差し向ける。



舟り、扇を持っているのが義経。

寿永三（一一八四）年一月、義経軍は、京へあと一歩というところで、宇治川（京都府宇治市）の急流に足を止められる。最初に馬で川を渡りきるのは誰か、先を争って川に入る。

義仲は、京に攻め入った義経軍を防ぎきれず、退却の途中、栗津（滋賀県大津市）で命を落とす。

5 一ノ谷の戦い

西国へ逃れていた平家は、いったん勢力を盛り返し、三方を海と山に囲まれた一ノ谷（兵庫県神戸市）に城を築く。

寿永三（一一八四）年二月、源氏は範頼軍と義経軍に分かれてこれを攻め、一ノ谷の背後に回った義経軍は、鶴越の険しい崖を馬で一気に駆け下りて、平家軍を襲う。

奇襲に遭って総崩れとなった平家軍は海上へ逃れ、屋島（香川県高松市）に退く。



源氏軍（右側の白旗の船）と平家軍（左側の赤旗の船）は壇ノ浦での決戦を迎える。右上の先頭を進む船

6 屋島の戦い

元暦二（一一八五）年二月、義経は僅かな軍勢で四国へ渡り、屋島を急襲する。慌てた平家は沖へ逃れ、義経軍との小競り合いののち、瀬戸内海を西へと敗走する。

「那須与一」（137ページ）や「弓流」（140ページ）は、この戦いでのエピソード。

7 壇ノ浦の戦い

同年三月、壇ノ浦（山口県下関市）の海上で行われた決戦に敗れ、平家は滅亡する。敗戦を覚悟した二位の尼（清盛の妻）が、安徳天皇を抱きかかえて入水する。それを見た女性たちは次々と海に入り、武将たちは壮絶な最期を遂げる。

主な登場人物

平清盛（一一一八年～一一八二年）



保元・平治の乱で活躍し、源氏の勢力を退けた後、後白河上皇の信任を得て、最高位である太政大臣にまで昇り詰める。娘の徳子（とくこ）を高倉天皇（たかくら）の後とし、平家一門で官職を独占するなど栄華を極め、「この一門にあらざらむ人は、皆人非人なるべし。（この平家一門でない人は、皆人ではないであろう。）」というほどだった。しかし、政権を掌握するにつれ、次第に後白河法皇と対立が深まり、また、源氏をはじめとする諸国の武士の反発も招いた。

人物関係図



後白河天皇（一一一七年～一二二二年）

第七十七代天皇。譲位（じょうい）の後には上皇、出家した後は法皇とよばれる。保元・平治の乱では清盛と手を組むが、次第に清盛と対立するようになる。平家の勢力が弱まった後も、頼朝・義仲・義経の力を巧みに利用し、権力を保ち続けた。



源頼朝（一一四七年～一一九九年）

平治の乱で平清盛に敗れた源義朝の三男。伊豆に追放されていたが、後白河法皇の皇子である以仁王の命を受け、平家打倒の兵を挙げる。平家を滅ぼした後、鎌倉幕府を開く。



木曾義仲（一一五四年～一二八四年）

源義仲。木曾義仲は通称。以仁王の命を受けて挙兵し、平家軍を破って京を制圧するが、後白河法皇や頼朝と対立し、範頼・義経に討たれる。



源義経（一一五九年～一二八九年）

源義朝の九男。奥州平泉（おくしゅうへいせん）（岩手県）の藤原氏の庇護を受けていたが、頼朝の挙兵に駆けつけ、義仲や平家の追討で活躍する。しかし、その後頼朝と対立し、奥州に逃れるが、頼朝の力を恐れた藤原泰衡（ふじわらやすひら）に襲われ自害する。

敦盛の最期 あつもり

〈一ノ谷の戦いでのエピソード〉

一ノ谷の戦いで、源氏軍の熊谷次郎直実は、手柄を立てたいと平家の武将を探していました。すると、豪勢な装束の武者が、海上の船に逃げ込もうと馬を進めています。直実が「ひきょうにも敵に後ろをお見せなさるか。お戻りなされ。」と扇を上げて招くと、武者は潔く引き返してきました。その武者を馬から落として組み伏せ、首を斬ろうとかぶとを押し上げると、我が子と同じ年頃の美しい少年でした。直実は刀の手を止め、若武者を逃がそうとしますが、後に続く源氏の軍勢を見て、助けることはできないと悟ります。直実が「同じことなら直実の手におかけ申して、のちの供養をいたしましょう。」と言うと、若武者が「ただ早く首を取れ。」と言うので、泣く泣く首を斬ったのでした。その後直実は、若武者の腰に付けられた錦の袋に笛が入っているのを見つけ、その優雅さに心を打たれます。若武者は、十七歳の平敦盛でした。これを機に、直実は出家の志を強くします。

直実と敦盛のエピソードは、後世の人々の心に響き、能や浄瑠璃の演目にもなりました。



頃は二月十八日の酉の刻ばかりのことなる

に、折節北風激しくて、磯打つ波も高かりけり。舟は揺り上げ揺りする漂へば、扇も串に定まらずひらめいたり。沖には平家、舟を一面に並べて見物す。陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。いづれもいづれも、晴れならずといふことぞなき。

与一、目をふさいで、「南無八幡大菩薩、

我が国の神明、日光の権現、宇都宮、那須の

湯泉大明神、願はくはあの扇の真ん中射させ

てたばせたまへ。これを射損ずるものならば、

弓切り折り自害して、人に再び面を向かふべ

からず。いま一度本国へ迎へんとおぼしめさ

ば、この矢外させたまふな。」と、心の内に

祈念して、目を見開いたれば、風も少し吹き

時は二月十八日の酉の刻頃のこと

であったが、折から北風が激しくて、磯に打ちつける波も高かった。舟は上へ下へと揺れて漂うので、扇もさお（の先）にあつて静止せずひらめいている。沖では平家が、舟を（海上）一面に並べて見物する。陸地では源氏が、馬のくつわを並べてこれを見守る。どちらもどちらも、晴れがましくないといいことはないのだ。

与一は、目を閉じて、「どうか八

幡大菩薩よ、我が故郷の神々、日光の権現、宇都宮大明神、那須の湯泉大明神よ、願わくはあの扇の真ん中を射させてくださいませ。これを射損じるものならば、弓を切り折って

自害して、人に二度と顔を合わせるつもりはありません。もう一度郷里に迎えてやろうとお思いなさいます

ならば、この矢が外れないようにしてください。」と、心の内に念じて、目を見開いたところ、風も少し吹く

上1 二月十八日

旧暦の二月十八日。

上1 酉の刻ばかり

午後六時頃。

上5 くつばみ

手綱を付けるために、馬の口にかなせる金具。くつわ。

上8 南無八幡大菩薩

「南無」は礼拝の言葉。「八幡大菩薩」は、八幡神の呼び名。八幡神は武士たちから守護神として敬われていた。

上9 日光の権現

栃木県日光市の二荒山神社の祭神。

神仏混交のため、権現（仏が仮に日本の神に姿を変えて現れること）という。

上9 宇都宮

栃木県宇都宮市二荒山神社の祭神。

上9 那須の湯泉大明神

栃木県那須郡那須町湯本の温泉神社の祭神。

社

上3 漂

漂着

上3 串

串刺し

弱り、扇も射よげにぞなつたりける。

与一、鎬を取つてつがひ、よつ引いてひやう

ど放つ。小兵といふぢやう、十二束三伏、弓

は強し、浦響くほど長鳴りして、あやまたず

扇の要際一寸ばかりおいて、ひいふつとぞ射

切つたる。鎬は海へ入りければ、扇は空へぞ

上がりける。しばしは虚空にひらめきけるが、

春風に一もみ二もみもまれて、海へさつとぞ

散つたりける。

夕日の輝いたるに、皆紅の扇の日出だした

るが、白波の上に漂ひ、浮きぬ沈みぬ揺られ

ければ、沖には平家、舟端をたたいて感じた

り。陸には源氏、箆をたたいてどよめきけり。

のが弱まり、扇も射やすそうになつていた。

与一は、鎬矢を取つて（弓に）つ

がえ、引き絞つてひようと放つ。小

柄な武者にふさわしく、（矢の長さは）

十二束三伏、（しかし）弓は頑強で

あるので、浦一带に響くほど長くう

なりを立てて、誤りなく扇の要の際

から一寸ほど離れたところを、ひい

ふつと射当てる。鎬矢は海に落ちて

いつて、扇は空へと舞い上がった。

しばらくは空中にひらめいていたが、

春風に一もみ二もみもまれて、海へ

さつと散つたのだつた。

夕日の輝いている中に、真っ赤な

地に金色の日の丸を描いた扇が、白

波の上に漂つて、浮いたり沈んだり

揺られているので、沖では平家が、

舟端をたたいて感嘆した。陸では源

氏が、箆をたたいてはやし立てた。

上4 沖（チュウ）

沖合い

上12 面（おもて）

上4 浦（うら）

浦里

上2 鎬

ここでは、鎬矢（鎬を付けた矢）のこと。鎬は、矢の先に付ける、無

の形をした作り物で、二股のやじりがこれに付く。鎬には数個の穴があ

り、矢は風を切つて大きく鳴り響く。

上3 十二束三伏

矢の長さをいう。「束」は一握り（指

四本）の幅。「伏」は指一本の幅。

上5 一寸

約三センチメートル。

上5 ひいふつ

矢が風を切つて飛んでいき、的に

当たる音を表す。

上13 箆

矢を入れて背負う武具。

「那須与一」の一節はこれで終わり、次の「弓流」に入ると、小舟に乗る一人の武士が感心して立ち上がり、舞を舞ったところ、再び義経の命令により、与一がこの者を射て倒すという、武士の世界の非情さを伝える話があります。



あまりのおもしろさに、感に堪へざるにやとおぼしくて、舟の内より年五十ばかりなる男の、黒革^{くわ}の鎧^{よろひ}着て白柄^{しろえ}の長刀^{ながた}持ったるが、扇立てたりける所に立つて舞ひしめたり。伊勢三郎義盛^{いせのさぶらうよしもり}、与一^いが後ろへ歩ませ寄つて、「御定ぞ、つかまつれ。」^{ごぢやう}と言ひければ、今度は中差^{なかざし}取つてうちくはせ、よつ引いてしや首^{しやう}の骨をひやうふつと射て、舟底^{ふなぞこ}へ逆さまに射倒す。平家^{へいけ}の方には音もせず。源氏^{げんし}の方には、また簾^{しや}をたたいてどよめきけり。「あ、射たり。」^ウと言ふ人もあり、また、「情けなし。」^ウと言ふ者もあり。

10

5

あまりのおもしろさに、感に堪えなかつたのかと見えて、舟の中から五十歳^{さい}ほどの男で、黒革^{くわ}の鎧^{よろひ}を着て白柄^{しろえ}の長刀^{ながた}を持った者が、扇を立ててあつた所に立つて心澄^{しんじやう}まして舞い始めた。伊勢三郎義盛^{いせのさぶらうよしもり}は、与一の後ろへ（馬を）歩ませ近寄つて、「ご命令だ、射よ。」^{ごめいれい}と言つたので、今度は中差^{なかざし}を取つて（弓に）つがえ、引き絞つてそいつの首の骨をひやうふつと射て、舟底^{ふなぞこ}へ逆さまに射倒す。平家^{へいけ}の方では音もしない。源氏^{げんし}の方では、また簾^{しや}をたたいてどよめいた。「ああ、射当^あてた。」^ウと言う人もいれば、また、「情け知らずだ。」^ウと言う者もいる。

15

10

5

上2 黒革^{くわ} 鎧^{よろひ}の札^さ（鉄または革の細長い板）

を濃紺^{のうこん}や黒の革ひもでつなぎ合わせ
たもの。

上3 白柄^{しろえ}

木^き地のままで何も塗^ぬっていない柄^{がら}。

上4 伊勢三郎義盛^{いせのさぶらうよしもり}

？年一八六六年 義経の家臣。

上6 中差^{なかざし}

簾^{しや}に差した矢^やの中で、上差^{かみざし}しの鎧^{よろひ}矢^やの次に差している尖^{とが}り矢^や。

上7 しや首^{しやう}

首^{くび}を罵^{ののし}つていう言葉。

上1 堪^{カン}
たえる

病^{やまい}に堪^たえる

● 出典 「新編日本古典文学全集」



古典の作品に表れた価値観について考えたことをまとめよう

【目標】

- 表現の特徴に注意して朗読し、古典の世界を楽しむ。
- 描かれた状況や心情を読み取り、武士の価値観や生き方について考える。

読み取る

- ① 表現の特徴に注意して、「那須与一」を繰り返し朗読してみよう。
【たすけ】 助詞を付けない表現や、七五調、対句、擬音語などに注意しよう。

- ② 海に乗り出した「与一」は、どのような状況に置かれ、それによってどんな気持ちになっていただろうか。本文中の言葉を手がかりに話し合ってみよう。

【たすけ】 海や風の様子、源氏と平家の様子がどう描かれているかを捉えよう。

考えを深める

- ③ 武士の価値観や生き方とは、どのようなものだったのだろうか。「那須与一」「弓流」から読み取り、考えたことをまとめよう。



古典コラム — 文体を味わう

古典には、語り物（物語に節を付けて語る芸能）として伝承された作品があります。

「平家物語」はその代表作で、琵琶法師によって語られました。その文章には次のような工夫が見られ、リズムや躍動感が生まれています。聞いていると、まるで頭の中にその場面が浮かんでくるようではありませんか。

- 簡潔な叙述を連ねて、状況を描き出している。
折節北風……波も……舟は……扇も……
- 対句的な表現を用いている。
鎧は海へ……扇は空へぞ……
沖には平家……陸には源氏……
- 同類の言葉を列挙している。
南無八幡大菩薩……宇都宮、那須の湯泉大明神
● 擬音語・擬態語を効果的に用いている。
よつ引いてひやうど放つ。
海へさつとぞ散つたりける。

漢詩



漢詩とは、中国で古くから詠まれてきた詩です。日本人もそれに倣って漢詩を作ったり、また日本流の読み方をしたりして、愛好してきました。

漢詩には、和歌や俳諧とはまた違った、きびきびとした格調の高さがあります。繰り返し朗読しながら、そのリズムをよく味わってみてください。

中国の漢詩の中でも、唐の時代の詩が、日本では高く評価されてきました。その代表的詩人が、李白と杜甫です。ここでは、その二人の詩を取り上げました。

「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」は、李白が、古くからの友人である孟浩然の旅立ちに際して詠んだ詩です。「春望」は、杜甫が、大きな反乱が起きて荒れ果てしまった長安の都の風景を見て詠んだ詩です。自然の光景と、人間の営みや感情を織り交ぜた、巧みな表現に注意して、この二編の漢詩を味わってみましょう。

10

5



古典

「目標」

● 表現の特徴に注意して朗読し、漢詩を味わう。

● 情景を描いた表現の効果について考える。

6 李白 七〇一年～七六二年 字は太白、号は青蓮居士。唐の詩人。「詩仙」ともよばれた。

6 杜甫 七一二～七七〇年 字は子美、号は少陵。唐の詩人。「詩聖」ともよばれた。

7 黄鶴楼 143 ページ参照。

7 孟浩然 143 ページ参照。

7 広陵 143 ページ参照。

8 春望 144 ページ参照。

9 長安 現在の陝西省西安市。

3 諧 カイ

諧調 かいちょう

5 唐 トウ

唐織物 からおりもの

黄鶴楼くわくかくろうにて孟浩然まうかうねんの広陵くわうりやうに之これくを送るおく

李白

故人西のかた黄鶴楼を辞し

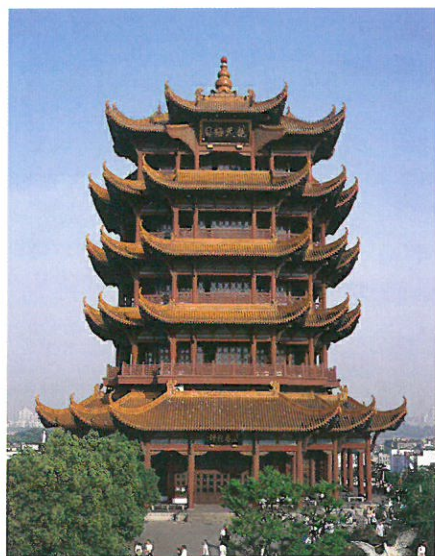
煙花三月揚州えんくわさんくわつやうしやうに下るくだる

孤帆こはんの遠影えんえい碧空へきくうに尽つき

惟ただだ見る長江ちやうかうの天際てんさいに流るるをながるるを

5

故人西ノカク辞シ黄鶴楼ヲ
煙花三月ニ下ル揚州ニ
孤帆遠影ニ碧空ニ尽キ
惟見長江天際ニ流ルルヲ



黄鶴楼（現代に再建されたもの）

古くからの友人は西方の地にある
黄鶴楼に別れを告げ、春霞がたなび
く三月に揚州へと下っていく。

一その帆船の遠い影も青空のか
なたに消え、ただ長江の水が大空の
果てまで流れていくのを見ているば
かりである。

5

資料編

↓ 293 ページ

漢詩を読み味わおう

漢詩の世界

日原 傳

上1 黄鶴楼

現在の湖北省武漢市の長江に臨む
地にあった高樓。

上1 孟浩然

六八九年〜七四〇年 唐の詩人。

上1 広陵

揚州の別名。現在の江蘇省揚州市。

上2 故人

古い友人。ここでは孟浩然のこと。

上2 西のかた

黄鶴楼は、広陵に対して西方の地
にある。

上3 煙花

春霞が立つ美しい景色。

上5 天際

大空の果て。大空と長江の交わる
辺り。

● 出典 「漢詩大系」

春望^{しゅんぼう}
シユンボウ

杜甫

国破^{くに}れて山河^{さんが}在^あり

城春^{しろ}にして草木^{さうもく}深^{ソウ}し

時^{とき}に感^かじては花^{はな}にも涙^{なみだ}を濺^{そそ}ぎ

別^{わか}れを恨^{うら}んでは鳥^{とり}にも心^{こころ}を驚^{おどろ}かす

烽火^{ほうくわ}三月^{さんげつ}に連^つなり

家書^{かしょ}万金^{ばんきん}に抵^あたる

白頭^{はくとう}搔^かけば更^{さら}に短^{みじ}く

渾^{すべ}て簪^{しん}に勝^たへざらんと欲^{ほつ}す

国破^{レテ} 山 河 在^リ

城 春^{ニシテ} 草 木 深^シ

感^{ジテハ} 時^ニ 花^{ニモ} 濺^ギ 涙^ヲ

恨^{ンデハ} 別^{レテ} 鳥^{ニモ} 驚^{カス} 心^ヲ

烽 火 連^{ナリ} 三 月^ニ

家 書 抵^{タル} 万 金^ニ

白 頭 搔^{ケバ} 更^ニ 短^ク

渾^テ 欲^ス 不^{ザラント} 勝^ヘ 簪^ニ

5

● 出典 「漢詩大系」

- 1 春望 春の眺め。
- 2 国破れて 長安は反乱軍に攻め破られてしまつて。
- 3 城 城壁を巡らした、昔の中国の都市。また、町の中。
- 4 時に感じては 戦乱が続く時世のありさまに悲しみを感ずるは。
- 4 花にも涙を濺ぎ 花を見ても涙を流し。
- 5 別れを恨んでは 一家散り散りになったことを恨めしく思つては。
- 5 鳥にも心を驚かす 鳥のさえずりを聞いても、心を痛ませる。
- 6 烽火 敵の来襲を知らせるのろし。ここでは戦乱を意味している。
- 6 三月に連なり 三か月間上がり続け。
- 7 家書 家族からの手紙。
- 7 万金に抵たる 大金に相当する。
- 8 白頭搔けば更に短く 白髪はかけばかくほど抜け落ちて少なくなつて。
- 9 渾て簪に勝へざらんと欲す 簪（冠を固定するピン）さえ全く挿せなくなろうとしている。



漢詩を読み、表現の効果について話し合おう

【目標】

- 表現の特徴に注意して朗読し、漢詩を味わう。
- 情景を描いた表現の効果について考える。

読み取る

① 二編の漢詩を繰り返し朗読し、暗唱してみよう。

② 現代語訳や脚注を参考にしながら、それぞれの漢詩に描かれている情景や作者の心情を捉えよう。

③ それぞれの漢詩の表現の仕方について、気がついたことを挙げてみよう。
 たすけ 詩の構成や、対句などの特徴的な表現の仕方に着目しよう。

考えを深める

④ 二編の漢詩の中で、自然を表す表現がそれぞれどのような効果をあげているのかを考え、話し合ってみよう。

10



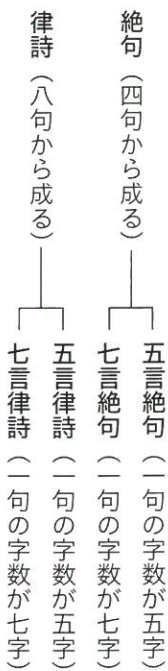
古典コラム ― 漢詩の形式

漢詩の形式には、主に絶句と律詩があります。

絶句は四句から成る詩で、一句の字数が五字であるか七字であるかによって、五言絶句と七言絶句に分けられます。李白の「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」は、七言絶句です。

絶句は普通、起承転結の構成になっていて、第一句から第四句までをそれぞれ、起句・承句・転句・結句といいます。歌い起し、それを承けて発展させ、内容を一転させて、まとめて結ぶというわけです。

律詩は八句から成る詩で、一句の字数が五字であるか七字であるかによって、五言律詩と七言律詩に分けられます。杜甫の「春望」は、五言律詩です。





書く〈通信・手紙〉

依頼状やお礼状を書く

【目標】 ● 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方などに注意して推敲する。

1 依頼状を書く

下の文章は、職場体験の受け入れ先に宛てて、事前の打ち合わせについて依頼する手紙である。しかし、いくつか適切でない箇所がある。傍線部について、どのように直したらよいかを考えてみよう。

手紙の形式については、304ページを見て確認しよう。

言葉の力

手紙を推敲する



- 手紙の形式を守っているか。
- 伝える情報に漏れがないか。
- 言葉遣いは適切か。失礼なところはないか。

社会生活の中では、何かの依頼をするときや、お礼の気持ちを伝えるときなど、丁寧な手紙を出すときや場合がある。手紙の基本的な形式を知り、目的や相手に応じた手紙を書いてみよう。

拝啓 次郎に秋が深まってまいりました。いかがお過ごしでしょうか。私は、山田中学校二年の小林純平と申します。

さて、私たち二年一組三班は、職場体験のため保育園で働かされることとなりました。先日は、受け入れの許可をいただき、誠にありがとうございました。すごくうれしく思っています。

先日のお電話で約束いたしましたように、来週中にグループの五名全員で事前の打ち合わせに伺います。打ち合わせでは、職場体験当日のスケジュールや持ち物などをお教えください。

忙しい毎日をご過ごしていますが、打ち合わせの日はどうぞよろしく願います。

草々

平成二十八年十月十七日

小林純平

さくら保育園園長

山下洋子先生

打ち合わせの日は「二十四日の午後二時」と電話で約束してあるけど、確認のために、手紙にも書いたほうがいいね。



2 お礼状を書く

次のメモは、職場体験を終えて、お礼状に書きたいと思ったことを書き出したものである。

このメモの内容をもとに、手紙の形式に従ってお礼状を書いてみよう。

◎ 体験中のいちばんの思い出

初日、クラスに入って、何とか子供たちに接しようとしていたところ、ある園児に大泣きされた。どうしていいかわからず困っていたときに、担任の石川先生に助けてもらい、その子が泣きやんだ。その後、その子が私のところにやってきて手を握り、話しかけてきた。とても感動した。

◎ 学んだこと

- ・子供たちとの接し方
- ・担任の先生のご苦労
- ・保育園の先生になるために必要なこと

今後、実際に何かの依頼やお礼をする機会があれば、分かりやすく丁寧な手紙を書くようにしよう。

↓
304 ページ「手紙の書き方」

▼ 手紙の基本構成

「頭語」「時候の挨拶」「あいさつ安否の挨拶など」	「この手紙で伝えたい内容」	「結びの挨拶」	「日付」	「宛名」
前文	主文	「結語」	「差出人の署名」	後付け

日付は十一月七日。宛先は依頼状と同じく園長先生にするけど、お世話になったほかの先生へのお礼の気持ちも書こう。



話し言葉と書き言葉

●話し言葉と書き言葉

音声を使って伝える言葉を**話し言葉**といい、文字を使って伝える言葉を**書き言葉**という。ただし、実際に話した言葉をそのまま文字で書いても、書き言葉にはならないことが普通である。例えば、次の㊦は書き言葉とはいえない。

㊦ えっと、この問題ってよく考えなくっちゃいけないだろうね。

㊦には「促音・撥音・長音・拗音」を含む語句が多くある。これらは意味を強めたり、考えをまとめる時間を稼いだり、話し手のくだけた態度を表したりするのに使われるもので、話し言葉専用の言い方である。また、文末の「ね」も話し言葉に特有の語で、相手への確認を表す。これらを、それぞれ次のよう

に言い換えると、より書き言葉らしくなる。

えっと	↓	さて
って	↓	は
よく	↓	よく
なくっちゃ	↓	なくては
いけない	↓	いけないの
だろうね	↓	だろう



20

12 稼
(カ)
かせぐ

10 促
ソク
うながす

注意を促す
点数を稼ぐ

⑦の話し言葉によく見られる要素を全て言い換えたのが次の①であり、それを更に書き言葉らしくしたのが②である。

① さて、この問題はよく考えなくてはいいのだろう。

② さて、この問題は十分に考察する必要があると思われる。

①と②は使われる語句の「硬さ」が違う。「よく」に比べると「十分に」はより硬い。同様に、「考え(る)」「なくてはいいけない」「だろう」についても、それぞれ、「考察する」「必要がある」「と思われる」のほうがより硬いといえる。

● それぞれの長所と気をつけるべきこと

話し言葉には、書き言葉にはない、話し手の声の質・大きさ・話す速さなどの特徴が表れる。また、身振り・表情などにも話し手の気分や思いが表れる。

こうした要素は話の意味を特に大きく変えることはないが、話し手は、相手の反応を見ながら、声の大小や話す速度を調節したり、身振り手振りを交えたり、表情を変えたりして、自分の話を補うことができる。一方、聞き手は、そうした要素に気を配りつつ、相手が本当に言いたいことをよく理解する必要がある。

なお、②のような話し言葉特有のくだけた言い方は、相手や場面によっては不快感を与えてしまう場合もあるので、適切な使い分けが必要である。

書き言葉は文字で残せるため、自分で書いたものを後から読み返せるし、昔の人が書いたものを読むこともできる。また、話し言葉が特定の人間を相手にすることが多いのに対し、書き言葉は不特定多数の相手に向けて書かれることもある。しかし、話し言葉のように相手の反応に応じてその場で言うことを調節できないので、誤解が生じないように分かりやすく論理的に書く必要がある。



問題

① 次の②の文を話し言葉に、①の文を書き言葉に換えたとき、どのような文になるかを確かめてみよう。

② 我々の到達時に、先行の団は既にその地を後にしていた。

① なんてったって、この店がいちばんうまいんつすよ。

② 実際の自然な話し言葉を、できるだけ忠実に文字で表してみよう。それを見て、どのようなことが文字では表せないかを具体的に考えてみよう。

助動詞

絵と助動詞を合わせよう



文法解説
264 ページ

次の基本の文を、下の①～⑤のイラストが示す意味になるように、後の助動詞を一つずつ使って書き換えよう。

【基本の文】



高志はケーキを
食べる。

5

【助動詞】

られる させる た
たがる ない らしい

例



高志はケーキを
食べる（らしい）。

10

①



高志はケーキを
食べ（ ）。

②



高志はケーキを
食べ（ ）。

③



高志はケーキを
食べ（ ）。

④



高志はケーキを
食べ（ ）。

⑤



高志はケーキを
食べ（ ）。

20

助動詞

活用のある付属語で、意味を添えたり、話し手・書き手の気持ちを表したりする。



考えよう

助動詞活用表（270 ページ）に示されている他の助動詞から一つ選んで、上の文を書き換えると、どんな絵になるか、考えてみよう。

ほんとうにおれのもんかよ冷蔵庫の卵置き場に落ちる涙は

なみだ

穂村

弘



写真・潮田登久子

6

描写を味わう



読む〈文学〉

走れメロス

■ 学びの扉 人物像を捉える

◆ 日本語探検 類義語・対義語

走れメロス

太宰治

メロスは激怒した。必ず、かの邪知暴虐の王を除かなければならぬと決意した。メロスには政治が分からぬ。メロスは、村の牧人である。笛を吹き、羊と遊んで暮らしてきた。けれども邪悪に対しては、人一倍に敏感であった。今日未明メロスは村を出発し、野を越え山越え、十里離れたこのシラクスの町にやってきた。メロスには父も、母もない。女房もない。十六の、内気な妹と二人暮らしだ。この妹は、村のある律儀な一牧人を、近々、花婿として迎えることになっていた。結婚式も間近なのである。メロスは、それゆえ、花嫁の衣装やら祝宴のごちそうやらを買いに、はるばる町にやってきたのだ。まず、その品々を買い集め、それから都の大路をぶらぶら歩いた。メロスには竹馬の友があった。セリヌンティウスである。今はこのシラクスの町で、石工をしている。その友を、これから訪ねてみるつもりなのだ。久しく会わなかったのだから、訪ねていくのが楽しみである。歩いているうちにメロスは、町の様子を怪しく思った。ひっそりしている。もう既に日も落ちて、町の暗いのはあたりまえだが、けれども、何だか、夜のせいばかりではなく、町全体が、やけに寂しい。のんきなメロスも、だんだん不安になってきた。道で会った若い衆を捕まえて、何かあったのか、二年前にこの町に来たときは、夜でも皆が歌を歌って、町は



読む〈文学二〉

「目標」

- 人物や情景の効果的な描写に着目して、作品を読み深める。
- 場面の展開や表現の仕方について、自分の考えをまとめる。

1 邪知暴虐

悪知恵を働かせ、残酷な行為で人を苦しめること。

4 十里

一里は約三・九キロメートル。

4 シラクス

地中海のシチリア島（現在イタリア領）南東海岸にある都市。古代ギリシャの植民都市として栄えた。

3 対 敏感

3 意 未明

5 意 律儀

8 意 竹馬の友

1 虐

虐待

3 敏

機敏

にぎやかであつたはずだが、と質問した。若い衆は、首を振って答えなかった。しばらく歩いて老爺に会い、今度はもつと、語勢を強くして質問した。老爺は答えなかった。メロスは両手で老爺の体を揺すぶって質問を重ねた。老爺は、辺りをはばかり低声で、僅か答えた。

「王様は、人を殺します。」

「なぜ殺すのだ。」

「悪心を抱いている、というのですが、誰もそんな、悪心を持つてはおりませぬ。」

「たくさんの人を殺したのか。」

「はい、初めは王様の妹婿様を。それから、ご自身のお世継ぎを。それから、妹様を。それから、妹様のお子様を。それから、皇后様を。それから、賢臣のアレキス様を。」

「驚いた。国王は乱心か。」

「いいえ、乱心ではございませぬ。人を、信ずることができぬ、ということです。このごろは、臣下の心をも、お疑いになり、少しくはでな暮らしをしている者には、人質一人ずつ差し出すことを命じております。ご命令を拒めば十字架にかけられて、殺されます。今日は、六人殺されました。」

聞いて、メロスは激怒した。「あきれた王だ。生かしておけぬ。」

メロスは、単純な男であつた。買い物、背負つたままで、のそのそ王城に入つていった。たちまち彼は、巡邏の警吏に捕縛された。調べられて、メロスの懐中からは短剣が出てきたので、騒ぎが大きくなつてしまった。メロスは、王の前に引き出された。

「この短刀で何をするつもりであつたか。言え！」暴君ディオニスは静かに、けれども威

20

15

10

5

6 婿 (セイ) むこ

娘婿

6 婚 コン

婚約

7 嫁 (カ) よめ とつぐ

姉が嫁ぐ

7 宴 エン

宴会

11 怪 カイ あやしい

怪談

7 装 ショウ

14 拒 キョ ことわ

拒否

18 吏 リ

官吏

13 質 シチ

3 意 はばかり

18 巡邏 見回り。

厳をもつて問い詰めた。その王の顔は蒼白で、眉間のしわは、刻み込まれたように深かった。

「町を暴君の手から救うのだ。」とメロスは悪びれずに答えた。

「おまえがか？」王は、憫笑した。「しかたのないやつじゃ。おまえには、わしの孤独が分からぬ。」

「言うな！」とメロスは、いきり立って反駁した。「人の心を疑うのは、最も恥ずべき悪徳だ。王は、民の忠誠をさえ疑っておられる。」

「疑うのが、正当の心構えなのだと、わたしに教えてくれたのは、おまえたちだ。人の心は、当てにならない。人間は、もともと私欲の塊さ。信じては、ならぬ。」暴君は落ち着いてつぶやき、ほっとため息をついた。「わしだって、平和を望んでいるのだが。」

「何のための平和だ。自分の地位を守るた



6 憫笑
哀れに思つて笑うこと。

9 文 いきり立つ

9 類 反駁

13 対 正当

2 眉 (まゆ)

7 孤 (こ)

16 塊 (かたまり)

11 民 (たみ)

金塊 (きんかい) 孤島 (ことう) 眉毛 (まゆげ)

めか。」今度はメロスが嘲笑した。「罪のない人を殺して、何が平和だ。」

「黙れ。」王は、さっと顔を上げて報いた。「口では、どんな清らかなことでも言える。わしには、人のほらわたの奥底が見え透いてならぬ。おまえだって、今に、はりつけになつてから、泣いてわびたつて聞かぬぞ。」

「ああ、王はりこうだ。うぬぼれているがよい。私は、ちゃんと死ぬる覚悟でいるのに。命乞いなど決してしない。ただ、——。」と言いかけて、メロスは足もとに視線を落とし瞬時ためらい、「ただ、私に情けをかけたいつもりなら、処刑までに三日間の日限を与えてください。たった一人の妹に、亭主を持たせてやりたいのです。三日のうちに、私は村で結婚式を挙げさせ、必ず、ここへ帰ってきます。」

「ばかな。」と暴君は、しわがれた声で低く笑った。「とんでもないうそを言うわい。逃がした小鳥が帰ってくるというのか。」

「そうです。帰ってくるのです。」メロスは必死で言い張った。「私は約束を守ります。私を、三日間だけ許してください。妹が、私の帰りを待っているのだ。そんなに私を信じられないならば、よろしい、この町にセリヌンティウスという石工がいます。私の無二の友人だ。あれを、人質としてここに置いていこう。私が逃げてしまつて、三日目の日暮れまで、ここに帰つてこなかったら、あの友人を絞め殺してください。頼む。そうしてください。」

それを聞いて王は、残虐な気持ちで、そっとほくそ笑んだ。生意気なことを言うわい。どうせ帰つてこないにきまつている。このうそつきにだまされたふりして、放してやるのもおもしろい。そうして身代わりの男を、三日目に殺してやるのも気味がいい。人は、こ

6 乞
こう

7 刑
ケイ

1 意 嘲笑

3 意 はらわた

3 文 見え透く

14 意 無二

18 類 残虐

18 意 ほくそ笑む

慈悲を乞う

刑罰

れだから信じられぬと、わしは悲しい顔して、その身代わりの男を磔刑に処してやるのだ。世の中の、正直者とかいうやつばらにうんと見せつけてやりたいものさ。

「願いを、聞いた。その身代わりを呼ぶがよい。三日目には日没までに帰ってこい。遅れたら、その身代わりを、きつと殺すぞ。ちよつと遅れてくるがいい。おまえの罪は、永遠に許してやろうぞ。」

「なに、何をおっしゃる。」

「はは。命がだいじだったら、遅れてこい。おまえの心は、分かっているぞ。」

メロスは悔しく、じだんだ踏んだ。ものも言いたくなくなった。

竹馬の友、セリヌンティウスは、深夜、王城に召された。暴君ディオニスの面前で、よき友とよき友は、二年ぶりで相会うた。メロスは、友に一切の事情を語った。セリヌンティウスは無言でうなずき、メロスをひしと抱き締めた。友と友の間は、それでよかった。セリヌンティウスは、縄打たれた。メロスは、すぐに出発した。初夏、満天の星である。

メロスはその夜、一睡もせず十里の道を急ぎに急いで、村へ到着したのは、明くる日の午前、日は既に高く昇って、村人たちは野に出て仕事を始めていた。メロスの十六の妹も、今日は兄の代わりに羊群の番をしていた。よろめいて歩いてくる兄の、疲労困憊の姿を見つけて驚いた。そうして、うるさく兄に質問を浴びせた。

「何でもない。」メロスは無理に笑おうと努めた。「町に用事を残してきた。またすぐ町に行かなければならぬ。明日、おまえの結婚式を挙げる。早いほうがよからう。」

妹は頬を赤らめた。

「うれしいか。きれいな衣装も買ってきた。さあ、これから行って、村の人たちに知らせ

20

15

10

5

1 磔刑

はりつけの刑。

2 やつばら

「やつ」の複数形。やつら。

8 文じだんだ踏む

9 召
めす

召集

13 睡
スイ

睡眠

13 到
トウ

到達

てこい。結婚式は、明日だど。」

メロスは、また、よろよろと歩きだし、家へ帰って神々の祭壇を飾り、祝宴の席を調べ、間もなく床に倒れ伏し、呼吸もせぬくらいの深い眠りに落ちてしまった。

目が覚めたのは夜だった。メロスは起きてすぐ、花婿の家を訪れた。そうして、少し事情があるから、結婚式を明日にしてくれ、と頼んだ。婿の牧人は驚き、それはいけない、こちらにはまだ何の支度もできていない、ぶどうの季節まで待ってくれ、と答えた。メロスは、待つことはできぬ、どうか明日にしてくれたまえ、と更に押して頼んだ。婿の牧人も頑強であつた。なかなか承諾してくれない。夜明けまで議論を続けて、やっと、どうか婿をなだめ、すかして、説き伏せた。結婚式は、真昼に行われた。新郎新婦の、神々への宣誓が済んだ頃、黒雲が空を覆い、ぼつりぼつり雨が降りだし、やがて車軸を流すような大雨となった。祝宴に列席していた村人たちは、何か不吉なものを感じたが、それでも、めいめい気持ちを引き立て、狭い家の中で、むんむん蒸し暑いのもこらえ、陽気に歌を歌い、手を打った。メロスも、満面に喜色をたたえ、しばらくは、王とのあの約束をさえ忘れていた。祝宴は、夜に入っていよいよ乱れ華やかになり、人々は、外の豪雨を全く気にしなくなった。メロスは、一生このままここにいたい、と思った。このよい人たちと生涯暮らしていきたいと願ったが、今は、自分の体で、自分のものではない。ままならぬことである。メロスは、我が身にむち打ち、ついに出発を決意した。明日の日没までには、まだ十分の時がある。ちよつとひと眠りして、それからすぐに出発しよう、と考えた。その頃には、雨も小降りになっていよう。少しでも長くこの家にぐずぐずとどまっていたかった。メロスほどの男にも、やはり未練の情というものはある。今宵呆然、歓喜に酔って

20

15

10

5

2 壇 (タン)

8 諾 ダク

10 誓 セイ

10 覆 フク (くつがえす)

11 吉 キチ

14 豪 ゴウ

20 宵 (ショウ)

20 酔 スイ

4 訪 おとずれる

12 蒸 ムス (むれる)

8 類 頑強

9 意 すかす

10 車軸を流す

車の軸のように太い雨が降ること。
大雨のたとえ。

心酔

宵の口

文豪

大吉

転覆

心に誓う

諾否

壇上

るらしい花嫁に近寄り、

「おめでとう。私は疲れてしまったから、ちょっとごめんこうむって眠りたい。目が覚めたら、すぐに町に出かける。大切な用事があるのだ。私がいなくても、もうおまえには優しい亭主があるのだから、決して寂しいことはない。おまえの兄の、いちばん嫌いなものは、人を疑うことと、それから、うそをつくことだ。おまえも、それは、知っているね。亭主との間に、どんな秘密でも作ってはならぬ。おまえに言いたいのは、それだけだ。おまえの兄は、たぶん偉い男なのだから、おまえもその誇りを持っている。」

花嫁は、夢見心地でうなずいた。メロスは、それから花婿の肩をたたいて、

「支度のないのはお互いさまさ。私の家にも、宝といつては、妹と羊だけだ。ほかには、何もない。全部あげよう。もう一つ、メロスの弟になったことを誇ってくれ。」

花婿はもみ手して、照れていた。メロスは笑って村人たちにも会釈して、宴席から立ち去り、羊小屋に潜り込んで、死んだように深く眠った。

目が覚めたのは明るく日の薄明の頃である。メロスは跳ね起き、南無三、寝過ごしたか、いや、まだまだ大丈夫、これからすぐに出発すれば、約束の刻限までには十分間に合う。

今日はぜひとも、あの王に、人の信実の存するところを見せてやろう。そうして笑ってはりつけの台に登ってやる。メロスは、悠々と身支度を始めた。雨も、いくぶん小降りになっている様子である。身支度はできた。さて、メロスは、ぶるんと両腕を大きく振って、雨中、矢のごとく走り出た。

私は、今宵、殺される。殺されるために走るのだ。身代わりの友を救うために走るのだ。王の奸佞邪知を打ち破るために走るのだ。走らなければならぬ。そうして、私は殺される。

20

15

10

5

13 南無三

南無三宝の略。「しまった」の意。失敗したときに発する言葉。

20 奸佞邪知

心が曲がっていて、悪知恵が働くこと。

15 文 ぜひと

15 意 信実

18 文 ……のごとく

8 心地
こころ

若いときから名譽めいよを守れ。さらば、ふるさと。若いメロスは、つらかった。幾度いくどか、立ち止まりそうになった。えい、えいと大声あげて自身を叱りながら走った。村を出て、野を横切り、森をくぐり抜け、隣村となりむらに着いた頃には、雨もやみ、日は高く昇って、そろそろ暑くなってきた。メロスは額の汗を拳で払い、ここまで来れば大丈夫、もはや故郷への未練はない。妹たちは、きっとよい夫婦になるだろう。私には、今、何の気かりもないはずだ。まっすぐに王城に行き着けば、それでよいのだ。そんなに急ぐ必要もない。ゆっくり歩こう、と持ち前ののんきさを取り返し、好きな小歌をいい声で歌いだした。ぶらぶら歩いて二里行き三里行き、そろそろ全里程の半ばに到達した頃、降って湧いた災難、メロスの足は、はたと、止まった。見よ、前方の川を。昨日の豪雨で山の水源地は氾濫はんらんし、濁流だくりゅうとうとうと下流に集まり、猛勢もうせい一挙に橋を破壊し、どうどうと響きひびをあげる激流が、こつばみじんに橋桁はしげたをはね飛ばしていた。彼は茫然と、立ちすくんだ。あちこちと眺め回し、また、声を限りに呼び立ててみたが、繫舟けいしゅうは残らず波にさらわれて影なく、渡し守の姿も見えない。流れはいよいよ、膨れ上がり、海のようになっている。メロスは川岸にうずくまり、男泣きに泣きながらゼウスに手を上げて哀願あいがんした。「ああ、鎮めたまえ、荒れ狂う流れを！ 時は刻々に過ぎていきます。太陽も既に真昼時です。あれが沈んでしまわぬうちに、王城に行き着くことができなかったら、あのよい友達が、私のために死ぬのです。」

濁流は、メロスの叫びをせせら笑うごとく、ますます激しく躍り狂う。波は波をのみ、巻き、あおり立て、そうして時は、刻一刻と消えていく。今はメロスも覚悟した。泳ぎきるよりほかにない。ああ、神々も照覧あれ！ 濁流にも負けぬ愛と誠の偉大な力を、今こそ發揮してみせる。メロスは、ざんぶと流れに飛び込み、百匹の大蛇のようにのた打ち荒

20

15

10

5

9 氾
ハン9 濫
ラン9 濁
ダク
にこる
にこず11 桁
けた14 狂
ギョウ
くるる
くるおしい12 守
もり19 誠
まこと

14 類 哀願

17 意 せせら笑う

12 繫舟

岸に繋がれた舟。

14 ゼウス

ギリシャ神話の最高神。

19 照覧

神がご覧になること。

熱狂

桁違い

川が濁る

濫用

氾濫

れ狂う波を相手に、必死の闘争を開始した。満身の力を腕に込めて、押し寄せ渦巻き引きずる流れを、なんのこれしきとかき分けかき分け、獅子奮迅の人の子の姿には、神も哀れと思っただか、ついに憐愍を垂れてくれた。押し流されつつも、みごと、対岸の樹木の幹に、すがりつくことができたのである。ありがたい。メロスは馬のように大きな胸震いを一つして、すぐにまた先を急いだ。一刻といえども、無駄にはできない。日は既に西に傾きかけている。ぜいぜい荒い呼吸をしながら峠を登り、登りきって、ほっとしたとき、突然、目の前に一隊の山賊が躍り出た。

「待て。」

「何をするのだ。私は日の沈まぬうちに王城へ行かなければならぬ。放せ。」

「どっこい放さぬ。持ち物全部を置いていけ。」

「私には命のほかには何もない。その、たった一つの命も、これから王にくれてやるのだ。」

「その、命が欲しいのだ。」

「さては、王の命令で、ここで私を待ち伏せしていたのだな。」

山賊たちは、ものも言わず一斉に棍棒を振り上げた。メロスはひよいと、体を折り曲げ、飛鳥のごとく身近の一人に襲いかかり、その棍棒を奪い取って、

「気の毒だが正義のためだ！」と猛然一撃、たちまち、三人を殴り倒し、残る者のひるむ隙に、さっさと走って峠を下った。一気に峠を駆け降りたが、さすがに疲労し、折から午後の灼熱の太陽がまともに、かっとな照ってきて、メロスは幾度となく目まいを感じ、これではならぬ、と気を取り直しては、よろよろ二、三步歩いて、ついに、がくりと膝を折った。立ち上がることができぬのだ。天を仰いで、悔し泣きに泣きだした。ああ、あ、濁流

20

15

10

5

20	16	14	7	6	4	2	1	16	3	2
仰	殴	斉	賊	峠	胴	迅	渦	類	憐愍	獅子奮迅
(ギョウ コウ ウ おおせ)	(オウ なぐる)	セイ	ゾク	とうげ	ドウ	ジン	ウサ (カ)	ひるむ	かわいそうに思うこと。	獅子のように力強く奮い立って物事に挑む様子。
信仰	横殴りの雨	斉唱	盗賊	峠道	胴体	迅速	渦潮			

を泳ぎきり、山賊を三人も撃ち倒し韋駄天、ここまで突破してきたメロスよ。真の勇者、

メロスよ。今、ここで、疲れきって動けなくなるとは情けない。愛する友は、おまえを信

じたばかりに、やがて殺されなければならぬ。おまえは、希代の不信の人間、まさしく王

の思うつぼだぞ、と自分を叱ってみるのだが、全身萎えて、もはや芋虫ほどにも前進かな

わぬ。路傍の草原にごろりと寝転がった。身体疲労すれば、精神もともにやられる。もう、

どうでもいいという、勇者に不似合いなふて腐れた根性が、心の隅に巣くった。私は、こ

れほど努力したのだ。約束を破る心は、みじんもなかった。神も照覧、私は精いっぱい

努めてきたのだ。動けなくなるまで走ってきたのだ。私は不信の徒ではない。ああ、でき

ることなら私の胸を断ち割って、真紅の心臓をお目にかけてたい。愛と信実の血液だけで動

いているこの心臓を見せてやりたい。けれども私は、このだいじなときに、精も根も尽き

たのだ。私は、よくよく不幸な男だ。私は、きつと笑われる。私の一家も笑われる。私は

友を欺いた。中途で倒れるのは、初めから何もしないのと同じことだ。ああ、もう、どう

でもいい。これが、私の定まった運命なのかもしれない。セリヌンティウスよ、許してく

れ。君は、いつでも私を信じた。私も君を、欺かなかった。私たちは、本当によい友と友

であったのだ。一度だって、暗い疑惑の雲を、お互い胸に宿したことはなかった。今だっ

て、君は私を無心に待っているだろう。ああ、待っているだろう。ありがとう、セリヌン

ティウス。よくも私を信じてくれた。それを思えば、たまらない。友と友の間の信実は、

この世でいちばん誇るべき宝なのだからな。セリヌンティウス、私は走ったのだ。君を欺

くつもりは、みじんもなかった。信じてくれ！ 私は急ぎに急いでここまで来たのだ。濁

流を突破した。山賊の囲みからも、するりと抜けて一気に峠を駆け降りてきたのだ。私だ

20

15

10

5

4 萎
イ
なえる

4 芋
いも

萎縮
芋づる式

9 紅
く

3 意
希代

4 文
思うつぼ

5 対
精神

6 文
巣くう

7 類
みじんも

15 類
疑惑

16 意
無心

1 韋駄天

仏法の守護神。速く走ることで知られている。ここでは、韋駄天のよ
うに、の意。



から、できたのだよ。ああ、このうえ、私に望みも
うな。放っておいてくれ。どうでも、いいのだ。私は
負けたのだ。だらしない。笑ってくれ。王は私に、
ちよつと遅れてこい、と耳打ちした。遅れたら、身代
わりを殺して、私を助けてくれると約束した。私は王
の卑劣を憎んだ。けれども、今になってみると、私は
王の言うままになっている。私は、遅れていくだろう。
王は、独り合点して私を笑い、そうして事もなく私を
放免するだろう。そうになったら、私は、死ぬよりつら
い。私は、永遠に裏切り者だ。地上で最も、不名誉の
人種だ。セリヌンティウスよ、私も死ぬぞ。君といっ
しよに死なせてくれ。君だけは私を信じてくれるにち
がいない。いや、それも私の、独りよがりか？ ああ、
もういっそ、悪徳者として生き延びてやろうか。村に
は私の家がある。羊もいる。妹夫婦は、まさか私を村
から追い出すようなことはしないだろう。正義だの、
信実だの、愛だの、考えてみれば、くだらない。人を
殺して自分が生きる。それが人間世界の定法ではな
かったか。ああ、何もかも、ばかばかしい。私は、醜
い裏切り者だ。どうとも、勝手にするがよい。やんぬ

20

15

10

5

9 免

(まぬかれる)

免許

6 卑

(いやしい)

卑屈

8 意 独り合点

20 やんぬるかな
今となってはしかたがない。18 定法
決まっているやり方。おきて。



るかな。——四肢^しを投げ出して、うとうと、まどろん
でしまった。

ふと耳に、せんせん、水の流れる音が聞こえた。そつ
と頭をもたげ、息をのんで耳を澄^すました。すぐ足もと
で、水が流れているらしい。よろよろ起き上がって、

見ると、岩の裂^さけ目からこんこんと、何か小さくささ
やきながら清水が湧き出ているのである。その泉に吸
い込まれるようにメロスは身をかめた。水を両手で
すくって、一口飲んだ。ほうと長いため息が出て、夢

から覚めたような気がした。歩ける。行こう。肉体の
疲労回復とともに、僅かながら希望が生まれた。義務
遂行^{すいこう}の希望である。我が身を殺して、名誉を守る希望
である。斜陽^{しゃやう}は赤い光を、木々の葉に投じ、葉も枝も

燃えるばかりに輝^{かがや}いている。日没までには、まだ間^まが
ある。私を、待っている人があるのだ。少しも疑わず、

静かに期待してくれている人があるのだ。私は、信じ
られている。私の命などは、問題ではない。死んでお
わび、などと気のいいことは言っておられぬ。私は、
信頼^{しんらい}に報いなければならぬ。今はただその一事だ。走

れ！メロス。

1 肢^し

選択肢^{せんたくし}

6 裂^{れつ}
さく
さける

決裂^{けつれつ}

12 遂^{すい}
とげる

志を遂げる^{こころをすい}

12 意^い 遂行^{すいこう}

1 四肢^し

手足。両手と両足。

3 せんせん

浅い水がよどみなく流れる様子。
また、その音。

私は信頼されている。私は信頼されている。先刻の、あの悪魔のささやきは、あれは夢だ。悪い夢だ。忘れてしまえ。五臓が疲れているときは、ふいとあんな悪い夢を見るものだ。メロス、おまえの恥ではない。やはり、おまえは真の勇者だ。再び立って走れるようになったではないか。ありがたい！ 私は、正義の士として死ぬことができるぞ。ああ、日が沈む。ずんずん沈む。待ってくれ、ゼウスよ。私は生まれたときから正直な男であった。正直な男のままにして死なせてください。

道行く人を押しのけ、はね飛ばし、メロスは黒い風のように走った。野原で酒宴の、その宴席の真ただ中を駆け抜け、酒宴の人たちを仰天させ、犬を蹴飛ばし、小川を飛び越え、少しづつ沈んでゆく太陽の、十倍も速く走った。一団の旅人とさっと擦れ違った瞬間、不吉な会話を小耳に挟んだ。「今頃は、あの男も、はりつけにかかっているよ。」ああ、その男、その男のために私は、今こんなに走っているのだ。その男を死なせてはならない。急げ、メロス。遅れてはならぬ。愛と誠の力を、今こそ知らせてやるがよい。風体なんかは、どうでもいい。メロスは、今は、ほとんど全裸体であった。呼吸もできず、二度、三度、口から血が噴き出た。見える。はるか向こうに小さく、シラクスの町の塔楼が見える。塔楼は、夕日を受けてきらきら光っている。

「ああ、メロス様。」うめくような声が、風とともに聞こえた。

「誰だ。」メロスは走りながら尋ねた。

「フィロストラトスでございます。あなたのお友達シリヌティウス様の弟子でございます。」その若い石工も、メロスの後について走りながら叫んだ。「もう、だめでございます。無駄でございます。走るの、やめてください。もう、あのかたをお助けになることはで

20

15

10

5

2 五臓

心臓・肝臓・肺・脾臓・腎臓のこと。転じて、全身のこと。

12 風体

外見上の様子。身なり。

14 塔楼

高くそびえる建物。塔。

10 文小耳に挟む

8 蹴

シユウ
ける

13 裸

ラ
はだか

一蹴
いっしゅう

まる裸
はだか

きません。」

「いや、まだ日は沈まぬ。」

「ちょうど今、あのかたが死刑になるところです。ああ、あなたは遅かった。お恨み申します。ほんの少し、もうちょっとでも、早かったなら！」

「いや、まだ日は沈まぬ。」メロスは胸の張り裂ける思いで、赤く大きい夕日ばかりを見つめていた。走るよりほかはない。

「やめてください。走るの、やめてください。今はご自分のお命がだいじです。あのかたは、あなたを信じておりました。刑場に引き出されても、平気でいました。王様が、さんざんあのかたをからかっても、メロスは来ます、とだけ答え、強い信念を持続けている様子でございました。」

「それだから、走るのだ。信じられているから走るのだ。間に合う、間に合わぬは問題ではないのだ。人の命も問題でないのだ。私は、何だか、もっと恐ろしく大きいもののために走っているのだ。ついてこい！ フィロストラトス。」

「ああ、あなたは気が狂ったか。それでは、うんと走るがいい。ひよっとしたら、間に合わぬものでもない。走るがいい。」

言うにや及ぶ。まだ日は沈まぬ。最後の死力を尽くして、メロスは走った。メロスの頭は、空っぽだ。何ひとつ考えていない。ただ、訳の分からぬ大きな力に引きずられて走った。日は、ゆらゆら地平線に没し、まさに最後の一片の残光も、消えようとしたとき、メロスは疾風のごとく刑場に突入した。間に合った。

「待て。その人を殺してはならぬ。メロスが帰ってきた。約束のとおり、今、帰ってきた。」

20

15

10

5

19 疾
シツ

18 片
・ヘン

14 類 ひよっとしたら

16 文 死力を尽くす

16 言 言うにや及ぶ
言う必要はない。

全力疾走
ぜんりょくしつそう



と大声で刑場の群衆に向かって叫んだつもりであったが、喉がつぶれてしわがれた声がかすかに出たばかり、群衆は、一人として彼の到着に気がつかない。既にはりつけの柱が高々と立てられ、縄を打たれたセリヌンティウスは、徐々につり上げられてゆく。メロスはそれを目撃して最後の勇、先刻、濁流を泳いだように群衆をかき分け、かき分け、

「私だ、刑吏！ 殺されるのは、私だ。メロスだ。彼を人質にした私は、ここにいる！」と、かすれた声で精いっぱい叫びながら、ついにはりつけ台に登り、つり上げられてゆく友の両足に、かじりついた。群衆は、どよめいた。あっぱれ。許せ、と口々にわめいた。セリヌンティウスの縄は、ほどかれたのである。

「セリヌンティウス。」メロスは目に涙を浮かべて言った。「私を殴れ。力いっばいに頬を殴れ。私は、途中で一度、悪い夢を見た。君がもし私を殴ってくれなかったら、私は君と抱擁する資格さえないのだ。殴れ。」

セリヌンティウスは、全てを察した様子でうなずき、刑場いっばいに鳴り響くほど音高くメロスの右頬を殴った。殴ってから優しくほほ笑み、

「メロス、私を殴れ。同じくらい音高く私の頬を殴れ。私はこの三日の間、たった一度だけ、ちらと君を疑った。生まれて、初めて君を疑った。君が私を殴ってくれなければ、私は君と抱擁できない。」

メロスは腕にうなりをつけてセリヌンティウスの頬を殴った。

「ありがとう、友よ。」二人同時に言い、ひしと抱き合い、それからうれし泣きにおいおい声を放って泣いた。

群衆の中からも、歔歔の音が聞こえた。暴君ディオニスは、群衆の背後から二人のさま

3 徐
ジヨ

11 擁
ヨウ

3 類
徐々に

11 意
抱擁

20 歔歔
すすり泣くこと。

徐行
じゆうこう

擁護
ようご



太宰 治

出典 「太宰治全集」

一九〇九「明治42」年〜一九四八「昭和23」年 青森県出身。小説家。
作品に「富嶽百景」「斜陽」「人間失格」などがある。

を、まじまじと見つめていたが、やがて静かに二人に近づき、顔を赤らめて、こう言った。
「おまえらの望みはなかったぞ。おまえらは、わしの心に勝ったのだ。信実とは、決して空虚な妄想ではなかった。どうか、わしをも仲間に入れてくれまいか。どうか、わしの願いを聞き入れて、おまえらの仲間の一人にしてほしい。」

どつと群衆の間に、歓声が起こった。

「万歳、王様万歳。」

一人の少女が、緋のマントをメロスにささげた。メロスは、まごついた。よき友は、気を利かせて教えてやった。

「メロス、君は、真っ裸じゃないか。早くそのマントを着るがいい。このかわいい娘さんは、メロスの裸体を、皆に見られるのが、たまらなく悔しいのだ。」

勇者は、ひどく赤面した。

絵・小平彩見

10

5



お伽草紙

太宰 治

太宰治の作品に親しもう

読書案内

3 妄 (モウ)

妄信

3 虚 (キョ)

虚構

11 文 赤面する

3 意 妄想

3 意 空虚

7 緋 鮮やかな赤



て

び

き

場面の展開や表現の仕方の工夫について話し合おう

[目標]

- 人物や情景の効果的な描写に着目して、作品を読み深める。
- 場面の展開や表現の仕方について、自分の考えをまとめる。

読み取る

① 冒頭からメロスが王城を出発するまでの場面(152・1・156・12)

で、メロスと王はそれぞれどのような人物として描かれているだろうか。二人の人物像を捉えよう。

② 濁流の場面(159・7・160・5)では、場面の緊迫感を表すため、表現の仕方にどのような工夫が見られるだろうか。

気づいたことを挙げてみよう。

③ 疲れて立ち上がれなくなる場面(160・17・163・2)では、冒頭の場面と比べて、メロスの考え方はどのように変化しているだろうか。

再び立ち上がって刑場に突入するまでの場面(163・3・165・19)で、走り続けるメロスの姿はどのように描かれているだろうか。また、走り続けることにどのような意味があると考えられるだろうか。

10

考えを深める

⑤ メロスとセリヌンティウスの再会の場面(165・20・168・11)

では、展開や表現の仕方にどのような工夫が見られ、どんな効果をあげているだろうか。話し合ってみよう。

例えば、最後の五行で「一人の少女」(168・7)が登場するという展開には、どんな効果があると考えられるだろうか。

[たすけ]

例えば、最後の五行で「一人の少女」(168・7)が登場する

言葉の力

人物像に着目する



- 登場人物の言葉や行動・態度などがどのように描かれているかに着目すると、その人物の人物像や考え方などの特徴、つまり人物像を捉えることができる。

- 人物の描かれ方にどのような意味があるのかを考えると、作品を深く読み味わうことができる。

25

20

15

↓ 171ページ



学びの扉 4

人物像を捉える

① 「走れメロス」には、喜怒哀楽を表す言葉が多く用いられている。例えば、書きだしは「メロスは激怒した。」(152頁)である。もしこれが「メロスは怒った。」だったら、どのように印象が変わるかを考えてみよう。また、「メロスは逆上した。」ではどうだろうか。

② 喜怒哀楽を表す言葉の一つに「笑う」がある。「笑う」に関する言葉を、「走れメロス」の文章中からも含めて、五つ以上書き出してみよう。

③ 次の、喜怒哀楽を表す言葉のリストに、一つ付け加えよう。

憤慨する 涙ぐむ 躍り上がる 笑い転げる
 目頭を押さえる 嘆く 相手を崩す 上気する
 怒り心頭に発する 肩を落とす ()

↓ 309ページ「言葉を広げよう」

次の傍線部の漢字を読んでみよう。

④ くちへん・くち(口)の漢字

1 深夜、王城に召された。
 2 人を呪わば穴二つ。
 3 警備の兵隊に威嚇される。
 4 翌日に耳鼻咽喉科へ行った。

⑤ 行為を表す漢字

1 三人を殴り倒し、峠を下った。
 2 友人を喜ばせようと心を砕く。
 3 権利を剝奪される。
 4 策を弄しても功を奏すまい。

21 嚇 カク
 20 呪 ジュ
 12 慨 ガイ
 12 憤 フン

威嚇 呪文 感慨に浸る 憤激

27 弄 ロウ
 26 剥(剥) ハク
 25 砕 サイ
 22 咽 イン

人の心を弄ぶ 皮を剥ぐ 粉碎 咽喉



学びの扉 4

人物像を捉える



学びを支える言葉の力 248 ページ

次の文章は、二人の中学生が公園で待ち合わせをしている場面を描いたものである。

遅刻

ベンチの脇にある時計台を見上げると、約束の時間を五分ほど過ぎていた。京子は少し眉をひそめると、手にしていた文庫本に視線を戻した。念のため、早めに家を出て、ここにはもう二十分ほど座っている。

ふと、京子が顔を上げると、公園の入り口付近に由実の姿が見えた。由実も京子に気づいたらしく、笑顔で手を振ると、悠々とした足取りで歩いてくる。

「京子、相変わらず早いねえ。」

その声を掛けてから由実時計台に目を向けると、「あれっ、私がちよつと遅かったの？」

と言って軽く頭をかき、目を細めて愉快そうに笑った。「せめて、慌てて走ってくるふりくらいしてよ。」

と京子は言って、ほほ笑んだ。

15

10

5

この文章から、京子はどんな人物だと考えられるだろうか。例えば、「念のため、早めに家を出て」という行動からは、約束の時間に遅れないようにしたいという、慎重な性格がうかがえる。

ほかにも、京子の言葉や行動・態度に着目すると、どんな人柄で、どんな考え方をしているのか、といった人物の特徴、つまり人物像が見えてくる。

京子は、約束の時間はきちんと守るべきだという意識が強いようだね。

それは、文章中のどんな表現からうかがえるかな。



25



考えよう

由実についても、文章中の表現に着目して、人物像を捉えてみよう。

30

20

類義語・対義語

類義語

㉗ 展望台にあがる。

㉗の「あがる」を「のぼる」に入れ替えても、表す事柄はほぼ同じである。「あがる」に対する「のぼる」のように、ある語と意味が似ている語を、その語の類義語という。

5

類義語の意味の違い

類義語どうしは、㉗のように置き換えられる場合があるが、意味が全く同じではないから、いつでも置き換えられるとは限らない。例えば次の㉘には「あがる」が、㉙には「のぼる」が入る。

10

- ㉘ 五階に（ ）。
- ㉙ 山に（ ）。



しかし、㉘・㉙で二つの語を入れ替えると不自然になり、よほど特別な場合を想定しない限り、置き換えはできない。

15

このように、類義語は文脈に応じて置き換えができたりできなかったりする。類義語どうしが文脈を問わずに完全に置き換えられることはめったにない。ただし、「夭折・夭逝」など、あまり使わない難しい語や、「おにぎり・おむすび」など一部の語には、完全に置き換えられそうなものもある。

20

21
逝
(いく) (せい)

急逝
(きゅうせい)

● 対義語

- ㊦ 大きいのも、() のもあつた。
 ㊧ 行きはバスで、() は電車だった。

㊦・㊧の「()」には、特に条件がなければ、それぞれ、「小さい」および「帰り」が入りそうである。「大きい」に対する「小さい」、「行き」に対する「帰り」のように、ある語と意味のうえで一般的に**対比**される語を、その語の**対義語**という。

● 対義語の種類

意味の対比にはいくつかの異なるタイプがある。

まず、二つのうち一方が成り立てば他方が成り立たないという関係での対比がある。例えば、「大きい」なら「小さい」ことはなく、「小さい」といえば「大きい」ことはない。このような対比は「行き」と「帰り」にも同じように見られる。

15

10

5

「貸し借り」という出来事は、一方から見れば「貸す」ことだが、他方から見れば「借りる」ことになる。「貸す・借りる」は、同じことを逆の立場から捉える対義語である。「上り坂・下り坂」「夫・妻」などもこのタイプの対義語である。

なお、「行き・帰り」は逆方向の出来事だが、互いに独立した別々の出来事であり、同じ出来事の異なる面を表す「貸す・借りる」とは異なるタイプの対義語である。

また、「脱ぐ」に対する「着る・履く・かぶる・羽織る」のように、一つの語に複数の対義語が対応することもある。「今日」についても、「明日」と「昨日」の二つが対義語になる。



30

25

20

29 脱

ダツ
ぬく
ぬける

だしゅつ
脱出



①

次の三つの語は互いに類義語である。どういう違いがあるのか、考えてみよう。

あした

あす

みょうにち

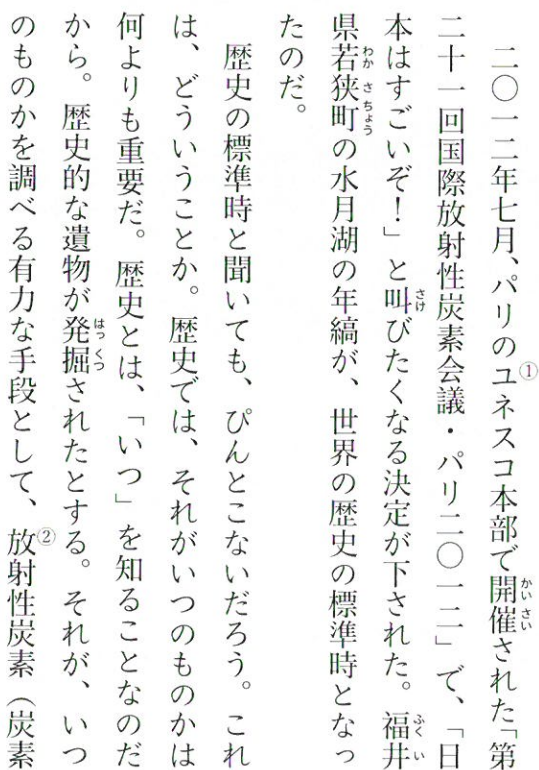
②

次のそれぞれの語の対義語は何か、考えてみよう。

姉

高い

山根一眞



14) の特別な性質を利用した年代測定が行われる。

大気中の二酸化炭素には、一定の割合で炭素14が含まれている。植物は光合成によって二酸化炭素を取り込んで、植物が光合成を続けている間は、植物内にも一定の割合で炭素14が存在し続ける。しかし、例えば落ちた葉では、光合成はもう行われないので、新たに炭素14が取り込まれることがなくなり、葉の中には生きていた間に取り込まれた炭素14だけが残る。この残された炭素14は、長い時間をかけてゆっくりと、きまった速さで減っていくことが分かっている。この性質を利用すれば、枯れ葉（古い時代では葉の化石）の中に残る炭素14の割合を調べることによって、落葉してから何年が経過したかが分かる。人間も動物も植物を食べているため、炭素14による年代測定は、人間や動物でも行うことができる。古代のミイラでも測定が可能なのである。

15

10

5

だが、この測定で得られるデータは正確ではなく、誤差がつきまとう。大気中の炭素14の割合はほぼ一定とはいっても、厳密には年ごとに僅かに変化しているからだ。そこで、できるだけ正確で長い歴史の物差しが求められてきた。それが、水月湖の年縞で得られたのだ。

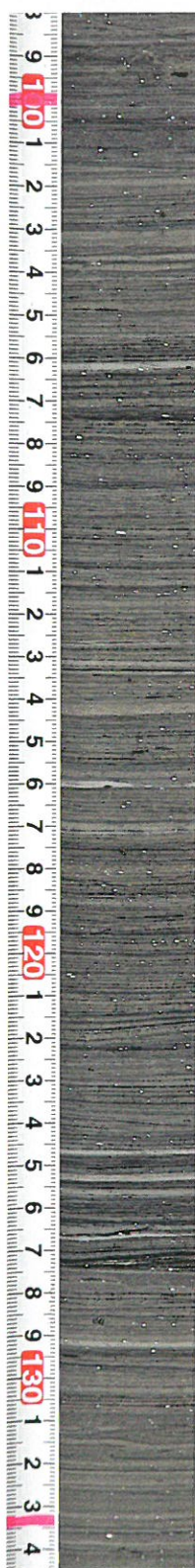
「年縞」。聞き慣れない言葉だ。樹木の年輪は、その輪の縞の一本が一年を意味していることはよく知られている。年輪の数を調べれば樹齢が分かる。夏は木の生長が速く、冬は生長が遅い。年輪の一つ一つの幅を調べれば、夏や冬の長さも分かる。この年輪に相当する縞が、実は湖沼の底の堆積層にも残されている。

静かで深い湖沼の底には、春、梅雨、夏、秋、晩秋、冬と、季節によって異なるさまざまなものが、そっと降り積もっている。植物の葉や花粉、植物プランクトンの死骸、周囲の山が浸食され流れ込んだ土壌、湖水に含ま

30

25

20



水月湖の年縞

れる鉱物質、飛来した黄砂^④など。黒っぽく見えるのは春から秋にかけて主として堆積する有機物^⑤、白っぽく見えるのは秋から冬にかけての粘土^⑥鉱物である。この黒と白の一组、僅か〇・五〜一ミリメートルの幅の縞が、一年分に当たる。この縞の数を上から勘定していけば、正確な年が分かるのだ。この、いわば泥^⑦が作る年輪を年縞とよぶ。

年縞が数万年にわたって連続して残っている湖沼は、世界でもごく僅か。その理想的な場所が日本にあったのだ。水月湖には、きれいに連続した年縞が四十五メートル、一年刻みで約七万年分も残っていたのである。

なぜ水月湖には、これほどきれいな年縞が残っていたのか。それは、いくつかの好条件が重なったことによる。

福井県若狭町を象徴する、日本海に面した美しい五つの湖からなる三方五湖^⑧。水月湖はその真ん中に位置する、海水と淡水が混じった汽水湖である。面積が四・一平方キロメートル、周囲が九・六キロメートルと、五湖の中で最も大きく、水深も最大で三十四メートルと深い。

水月湖は、周囲の湖とつながってはいるが、連絡部分が狭く、また直接流れ込む川がない。このため、数万年

にわたり土石流や鉄砲水のような激しい水の流入がほとんどなく、堆積物はかき乱されることなく静かに、静かに湖底に降り積もってきた。

また、湖底には摂氏四度の冷たく重い水が滞留していた時代が長く、湖底の水には酸素が極めて少ない。このため、湖底をかき乱す生物がほとんど生息していなかった。堆積物の保存には絶好の環境なのだ。

更なる好条件もあった。一般的な湖は、流入する堆積土によって一万年から三万年で埋まってしまう。ところが水月湖は、隣接する断層の影響で少しずつ湖底が沈み続けてきたため、土砂で埋まることなく深い水深を保ち、湖底の年縞も厚く保存されてきた。七万年分に及ぶ「奇跡の地層」は、こうして作り出されたのである。

では、水月湖の年縞が世界の歴史の物差しになるとは、どういうことか。ここでも、物に含まれる炭素14が鍵になる。

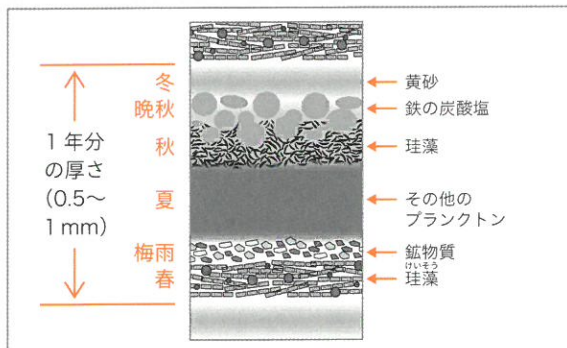
世界のどこかで発掘された遺物の炭素14の値が分かるとする。そこで、その値が水月湖の年縞の、どの縞の炭素14と一致するかを調べる。そして、その縞が上から何本目の縞かを勘定すれば、何年前かが正確に分かるの



年縞によって得られた物差しの部分



黒と白の一組が1年分に当たる



1年の間に降り積もる堆積物

だ。例えば、四万五千八百三十四年前だというふうに。

水月湖の年縞を使った年代測定の誤差は、四万五千年前のものでプラスマイナス八十四年、一万年前のものでプラスマイナス二十九年。これは、一日二十四時間に換算すると僅か二分四十一秒。以前の年代測定方法と比べて驚くほど高い精度なのである。

これまで、このような良質の物差しは、樹木の年輪から得られた、一万二千六百年前までのものしかなかった。ところが、水月湖の年縞によって、五万二千八百年前までの、完全な物差しが手にできたのである。これは、日本であれば旧石器時代から現在までの歴史の物差しを手にしたことを意味している。

例えば、日本最古とされてきたある縄文土器。これまでは、およそ一万六千九百年前、縄文時代の始まりの頃に作られたものだと考えられていた。しかし、年縞によって、一万六千六百五十二年前という、より正確な年代が割り出された。世界の歴史も、水月湖の年縞によって書き換えられることになるだろうと、大きな期待が寄せられている。

しかも、年縞からは「何年前か」を知ることがができる

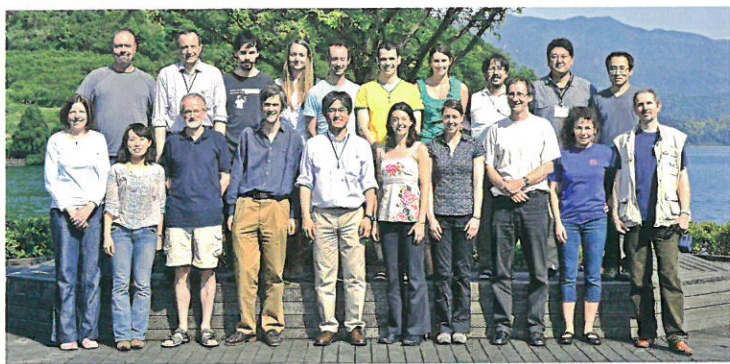
だけではない。縞の一本には年輪同様に、いや年輪以上にその年の膨大な情報が詰まっている。最大でも幅一ミリメートルの一年分の縞の中には、その年の四季おりおりの堆積物に加え、火山噴火による火山灰や津波によって運ばれた砂、大陸から飛来した黄砂も混じっている。地震や洪水の痕跡が残っていることも。これらの分析から、当時の地域の、世界の環境までもがありありと読み取れる。全ての縞の情報を読み取れば、過去五万年の環境の変化が、一年刻みで明らかになるはずだ。

実際、年縞を取り出すボーリング作業を指揮し、その分析で中心的な役割を果たした科学者の中川毅さんは、気候変動の研究が専門で、年縞に含まれる花粉を分析すること、過去の世界的な気候変動を説明しようとしている。また、年縞から過去に起こった地震の周期や規模を推定し、災害予測に応用しようという科学者もいる。年縞の多種多様な情報をもとに、分野の異なる科学者たちが、過去の地球のシナリオを描き未来に生かそうとする作業を発展させているのは、すばらしいことだ。

水月湖の年縞の存在が初めて確認されたのは、一九九

一年だった。一九九三年には最初の本格的な掘削が行われ、七十三メートル分の堆積層が掘り出されたが、技術的な問題もあり、完全に連続した年縞は得られなかった。しかし、こういった過去の作業を通じて、水月湖の湖底の下には十五万年にわたって堆積した七十三メートルもの泥の層があること、下部の二十八メートルには年縞はないが、上部の四十五メートル分の堆積層にはおよそ七万年分の年縞があることが明らかになっていた。

二〇〇六年の夏、予算が乏しい中、やっとこぎつけた第二回目の掘削には、中川毅さんを筆頭に国内外から多くの研究者が集まり、年縞の掘削と整理、分析の作業が国際プロジェクトとして開始された。掘削の際には、細い鉄パイプを湖底に差し入れ、それを引き抜いて堆積層を得るのだが、一気に四十五メートルの堆積層を掘り出すわけではない。きれいな年縞を得るため、細かく分けて少しずつ深い部分の堆積層を取り出していく。この二〇〇六年の掘削では、一〜二メートル単位で深さの異なる計百十七本の堆積層を取り出し、欠損部分を補い合うことで、一年の抜けもない完全に連続した七万年分の年縞をそろえることに成功した。一九九三年の第一回目の



上：水月湖の年縞調査国際チーム（前列左から5人目が中川毅さん）

右下：年縞を手にする中川さん（右）と筆者（左）

左下：取り出した年縞をチェックする中川さん

掘削から十三年目にして手にした成果だった。
しかし、年縞は取り出しただけでは物差しとして使えない。それをきちんと分析する必要がある。水月湖の年縞を歴史の物差しにするための気の遠くなるような作業が、いくつもの大学や研究機関の協力の下で始まった。

5

取り出した七万年分の年縞のうち年代を同定しなくてはならないのは、一万年前から五万年前までの約四万年分の縞だ。現在から約一万年前までの年代を知るための炭素14の値は、既に樹木の年輪で測定済みだったため、この四万年分の炭素14の値を得たかった。

もっとも炭素14の測定は、堆積層そのものでは行えない。測定には植物の葉の化石を使う。年縞には、数十センチメートルに一枚の割合で植物の葉の化石が挟まっている。この葉の化石千三百枚を絵筆やピンセットで丁寧に取り出し、これらの炭素14を測定したのである。年縞を取り出した翌年の二〇〇七年に葉の化石を拾い出す作業に着手、並行して炭素14の測定も始まった。全てのデータがそろったのは二〇一一年初頭のことで、最終的には、千三百枚の葉の化石のうち、六百枚分の炭素14の値を得ることに成功した。炭素14で年代が測定できたのは植物の葉の化石があった部分のみなので年代は飛び飛びだが、水月湖で得た年縞は完全に連続しているため、縞の数を勘定すれば、炭素14を測定していない部分でも物差しに正確な目盛りが付けられるのである。

炭素14の測定とともに容易ではないのが、縞を数える

25

20

15

10

作業だった。一年あたり〇・五〜一ミリメートルというごくごく細かい縞を一本一本、数万本にわたり正確に数えるという気絶するほどたいへんな仕事だったが、ドイツとイギリスの研究者が根気よく続けてくれた。この縞数えは、正確を期するため四回に及んだが、顕微鏡をのぞきながら勘定する作業では一日に十〜十五センチメートルしかこなせないため、五年という歳月が費やされた。

5

こうして、年縞の最初の発見から実に二十一年後の二〇一二年七月、水月湖の年縞は、考古学や地質学、地球の環境の推移を知る研究において欠かせない、世界標準の「歴史の物差し」となったのである。

10

長い間ほとんど知られることがなかった水月湖の年縞は、今や日本のみならず世界に広く知られるようになった。この日本産の年縞の掘削、整理、縞数え、そして炭素14の測定には多くのヨーロッパの研究者たちも携わったが、長期にわたる困難なプロジェクトを計画立案し、推進してきたのは日本人研究者なのである。また、日本人研究者たちが一九九〇年代から蓄積してきた、世界でも先進的な水月湖の年縞研究の成果があったからこそ、

15

二〇〇六年の年縞プロジェクトは成功を手にできた。

すごいのは水月湖の年縞だけではない。彼らの活躍なしに、この偉業は成し遂げられなかったのである。

20



山根一眞

一九四七〔昭和22〕年、東京都出身。ノンフィクション作家。

著書に「メタルカラーの時代」「小惑星探査機 はやぶさの大冒険」などがある。

出典 本書のための書き下ろし

〇 水月湖の「年縞」について、分かったことや調べてみたいことを話し合ってみよう。

注

▼ 174 ページ

① ユネスコ

国際連合の専門機関の一つ。教育・科学・文化を通じて国際理解や国際協力を推進し、世界の平和と人類の福祉に貢献することを目的とする。フランスのパリに本部がある。

② 放射性炭素(炭素14)

放射能を持つ炭素。炭素のほとんどは炭素12から成り、ほかに炭素13とごく微量の炭素14がある。炭素14は、放射線を放出して、約五千七百三十年で半減する。炭素14は宇宙から飛来する宇宙線によって、高度十〜五十キロメートルの成層圏で作られる。

▼ 175 ページ

③ プランクトン

水中を浮遊する生物の総称。大きさは微小なものが多い。動物プランクトンと、珪藻類などの植物プランクトンとに区別される。

▼ 176 ページ

④ 黄砂

内陸アジアの砂漠地帯から偏西風によって運ばれる、細かい砂。春先に日本にしばしば飛来し、その影響は北半球全域に及ぶ。水月湖の年縞では、春先ではなく冬の部分に見られるという観察結果がある。冬に飛来する量は春に比べて少ないが、冬には湖底に堆積するものが少ないため黄砂が目立つのではないという推測もあるが、科学的には未解明である。

⑤ 有機物

炭素を主な成分とする物質。主として動物の組織の中に見られる。

⑥ 粘土鉱物

粘土の主成分となる鉱物。年縞では白っぽく見える。

⑦ 断層

岩盤に力が加わって割れ目ができ、その両側が移動してずれを生じたもの。

▼ 177 ページ

⑧ 五万二千八百年前

掘り出した年縞は約七万年前までであったが、放射性炭素による年代測定は五万二千八百年前までが限界で、それより古い年代は測定が難しい。

⑨ 旧石器時代

人類の歴史を区分する際、石器を主要な道具としていた時代を石

新出漢字

▼ 174 ページ

1 催 サイ
もよおす

▼ 175 ページ

24 幅 フク
はば

26 堆 タイ
たい

30 骸 ガイ
がい

30 浸 シン
ひたす

▼ 176 ページ

5 勘 カン
かん

19 絡 ラク
(からまる)

21 砲 ハウ
ほう

24 撰 セン
せん

24 滯 タイ
どとどおる

32 奇 キ
き

30 致 チ
いたす

1 黄 コウ
こう

▼ 178 ページ

2 膨 ボウ
ふくらむ

4 津 シン
つ

▼ 179 ページ

17 並 ヘイ
へい

▼ 180 ページ

7 費 ツイヤス
ついでる

撰取

大砲

脈絡

勘違い

水浸し

骸骨

堆肥

全幅

催し物

人類・激動の10万年史

地球史研究会



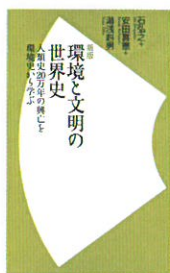
歴史は未来をつくり出すための情報の宝庫です。結論からいえば、過去の人間の生き方を通して未来の人間の歩む道を探ることが、歴史を学ぶこと、考古学なんです。

(45ページより)

紀元前の世界から民族大移動、文明の興亡、大航海時代、産業革命、世界大戦、冷戦の時代……。人類十万年の足跡を、地図をたどりながらグローバルに見つめ直す。現代社会が抱える問題点とのつながりも分かりやすく解説する。

環境と文明の世界史

石弘之／安田喜憲／湯浅起男



将来は破局しかないのかもしれないし、少しでも破局を先延ばしにできるのかもしれない。少なくとも過去に学ばないものには将来はないわけです。

(263ページより)

栄光を極めた古代文明がなぜ滅びてしまったのか。日本における農耕はいつ何をきっかけに始まったのか。環境学・環境考古学・比較文明論の研究者三人が、環境史の視点から文明の起源に迫り、人類の未来を問いかける。

考古学の挑戦

阿部芳郎・編著



失敗や成功、または仮説の組み立てと検証のあらゆる場面に人は立ち会い、考古学とはその中でヒトの過去の営みに光を当てる科学として発達してきたのである。

(234ページより)

文字に残されていない、過去の人類の営みを復元する考古学は、今、さまざまな分野の学問とつながりを持ち、新たな事実を解明しようとしている。六人の研究者が、考古学のおもしろさ、科学としての裾野の広さを紹介する。

面白くて眠れなくなる地学

左巻健男・編著



「お空の上のほうは太陽に近いのに、どうして寒いのか？」
幼い子どもにこんな質問をされたら、あなたはどうか答えますか？

(136ページより)

「地学」とひと口に言うけれど、その内容は、火山や地震、化石に岩石・鉱物、気候変動、宇宙など、ダイナミックで幅広い。感動する理科、心を豊かにする理科を目指す著者が紹介する、地学につまづくとっておきのお話。

地球はどうやってできたのか？

鳥海光弘

今、多くの科学者が注目する地球の謎。



わたしが暮らす地球は、いつ、どのように誕生したのか。いまだに謎の多い地球の仕組みを、地震、環境、エネルギーなど社会が抱える問題につなげて考える。

生命とは何だろう？

長沼毅

人間の起源から現在、そして未来への可能性。



人間はどこから来てどこへ行くのか。生命の起源から地球上に現れた生物の進化、多様化の歴史をたどり、これからの私たち人間の在り方を考える。

ダチョウの卵で、人類を救います

塚本康浩

生命力あふれるダチョウの不思議なパワー。



強じんな体、並外れた回復力を持つダチョウの抗体が、人々を悩ませる病気や症状を防いでくれる。鳥好きの著者のダチョウ研究が、社会に役立つ商品を生み出した。

脳はなにかと言いつつ

池谷裕二

無意識の大海原でこそ、脳は活動している。



日常生活を送る中で、私たちが気づかぬうちに脳が実行していることはたくさんある。海馬の研究者が説き明かす、今まで知らなかった脳の仕組みと働き。

ミドリムシ大活躍！

石川憲二

無限の可能性を持った生物、ミドリムシ。



植物なのか動物なのか、はっきりしないからこそ利用価値がある。先進のミドリムシ・藻類バイオマス研究をどのように応用し、実用化していくかを探る。

科学の考え方・学び方

池内了

科学的に考えるって、どういうこと？



宇宙物理学者の著者が、地下鉄サリン事件、薬害エイズ問題など、科学に関連する事件や事故を例に、社会と科学との関係、科学を学ぶ意義を易しく説く。

「岩宿」の発見 幻の旧石器を求めて

相沢忠洋

厚い赤土層に残されていた、未知の石器文化。



古代の遺物に魅せられた相沢青年は、行商の傍らひとり発掘を続け、関東ローム層の赤土の中から石器を発見する。読み継がれている日本人考古学者の自伝。

世界史を変えた50の機械

エリック・シャリーン

機械は私たちに何をもたらしたのか。



科学技術が社会や生活を劇的に変えてしまうこともある。織機から自動車、パソコン、携帯電話まで、人類に大きな影響を与えてきた機械の発明を、図説でたどる。

シェイクスピア名言集

小田島雄志

研ぎ澄まされた一言は、時代を超える。



「どんな荒れ狂う嵐の日にも時間はたつのだ」「おまえもか、ブルータス」。人生の真実をえぐるせりふの数々。

ニルスの不しぎな旅

セルマ・ラーゲルレーヴ

物語でスウェーデンを旅しよう。

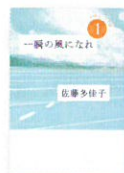


小人にされたニルスは、ガチョウやガンと空に旅立つ。途中、仲間のガンを救い、小さな動物を守るうちに、ニルスは変わっていく。

一瞬の風になれ

佐藤多佳子

速くなる。ただそれだけを目指して。



新二はサッカーをやめ、短距離走者の道を進むことになった。信じ合える仲間、強いライバル……躍動感あふれるスポーツ小説。

黒い兄弟

リザ・テツナー

逃げる故郷へ。親友の死を無駄にするな。



十九世紀、スイスの山村の少年たちは、ミラノの煙突掃除の親方に売られた。地獄のような生活から逃げ出した彼らに追っ手が迫る。

早雲の軍配者

富樫倫太郎

戦国時代、優秀な軍配者が戦の勝敗を決めた。



小太郎は北条早雲に見込まれ、足利学校で兵法を学ぶ。敵に囲まれた中で、小太郎が考えた奇策とは。テンポのよい時代小説。

負けないパティシエガール

ジョーン・パウアー

読んだら、甘いカップケーキが食べなくなる。



パティシエになることを夢見る少女、フォスター。毎日はお菓子のようになんか甘くはないけれど、彼女はひたむきに困難に立ち向かう。

西の魔女が死んだ

梨木香歩

「何でも自分で決めること」が約束だった。



中学校になじめず、祖母の家で暮らすことになったまい。素朴な暮らしの中で、祖母は代々備わる不思議な力をまいに伝える。

からだと心の対話術

近藤良平

体はポジティブになりたがっている。



人とコミュニケーションをとるためには、まず体を「調子に乗らせ」よう。異色のダンサー・振付師による、自分再生術。

卒業生最後の一人が門を出て二歩バックしてまた出ていった

千葉 聡



写真・夏生かれん

7

効果的に表現する



読む〈言葉とメディア〉

「正しい」言葉は
信じられるか



書く〈情報発信〉

タウン誌の記事を推敲しよう



学ぶの扉 反論する



話す・聞く〈話し合う〉

話し合いで問題を検討しよう
リンクマップによる話し合い



書く〈感性・創造〉

■ 学びの扉 想像を誘うように表現する
いきいきと描き出そう
短歌から始まる物語

◆ 漢字道場 同音異義語



「正しい」言葉は信じられるか

香西秀信こうさい ひでのぶ



ここに一枚の写真がある。二匹ふたひきの動物が写っているが、これを言葉で表現すると、何と何が写っていると云えばいいのだろうか。AさんとBさんが、それぞれ次のような言葉で表現した。

【Aさん】 犬と猫ねこが写っている。

【Bさん】 猫と犬が写っている。

AさんもBさんも同一の写真を見ている。しかし、その写真に写っているものを言葉で表現すると、写真の中にいる動物を登場させる順序が逆になっている。では、Aさん、Bさんのうち、どちらの表現が正しいのだろうか。これは言うまでもなく、両方とも正しいのである。なぜなら、元の写真では、二匹の動物は順序をつけて写っ

ているのではないからだ。

映像表現では、少なくとも一つの場面においては、そこに描かれた情報は全て同時に示される。だが、言語表現の場合は違う。そこでは、情報は一つ一つ、順序をつけてでしか提示できない。したがって、今の問題のように、写真に写っているものを言葉で表現しようとすれば、もともと同時に示されていた情報を、どちらかを先に、どちらかを後にして表現しなければならない。そして、映像表現に限らず、我々の現実生活を言葉で表現しようとしても、同様に、本来順序のついていない情報に順序をつける必要が生じる。

しかし、問題は、言葉による表現が、もともと順序のついていないものに順序をつけてしまうということそのものにあるのではない。それによって、ときとして、元の事実とは何の関係もない、ある効果が生じてしまうことである。これが、先のような例であれば、「犬と猫」と表現しても、「猫と犬」と表現しても、そこに大きな違いはない。だが、次の二つの新聞記事を読み比べてみよう。ある河川の、護岸工事についての記事である。

【A新聞】

〇〇川の堤防をコンクリートで固めたことで、付近の住民を長年苦しめてきた洪水の被害は少なくなった。だがこの工事によって、自然の景観や水辺の動植物の生態系が壊されたのである。

【B新聞】

〇〇川の堤防をコンクリートで固めたことで、自然の景観や水辺の動植物の生態系は壊された。だがこの工事によって、付近の住民を長年苦しめてきた洪水の被害が少なくなったのである。

A新聞もB新聞も、与えている情報はほぼ同じである。しかし、二つの記事が読み手に与える印象はかなり異なる。A新聞からは、工事に対して否定的な印象が与えられるが、B新聞からは、逆に肯定的な印象が与えられる。何かについて「よいこと」と「悪いこと」が並べられたとき、たいていは後に置かれたほうが強調されてしまうからである。だが、そうであっても、この場合、どちらかの新聞が正しく、どちらかが間違っているということにはならない。事実に誤りがなければ、どちらの新聞も

正しいことを述べているのである。

このように、言葉による表現には、読み手に与える印象が大きく異なるにもかかわらず、どちらも「正しい」——間違いではない——ということがある。これについて、もう一つ別の問題を取り上げてみたい。

先の新聞記事で、河川の工事が水辺の動植物の生態系を「壊した」ことが書かれていた。だが、この「壊した」という事実は、「壊した」以外の言葉を使って表現することも可能である。例えば、次の二つの表現を見てみよう。

【A】

この工事によって、動植物の生態系を破壊した。

【B】

この工事によって、動植物の生態系に影響を与えた。

Aの「破壊した」は、「壊した」と意味は似ているが、漢語表現であるだけに、和語である「壊した」より強い感じのする言葉である。これに対し、B「影響を与えた」では、動植物の生態系に起きた事実が曖昧になり、「壊

15

10

5

した」よりも衝撃度は弱まる。だが、生態系を「壊した」

ことは、生態系に「影響を与えた」ことにほかならないのであるから、こう表現することも決して間違いとはいえない。つまり、事実と言葉とは一対一の関係にあるのではなく、同一の事実を、語感の異なる、複数の「正しい」言葉によって表現することが可能である。したがって、人は、うそをつくことなく、自分にとって都合のいい表現を選び出すことができる。環境保護を重視する人々は、恐らく「生態系を破壊した」と表現するほうを好むだろう。一方、工事を推し進めた側の人間なら、あるいは「生態系に影響を与えた」という表現を選ぶかもしれない。そしてどちらの表現も、そこで起きた事実を記述するものとして、決して間違っているはいない。

更に別の例を見てみたい。これも新聞の記事である。ある大臣と、その大臣に批判的な人たちについて、次のような報道がなされた。

【A新聞】

〇〇大臣を取り囲んだ市民から、多くの質問や疑問の声があがったが、大臣はそれを平然と無視した。

35

30

25

20

【B新聞】

〇〇大臣を取り囲んだ群衆から、多くの罵声ばせいが浴びせられたが、大臣は冷静さを失わなかった。

これについて、例えば、大臣を取り囲んだ人々が発したのは「質問」なのか「罵声」なのか、どちらが事実か、と問うことは意味がない。事実は単に事実であり、言葉

5

を伴ともなって存在しているわけではない。書き手が、その事実を表現するために、ある言葉を選んだのである。誰か

誰か

が、自分の意見を、疑問文の形で大声でわめいたとき、

10

それを「質問」と表現しても、「罵声」と表現しても、どちらも間違いではない。ただ、私たちわたしは、どちらの新聞を読むかによって、ここで起きた事件に対して異なった印象を持つことになる。

人間の性格などを表す言葉では、言葉の選び方によって、長所を短所に表現したり、短所を長所に表現したり

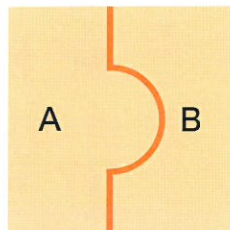
15

することも可能となる。例えば、「陰気いんきな」人は「もの

静かな」人と言ってもいい。「地味ひどがらな」人柄は「落ち着いた

いた」人柄であり、「おせっかい」は「世話好き」である。

人間の性格は、それを表現する言葉と本来的に結び付き



ているものではなく、見方によって長所になったり短所になったりする。これは、ちょうど上の図形が、Aから見れば「へこんでいる」が、Bからは「突き出ている」ように見えるのと同じである。

25

したがって、ある人物について明らかに異なった評価がなされたとき、どちらかが正しくどちらかが間違っている

と簡単に考えてはいけない。両方とも「正しい」

——間違いではない——場合もありうるのである。例によって、二つの新聞記事を比較してみよう。

30

【A新聞】

（某氏の性格について）——頑固がんこで、柔軟性じゅうなんせいに欠け、融通ゆうづうが利きかない。自分の思いどおりに振る舞い、周囲の意見に耳を傾かたむけない。

【B新聞】

（某氏の性格について）——意志が強く、いちずな性格で、曲がったことが嫌い。自分の信念を貫つらぬき、他人の意見に流されない。

35

私たちは、日常生活の中で、うそや誤りを警戒し、そういうものにだまされないよう用心する。だが、人だますのは、うそや誤りだけではない。「正しいこと」——間違いではないこと——も、ときには人をだまし、欺くのである。ここでは二つの新聞記事を比較したが、

5

そのうちの片方だけを読み、そこに書かれていることをそのまま「事実」だと信じ込んだとき、その人は「正しいこと」にだまされているかもしれない。そうならないためにも、私たちは、言葉の持つ性質——事実と言葉との関係——をしっかりと理解し、物事を複数の視点から眺める習慣を身につけなければならない。

10



香西秀信

一九五八「昭和33」年〃二〇一三「平成25」年 香川県出身。修辞学者。
著書に「反論の技術——その意義と訓練方法」「論より詭弁——反論的思考のすすめ」などがある。
出典 本書のための書き下ろし

新出漢字

22 洪 コウ
コウ
洪積世
21 堤 テイ
つみ
堤

33 肯 コウ
しん
首肯
28 推 オウ
おす
●
19 衝 ショウ
ウ
衝突

32 某 ボウ
ボウ
某所
7 伴 ハン
ともなう
同伴
2 罵 バ
ののしる
罵る

32 軟 ナン
やわらか
軟らか
33 融 ユウ
ユウ
融合
1 戒 カイ
いましめる
戒め

5 欺 ギ
あざむく
詐欺



読み取る

① 筆者は、同じ事実を「正しい」言葉で伝えている二つの新聞記事が、読み手に異なる印象を与えることがあると述べている。筆者は、「正しい」言葉の何が印象の違いを生むと言っているだろうか。

② 188ページのA新聞とB新聞（188頁～189頁）の印象の違いについて、筆者は「質問」と「罵声」という語句を取り上げて説明している。A新聞とB新聞に見られる、これ以外の語句の違いを探し、それぞれの語句がどのような印象を生んでいるかを考えよう。



10

5

【目標】 新聞記事を読み比べて、印象の違いについて話し合おう

- 事実の述べ方による、読み手に与える印象の違いについて考える。

考えを深める

③ 次の新聞記事を読んで、考えよう。

【A新聞】

月が太陽を完全に覆い隠す皆既日食が22日午前、日本の陸地で46年ぶりに鹿児島県の奄美大島やトカラ列島の悪石島などで起きた。多くの天文ファンが待ち受けたが、曇りや雨の空模様。太陽が隠れて夜のような暗さになったものの、実際の皆既日食の観測は、東京都の硫黄島などを除き、できないところが多かった。①太陽の一部が欠ける部分日食は名古屋や福岡など各地で観測された。

(1) ①について、別の新聞では次のように書かれている。読み比べて、印象の違いとその理由を話し合おう。

【B新聞】

人の住む陸地としては最も長い時間、皆既状態が続いたトカラ列島の悪石島などでは、厚い雲のため地上からは直接観測できなかったが、皆既時間帯には真夜中のような闇につつまれ、集結した天文ファンから歓声が上がった。

30

25

20

15

日本列島も曇りがちで、部分日食が観測できたのは沖縄、九州北部、関東北部、北海道などの一部地域に限られた。

言葉の力

事実と言葉の関係を意識する



- 一つの事実を、さまざまな言語表現によって言い表すことができる。
- 文の順序や言葉の選び方によって、読み手に与える印象が異なってくる。



皆既日食 46年ぶり



10:19 ▲ 10:46 ▲ 10:48 ▲

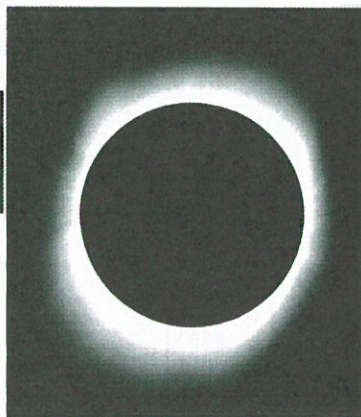
◎右から欠け始める太陽（特殊フィルター使用）
 ◎左側自食になる直前のダイヤモンドリング◎直前
 日食の太陽（22日、いずれも鹿児島県・奄美大島西
 方の奥シナ海上空で。本社機から）⇒1分1秒～撮影

トカラ列島は厚い雲

[illegible]

国内で諸国と交易する地域は離島に限ら

厚い雲

[illegible][illegible]

与野党ます組

携帯回収進まず

[illegible]



書く〈情報発信〉

タウン誌の記事を推敲しよう

【目標】

- 構成や表現の効果について考えて、文章を推敲する。

1 原稿を読んで検討する

下は、漁業の盛んなみさき町の中学生が、タウン誌の作成にあたって、取材して下書きした原稿である。

読み手であるみさき町の人々に、より分かりやすく、より興味を持ってもらえる文章にするには、どのように書き直したらよいだろうか。みんなで検討してみよう。



下書きした原稿

ネコが集まる金毘羅宮

海の守り神をまつた金毘羅宮という神社が、海岸沿いのみさき公園の中にある。この神社は、昔から夕方になるとネコがたくさん集まることで知られている。

ネコたちは昼間、路地を歩き、町の人たちの話を聞いて回っているようだ。例えば、今日はアジが大漁だったとか、漁師の田中さんの家に子供が生まれたとか……。夕方ネコたちは、昼間集めた話を、金毘羅宮の神様に報告するために集まる。すると神様は、子供が生まれたお祝いに、明日は田中さんの家にタビを釣らせよう、などと翌日の漁のぐあいや天気を決めるのだそうだ。

この話をしてくれたのは、金毘羅宮の近くに住み、大相撲が大好きだというなぎさおばあちゃんである。

身近な地域に住む人々を対象に、話題の場所や食べ物、催し物、地域で活躍する人など、生活に密着した内容を伝える情報誌を、タウン誌とよぶ。タウン誌の記事を推敲することを通して、文章の構成や表現の効果について考えよう。

2 推敲のポイントを確認める

下は、①の原稿を推敲して書き直したものである。内容を魅力的に伝えるために、どのような修正、工夫が施されているだろうか。気づいた点について話し合い、推敲のポイントを確かめよう。



言葉の力

より効果的に伝わるように推敲する



- 読み手や目的を考えて、不要な情報は削除する。
- 順序を入れ替えたほうがよいところはないかを検討する。
- 興味をひく書きだし、言葉の選び方、臨場感のある描写、会話文の使用、文末表現の仕方など、表現を工夫する。
- 読み手の興味・関心をひく見出しを付ける。

推敲後の原稿

ネコ集会は神様への報告会

みさき公園にある、海の守り神をまつた金毘羅宮に行ったことがあるだろうか。この神社には、夕方になるとなぜかネコたちがたくさん集まってくる。近くに住むなぎさおばあちゃん、この不思議な「ネコ集会」の秘密を教えてください。

ネコたちは昼間、路地を歩き、町の人たちの話を聞いて回る。今日はアジが大漁だったとか、田中さんの家に子供が生まれたとか……。夕方、ネコたちは金毘羅宮に集まり、聞いた話を神様に報告する。神様はそれを聞いて、翌日の天気や漁のぐあいを決める。「田中さんの家に子供が生まれたか。めでたい。お祝いに、大きなタイを捕らせてやろう。」といったふうに。ネコ集会上にこんな秘密があったとは……。あなたのそばでも、ネコたちが聞き耳を立てているかもしれない。

例えば、「ネコが集まる」ことを「ネコ集会」と言い換えている。「何だろう」と思って読んでみたくなるよね。



3

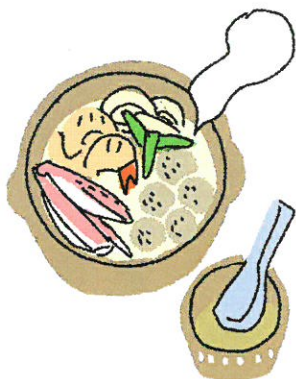
記事を推敲する

②で学んだ推敲のポイントを参考にして、下の原稿を推敲して書き直し、みさき町の人々に「海鮮だんご汁」の魅力がよりよく伝わるようにしよう。

4

読み合う

グループになって推敲したものを読み合い、書き直された点について、どのような効果が生まれているかなどを話し合おう。



▼ 下書きした原稿

みさき 峠茶屋の海鮮だんご汁

みさき峠茶屋は、町の中心から二キロほど離れた、海がよく見えるみさき峠にある。ここのだんご汁がおいしいと聞き、峠の茶屋に行ってみた。

峠から見える海の景色を楽しんだ後で、だんご汁を注文すると、土鍋で運ばれてきた。すぐに海産物を煮た匂いがした。蓋を取るとカニとエビ、イカなどが美しい。スープをいただくと、魚介のだしが効いていた。魚のすり身のだんごはひと口サイズで腰があり、カニやエビとのバランスがいい。ほかにみさき町で捕れる海産物がたくさん入っていた。

みさき町を訪れた観光客に、「みさき町で何がよかったか」というアンケート調査を行った。その結果、意外にも「みさき峠茶屋の海鮮だんご汁」が、観光名所に交じって三位に入った。それが十分納得できる味だったが、値段は千二百円と、やや高い。まだ食べたことのない人は、ぜひ味わっていただきたい。

おいしさや見た目の美しさが、もっており
ありと伝わってくるようにしたいね。ほかに
もいろいろ工夫ができそうだな。





友達と議論すると、いつも口げんか
みたいになっちゃうんだ。



京子 運動会は勝敗を決めないほうがいいと思う。
詩織 そんなことないよ。勝敗があったほうがいいよ。

こんなふうに、単に相手の考えを否定するだけでは**反論**
にならない。上手に反論する仕方を学ぼう。

自分の考えを言うときには、なぜそう考えるのか、**根拠**
も示さなければいけない。根拠なしに主張された考えは、**独断的**
といわれる。この二人のやりとりは、このままでは
独断的に考えを言い合うだけになってしまっている。

それでは、次はどうだろうか。正太さんと高志さんは「ド
ラえもん」の主役が誰なのかにについて議論している。

正太 「ドラえもん」の主役はもちろんドラえもんだ
よ。タイトルが「ドラえもん」なんだから。

10

5

高志 のび太だよ。のび太のほうがおもしろいもの。
正太 「ドラえもん」っていう漫画の主役がドラえも
んじゃなくてどうするのさ。

高志 でも、僕は絶対のび太だと思うな。
正太 僕は絶対ドラえもん。

根拠を示して考えを言っているし、
いいんじゃないかな。

でも、やっぱり最後は互いの考えの
言い合いになってしまっているよね。



このように、互いに自分の考えを言い合うだけのやりと
りを、**水かけ論**という。

 **考えよう**

高志さんの立場に立って、正太さんへの反論を考えてみよう。

25

20

15





話す・聞く〈話し合う〉

話し合いで問題を検討しよう リンクマップによる話し合い

【目標】

- さまざまなメディアを使って討論のテーマを決め、メリットとデメリットを出し合う。
- テーマについて話し合って検討し、意見をまとめる。

あるテーマをめぐって賛成・反対の意見が存在する場合、水かけ論にならないようにするためには、メリット（利点）とデメリット（問題点）を出し合い、それらについてよく検討する必要がある。「リンクマップ」はそのための方法であり、参加者一人一人が、他者の考えに触れ、自分の考えを広げていくことができる。リンクマップの作り方、それによる話し合いの仕方を学ぼう。

❖ 学習の流れ（例）

学びの扉 5

反論する

（②③で生かそう）

リンクマップによる話し合い

① 討論のテーマを決め、メリットとデメリットを書き出す

言葉の力

② リンクマップを完成させる

③ 更に話し合って意見をまとめる

言葉の力

学習を振り返ろう



討論のテーマを決め、メリットとデメリットを書き出す

テレビや新聞などで取り上げられているさまざまな話題の中から、自分たちの問題として考えられそうなものを選び、討論のテーマ(「……するべきか。」)を決めよう。

テーマを決めたら、四〜六名のグループを作り、グループ内で、それを実施した場合に生じそうなメリットとデメリットを出し合って、下のように模造紙に書き出そう。

言葉の力

テーマを決め、メリットとデメリットを出し合う



- さまざまなメディアを使って話題を見つける。
- 見つけた話題をもとに、多様な見方ができるか、参考にできる事例を探せるかなどに注意して、討論のテーマを決める。
- 実施した場合に生じると考えられるメリットとデメリットをなるべく多く出し合う。メディアの情報を参考にしてもよい。

↓ 298ページ「話すこと・書くこと 題材例」

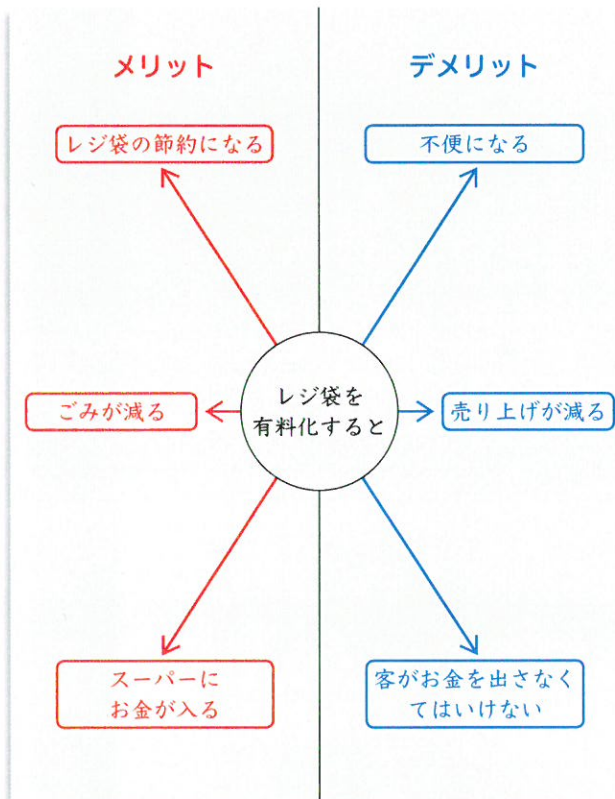
さまざまな話題

- 十五歳選挙権
- 救急車の有料化
- 国会一院制
- レジ袋の有料化

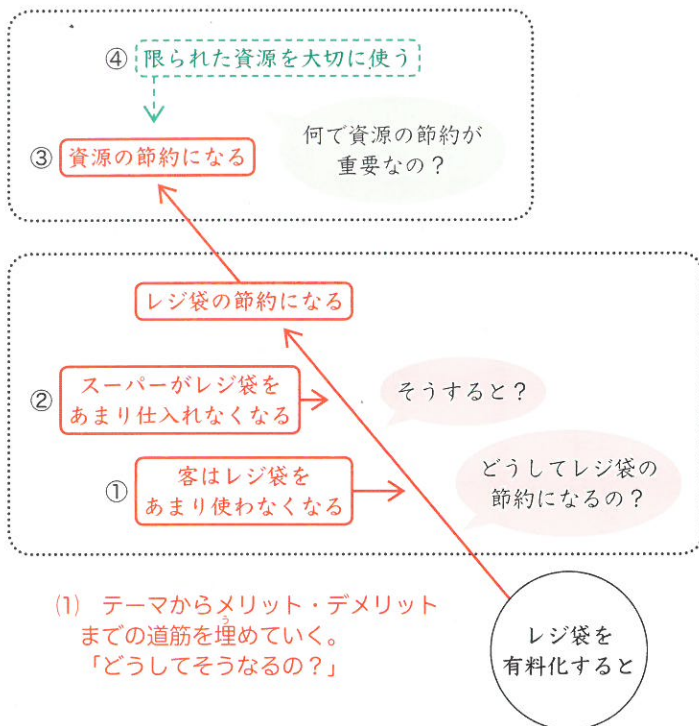
討論のテーマを決める

◎ 日本全国でレジ袋の有料化を義務づけるべきか。

メリットとデメリットを書き出す



(2) メリット・デメリットの意味を考える。
「何で重要な？」



グループで、メリット・デメリット一つ一つについて、リンクマップに左のように書き込みながら話し合おう。
一つずつ司会者を交替しながら進め、次ページのようなリンクマップを完成させよう。

2

リンクマップを完成させる

▼ リンクマップに書き込みながら話し合う

司会者 それではまず、「レジ袋の節約になる」の道筋をリンクマップに書き込んでいきましょう。レジ袋を有料化すると、どうしてレジ袋の節約になるんですか。

A お金がかかるので、客はレジ袋をあまり使わなくなる。

司会者 (①を記入する) そうすると？

B スーパーがレジ袋をあまり仕入れなくなる。

司会者 (②を記入する) そうしてレジ袋の節約になるというわけですね。

C レジ袋って、石油から作られているから、資源の節約につながるよね。

司会者 なるほど。そうすると、資源の節約という言い方が、メリットとして説得力がありますね。(③を記入する) メリットのゴールを、「資源の節約になる」にしました。では、そもそも、何で「資源の節約」は重要なんですか。「資源の節約」の意味は何でしょうか。

A 限られた資源なのだから、無駄遣いしないで大切に使うべきだということじゃないかな。

B うん、それは誰も否定できないことだね。
司会者 確かにそのとおりですね。(④を記入する)

3

更に話し合って意見をまとめる

完成したリンクマップを見ながら更に話し合い、より深く検討して、グループの意見をまとめよう。

特に、生じると考えられるメリットとデメリットのどちらが大きいかを話し合うことが大切である。

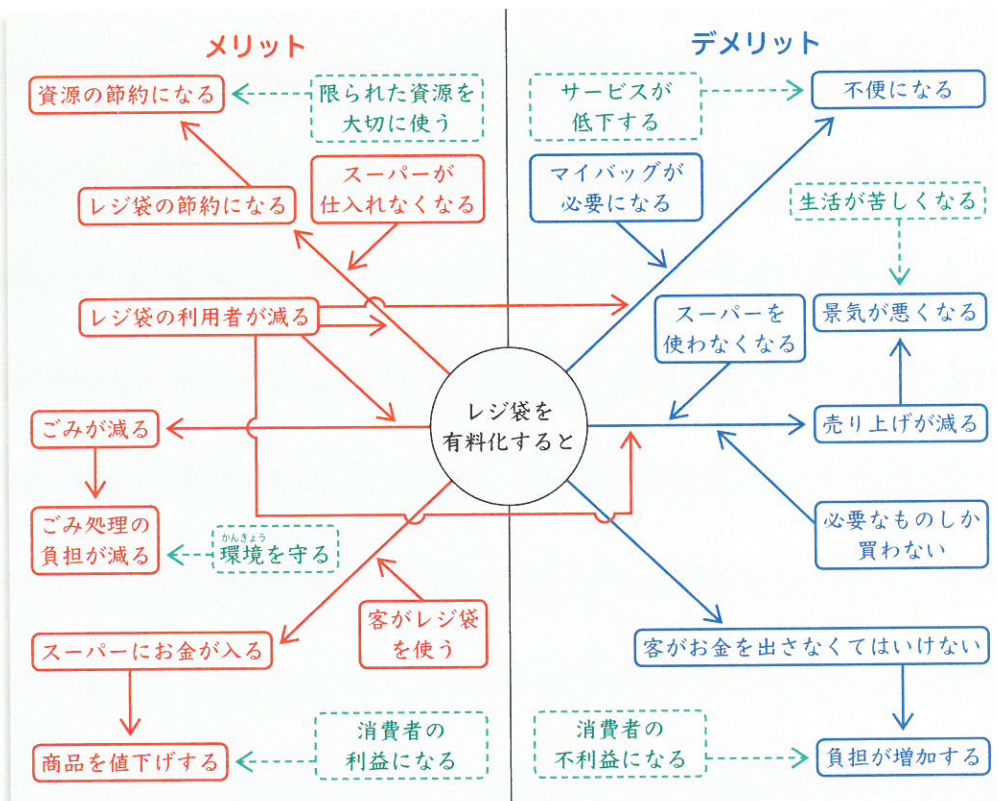
テーマについてグループとして賛成か反対かを決めて、クラス全体に自分たちの意見を発表しよう。

言葉の力

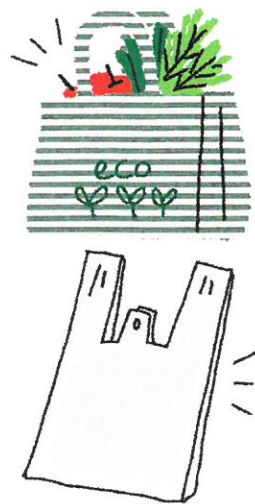
テーマについて検討する



- 各メリット・デメリットが本当に生じるといえるかを、データの裏付けがあるか、隠れた前提がないかなどの視点で検討する。
- デメリットについては、現状でも生じていないか、解消する手段がないかも考える。
- 各メリット・デメリットの重要性を比較し、また、それらが実際に生じる可能性も考慮して、テーマに対する賛否を決める。
- メリットを強めたり、デメリットを弱めたりするような修正提案をしてもよい。



学習を振り返ろう



● さまざまなメディアを使って討論のテーマを決め、メリットとデメリットを出し合ったか。

□ さまざまなメディアを使って話題を見つけ、討論に適したテーマを設定したか。

□ 必要に応じてメディアの情報も参考にしながら、実施した場合に起こりうるメリットやデメリットを出したか。

● テーマについて話し合って検討し、意見をまとめたか。

□ データの裏付けがあるか、隠れた前提がないかといった視点で、各メリット・デメリットが本当に生じるといえるかを検討したか。

□ 各メリット・デメリットの重要性や生じる可能性を考えて、テーマに対する賛否を決めたり、修正提案をしたりしたか。

10

5

▼ リンクマップをもとに更に話し合う

司会者 完成したリンクマップを見ながら、更に吟味して、テーマに賛成か反対かを決めましょう。

A メリットもデメリットも、多くは有料化によってレジ袋の利用者が減ることを前提にしているけれど、金額によってはあまり減らないんじゃないかと思うんだけど。

B お金がかかれば必ず利用者が減るという前提は、不確かかもしれないね。今実際に有料化しているお店ではどうかも調べるといいね。

C 一枚二十円くらいにすれば、確実に効果が出ると思うよ。
(中略)

司会者 では、メリットもデメリットも生じると考えたうえで、どちらのほうがより大きいかを考えましょう。

A 私は、デメリットの「不便になる」というのが、特に重要だと考えます。商売というのはお客あつてのものだから。

C でも、不便と感じるのは有料化実施直後のことでしょう。みんなが慣れれば解決できると思うな。それより、限りある資源を大切に使うことのほうが重要だと思う。

▼ 賛否を決める・修正提案をする

◎ 一枚二十円としてレジ袋の有料化を義務づけるべきである。



同じ意味のことを述べるのでも、表現の仕方によって印象は違ってくる。ここでは、続きを知りたい、と思わせる表現の仕方について考えてみよう。

次の㉠と㉡を比べると、どんな印象の違いがあるだろうか。また、その違いはなぜ生まれるのだろうか。

- ㉠ 今朝、私はびっくりして目を覚ましました。猫が突然胸の上に飛び乗ってきたのです。
- ㉡ 今朝、猫が突然胸の上に飛び乗ってきたので、私はびっくりして目を覚ましました。

㉠と㉡は、同じことを言っているようにだけ……。

「今朝、私はびっくりして目を覚ましました。」って言われたら、どう思う？



10

5

分かりやすさで比べれば、㉡を選ぶ人もいるだろう。だが、㉠では分かりやすさとは別の、**想像を誘う**効果が生じている。

次に、もっと長い文章の例を見てみよう。

高志は懸命に走っていた。肩に掛けた紺色の通学かばんの中で、急げ急げと言うかのように、筆箱がカタカタと音を立てた。朝の日差しが、アスファルトの道に照りつけていた。ときおり腕時計に目をやりながら、高志は走り続ける。……

人物や情景の描写が続いているけど、どうして走っているのかは直接書かれていないね。この続きはどうなるのかな？



考えよう

右の例文で、「高志」はどうして懸命に走っているのだろうか。文章中の表現をもとに、想像してみよう。



25

20

15





書く〈感性・創造〉

いきいきと描き出そう

短歌から始まる物語

目標

- 情景や心情などをいきいきと表すように、描写を工夫して物語を作る。
- 書いた物語を読み合って、材料の活用の仕方などについて意見を交換し、自分の考えを広げる。

想像を豊かに広げて、物語を作ってみよう。それには、想像を広げるための出発点が必要になる。例えば、読んで心に残った短歌を出発点にしてみよう。短歌では、情景や心情が、限られた言葉に凝縮して表されている。一方、物語では、場面ごとの情景や出来事、人物の行動や心情などが多くの言葉によって描き出される。短歌の表現から想像を膨らませ、自分だけの物語を創作しよう。

❖ 学習の流れ(例)

学びの扉 6

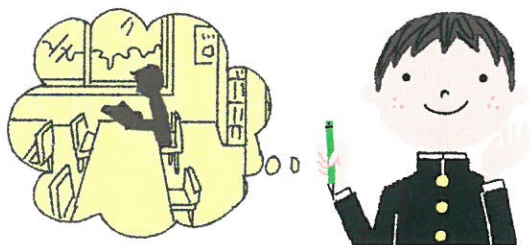
想像を誘うように表現する

(③で生かそう)

短歌から始まる物語

- ① 短歌を選び、想像を膨らませる
- ② 材料を整理して物語の流れを決める
- ③ 描写を工夫して物語を書く
言葉の力
- ④ 読み返して物語を仕上げる
- ⑤ 読み合って意見を交換する
言葉の力

学習を振り返ろう



1 短歌を選び、想像を膨らませる

物語を創作するための出発点として、短歌や俳句を読んだり、写真や絵画を見たりして、そこから想像を広げていくというやり方がある。

ここでは、短歌を取り上げてみよう。まず、下に挙げた短歌の中から、自分の気に入ったものを一首選ぼう。あるいは、教科書27ページなどの短歌から選んでもよいだろう。

短歌が決まったら、その短歌に描かれている場面の様子や、人物の行動、心情などについて想像してみよう。

まず、選んだ短歌を書き写す。そして、着目した言葉に傍線を引き、そこから読み取ったことや自分なりに想像を広げたことを自由にメモしていく。自分自身のこれまでの体験の中で、短歌の内容とつながりそうなことを取り入れるのもよい。

ここで書き出したことが、物語作りのための材料となる。

15

10

5

短歌

- ① お互いに声掛け合って頂の白い雲まで登ってゆこう
- ② そして今審判の吹くホイッスル最後のシュート空へ外れる
- ③ 「ごめんね」とその一言が言えなくて帰り支度の君を見送る
- ④ 雪積もる朝は何だかうれしくて一番乗りで歩く校庭
- ⑤ 踊り場で擦れ違ふとき先輩のかばんの中で筆箱が鳴る
- ⑥ 弟が腹ばいになり描き散らす赤のクレヨン青のクレヨン
- ⑦ 宿題を始める前のファンタジーこしばらくは稲妻の巻
- ⑧ 押し入れは青き水槽遠い日の人形・絵本・積み木など住む
- ⑨ 図書室は森の静けさ窓際の席にうつむく友を見つけた

短歌から思いつくことを書き出したメモの例

本に集中

静かだけど生徒がいる時間

↓晴れた日の昼休み?

新しい一面を発見

↓ちよつとうれしい

図書室は森の静けさ窓際の席にうつむく友を見つけた

慣れない場所へ迷い込んだ

↓ふだんは外で遊んで

まだあまり仲良くなってい

いるのに図書室へ

↓国語の課題の本探し

2

材料を整理して物語の流れを決める

短歌をもとに材料を集めたら、それを整理しながら、物語の流れを考えていこう。

これから書く物語について、「いつ（時）」「どこで（場所）」「誰が（人物）」「どうした（出来事）」といったことを考えて、材料を整理する。材料が足りないところは、自分なりの想像を更に広げて補おう。

主人公は、「私」「僕」などの一人称にしてもよいし、「啓太（人物の名前）」「彼」「彼女」などの三人称にしてもよい。物語は、主人公の視点から見たり感じたりしたことを中心に展開していくことになる。それぞれの登場人物の性格や好きな物事など、人物像を考えておくと、後で物語を膨らませていくときに生きてくることもある。

「どうした（出来事）」の部分は、物語の流れ、いわば「あらすじ」となるところである。じっくり考えてみよう。なかなか思い浮かばないときには、下に挙げた「出来事を考えるためのキーワード例」を参考にしよう。

↓ 307ページ「言葉を広げよう」

▼ 材料を整理した例

いつ（時）	ある晴れた秋の日、昼休み
どこで（場所）	学校の図書室Ⅱ静かな場所
誰が（人物）	啓太Ⅱ主人公、中学二年、スポーツが好き 優Ⅱ啓太と同じクラス、よく冗談を言う
どうした （出来事） ＝ あらすじ	啓太は昼休みに外で遊びたかったが、図書室に行き、国語の課題の本探しをした。 熱心に本を読む優一を見かけ、新たな一面を発見できてうれしかったが、読書に集中しているようだったので話しかけなかった。

▼ 出来事を考えるためのキーワード例

● 出会い	● 別れ	● 再会	● 入学
● けんか	● 誤解	● 仲直り	● 対立
● 信頼	● 裏切り	● 友情	● 意地悪
● 憧れ	● 尊敬	● 親近感	● 反発
● 挑戦	● 逃避	● 挫折	● 落胆
● 発見	● 日常	● 非日常	● 失敗
● 遊び	● 勉強	● 運動	● 部活動
● 思い出	● 恋	● 忘れ物	● 印象深い風景

3.....描写を工夫して物語を書く

物語の流れができたなら、いよいよ物語を書いていこう。まず、あらすじをもとに、膨らませて描きたい場面や人物の様子をいったん簡潔に表してみる。

続いて、描写を工夫して内容を膨らませていこう。

登場人物の心情は、「うれしかった」「楽しかった」などと直接に書くよりも、会話文や行動・態度の描写から伝わってくるように書くと、読み手の想像を促すことができる。また、主人公の心の中の言葉として描き出すやり方もある。

登場人物の行動の理由についても、「……したかったので」「……するため」と直接説明するより、描写から読み手に想像させるような書き方をしてみよう。

場面の情景は、視覚的なものだけでなく、聴覚や触覚といった五感に訴えるように描き出していこう。比喩などの表現技法を使うのが効果的なこともある。

なお、無理に全ての部分を膨らませようとせず、簡潔な表現を残すところがあってもよい。

あらすじをもとに、場面や人物の様子を簡潔に表した例

啓太は昼休みに外で遊びたかったが、図書室に行き、国語の課題の本探しをした。……

場面や人物の様子をいったん簡潔に表してみる。

啓太は教室の窓から外を見た。ある晴れた秋の日。校庭はにぎやかだ。遊びに誘われて、行きたかったが、啓太は断った。国語の課題の本探しをしなければならなかったため、図書室へ向かった。図書室は静かだ。昼休みに来たのは初めてだ。啓太は本を選ぶのに迷った。……

描写を工夫して内容を膨らませた例

【情景描写】

ある晴れた秋の日。校庭はにぎやかだ。

校庭の情景を、視覚や聴覚に訴えるように具体的に描き出す。

青空のもと、イチヨウの木々の黄色い葉が日差しを浴びて輝いている。校庭で遊ぶ生徒たちの歓声とともに、ドッジボールの球をパシッと受け止める音が聞こえてくる。

言葉の力

豊かに描写する



- 人物の心情や、行動の理由などを直接説明するよりも、「何を感じているのかな。」「どうしてこんな行動をするのかな。」と読み手に想像させるように人物や場面の様子を描き出す。
- 形、色、明るさ、動き、音、肌触り、温度、匂い、味など、五感に訴えるような描写をする。会話文を入れたり、擬音語・擬態語を用いたり、比喩などの表現技法を使ったりするのもよい。



【会話文・人物描写】

遊びに誘われて、行きたかったが、啓太は断った。

人物どうしのやりとりを、会話文や行動・態度の描写で表す。

ボールを手にした友達が、ふとこちらを見上げて、「おうい、見てないで早く来いよ。」と呼びかけた。「いや、今日はちよつと、やることがあつて……。」
啓太は照れ笑いを浮かべながらそう言うと、名残惜しそうにゆっくりと窓を閉めた。

【心理描写】

啓太は本を選ぶのに迷った。

主人公の心理を、心の中の言葉として描き出す。

何にしようかな……。小学生の頃に何度も読んだあの絵本は、ちよつと子供っぽいかな。やっぱりスポーツものにしようか。去年の夏休みに読んだあの小説、どこにあるかな。

4読み返して物語を仕上げる

物語を書いたら、読み返して仕上げていこう。語句の使い方に不正確なところはないか、もっといきいきとした表現にできるところはないか、といったことを確かめて、気づいた点があったら直していこう。

直し終えたら、物語を清書しよう。

5

5読み合って意見を交換する

清書が済んだら、グループ内で物語を読み合い、感想や意見を交換しよう。

最後に、クラスで一冊の作品集にまとめるのもよい。

10

言葉の力 意見交換の観点を持つ



- 材料にした短歌からうまく発想を広げているか。
- 物語の流れ（筋立て）に無理がないか。
- 情景や人物の描写を工夫して場面を描いているか。

▼ 完成作品例

本の森の中で

啓太は、教室の窓を少し開けて、外を見ていた。青空のもと、イチヨウの木々の黄色い葉が日差しを浴びて輝いている。校庭で遊ぶ生徒たちの歓声とともに、ドッジボールの球をバシッと受け止める音が聞こえてくる。いつもなら、自分もあの中に入りたいのに……。ボールを手にした友達が、ふとこちらを見上げて、

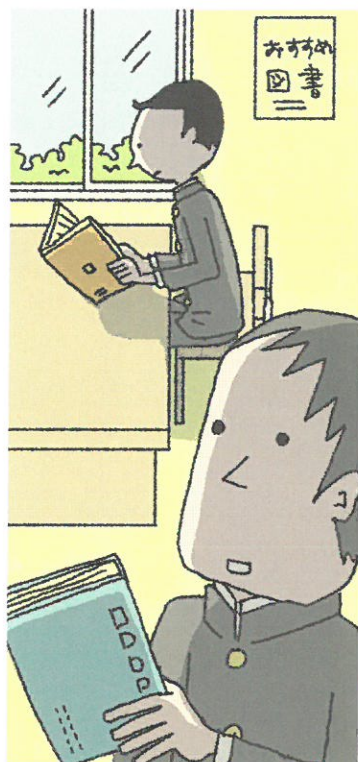
「おうい、見てないで早く来いよ。」と呼びかけた。

「いや、今日はちょっと、やることあって……。」

啓太は照れ笑いを浮かべながらそう言うと、名残惜しそうに



学習を振り返ろう



● 情景や心情などをいきいきと表すように、描写を工夫して物語を作ったか。

□ 場面の情景をいきいきと、五感に訴えるように描き出したか。

□ 会話文や行動・態度の描写によって、人物の心情が伝わってくるように書いたか。

● 書いた物語を読み合って、材料の活用の仕方などについて意見を交換し、自分の考えを広げたか。

□ 元の短歌からの発想の広げ方や、物語の流れ、情景や人物の描写などについて意見を述べたか。

□ 意見交換を通して、さまざまな発想や、描写の工夫などに気づいて、自分の考えを広げたか。

10

5

ゆっくりと窓を閉めた。教室を出た啓太は、少し早足になって廊下を歩いていった。

図書室に足を踏み入れると、まるで深い森の中に迷い込んだように静まり返っている。昼休みに来たのは初めてだ。啓太はおずおずと、本棚の間に分け入った。

何にしようかな……。小学生の頃に何度も読んだあの絵本は、ちよつと子供っぽいかな。やっぱりスポーツものにしようか。去年の夏休みに読んだあの小説、どこにあるかな。

次の国語の時間で、啓太が「おすすぬの本」を紹介する順番だった。その一冊を決めなければならぬ。

図書室の中をうろろろしていると、窓際の席に一人、ページをめくる姿があった。最近同じ班になった優一だ。ときどきおもしろいことを言って班を盛り上げてくれる優一と、もっと話してみたいと思っていたところだ。いったいどんな本を読んでいるんだろう、と興味が湧いた。

それでも啓太は、近くには行かなかった。明るい日差しに照らされ、うつむいて本の世界に入っている優一に話しかけるのは悪い気がした。こうして静かに読書している姿は、案外似合っていると思った。啓太は、野球少年が主人公の小説を本棚から取り出すと、軽い足取りで貸し出しカウンターへ向かった。

参考にした短歌

〔 図書室は森の静けさ窓際の席にうつむく友を見つけた 〕

共通する漢字を持つ同音異義語

同じ発音で意味が異なる語を、同音異義語といい、特に漢字の音読みの語（漢語）に多い。次は、共通する漢字を持つ例である。

例
対象：調査の対象

対照：対照的な性格

对称：左右対称の図形

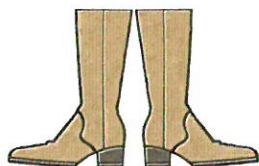
対症：対症療法

感心：彼の態度に感心する

関心：歴史に関心を持つ

寒心：寒心に堪えない

歡心：歡心を買う



10

5



① 次の傍線部を別の漢字にして、同音異義語を作ろう。

1 消火 ↓ 消 ☐ 2 開放 ↓ 放 ☐
3 食糧 ↓ 食 ☐ 4 改訂 ↓ 改 ☐
5 合掌 ↓ 合 ☐ 6 邦人 ↓ 人 ☐
7 大尉 ↓ 大 ☐ 8 外郭 ↓ 外 ☐

② 次の各組の同音異義語を使って、それぞれ文を作ろう。

1 (加熱) 過熱 2 (非難) 避難
3 (好天) 荒天 4 (平行) 並行
5 (国際) 国債 6 (厚生) 更生
7 (発症) 発祥 8 (外観) 概観
9 (共有) 享有 10 (慈愛) 自愛

10

5

下12 厚 ● コウ
下14 慈 (いつくしむ)
下14 享 キョウ
下13 概 ガイ
下13 祥 ショウ
下12 債 サイ
下7 郭 カク
下7 尉 イ
下6 邦 ホウ
下6 掌 ショウ
下5 訂 テイ
下5 糧 (リョウ) (ロウ) (カテ)

糧食
訂正
掌中
邦画
大尉
城郭
負債
不祥事
概略
享乐的
慈善事業

共通する漢字を持たない同音異義語

次のように、共通する漢字を持たないものも多くある。

例
想像…未来の自分を想像する

創造…新しい文化を創造する

紹介…妹を先生に紹介する

照会…真偽を照会する

驚異…大自然の驚異に感動する

脅威…戦火の脅威にさらされる

矯正…歯並びを矯正する

強制…俟約を強制する

10

5

③ 次の傍線部を漢字にすると、()の語のどちらがより適切だろうか。

1 先生のシジに従う。(支持 指示)

2 カンシヨウ的な気分になる。

3 事件をソウサする。(感傷 鑑賞)

4 専門家に調査をイシヨクする。

5 現地にハケンする。(派遣 覇権)

6 措置をコウじる。(移植 委嘱)

④ 次の傍線部の語の同音異義語を調べ、それを用いた文を作ろう。

1 犯人を逮捕する。

2 権利を放棄する。

3 映画を見て啓示を受ける。

4 無罪判決は妥当な結果だ。

5 需要と供給のバランスをとる。

6 妖怪や幽霊の話をする。

15

10

5

下18	下18	下18	下17	下16	下15	下14	下13	下10	下9	下8	下6	上11	上10	上9
霊	幽	妖	需	妥	啓	棄	逮	措	霸	囑	搜	儉	矯	脅
(レイ たま)	ユウ	ヨウ あやし い	ジュ	ダ	ケイ	キ	タイ	ソ	ハ	シヨク	ソウ さがす	ケン	(キョウ ためる)	(キョウ おびやか す)
霊感	幽閉	妖しい魅力	必需品	妥協	啓発	棄権	逮捕	措定	覇氣	囑望	迷子捜す	勤儉貯蓄	矯正	脅し文句



わたしが一番きれいだったとき

茨木のり子 いばらぎ

わたしが一番きれいだったとき

街々はがらがら崩れていつて

とんでもないところから

青空なんかが見えたりした

わたしが一番きれいだったとき

まわりの人達が沢山死んだ

工場で 海で 名もない島で

わたしはおしゃれのきっかけを落してしまった

わたしが一番きれいだったとき

だれもやさしい贈物を捧げてはくれなかった

男たちは拳手の礼しか知らなくて

きれいな眼差だけを残り皆発っていった

10

わたしが一番きれいだったとき

わたしの頭はからっぽで

わたしの心はかたくなで

手足ばかりが栗色に光った

わたしが一番きれいだったとき

わたしの国は戦争で負けた

そんな馬鹿なことってあるものか

ブラウスの腕をまくり卑屈な町をのし歩いた

わたしが一番きれいだったとき

ラジオからはジャズが溢れた

禁煙を破ったときのようにくらくらしながら

わたしは異国の甘い音楽をむさぼった

20

15

わたしが一番きれいだったとき
わたしはとてもふしあわせ
わたしはとてもとんちんかん
わたしはめっぼうさびしかった

だから決めた できれば長生きすることに
年とってから凄く美しい絵を描いた
フランスのルオー爺さんのように

ね



茨木のり子

一九二六「大正15」年～二〇〇六「平成18」年 大阪府で生まれる。詩人。
詩集に「見えない配達夫」「自分の感受性くらい」「寄りかからず」などがある。

出典 「茨木のり子詩集」

○それぞれの連の言葉には、どんな心情が表されているだろうか。また、各連で繰り返される「わたしが一番きれいだったとき」という言葉に込められた思いを考えよう。
○この詩に表れているものの見方や考え方について、感想を話し合ってみよう。

ルオー

一八七一年～一九五八年 フランスの画家。キリストや道化師などを好んで描いた。初期には暗い色彩を基調としたが、晩年には明るい色を多く用いた。



坊っちゃん

夏目漱石

親譲りの無鉄砲で、子供のときから損ばかりしている。小学校にいる時分、学校の二階から飛び降りて、一週間ほど腰を抜かしたことがある。なぜそんなむやみをしたときく人があるかもしれぬ。べつだん深い理由でもない。新築の二階から首を出していたら、同級生の一人が冗談に、いくら威張っても、そこから飛び降りることはできない、弱虫やあい、とはやしたからである。人に負ぶさって帰ってきたとき、おやじが大きな目をして、二階ぐらゐから飛び降りて腰を抜かすやつがあるかと言ったから、この次は抜かさずに飛んでみせますと答えた。

10

親類の者から西洋製のナイフをもらって、きれいな刃を日にかざして、友達に見せていたら、一人が光ることは光るが切れそうもないと言った。切れぬことがあるか、何でも切ってみせると請け合った。そんなら君の指を切ってみると注文したから、なんだ指くらいこのとおりだと、右の手の親指の甲をはずに切り込んだ。幸いナイフが小さいのと、親指の骨が堅かったので、いまだに親指は手に付いている。しかし傷痕は死ぬまで消えぬ。庭を東へ二十歩に行き尽くすと、南上がりにいささかばかりの菜園があつて、真ん中に栗の木が一本立っている。

20

5

15

る。これは命よりだいじな栗だ。実の熟する時分は、起き抜けに背戸^{①せと}を出て、落ちたやつを拾ってきて、学校で食う。菜園の西側^{やましう}が山城屋^{やましや}という質屋^{しちや}の庭続きで、この質屋に勘太郎^{かんたろう}という十三、四のせがれがいた。勘太郎は無論弱虫である。弱虫のくせに、四つ目垣^{②よつめがき}を乗り越えて、栗を盗み^{ぬす}に来る。ある日の夕方、折り戸^{③かた}の陰に隠れて、とうとう勘太郎をつらまえてやった。そのとき勘太郎は逃げ道を失って、一生懸命^{けんめい}に飛びかかってきた。向こうは二つばかり年上である。弱虫だが力は強い。鉢^{④はち}の開いた頭を、こっちの胸へ当ててぐいぐい押した拍子^{ひょうし}に、勘太郎の頭が滑^{すべ}って、俺^{おれ}のあわせの袖^{そで}の中に入った。邪魔^{じゃま}になつて手が使えぬから、むやみに手を振^ふったら、袖の中にある勘太郎の頭が、右左へぐらぐらなびいた。しまいに苦しがつて袖の中から、俺の二の腕^{うで}へ食いついた。痛かったから勘太郎を垣根へ押し付けておいて、足^{⑥あし}がらを掛けて向こうへ倒^{たお}してやった。山城屋の地面は菜園より六尺^{⑦ろくしゃく}がた低い。勘太郎は四つ目垣を半分崩^{くず}して、自分の領分へ真っ逆さまに落ちて、ぐうと言った。勘太郎が落ちるときに、俺のあわせの片袖がもげて、急に手が自由になった。その晩母が山城屋へわびに行つたついでに、

20

15

10

5



あわせの片袖も取り返してきた。

このほかいたずらはだいぶやった。大工の兼公と魚屋の角を連れて、茂作のにんじん畑を荒らしたことがある。にんじんの芽が出そろわぬところへ、わらが一面に敷いてあったから、その上で三人が半日相撲を取り続けに取ったら、にんじんがみんな踏み潰されてしまった。古川の持っているたんぼの井戸を埋めて、尻を持ち込まれたこともある。太いもうその節を抜いて、深く埋めた中から水が湧き出て、そこいらの稲に水がかかる仕掛けであった。その時分はどんな仕掛けか知らぬから、石や棒ちぎれをぎゅうぎゅう井戸の中へ差し込んで、水が出なくなったのを見届けて、うちへ帰って飯を食っていたら、古川が真っ赤になって怒鳴り込んできた。たしか罰金を出してすんだようである。

おやじはちつとも俺をかあいがつてくれなかった。母は兄ばかりひいきにしていた。この兄はやに色が白くつて、芝居のまねをして女形になるのが好きだった。俺を見るたびに、こいつはどうせろくな者にはならないと、おやじが言った。乱暴で乱暴で行く先が案じられると母が言った。なるほどろくな者にはならない。ご覧のお

りの始末である。行く先が案じられたのも無理はない。

ただ懲役に行かないで生きているばかりである。

母が病気で死ぬ二、三日前、台所で宙返りをして、へつっいの角であばら骨を打って、大いに痛かった。母がたいそう怒って、おまえのような者の顔は見たくないと言うから、親類へ泊まりに行っていた。するととうとう死んだという知らせが来た。そう早く死ぬとは思わなかった。そんな大病なら、もう少しおとなしくすればよかったと思つて帰ってきた。そうしたら例の兄が俺を親不孝だ、俺のために、おっかさんが早く死んだんだと言つた。悔しかったから、兄の横っ面を張つてたいへん叱られた。

母が死んでからは、おやじと兄と三人で暮らしていた。おやじは何にもせぬ男で、人の顔さえ見れば、きさまはだめだだめだと口癖のように言っていた。何がだめなんだか今に分からない。妙なおやじがあったもんだ。兄は実業家になると言つて、しきりに英語を勉強していた。ずるいから、仲が良くなかった。十日に一遍ぐらいの割でけんかをしていた。あるとき将棋を指したらひきょうな待ち駒をして、人が困るとうれしそうに冷やかした。

あんまり腹が立ったから、手にあった飛車¹³を眉間^{みけん}へたたきつけてやった。眉間^{みけん}が割れて少々血が出た。兄がおやじに言^いつけた。おやじが俺¹⁴を勘当^{かんどう}すると言^いいだした。

そのときはもうしかたがないと観念^{くげん}して、先方の言うとおりに勘当^{かんどう}されるつもりでいたら、十年来召^めし使^{つか}っている清^{きよ}が、泣きながらおやじに謝^{あやま}って、ようやくおやじの怒^{いか}りが解^とけた。それにもかかわらず、あまりおやじを怖^{こわ}

いとは思^{おも}わなかった。かえってこの清^{きよ}に氣^きの毒^{どく}であつた。

この女^{おんな}はもと由緒^{ゆいしょ}のある者^{もの}だつたそうだが、瓦解¹⁵のとき

に零落^{れいらく}して、つい奉公^{ほうこう}までするようになったのだと聞^き

ている。だからばあさんである。このばあさんがどうい

う因縁^{いんえん}か、俺^{おれ}を非常^{ひじょう}にかあいがつてくれた。不思議なも

のである。母^{はは}も死ぬ三日^{さんじつ}前に愛想^{あいそ}を尽^{つく}かした——おやじ

も年中持^もて余^あしている——町内^{ちやうだい}では乱暴^{らんぼう}者の惡太郎^{あくたろう}と爪

はじきをする——この俺^{おれ}をむやみに珍重^{ちんじやう}してくれた。俺^{おれ}

はどうてい人に好^{この}かれるたちでないと諦^{あきら}めていたから、

他人^{たにん}から木の端^{はし}のように取り扱^{あつか}われるのは何^{なん}とも思^{おも}わな

い、かえってこの清^{きよ}のようにちやほやしてくれるのを不^ふ

審^{しん}に考^{かん}えた。清^{きよ}はときどき台所^{だいしよ}で人のいなきに「あ

20

15

10

5

どきあつた。しかし俺^{おれ}には清^{きよ}の言^いう意味^{いみ}が分からなかつた。いい氣性^{きせい}なら清^{きよ}以外の者^{もの}も、もう少しよくしてくれ

るだろうと思^{おも}つた。清^{きよ}がこんなことを言^いうたびに、俺^{おれ}

お世辞^{せじ}は嫌^{きら}いだと答^{こた}えるのが常^{じょう}であつた。するとばあ

さんは、それだからいい氣性^{きせい}ですと言^いつては、うれしそ

うに俺^{おれ}の顔^{かほ}を眺^{なが}めている。自分の力^{ちから}で俺^{おれ}を製造^{せいぞう}して誇^ほ

てるように見える。少々氣味^{きみ}が悪^{わる}かつた。

母^{はは}が死^しんでから清^{きよ}はいよいよ俺^{おれ}をかあいがつた。とき

どきは子供^{こども}心に、なぜあんなにかあいがるのかと不審^{ふしん}に

思^{おも}つた。つまらない、よせばいいのにと思^{おも}つた。氣^きの毒^{どく}

だと思^{おも}つた。それでも清^{きよ}はかあいがる。おりおりは自分

の小遣^{こづか}い¹⁷できんつばや紅梅¹⁸焼^やきを買^かつてくれる。寒い夜

などはひそかにそば粉^{そばこ}を仕入^{しに}れておいて、いつのまにか

寝^ねている枕^{まくら}もとへそば湯^{そばゆ}を持^もつてきてくれる。ときには

鍋焼^{なべや}きうどんさえ買^かつてくれた。ただ食^たい物^{ぶつ}ばかりでは

40

35

30

25



いらなと言ったが、ぜひ使えと言うから、借りておいた。実はたいへんうれしかった。その三円をかま口へ入れて、懐へ入れたなり便所へ行ったら、すぼりと後架の中へ落としてしまった。しかたがないから、のそのそ出てきて、実はこれだと清に話したところが、清は早

5

速竹の棒を探してきて、取ってあげますと言った。しばらくすると井戸端でザーザー音がするから、出てみたら竹の先へがま口のひもを引きかけたのを水で洗っていた。それから口を開けて一円札を改めたら、茶色になって模様が消えかかっていた。清は火鉢で乾かして、これでいいでしょうと出した。ちょっと嗅いでみて、臭いやと言ったら、それじゃお出しなさい、取り替えてきてあげますからと、どこでどうごまかしたか、札の代わりに銀貨を三円持ってきた。この三円は何に使ったか忘れてしまった。今に返すよと言ったぎり、返さない。今となっては十倍にして返してやりたくても返せない。

15

清が物をくれるときには必ずおやじも兄もいないときに限る。俺は何が嫌いだといって人に隠れて自分だけ得をするほど嫌いなことはない。兄とは無論仲が良くないけれども、兄に隠して清から菓子や色鉛筆をもらいたくはない。なぜ、俺一人にくれて、兄さんにはやらないのかと清にきくことがある。すると清は澄ましたものでお兄様はお父様がおあげなさるからかまいませんと言う。これは不公平である。おやじは頑固だけれども、そんなえこひいきはせぬ男だ。しかし清の目から見ると

25

20

10

そう見えるのだろう。全く愛に溺れていたにちがいない。

元は身分のある者でも教育のないあさんだからしかたがない。単にこればかりではない。ひいき目は恐ろしいものだ。清は俺をもって将来立身出世してりっぱな者になると思い込んでいた。そのくせ勉強をする兄は色ばかり白くって、とても役には立たないと一人で決めてしまった。こんなばあさんにあってはかなわない。自分の好きな者は必ず偉い人物になって、嫌いな人はきつと落ちぶれるものと信じている。俺はそのときからべつだん何になるという見もなかった。しかし清になるなると言うものだから、やっぱり何かなれるんだろうと思っていた。今から考えるとばかばかしい。あるときなどは清にどんな者になるだろうときいてみたことがある。ところが清にもべつだんの考えもなかったようだ。ただ手車へ乗って、りっぱな玄関のある家をこしらえるに相違ないと言った。

それから清は俺がうちでも持って独立したら、いっしょになる気でいた。どうか置いてくださいと何べんも繰り返して頼んだ。俺も何だかうちが持てるような気がして、うん置いてやると返事だけはしておいた。ところ

20

15

10

5

がこの女はなかなか想像の強い女で、あなたはどこが好き、麴町ですか麻布ですか、お庭へぶらんこをおこしええあそばせ、西洋間の一つでたくさんですなどと、勝手な計画を独りで並べていた。そのときは家なんか欲しくも何ともなかった、西洋館も日本建てでも全く不用であつたから、そんなものは欲しくないと、いつでも清に答えた。すると、あなたは欲が少なくって、心がきれいだと言ってまた褒めた。清は何と言っても褒めてくれる。母が死んでから五、六年の間はこの状態で暮らしていた。おやじには叱られる。兄とはけんかをする。清には菓子をもらう、ときどき褒められる。別に望みもない、これでたくさんだと思っていた。ほかの子供も一概にこんなものだろうと思っていた。ただ清が何かにつけて、あなたはおかawaiiそうだ、不幸せだとむやみに言うものだから、それじゃかわいそうで不幸せなんだろうと思った。そのほかに苦になることは少しもなかった。ただおやじが小遣いをくれないには閉口した。

母が死んでから六年目の正月に、おやじも途中で亡くなった。その年の四月に俺はある私立の中学校を卒業する。六月に兄は商業学校を卒業した。兄はなんとか会社

40

35

30

25

の九州の支店に口があって、行かなければならん。俺は東京でまだ学問をしなければならぬ。兄は家売って財産をかたづけて任地へ出立すると言いだした。俺はどうでもするがよからうと返事をした。どうせ兄の厄介になる気はない。世話をしてくれるにしたらところで、けんかをするから、向こうでも何とか言いだすにきまつている。なまじい保護を受ければこそ、こんな兄に頭を下げなければならぬ。牛乳配達をしても食ってられると覚悟をした。兄はそれから道具屋を呼んできて、先祖代々のがらくたを二束三文に売った。家屋敷はある人の周旋でさる金満家に譲った。このほうはだいぶ金になったよ。うだが、詳しいことはいっこう知らぬ。俺は一か月以前から、しばらく前途の方向のつくまで、神田の小川町へ下宿をしていた。清は十何年いたうちが人手に渡るのを大いに残念がったが、自分のものでないから、しようがなかった。あなたがもう少し年を取っていらつしやれば、ここが相続ができますものと、しきりに口説いていた。もう少し年を取って相続ができるものなら、今でも相続ができるはずだ。ばあさんは何にも知らないから、年さえ取れば兄の家がもらえると信じている。

20

15

10

5

兄と俺はかように別れたが、困ったのは清の行く先である。兄は無論連れてゆける身分でなし、清も兄の尻にくっついて九州くんだりまで出かける気は毛頭なし、といてこのときの俺は四畳半の安下宿に籠もって、それすらもいざとなれば直ちに引き払わねばならぬ始末だ。どうすることもできん。清にきいてみた。どこかへ奉公でもする気かねと言ったら、あなたがおうちを持って、奥様をおもらいになるまでは、しかたがないから甥の厄介になりましょうとようやく決心した返事をした。この甥は裁判所の書記で、まず今日には差し支えなく暮らしていたから、今までも清に来るなら来いと二、三度勧めたのだが、清はたとい奉公はしても年来住み慣れたうちのほうがいいと言って応じなかった。しかし今の場合知らぬ屋敷へ奉公替えをしていらぬ気がねをし直すより、甥の厄介になるほうがましだと思ったのだろう。それにしても早くうちを持ての、妻をもらえの、来て世話をすのと言う。親身の甥よりも他人の俺のほうが好きなのだろう。

九州へ立つ二日前、兄が下宿へ来て金を六百円出して、これを資本にして商売をするなり、学資にして勉強をす

40

35

30

25

るなり、どうしても随意ずいに使うがいい、そのかわり後は構わないと言った。兄にしては感心なやり方だ。なんの六百円ぐらいもらわんでも困りはせんと思ったが、例に似ぬ淡泊たんぱくな処置が気に入ったから、礼を言ってもらっておいた。兄はそれから五十円出してこれをついでに清に渡してくれと言ったから、異議なく引き受けた。二日たつて新橋②⑨しんばしの停車場ていしゃばで別れたがり、兄にはその後一遍も会わない。

俺は六百円の使用法について寝ながら考えた。商売をしたって面倒めんどうくさくつてうまくできるものじゃなし、殊ことに六百円ぐらいの金で商売らしい商売がやれるわけでも

なからう。よしやれるとしても、今のようじゃ人の前へ出て教育を受けたと威張れないから、つまり、損になるばかりだ。資本などはどうでもいいから、これを学資にして勉強してやろう。六百円を三に割って一年に二百円ずつ使えば三年間は勉強ができる。三年間一生懸命にやれば何かできる。それからこの学校へ入ろうと考えたが、学問は生来どれもこれも好きでない。殊③⑩に語学とか文学とかいうものはまっぴらごめんだ。新体詩などときては二十行あるうちで一行も分らない。どうせ嫌いな

20

15

10

5

ものなら何をやっても同じことだと思ったが、幸い物理学校の前を通りかかったら生徒募集ぼしきゅうの広告が出ていたから、何も縁えんだと思つて規則書をもらつて、すぐ入学の手続きをしてしまった。今考えるとこれも親譲りの無鉄砲から起こった失策だ。

三年間まあ人並みに勉強はしたが、べつだんたちのいほうでもないから、席順はいつでも下から勘定するほうが便利であつた。しかし不思議なもので、三年たつたらとうとう卒業してしまった。自分でもおかしいと思つたが、苦情を言う訳もないから、おとなしく卒業しておいた。

卒業してから八日目に校長が呼びに来たから、何の用だろうと思つて、出かけていったら、四国辺のある中学校で数学の教師がいる、月給は四十円だが、行ってはどうだという相談である。俺は三年間学問はしたが、実をいうと教師になる気も、田舎いなかへ行く考えも何もなかった。もつとも教師以外に何をしようという当てもなかったから、この相談を受けたとき、行きましようと思つて即席そくぎに返事をした。これも親譲りの無鉄砲がたたつたのである。

引き受けた以上は赴任ふにんせねばならぬ。この三年間は四

40

35

30

25

畳半に蟄居^{ちつきよ}して、小言はただの一度も聞いたことがない。けんかもせずにすんだ。俺の生涯^{しょうがい}のうちでは比較^{ひかく}的のんきな時節であつた。しかしこうなるとこの四畳半も引き払わなければならん。生まれてから東京以外に踏み出したのは、同級生といっしょに鎌倉^{かまくら}へ遠足したときばかりである。今度は鎌倉どころではない。たいへんな遠くへ行かねばならぬ。地図で見ると海浜^{かいひん}で針の先ほど小さく見える。どうせろくな所ではあるまい。どんな町で、どんな人が住んでるか分からん。分かんなくても困らない。心配にはならぬ。ただ行くばかりである。もつとも少々面倒くさい。

10

家を畳^{たた}んでからも清のところへはおりおり行つた。清の甥^{ねい}というのは存外けつこうな人である。俺が行くたびに、おりさえすれば、何くれともてなしてくれた。清は俺を前へ置いて、いろいろ俺の自慢^{じまん}を甥に聞かせた。今に学校を卒業すると、麴町^{まがら町}辺へ屋敷を買つて役所へ通うのだなどと、吹聴^{ふいちやう}したこともある。独りで決めて一人でしゃべるから、こっちは困って顔を赤くした。それも一度や二度ではない。おりおり俺が小さいとき寝小便をしたことまで持ち出すには閉口した。甥は何と思つて清の

20

15

自慢を聞いていたか分からぬ。ただ清は昔風の女だから、自分と俺の關係^{けんぎ}を封建時代^{ほうけんじだい}の主従のように考えていた。自分の主人なら甥のためにも主人に相違ないと合点^{がてん}したもののらしい。甥こそいい面の皮だ。

いよいよ約束が決まつて、もう立つという三日前に清を訪ねたら、北向きの三畳^{さんじやう}に風邪^{かぜ}をひいて寝ていた。俺の来たのを見て、起き直るが早い、坊っちゃんいづちをお持ちなさいますときいた。卒業さえすれば金が自然とポケットの中に湧いてくると思つてゐる。そんなに偉い人をつらまえて、まだ坊っちゃんと呼ぶのはいいよばかげている。俺は単簡に當分うちは持たない、田舎へ行くんだと言つたら、非常に失望した様子で、こま塩^{こましほ}のびんの乱れをしきりになてた。あまり気の毒だから「行くことは行くがじき帰る。来年の夏休みにはきつと帰る。」と慰^{なぐさ}めてやつた。それでも妙な顔をしているから「何か土産^{みやげ}を買つてきてやろう、何が欲しい。」ときいてみたら「越後^{えちご}の笹^{ささ}あめが食べたい。」と言つた。越後の笹あめなんて聞いたこともない。だいいち方角^{ちが}が違^{ちが}う。「俺の行く田舎には笹あめはなさそうだ。」と言つて聞かしたら「そんなら、どっちの見当です。」ときき返

40

35

30

25



した。「西の方だよ。」と言うと「箱根^⑮の先ですか手前で
すか。」と問う。ずいぶん持て余した。

出立の日には朝から来て、いろいろ世話を焼いた。来
る途中小間物屋で買ってきた歯磨き^⑭とようじと手拭い^⑮を、
ズツ^⑯のかばんに入れてくれた。そんなものはいらない
と言ってもなかなか承知しない。車を並べて停車場へ着
いて、プラットフォームの上へ出たとき、車へ乗り込ん
だ俺の顔をじつと見て「もうお別れになるかもしれませ
ん。存分^⑰ごきげんよう。」と小さな声で言った。目に涙^⑱
がいっぱいいたまっている。俺は泣かなかった。しかしも
う少して泣くところであつた。汽車がよっぽど動きだし
てから、もう大丈夫^⑲だろうと思って、窓から首を出して、
振り向いたら、やっぱり立っていた。何だかたいへん小
さく見えた。

絵・峰岸 達



夏目漱石

出典 『漱石全集』

一八六七「慶応3」年～一九一六「大正5」年 東京都出身。小説家。
作品に「吾輩は猫である」「草枕」「こころ」などがある。

○ 主人公と清の行動や人柄、考え方についてどう思うか、話し合ってみよう。

注

▼ 215 ページ

① 背戸

裏口。

② 四つ目垣

隙間が四角になるよう竹を縦横に組んだ垣。

③ 折り戸

ここでは、垣根に付けた開き戸を指す。

④ 鉢の開いた頭

横回りの大きな頭。

⑤ あわせ

裏地の付いている着

物。初冬や春先に着る。

⑥ 足がら

足を相手の足に絡ませて倒すこと。

⑦ 六尺

「尺」は長さの単位。一尺は約三十センチメートル。

一尺は約三十センチメートル。

▼ 216 ページ

⑧ 尻を持ち込まれた

「尻を持ち込む」は「後始末を迫る」の意。

⑨ もうそう

もうそう竹。竹の一種。幹が非常に太く、

節と節の間が短い。高さは十メートルほどになる。

節と節の間が短い。高さは十メートルほどになる。

⑩ 女形

芝居で女の役を演ずる男の役者。おやま。

⑪ へつつい

かまど。

⑫ 待ち駒

将棋で、相手の王将の逃げ道を予測して、あらかじめ自分の駒を配置しておくこと。

▼ 217 ページ

⑬ 飛車

将棋の駒の一種。

⑭ 勘当する

親が、子との縁を切ること。師弟・主従関係についてもいう。

親が、子との縁を切ること。師弟・主従関係についてもいう。

⑮ 瓦解

ここでは、明治維新で江戸幕府が崩壊したこと。

⑯ 悪太郎

乱暴者やいたずらっ子を人名めかして言ったもの。

⑰ きんつば

水でこねたうどん粉を延ばした皮であんを包み、刀のつばに似せて平らに焼いた菓子。

⑱ 紅梅焼き

梅の花の形に押し抜いて焼いた煎餅。

⑲ 靴足袋

靴下。

▼ 218 ページ

⑳ がま口

口金の付いた袋形のもの。金入れ。

㉑ 後架

便所。ここでは、くみ取り便所の内部。

▼ 219 ページ

㉒ 教育のない

義務教育が実施されたのは明治五年以降。ここでは、その教育を受けなかったという意味である。

㉓ 手車

自家用の人力車（車夫が人を乗せて引く二輪車）。

②④ 麹町・麻布

東京の地名。いずれも当時高級住宅地として知られていた。

⑤ 中学校

旧制中学校。当時の中学校は五年制である。

⑥ 商業学校

旧制高等商業学校を指す。一橋大学の前身。

▼ 220 ページ

⑦ 神田の小川町

東京の地名。当時、学生の下宿が多かった。

⑧ くんたり

地名に付けて、都など中心地から遠く離れた土地であることを示す言い方。「下り」の変化したもの。江戸っ子である主人公は、東京から遠く離れた地方に対して偏見を持っており、それはこの後出てくる四国に対しても同じである。

▼ 221 ページ

⑨ 新橋の停車場

旧新橋駅。当時は東海道線の始発駅。

⑩ 新体詩

明治時代初期に、西洋の詩の影響を受けて生まれた新形式の詩。

⑪ 物理学校

東京理科大学の前身。

▼ 222 ページ

⑫ 封建時代

普通鎌倉時代から明治維新の前までをいう。主従関係を基盤とした社会で、身分の上下関係が厳しく定められていた。

⑬ ごま塩のびん

びんは、頭の左右側の髪。ここでは、白髪混じりの頭を、ごま塩にたとえている。

⑭ 越後の笹あめ

越後は今の新潟県の佐渡を除いた部分。笹

あめは笹に包んだあめで、越後の名産。

▼ 223 ページ

⑮ 箱根

神奈川県西南部の山。江戸時代には東海道の関所があった。

⑯ ようじ

ここでは、歯ブラシ。

⑰ スツク

麻または綿の繊維を太くよった糸で織られた布地。

⑱ 車

ここでは、人力車。

⑲ 存分

「坊っちゃん」が初めて雑誌に掲載されて以来、「随分」と印刷されてきたが、漱石の直筆原稿では「存分」となっている。

新出漢字

▼ 214 ページ

1 譲

ジョウ
ゆずる
謙譲語

▼ 215 ページ

11 袖

(シユウ)
そで
半袖

▼ 216 ページ

7 尻

シリ
尻込み

22 懲

チヨウ
こらする
懲りる

39 棋

キ
棋士

40 駒

コマ
持ち駒

22 役

エキ

5 相撲

サムウ

▼ 217 ページ

9 緒

シヨ
お
鼻緒

10 零

レイ
零細

16 諦

テイ
あきらめる
諦念

35 鍋

ナベ
鍋料理

6 謝

アヤまる
謝

▼ 218 ページ

11 嗅(嗅)

キユウ
かぐ
嗅覚

11 臭

シユウ
におう
臭気

5 早

サツ

▼ 220 ページ

4 厄

ヤク
災厄

24 籠

(ロウ)
かご
揺り籠

13 神

カン

30 差し支える

さしかえる

▼ 221 ページ

40 赴

フ
おもむく
赴く

▼ 222 ページ

2 涯

ガイ
天涯

26 風邪

かせ

36 土産

みやげ

▼ 223 ページ

4 磨

マ
みがく
研磨

作家と作品

夏目漱石

(一八六七年二月九日～一九一六年十二月九日)

夏目漱石は、東京に生まれました。五男三女の末っ子で、本名は夏目金之助^{きんのすけ}といいました。東京大学で英文学を学び、松山や熊本^{くもと}の旧制中学・高校で英語の教師をしました。松山での体験が「坊っちゃん」に、熊本での体験が「草枕」^{くさまくら}に生かされています。温泉好きや甘いもの好きは、坊っちゃんと漱石の共通項^{きょうこう}です。その後、英国に留学しましたが、ロンドンでの生活は、英語によるコミュニケーションに悩み、精神的につらいものであったそうです。

帰国後、東京大学の英語教師の傍ら、高浜虚子^{たかはまきし}に勧められ、その主宰する俳句雑誌「ホトトギス」に「吾輩は猫である」を発表し、一躍、文名が上がりました。漱石の家にいた雄猫をモデルとした猫の「吾輩」が、主人の苦沙弥^{くさみ}先生の家庭や交友関係を皮肉に観察した風刺小説^{ふうし}です。日本の近代文学では珍しい知的なユーモア小説として読者からの好評を受け、発表当時から現在に至るまで広く読み継がれています。

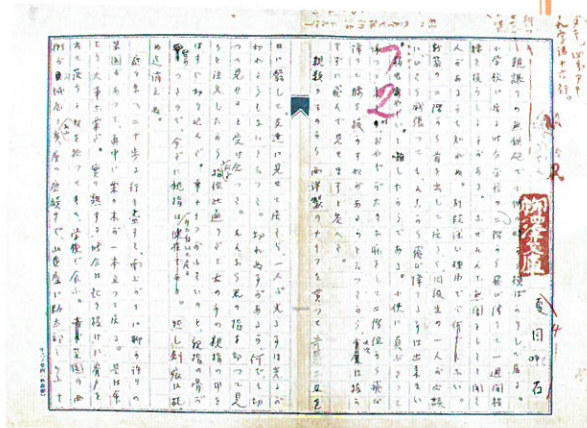
漱石という雅号^{がごう}は、「石に漱ぎ流れに枕す」という言葉から取ったもので、これは「石に枕し流れに漱ぐ」というべき

15

10

5

「坊っちゃん」の直筆原稿^{びんこう}



成句を言い間違った人の故事がその由来です。自分の間違いを認めずに屁理屈^{へりくつ}をこねる頑固者、あるいは負けず嫌いの性格を表しています。漱石は、自他ともに認める相当のへそ曲がり、偏屈者^{へんくつ}だったようです。朝日新聞の専属小説家として、「門」「それから」「道草」「こころ」などの新聞小説を書き続けた漱石は、日本の近代文学の確立者として、文学史上に大きな位置を占めています。未完の長編「明暗」が、その死後に残されました。また、漢詩や俳句の作品も作りました。

25

20

吾輩は猫である



夏目漱石

吾輩は猫である。名前はまだない。

どこで生まれたか、とんと見当がつかぬ。なんでも、薄暗いじめじめしたところでニャーニャー泣いていたことだけは記憶している。

有名な夏目漱石のこの小説は、読者の意表を突くユーモア小説であり、風刺小説である。名前のない小さな猫が語る、人間社会の奇妙さ、滑稽さ。この小説を下敷きにした作品も多くある。時代を超えて読み継がれる傑作。

夢十夜



夏目漱石

こんな夢を見た。

腕組をして枕元に坐っていると、仰向に寝た女が、静かな声でもう死にますという。女は長い髪を枕に敷いて、輪廓の柔らかな瓜実顔をその中に横たえている。

「こんな夢を見た。」で始まる十日間の夢日記。そこには、時代と社会の不安と希望が映し出される。近代日本が失ったものと、得たもの。明治の文豪の、文明に対する疑いが、そこはかとなく浮かび上がって見える。

銀の匙



中 勘助

私の書斎のいろいろながらくた

物などいれた本箱の抽匣に昔からひとつの小箱がしまつてある。それはコルク質の木で、板の合せめごとに牡丹の花の模様のついた絵紙をはってあるが、もとは舶来の粉煙草でもはいつてたものらしい。

珍しい形の銀の匙は、「私」にとつて、伯母の愛情に恵まれて育った幼少の頃の豊かな思い出につながる品だった。幸福で、幸運だった少年時代を回想するこの小説は、発表以来、多くの読者の心をつかんできた。

友情



武者小路実篤

野島が初めて杉子に会ったのは

帝劇の二階の正面の廊下だった。野島は脚本家をもつて私かに任じてはいたが、芝居を見る事は稀だった。この日も彼は友人に誘われなければ行かなかった。

友情は、恋愛感情よりも強いものだろうか。一人の女性をめぐり、二人の若者がライバルどうしとなった。二人は友人のままていられるだろうか。それとも……？古くて新しいテーマを、爽やかに描いた名作である。

小僧の神様

志賀直哉



仙吉は神田のある秤屋の店に奉公している。

それは秋らしい柔かな澄んだ陽ざしが、紺の半分はげ落ちた暖簾の下から静かに店先に差し込んでいる時だった。店には一人の客もない。帳場格子の中に坐って退屈そうに巻煙草をふかしていた番頭が、火鉢の傍で新聞を読んでいる若い番頭にこんな風に話しかけた。

昔は、子供たちも大人に交じって働いた。商店の手伝いや配達。主人公の仙吉が夢見たのは、屋台のすしを買い食いすることだった。だが、手持ちのお金では手が出ない。そんな小僧の目の前に神様が現れ、夢をかなえてくれたのだ。

伊豆の踊子

川端康成



道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思うころ、雨あしが杉の密林を白くそめながら、すさまじい早さでふもとから私を追って来た。

私は二十歳、高等学校の制服をかぶり、紺がすりの着物にはかまをはき、学生カバンを肩にかけていた。一人伊豆の旅に出てから四日目のことだった。

伊豆の山道で偶然いつしよになった、可憐な十五歳の踊り子に淡い恋心を抱く「私」。青春のときめきと、別れの悲しみ。この作品を読むと、苦しみながら生きる人々への共感が、水のようにあふれてくる。

キャラメル工場から

佐多稲子



ひろ子はいつものように弟の寝ている蒲団の裾をまくり上げた隙間で、朝飯を食べ始めた。あお黒い小さな顔がまだ眠そうに腫れていた。台所では祖母がお釜を前に、明かりにすかすようにして弁当を詰めていた。明けがたの寒さが手を動かしても身体中にしみた。どこかで朝の仕度をする音が時々聞こえた。

小学生のひろ子は、家計を助けるため、キャラメル工場で働くことになった。そこには、同じような境遇の少女たちがいた。少女たちの肩のしにかかる不幸と不運。つらいことばかりが続く日々、それでも頑張るしかなかった。

山椒魚

井伏鱒二



山椒魚は悲しんだ。

彼は彼の棲家である岩屋から外に出てみようとしたのであるが、頭が出口につかえて外に出ることができなかつたのである。今はもはや、彼にとっては永遠の棲家である岩屋は、出入り口のところがそんなに狭かつた。そして、ほの暗かつた。

山椒魚はなぜ悲しんだのか。それは、巣穴の中でうかうか過ごすうち、自分の体が大きくなり、出口につつかえてしまったから。何という失敗、何という不幸。山椒魚は、穴に紛れ込んだエビの出口を塞ぎ、出られなくしてしまった。

読書案内

本の世界を楽しもう

野川

長野まゆみ

意識を変える。
ルールが変わっ
たんだ。



父と二人暮らしを始めた音和は、
転校先の中学校で通信用のハトの
世話を始めた。その風変わりな活
動が、彼の心を解きほぐしていく。

真夜中の動物園

ソーニャ・ハートネット

自分の場所にも
どりたいのさ！

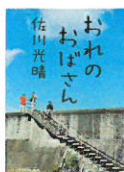


第二次世界大戦中のチェコ。両親を亡くした兄弟は妹を抱き、動物園にたどり着く。その晩、おりの中の動物は、兄弟に話しかけた。

おれのおばさん

佐川光晴

問題のない家庭
なんか、一つも
ないんだ。



父の事件のせいで、「おれ」は
児童養護施設に入る。そこには、
肝きんの据よわったおばさんと、さまざま
な事情を抱えた友達がいた。

戦火の馬

マイケル・モーバーゴ

第一次世界大戦
中、軍馬は最前
線で戦った。



馬のジョーイは優しい主人と引
き離され、戦場に送られた。弾丸
飛び交う戦場で負傷したジョーイ
は、運命の出会いを果たす。

兎の眼

灰谷健次郎

鉄三は、瓶の中
にハエを大切に
飼っていた。



新任の小谷先生は、心を閉ざし
た少年にどう接するか思い悩む。
だが、その純粹な気持ちに向き合
い、先生自身が変わっていった。

宇宙の「一番星」を探して

谷口義明

発見という幸運
は、準備された
心に宿る。

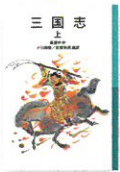


ビッグバン後、宇宙は膨張する
につれて温度が下がり、ガス雲が
でき、そして星が生まれた。天文
学者はその最初の星を探し続ける。

三国志

羅貫中

英雄豪傑入り乱
れる勇壮な物語。



中国後漢の時代、蜀の国、玄德
(劉備)・関羽・張飛は、義兄弟
の契りを結び、知略にたけた孔明
を軍師に、天下統一に乗り出す。

センス・オブ・ワンダー

レイチエル・カーソン

自然に触れると
いう、終わりの
ない喜び。



自然の中で、美しいものを美し
いと感じ、未知のものに心が躍る。
そんな感性を持ち続けることの大切さを説いた一冊。

小学校六年の 漢字一覧

・この表は、小学校六年で学習した漢字（百八十一字）を、五十音順に配列し、各音訓の用例を示したものである。

あ 穴 あな 穴 横穴	い 異 イ こと 異常 異議 意見が異なる	遺 イ 遺産 遺失物	域 イキ 地域 領域	う 宇 ウ 宇宙	裏 うら 裏口 裏通り	え 映 エイ うつす 映画 反映 鏡に映る 映画を映す	延 エン のびる のべる のばす 延期 順延 鉄道が延びる 延べ人数 出発を延ばす	沿 エン そう 沿線 沿岸 川に沿った道	か 拡 カク 拡大 拡張	
革 カク 革新 改革	閣 カク 閣議 内閣	片 かた 片側 片道	株 かぶ お株 切り株	干 カン ほす 干潮 干満 シャツを干す	巻 カン まく まき 巻末 上巻 包帯を巻く 巻一	看 カン 看病 看護	簡 カン 簡単 書簡	危 キ あぶない 危険 危機 危ない場所	揮 キ 指揮 發揮	貴 キ 貴重 貴金属
疑 ギ うたがう 疑問 質疑 耳を疑う	絹 きぬ 絹糸 絹織物	吸 キュウ すう 吸収 呼吸 空気を吸う	供 キョウ そなえる とも 供給 提供 花を供える お供 子供	胸 キョウ むね 胸 度胸 胸を張る	郷 キョウ キョウ 郷里 故郷	勤 キン つとめる つとまる 勤勉 通勤 会社に勤める 仕事に勤まる	筋 キン すじ 筋肉 鉄筋 筋道 筋書	暮 ク くれる くらす 日が暮れる 京都で暮らす	系 ケイ 系列 太陽系	敬 ケイ うやまう 敬語 尊敬 先生を敬う
警 ケイ 警察 警報	劇 ゲキ 劇場 演劇	激 ゲキ はげしい 激戦 感激 激しい雨	権 ケン 権利 人権	憲 ケン 憲法 立憲	源 ゲン みなもと 源流 起源 川の源	厳 ゲン きびしい 厳重 尊敬 厳しい練習	己 コ 自己 利己的	呼 コ よぶ 呼吸 連呼 名前を呼ぶ	誤 ゴ あやまる 誤解 正誤 計算を誤る	后 コウ 皇后
孝 コウ 親孝行 不孝	皇 コウ オウ 皇居 皇室 天皇 法皇	紅 コウ べに 紅白 紅茶 紅色 口紅	降 コウ おりる おろす 降雨 以降 電車を降りる 乗客を降ろす 雨が降る	鋼 コウ 鋼鉄 鉄鋼	刻 コク きざむ 時刻 定刻 野菜を刻む	穀 コク 穀物 米穀	骨 コツ ほね 骨折 鉄骨 足の骨	困 コン こまる 困難 返事に困る	砂 サ すな 砂糖 砂鉄 砂場 砂時計	

射	磁	誌	詞	視	姿	私	至	蚕	冊	策	裁	濟	座
シヤ いる	ジ	シ	シ	シ	シ すがた	シ わたくし わたし	シ いたる	サン かいこ	サツ	サク	サイ さばく	サイ すむ すまず	ザ
反射 注射 的を射る	磁石 白磁	誌面 雑誌	歌詞 名詞	視野 重視	姿勢 勇姿 晴れ姿 姿見	私鉄 公私 私が行きます 私たち	至急 冬至 目的地に至る	蚕糸 養蚕 蚕を飼う	冊数 二冊	策略 対策	裁判 洋裁 争いを裁く	救済 経済 宿題が済む 用事を済ます	座席 星座

捨	尺	樹	収	宗	就	衆	従	縦	縮	熟	純	処
シャ すてる	シャク	ジュ	シユウ おさめる おさまる	シユウ	シユウ	シユウ	ジュウ したがう したがえる	ジュウ たて	シユク ちぢむ ちぢまる ちぢめる ちぢれる ちぢらす	ジュク	ジュン	ショ
取捨に迷う ごみを捨てる	尺度 縮尺	樹木 街路樹	収入 回収 利益を収める 争いが収まる	宗教 改宗	就職 去就	衆議院 群衆	従事 従来 規則に従う 後に従える	縦横 操縦 縦書き	縮小 圧縮 シャツが縮む 差が縮まる 差を縮める 布が縮れる 布を縮らす	熟読 成熟	純真 單純	処理 対処

署	シヨ	署名 消防署
諸	シヨ	諸国 諸問題
除	ジヨ のぞく	除外 解除 日曜日を除く
将	シヨウ	将来 主将
傷	シヨウ きず	負傷 感傷的 傷口
障	シヨウ	障害 故障
城	ジヨウ しろ	城下町 落城 城を築く
蒸	ジヨウ	蒸発 水蒸気
針	シン はり	秒針 方針 針金 留め針
仁	ジン	仁義 仁徳
垂	スイ たれる たらず	垂直 垂線 水が垂れる ひもを垂らす
推	スイ	推測 類推
寸	スン	寸法 一寸
世聖	セイ	聖者 神聖

誠	宣	專	泉	洗	善	奏	窓	創	装	層	操	蔵	臓
セイ	セン	セン	セン	セン	ゼン	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ゾウ	ゾウ
誠意 誠実	宣伝 宣言	専門 專念	温泉 源泉 森の泉	洗面所 洗顔 手を洗う	善意 改善 善い行い	演奏 合奏	同窓会 車窓 窓口 天窓	創造 独創 会社を創る	装置 服装	地層 高層	操作 体操	蔵書 冷蔵庫	臓器 心臓

染	尊	宅	卵	担	探	誕	段	暖	値	宙
そめる ぞまる	ソン ソ ソ たつとい とうとい たつとぶ とうとぶ	タク	たまご	タン	タン さがす	タン	ダン	ダン あたたかい あたたかい あたたまる	チ ね	チュウ
布を染める 悪に染まる	尊敬 尊重 尊い教え 尊い神 親を尊ぶ 親を尊ぶ	住宅 自宅	鳥の卵 生卵	担当 分担	探検 探求 家を探す	誕生 誕生日	段落 階段	暖流 温暖 暖かな毛布 暖かい気候 部屋が暖まる 部屋を暖める	価値 数値 値段 値上げ	宙返り 宇宙

届	糖	党	討	て	机	痛	賃	潮	頂	庁	著	忠
とどける とどく	トウ	トウ	トウ	テン	つくえ	ツウ いたい いたむ いためる	チン	しお チヨウ お	チヨウ いたたく いただき	チヨウ	チヨ	チュウ
荷物を届ける 郵便が届く	糖分 砂糖	政党 無党派	討論 検討	展開 発展	机 勉強机	痛感 苦痛 頭が痛い 歯が痛む 足を痛める	賃金 運賃	潮流 満潮 潮風	頂点 絶頂 雪を頂いた山 山の頂	庁舎 気象庁	著者 著名	忠告 忠誠

晩	班	灰	俳	肺	背	拝	派	脳	の	に	難	な
バン	ハン	はい	ハイ	ハイ	ハイ せい	ハイ おがむ	ハ	ノウ	ノウ おさめる おさまる	ニユウ ちち	ナン むずかしい	なみ ならべる ならぶ ならびに
晩春 今晚	班長 第三班	灰色 火山灰	俳句 俳優	肺 肺活量	背後 背景 背中 背負う 上背 背比べ	拝見 参拝 日の出を拝む	派生 流派	頭脳 首脳	納入 収納 税金を納める 金庫に納まる	乳児 牛乳 牛の乳	難解 非難 難しい問題	並木 並の品 本を並べる 二列に並ぶ 桜並びに梅

枚	棒	亡	訪	宝	補	閉	へ	奮	ふ	秘	批	ひ
マイ	ボウ	ボウ	ホウ たずねる	ホウ たから	ホ おきなう	ヘイ とじる しめる しまる	ヘイ	フン ふるう	フク はら	ヒ	ヒ	ヒ
枚数 五枚	棒 鉄棒	死亡 存亡	訪問 来訪 京都を訪ねる	宝石 国宝 宝探し	補助 候補 説明を補う	閉店 開閉 本を閉じる 戸を閉める 店が閉まる	陛下	奮起 興奮 奮い立たせる	腹部 腹痛 腹がすく	秘密 神秘	批判 批評	否定 安否

覧	乱	翌	欲	よ	優	ゆ	や	盛	も	め	み	幕
ラン	ラン みだれる みだす	ヨク	ヨク	ヨウ おさない	ユウ	ユウ	ヤク わけ	もる	ボモ	メイ	ミツ	マク
一覧 博覧会	乱雑 混乱 列が乱れる 列を乱す	翌日 翌朝	欲望 意欲	幼児 幼年 幼い子	優勝 女優	郵便 郵送	訳す 通訳 訳を話す	血に盛る	模様 模試	同盟 連盟	密接 秘密	幕開け 閉幕 幕府 幕末

我	割	忘	わ	若	論	朗	り
われ	わり われる	わすれる	わかい	わかい	ロン	ロウ	リン
我々	卵を割る 五割 割合 皿が割れる	約束を忘れる	若い世代	若い世代	論理 結論	朗読 明朗	法律 規律 臨時 臨海

編 礎 基

◆ 学びを支える言葉の力

実用的な言葉の力

〔整理する力〕 要約する 234

〔説明する力〕 テーマを立てて説明する 239

論理的な言葉の力

〔分析する力〕 論証の組み立てを捉える 242

〔議論する力〕 反論する 245

創造的な言葉の力

〔解釈する力〕 人物像を捉える 248

〔表現する力〕 想像を誘うように表現する 251

◆ 文法解説

一年の復習 254

敬語 256

用言の活用 258

助詞 262

助動詞 264

用言活用表 268

助詞一覧表 269

助動詞活用表 270



要約する

↓ 学びの扉 69ページ

要約するとは、ただ文章を短くするというだけのことはな
い。人の話や文章の言いたいことを捉え、その根幹を的確に把
握してまとめること、それが要約することである。

だから、要約の練習を積むことによって、文章を正しく理解
する力と、的確に表現する力が身についてくる。

● 重要な箇所に線を引く

左ページの文章を通して、具体的にどのようなように要約すればよ
いかを見てみよう。

まず、準備として、重要な箇所に線を引こう。

でも、いきなり線を引きながら読み始めちゃ
だめだよ。



10

5

重要かどうかは、その文章全体を見て考えなければいけない。
だから、最初は線を引かずに全体を読もう。そして筆者の言
いたいことがある程度見えてきたら、もう一度読み直しなが
ら、だいじだと思うところに線を引く。

この作業のときには、次のヒントを参考にするとよい。

- ① 具体例は、多くの場合、削ることができる
- ② 補足的な内容は、多くの場合、削ることができる
- ③ 言い換えている場合には、よりの確にまとめているほう
に線を引く

● 全体の骨格を捉え、更に削る

重要な箇所に線を引くことによって、枝葉が切り落とされ、
文章の幹の形（全体の骨格）が見えてくる。

20

15

私たちはふだんの生活の中で、「赤」「青」「緑」「藍色」「ねずみ色」などの、さまざまな色彩語を使っている。そこで日本語の色彩語を調べてみると、そのほとんどがもとも色ではないものを表す語であることが分かる。例えば、「ねずみ色」は動物の名前を借りた言葉であり、「藍」は植物の名前、「金」は鉱物の名前である。また、「緑」は本来は草木の新芽を意味していた。

一方、色だけを表す、いわば色専用語の数は驚くほど少ない。実は、日本語の色専用語は「赤」と「青」の二つだけといえるのである。

色専用語以外の色彩語は、「ねずみ色」や「藍色」のように、もともとの名前に「色」という語を付けて用いるのが普通である。それに対して、「赤」や「青」は「色」という語を付けると不自然になっ てしまう。「赤色」や「青色」は、普通の言い方ではないだろう。これは「赤」と「青」が色専用語であることを示している。

更に、「赤」と「青」は「い」を付けて「赤い」

「青い」と形容詞にできるが、これも色専用語の特徴といえる。もともと物の名前である場合は、形容詞を作りにくい。例えば、「みどりい」「みどりいろい」とは言わないだろう。

ただし、「黄」と「茶」はその点で微妙な例となっている。これらは、「黄色い」「茶色い」と形容詞を作ることができる。だが、「黄色」「茶色」という言い方が普通にできるという点では、色専用語とはいえない。実際、「茶」は植物の茶に由来し、「黄」も木から来たのではないかといわれている。

色専用語の特徴という点で、「白」と「黒」はどうだろうか。なるほど、これらも「色」という語を付けると不自然になり、また、「白い」「黒い」という形容詞を作ることでもできる。つまり、「白」も「黒」も色専用語の二つの特徴を持っている。しかし、白黒写真には色がないというように、「白」と「黒」は厳密には色ではないと考えることもできる。そう考えるならば、日本語の色専用語は「赤」と「青」の二つしかないと結論できる。

15

10

5

35

30

25

20

言い換えは的確なほう

具体例は線を引かない

私たちはふだんの生活の中で、「赤」「青」「緑」「藍色」「ねずみ色」などの、さまざまな色彩語を使っている。そこで日本語の色彩語を調べてみると、そのほとんどがもともと色ではないものを表す語であることが分かる。例えば、「ねずみ色」は動物の名前を借りた言葉であり、「藍」は植物の名前、「金」は鉱物の名前である。また、「緑」は本来は草木の新芽を意味していた。

一方、色だけを表す、いわば色専用語の数は驚くほど少ない。実は、日本語の色専用語は「赤」と「青」の二つだけといえるのである。

色専用語以外の色彩語は、「ねずみ色」や「藍色」のように、もともとの名前に「色」という語を付けて用いるのが普通である。それに対して、「赤」や「青」は「色」という語を付けると不自然になっってしまう。「赤色」や「青色」は、普通の言い方ではないだろう。これは「赤」と「青」が色専用語であることを示している。

更に、「赤」と「青」は「い」を付けて「赤い」と「青い」と形容詞にできるが、これも色専用語の特徴といえる。もともと物の名前である場合は、形容詞を作りにくい。例えば、「みどりい」「みどりいろい」とは言わないだろう。

ただし、「黄」と「茶」はその点で微妙な例となっている。これらは、「黄色い」「茶色い」と形容詞を作ることができる。だが、「黄色」「茶色」という言い方が普通にできるという点では、色専用語とはいえない。実際、「茶」は植物の茶に由来し、「黄」も木から来たのではないかといわれている。

色専用語の特徴という点で、「白」と「黒」はどうだろうか。なるほど、これらも「色」という語を付けると不自然になり、また、「白い」「黒い」という形容詞を作ることでもできる。つまり、「白」も「黒」も色専用語の二つの特徴を持っている。しかし、白黒写真には色がないというように、「白」と「黒」は厳密には色ではないと考えることもできる。そう考えるならば、日本語の色専用語は「赤」と「青」の二つしかないと結論できる。

15

10

5

35

30

25

20

言い換えは的確なほう

補足は線を引かない

具体例は線を引かない

大づかみにいえば、この文章の骨格はこうである。

根拠^{こんま} 色専用語とその他の色彩語の違い^{ちが}



結論 色専用語は「赤」と「青」の二つだけである

この骨格にとってどこが重要でどこがそれほど重要でないかを区別しよう。そうすると、まだ削れる箇所が見つかる。どのくらい削るかは、目指す要約文の長さによるが、今は根拠と結論に関わらない部分は思い切って削ることにしよう。また、この文章では結論に当たる主張が二回出てくるので、今は最後の文だけを残すことにする。こうして、線を引いた箇所から更に削って、右ページに示したように、最終的に残す部分に色を塗ろう。

要約をするときは、文章全体の骨格を捉えなくちゃいけないだね。



● 残した部分をもとに、要約文を作る

それでは、残した部分（色を塗った部分）をつないで要約文

15

10

5

を作ろう。このとき、必要ならば、接続表現などの適切な言葉を補って、全体が自然な文章になるように工夫しよう。

日本語の色彩語を調べてみると、そのほとんどがもとも色ではないものを表す語であることが分かる。色専用語以外の色彩語は、もともとの名前に「色」という語を付けて用いるのが普通である。それに対して、「赤」や「青」は「色」という語を付けると不自然になってしまう。これは「赤」と「青」が色専用語であることを示している。更に、「赤」と「青」は「い」を付けて「赤い」「青い」と形容詞にできるが、これも色専用語の特徴といえる。もともと物の名前である場合は、形容詞を作りにくい。また、「白」も「黒」も色専用語の二つの特徴を持っている。しかし、「白」と「黒」は厳密には色ではないと考えることもできる。そう考えるならば、日本語の色専用語は「赤」と「青」の二つしかない結論できる。

これでいちおう完成だけど、慣れてきたら、更に削ったり、表現を工夫したりして、よりよい要約に挑戦してみよう。



30

25

20

次の文章を要約してみよう。

二十一世紀を迎える直前に、世界中の科学者に向けて「この二千年間で人類最大の発明は何か。」という質問が発せられた。あなたなら何と答えるだろう。ジェット飛行機、ロケット、宇宙ステーション……。私などは、真っ先にこうした華々しい科学技術の成果を思い浮かべる。ところが、科学者の考えていることは少し違っていた。百人余りが回答を寄せていたが、最も多かった回答は印刷機だった。六人が印刷機と答え、更に、別の答えを出した人たちの中にも、印刷機が人類最大の発明であるのは当然なので答えから外したという人たちがいた。

ある人は、人類最大の発明として印刷機と答えた理由を、書物は「我々の精神と文化を発達させるうえで中心的な役割を果たしてきた」からだ、と説明している。印刷機が発明される以前には、書物は手で書き写されなければならず、限られた人しか書物を持てなかった。しかし、印刷機は書物の大量生産を可能にした。つまり、印刷機によって初めて、多くの人が本を手にし、知識を得ることができるようになったか

ら、というわけだ。

科学者たちの回答には、ほかにも知識の獲得に関わる発明が多く含まれていた。例えば、テレビやコンピュータ、そしてインターネット。更には、教育という答えもあった。私たちは、学ぼうと思えばさまざまなことが学べる現代の状況を当然のことと感じているかもしれない。しかし、書物をはじめとする学ぶためのさまざまな手段、そして教育という社会の仕組み、こうした学ぶために整えられた環境こそ、人類最大の発明であるというべきだろう。

つながる・広がる

学習のつながり 読「P.60」鯉節——世界に誇る伝統食

書「P.71」調べて考えたことを伝えよう 読「P.90」哲学的思考のすすめ 話「P.105」説得力のある提案をしよう

生活への広がり 要約の練習を積むと、文章を正しく理解し、的確に表現する力がつく。要約する力は、読んだことや聞いたことを、記録したり報告したりするときに生かそう。

実用的な言葉の力——説明する力

一年 順序立てて説明する



二年 テーマを立てて説明する



三年 目的や相手に応じて説明する

テーマを立てて説明する

↓ 学びの扉 70ページ

● 問いを立てる

由実さんはレポートの**テーマ**を考えるため、ごみ問題の本に大まかに目を通してみた。そして、どんな内容が書かれているかについて、次のようなメモを取った。

- ・ごみ問題の現状と深刻さ。
- ・ごみ処理の仕方。焼却と埋め立て。
- ・多くの国では、ごみは燃やさずに埋め立てている。
- ・ごみ処理用地と住民の問題。
- ・家庭ごみの有料化のこと。
- ・消費者がごみを減らすだけでなく、生産者がごみになるような包装をしないこともだいじ。
- ・ごみを減らすには、ごみの再使用とリサイクル。

10

5

大きく分けて、ごみ処理についての話題と、ごみ削減についての話題がある。どちらかに絞って問いを立てよう。

ごみ処理に注目するならば、「ごみはどのように処理されるのか」や「日本のごみ処理はどのような問題を抱えているのか」といった問いが考えられるだろう。

ごみ削減に注目するならば、「資源リサイクルはどのように行われているか」や「家庭ごみの有料化はごみ削減にどの程度有効なのか」といった問いが考えられる。

レポートでいちばんだいじなことは、実は、問いをうまく立てることなんだ。



大きすぎる問いを立ててしまうと、短いレポートには収まらなくなる。レポートの長さに適した問いを考えよう。

20

15

「家庭ごみの削減のためにはどのような方法があるのか」にしようかな。



● 更に調べる

立てられた問いが、レポートのテーマになる。そして、その問いへの答えが、レポートの内容になる。

由実さんは、自分が立てた問いの答えを求めて、もう一度、今度はじっくりと本を読み始めた。読み進めながら、由実さんは家庭ごみ削減の方法について考えた。

「ごみ出しの有料化、消費者の意識。消費者だけじゃないな。生産者の責任も……。あと、そうか、再使用や資源のリサイクル……」



そうして調べていくうちに、ごみ削減に関してはドイツが進んだ取り組みをしていることも分かってきた。おもしろくなってきた、更にドイツの取り組みについても調べてみることにした。インターネットで「ドイツ」「ごみ削減」で検索したら、ぴったりの記事が見つかった。「やった。」と由実さんは小さく声をあげた。

15

10

5

● レポートを書く

さあ、調べたことをレポートにまとめよう。由実さんは「家庭ごみ削減の方法」とレポートのタイトルを書き、これまで調べた家庭ごみ削減のための方法を書き始めた。

だめだめ。まず自分が立てた問いを説明しなければ。



レポートでは、自分が立てた問いを説明するところから書き始めよう。どうして家庭ごみ削減のための方法を調べることがだいじなのか。それが問題となる状況や事情も、読む人に分かるようにきちんと説明する。そのためには、ごみ問題の深刻さについてもある程度書いておいたほうがよい。

そうか。まず問題を分かってもらわなくちゃいけないね。



由実さんは、まず立てた問いを説明し、その後に問いへの答えを書き始めた。ここからは、自分が立てた問題に対して長文の答案を書くような気持ちで、レポートを書こう。

30

25

20

■ 純平さんは、茶道に関する本を読み、次のようなメモを取った。これを読んで、①、②の問いについて考えてみよう。

・緑茶は茶の葉を発酵^{はっこう}させないが、完全に発酵させると紅茶になり、途中で止めるとウーロン茶になる。

・日本で初めてお茶が飲まれたのは遣唐使^{けんとうし}の時代。

・抹茶^{まつちゃ}は鎌倉時代に中国から伝わったものであり、茶道の精神^{しん}は禅の教えに基づく。

・茶道は、最初は豪華^{ごうか}なものだったが、やがて簡素な形になり、千利休^{せんりきゅう}によって現在の茶道の基本的な形が作られた。

・茶道では精神的な面が重んじられる。例えば、「一期一会^{いちごいちえ}」なども、茶道ではだいじな考え方である。

・茶道では、お茶のたて方や飲み方のほか、お辞儀^{じぎ}の仕方などの立ち居振る舞い^{まい}においても、たくさん^{いん}の作法がある。

・茶道には家元^{いえもと}といわれる制度があり、この制度によって伝統が守られてきたという一面がある。

・現在、茶道にはいくつもの流派がある。

15

10

5

① 上のメモを生かしたレポートの問いとしてふさわしいものを、次から選ぼう。

- ア 茶の葉を発酵させて途中で止めたなら何になるのか
 イ 茶道において千利休はどのような役割を果たしたのか
 ウ 「紅茶道」や「ウーロン茶道」はあるのか
 エ 茶道について
 オ 茶道の根底にある考え方はどのようなものか

② ①のほかにレポートになりそうな問いを立ててみよう。

25

つながる・広がる

学習のつながり

読「P60」鯉節——世界に誇る伝統食

書「P11」調べて考えたことを伝えよう 話「P105」説得力のある提案をしよう

生活への広がり

レポートとは、自分が興味を持ったことについての「問い」と「答え」である。問いを見つけ、テーマを立てて説明する力は、さまざまなことを調べたり、調べたことを人に伝えたりする場面で生かそう。

30



論証の組み立てを捉える

↓ 学びの扉 98ページ

● 根拠と結論

論証は、**根拠**と**結論**から組み立てられる。論証を示すときには、根拠を述べてから結論を言う場合と、まず結論を述べてしまい、それから根拠を言う場合がある。

次の①～③の論証で、根拠と結論を区別して取り出そう。

① 動物を好きな人に悪い人は絶対いない。だから、動物好きの馬場さんは悪い人ではない。

② 由実さんは僕のことを嫌いにちがいない。だって、バレンタインデーに何もくれなかったもの。

③ 外は雨が降っているよ。歩いている人がみんな傘を差しているからね。

10

5

それぞれ、次のように根拠と結論を取り出せる。

① 根拠 動物を好きな人に悪い人は絶対いない。
結論 動物好きの馬場さんは悪い人ではない。

② 根拠 バレンタインデーに何もくれなかった。
結論 由実さんは僕のことを嫌いにちがいない。

③ 根拠 歩いている人がみんな傘を差している。
結論 外は雨が降っている。

15

● 論証の説得力

ウはいけれど、アとイは説得力が弱いかな。



論証が説得力を持ったためのポイントは二つある。

① 根拠が正しい

② 根拠から結論が適切に導かれている

論証アでは、「動物を好きな人に悪い人は絶対いない。」とまではいえないだろう。だから、アは根拠が正しくない。

ア 結論 ← × 根拠 (根拠が正しくない)

論証イでは、根拠で言われていることは事実だとしても、「バレンタインデーに何もくれなかった。」という根拠から「由実さんは僕のことを嫌いにちがいない。」という結論は必ずしも導かれない。嫌いではないのだけど、別の理由でくれなかったのかもしれない。だから、イは根拠から結論が適切に導かれて

10

5

いないといえる。

イ 結論 ← 根拠

× (根拠から結論が適切に導かれていない)

それに対して論証ウは、事実を根拠として、そこから結論が適切に導かれているので、説得力のある論証になっている。

ウ 結論 ← ○ 根拠 (根拠が正しい)

○ (根拠から結論が適切に導かれている)

根拠が正しいかどうかと、結論が適切に導かれているかどうかは、別のことなんだ！



その二つをしっかり捉えて、説得力のある論証かどうかを冷静に判断しなければいけないね。



人によって考え方が分かれるような話題では、完全に説得力のある論証を示すことは難しい。だからこそ、できるだけ説得力のある論証を目指して努力する必要がある。

25

20

15

1 次の論証は、どういう点が説得力の弱いものになっているか、考えてみよう。

(1) 京子さんの誕生日にはぬいぐるみを贈るのがいいと思う。だって女の子はみんなぬいぐるみが好きだからね。

(2) 父は、人前で、ものすごく大きな声でくしやみをする。どうも中年の男の人というのは、遠慮や恥ずかしいということを知らないようだ。

(3) 高志さんは小説が嫌いなんだ。だって、「坊っちゃん」を読んだことがないって言うんだよ。

(4) 純平さんはピーマンが入ったものは食べない。でも、これはピーマンが入っていないから、純平さんも食べるにちがいない。

(5) 携帯電話はけっこうお金がかかる。だから、中学生には携帯電話は必要ない。

15

10

5

2 次の文章から論証を全て取り出し、説得力が十分にあるかどうか、説得力が弱いとしたらどうしてかを考えてみよう。

町には自動販売機があちこちにあります。でも、あんなにたくさんは設置すべきではないと思います。というのも、自動販売機は設置しているだけで電力を消費するからです。だいたい、この前などお金を入れたのに飲み物が出てこなかったんです。だから、自動販売機で買うよりコンビニで買ったほうがいいと思うのです。実際、自動販売機を使っている人なんかほとんどいないのだから、なくしたってかまわないのではないでしょうか。

つながる・広がる

学習のつながり 読「P90」哲学的思考のすすめ 書「P99」反対意見を想定して書く 話「P105」説得力のある提案をしよう 話「P197」話し合いで問題を検討しよう

生活への広がり 正しい根拠から、結論が適切に導かれていると、論証は説得力を持つ。論証の組み立てを捉える力は、新聞や本を読んだり、議論したりするときに生かそう。

30

25

20

論理的な言葉の力——議論する力

一年 質問する



二年

反論する



三年

合意を形成する

反論する

学びの扉
196ページ

● 水かけ論

独断的

……根拠なしに自分の考えを述べること

水かけ論

……自分の考えを言い合うだけの議論

互いに自分の考えを独断的に言い合うだけでは水かけ論になってしまふ。自分の考えを言うときには、どうしてそう考えるのか、根拠も示さなくてはいけない。

しかし、根拠が示されても、相手の示した根拠をきちんと受け止めて反論しなければ、やはり議論は水かけ論になってしまふ。次のやりとりを見てみよう。

正太 「ドラえもん」の主演はもちろんドラえもんだよ。

タイトルが「ドラえもん」なんだから。

高志 のび太だよ。のび太のほうがおもしろいもの。

10

5

正太 「ドラえもん」っていう漫画の主演がドラえもん

じゃなくてどうするのさ。

高志 でも、僕は絶対のび太だと思うな。

正太 僕は絶対ドラえもん。

結局二人のやりとりは水かけ論になってしまっている。どこに原因があるのだろう。

そうか。二人とも、相手の示した根拠を全く無視しちゃってる。

水かけ論にしないためには、相手の示した根拠のどこに納得できないのかを述べて、反論しなければいけないね。



20

15

● 反論する

正太さんは、ドラえもんが主役だという自分の意見に対して、「タイトルが『ドラえもん』なんだから。」と根拠を述べていた。そこで、この根拠に対して、「タイトル主役」とは限らない、と反論することができる。反論するときも、単に相手の考えを否定するのではなく、どうしてそう考えるのかを述べて反論しよう。例えば、こんな反論が考えられる。

正太 主役はもちろんドラえもんだよ。タイトルが「ドラ

えもん」なんだから。

高志 タイトルが主役とは限らないよ。主役の名前が付いていないタイトルだってたくさんあるもの。主役というのは物語の中心人物でしょう。だったらやっぱり中心人物はのび太だと思う。だって、「ドラえもん」はのび太の悩みと失敗の話なんだから。

でも、なかなかこんなふうには反論できないなあ。反論することも、練習が必要なんだね。



15

10

5

● 隠れた前提

次の主張に対する反論を考えてみよう。

お寺より遊園地のほうがずっと楽しい。だから、修学旅行はお寺を回るのではなくて遊園地にすべきだ。

まず、「お寺も遊園地とは別の意味で楽しい。」のように、相手の示した根拠に対して反論できるだろう。

しかし、別の反論の仕方もある。表立って述べられていないが、この主張には、「修学旅行は楽しいところに行くべきだ。」という前提が隠れている。そこで、この前提に対して「修学旅行は楽しければよいというものではない。」と反論することができる。

このように、根拠を挙げて主張するとき、そこにはしばしば表に出てきていない前提がある。それを**隠れた前提**とよぶ。反論するときには隠れた前提のことも考えてみよう。

隠れた前提を見つけれられるようになると、反論の幅がぐんと広がるよ。



30

25

20

練習しよう

① 次の議論のどういところがよくないか、考えてみよう。

由実 席替^{せきが}えは、くじ引きがいいな。

京子 ええっ、席替^{せきが}えは好きな人^{ひと}どうしが近くに座^{すわ}るのがいいよ。仲^{なつ}のいい人が同じ班^{はん}だと楽しいもん。

由実 そんなことないよ。くじ引きにすべきだと思うな。

京子 好きな人^{ひと}どうしのほうがいいって。

由実 だめだよ。絶対くじ引き。

② 水かけ論にならないように注意して、次の主張に反論してみよう。

① 言葉に表れなくても敬う気持ちがあればよいのだから、敬語はなくてもよい。

② 大阪^{おおさか}の人^{ひと}ってみんな陽気^{やうき}なんだね。だって、大阪出身^{おおさか}でものすごく陽気^{やうき}なおばさんがうちの近所^{きんじよ}にいるもの。

③ 恋愛^{れんあい}経験^{けいけん}のない人に恋愛小説^{れんあいしやうせつ}は書けない。だから、中学生^{ちゅうがくせい}には恋愛小説^{れんあいしやうせつ}は書けない。

15

10

5

③ 次の主張から隠れた前提を取り出して、反論してみよう。

① 今度の旅行はあまり時間がないからタクシーで回ろう。そうしないと、観光名所^{くわんかんめいしよ}を全部回れないからね。

② 電子メールは手紙より断然速いから、連絡^{れんらく}は全部電子メールにするの^のがいいと思う。

つながる・広がる

学習^{がくしゆ}のつながり 話^わ「P54」問題意識^{もんだいいしき}を持つて聞こう

読^よ「P90」哲学的思考^{ていしゆてきしやう}のすすめ 書^か「P99」反対意見^{はんたいいけん}を想定して書こう 話^わ「P197」話し合^{はなしか}いで問題^{もんだい}を検討しよう

生活^{しやうか}への広がり 自分の考えは根拠^{こんこ}を挙げて述べ、反論するときに、相手の考えの根拠^{こんこ}を受け止めて反論しなければいけない。建設的な議論^{けんせつてきなぎろん}をするために、反論する力を生かそう。



25

20

人物像を捉える

↓ 学びの扉 171ページ

● 人物の言葉や行動・態度に着目する

ある人物が、どんな人柄で、どんな考え方をしているのか、といった人物の特徴のことを、**人物像**という。人物像を捉えるには、人物の言葉や行動・態度に着目するとよい。

次の文章から、京子と由実の人物像を捉えてみよう。

遅刻

ベンチの脇にある時計台を見上げると、約束の時間を五分ほど過ぎていた。京子は少し眉をひそめると、手にしていた文庫本に視線を戻した。念のため、早めに家を出て、ここにはもう二十分ほど座っている。

ふと、京子が顔を上げると、公園の入り口付近に由実の姿が見えた。由実も京子に気づいたらしく、笑顔で手を振

10

5



ると、悠々とした足取りで歩いてくる。

「京子、相変わらず早いねえ。」

その声を掛けてから由実時計台に目を向けると、

「あれっ、私がちよつと遅かったの？」

と言って軽く頭をかき、目を細めて愉快そうに笑った。

「せめて、慌てて走ってくるふりくらいしてよ。」

と京子は言っ、ほほ笑んだ。

まず、京子について見てみよう。

京子の言葉や行動・態度	人物像
「少し眉をひそめる」という態度	↓時間はきちんと守るべきだという意識が強い 真面目、きちょうめん
「念のため、早めに家を出て」「ここにはもう二十分ほど座っている」という行動	↓慎重な性格 しんちょう
「せめて、慌てて走って行くふりくらいしてよ。」という言葉と、「ほほ笑んだ」という態度	↓時間は守るべきだと思っているが、友人の失敗を大目に見るといふ優しさもある



15

10

5

まとめると、「京子は、慎重な性格で、時間に対してきちょうめんだが、友人への優しさもある人物だ。」ということができる。

なお、京子がふだんから時間を守る意識の強い人物であることは、「京子、相変わらず早いねえ。」という由実の言葉からもうかがえる。

次に、由実について見てみよう。

由実の言葉や行動・態度	人物像
「悠々とした足取りで歩いてくる」という行動	↓のんびりしている
「あれっ、私がちよつと遅かったの？」という言葉	↓時間をあまり気にしない、大ざっぱなところがある
「軽く頭をかき、目を細めて愉快そうに笑った」という態度	↓失敗を重く感じない、陽気な性格



まとめると、「由実は、のんびりしていて、大ざっぱなところがあり、陽気な人物だ。」ということができる。

このように、人物の言葉や行動・態度を描き出した表現に着目し、その意味を考えていくと、人物像が明らかになってくる。

人物の言葉や行動だけでなく、何気ない表情やしぐさといった人物の態度も、人物像を捉える手がかりになるんだね。



35

30

25

20

● 人物像の多面性に気づく

次の文章は、先ほどの続きの場面である。

公園の隣の図書館で、京子と由実は二時間ほど試験勉強に取り組んだ。図書館から出ると、外は夕暮れ時のだいたい色の光に包まれていた。おばあさんが一人、図書館に入ろうとして、由実に気づくと声を掛けてきた。

「あら、さっきのかたね。先ほどは、どうもありがとう。」不思議そうに見ていた京子に、おばあさんが言った。

「郵便局に行きたくて道を尋ねたら、こちらのお嬢さんがいっしょに探してくれたのよ。」

「知ってるつもりだったのに、私まで迷っちゃって……。」由実は照れ笑いを浮かべながら言った。

「おかげで助かったわ。どうもありがとう。」

おばあさんはもう一度礼を述べ、図書館に入ってしまった。「京子、ごめんね。私も今日は遅刻しないようにと思って、早めに出発したつもりだったんだけど、ちょっと寄り道しちゃったものだから……。」

そんな寄り道をしていたなんて……。京子は、思わず笑顔になった。

15

10

5

この場面での由実の描かれ方に着目してみると、新たに、「人に親切である」という人物像が見えてくる。

このように、人物像とは必ずしも一面的なものではなく、さまざまな側面を持った多面的なものであり、そのときの状況に応じて異なった面が見えてくることもある。

練習しよう

■ 次の問いに取り組んでみよう。

上の文章から、由実の人物像について、「親切」ということのほかに、新たにどんなことが分かっただろうか。文章中の表現を手がかりにして、指摘しよう。

つながる・広がる

学習のつながり

ムラン 読「P152」走れメロス 書「P203」いきいきと描き出そう 読「P32」字のない葉書 読「P37」卒業ホー

生活への広がり

小説や随筆、伝記などを読んで人物像を捉えたり、人物の特徴が伝わるような文章表現をしたりしよう。また、自分の個性を多面的な角度から見つめ直してみよう。

35

30

25

20

創造的な言葉の力——表現する力

一年 鮮やかに表現する

二年 想像を誘うように表現する

三年 素材を生かして表現する

想像を誘うように表現する

↓ 学びの扉 202 ページ

● 情報を伏せることで想像を誘う

次の②と①は、同じ意味のことを述べているが、表現の仕方が異なっている。この二つの印象の違いについて考えてみよう。

- ② 今朝、私はびっくりして目を覚めました。猫が突然胸の上に飛び乗ってきたのです。
- ① 今朝、猫が突然胸の上に飛び乗ってきたので、私はびっくりして目を覚めました。

例えば、これがスピーチの冒頭だったとしたら、聞き手の感じ方にはどのような違いが生じるだろうか。

②の場合、「今朝、私はびっくりして目を覚めました。」という最初の一文を聞いた時点で、聞き手は「何が起こったのかな。」と感じて、続きを知りたいと思うだろう。何が起こった

のかを聞き手なりに想像しようとするかもしれない。

①の場合、内容は同じでも、「猫が突然胸の上に飛び乗ってきた」という情報が先に示されているので、「何が起こったのかな。」と感じることはないだろう。

②と①の印象の違いは、情報を示す順序の違いによって生じている。②の最初の一文は、情報の一部を伏せることで、「どういうことかな。」「何が起こったのかな。」といった**想像を誘う**表現になり、興味をひきつける効果をもたらしている。

今朝、猫が突然胸の上に飛び乗ってきたので、私はびっくりして目を覚めました。

←

今朝、
(想像の余地)

私はびっくりして目を覚めました。

↓ 情報の一部を伏せることで想像を誘う表現になる。

● 状況を徐々に描き出す

続いて、もっと長い文章の例を見てみよう。次の例文は、ある朝の出来事を、物語の一場面のように描き出したものである。

高志は懸命に走っていた。肩に掛けた紺色の通学かばんの中で、急げ急げと言うかのように、筆箱がカタカタと音を立てた。朝の日差しが、アスファルトの道に照りつけていた。ときおり腕時計に目をやりながら、高志は走り続ける。もっとペースを上げなくては、と焦った。女子生徒を一人、追い抜いた。クラスで隣の席の、詩織だ。

「えっ、もうそんな時間？」

背後から、詩織の声が聞こえた。高志は振り返ることなく、更に速度を上げた。学校まで、あと少しだ。

校門を越えたところで歩調を緩めると、高志は腕時計を指で押さえながらデジタル表示に目をやって、「よし。」と小さくつぶやいた。額にうっすらとかいた汗を手のひらで拭くと、昇降口に向かってゆっくり歩いていった。ようやく追いついた詩織が、息を切らしながら高志に声を掛けた。「ちよっと、諦めたの？」

「諦めてないよ。俺、学年で三位以内を狙ってるから。」

15

10

5

「三位以内って、何よ。遅刻の回数を競ってるの？」

「来週のマラソン大会だよ。校門までのタイムが、昨日より十五秒も速くなった。」

荒くなっていった詩織の呼吸に、大きなため息が一つ交じった。

冒頭の一文に着目すると、「高志は懸命に走っていた。」とだけ書いてあり、走っている理由は不明である。ここに、想像の余地が生まれる。読み手は、「どうして走っているんだろう。」と感じ、読み進んでいくうちに、「遅刻しそうなのかな。」「いや、別の理由がありそうだ。」と想像を重ねていく。「来週のマラソン大会だよ。……」という高志の発言でようやく理由が分かる。では、冒頭が次のような一文だったとしたらどうだろうか。

「高志は来週のマラソン大会で少しでもよい結果を残したかったので、登校途中に練習のつもりで懸命に走っていた。」

これだと、「どうして走っているんだろう。」という謎が最初から解決してしまい、想像の余地が失われてしまう。

物語などを書くときには、読み手の想像を誘うことを意識して、肝心なことをすぐに説明してしまわずに、人物や情景の描写、会話文などを取り入れながら、徐々に状況が見えてくるように描いていくとよい。

35

30

25

20

● **人物描写**……人物の行動や態度、外見などの描写。

(例) 高志は懸命に走っていた。

● **情景描写**……場面の様子や風景などの描写。

(例) 朝の日差しが、アスファルトの道に照りつけていた。

練習しよう

1 次の例に倣って、それぞれの一文を、想像を誘う文とその

答えに当たる文とに分けて、二文に書き換えてみよう。

(例) 久々に近所のレストランに出かけたら、一週間前に閉

店していたのがっかりした。

↓ 久々に近所のレストランに出かけて、がっかりした。

その店は、一週間前に閉店していたのだ。

(1) テストの当日なのに、昨日徹夜で勉強して寝不足のせい

で、頭がぼうつとして全く集中力がない。

(2) 僕のうちでは、アルマジロトカゲのチョロという珍しい

ペットを飼っている。

15

10

● **心理描写**……人物の思考や感情などの描写。

(例) もっとペースを上げなくては、と焦った。

● **会話文**……人物が話した言葉。せりふ。

(例) 「えっ、もうそんな時間？」

2 次の一文から状況を思い浮かべて、想像を誘うような書き

方で、何文かで場面の様子を描き出してみよう。(一文に詳

しく書かれていないことを補って書いてよい。)

私は数学の宿題のプリントを家に忘れたと思い込み、通学

途中で慌てて戻って探したら、かばんの中に入っていた。

つながる・広がる

学習のつながり 話「P105」説得力のある提案をしよう

読「P152」走れメロス 書「P203」いきいきと描き出そう

生活への広がり スピーチやプレゼンテーションをするとき

に情報の一部を伏せることで想像を誘ったり、物語や随筆を

書くときに豊かな描写を取り入れたりしよう。また、文学作品

30

25

20

5



一年の復習

1 言葉の単位

言葉の単位には、大きいほうから順に次のものがある。

文章 → 段落 → 文 → 文節 → 単語

2 文の成分

文の成分には、次の五種類がある。(単文節の場合は「語」、連文節の場合は「部」とよぶ。)

- ① 主語・主部
 - ② 述語・述部
 - ③ 修飾語・修飾部
 - ④ 接続語・接続部
 - ⑤ 独立語・独立部
- 文の成分どうしとの関係には、次のようなものがある。
- ① 主・述の関係
 - ② 修飾・被修飾の関係
 - ③ 接続の関係
 - ④ 並立の関係
 - ⑤ 補助の関係

次の文は、九つの文節、十八の単語から成る。

雨 ☐ が ☐ やむ ☐ の ☐ を ☐ 待 ☐ っ ☐ て ☐ い ☐ た ☐ 友 ☐ 達 ☐ は ☐ 、
 美 ☐ し ☐ い ☐ 虹 ☐ に ☐ 感 ☐ 動 ☐ し ☐ て ☐ い ☐ る ☐ よ ☐ う ☐ だ ☐ 。

☐ 単語 ☐ 文節

主・述の関係が、文の骨組みの基本となる。



3 単語の分類

単語は、十種類に分けられる。

まず、それだけで一文節になれる**自立語**と、それだけでは一文節にならない**付属語**に分けられる。

更に、自立語は、**活用**するかしないか、どのような文の成分になるかで細かく分類される。付属語は、活用するかしないかで分類される。

文節の中では、初めに必ず自立語があり、付属語はその下にある。一文節に、自立語は一つだけだが、付属語はないこともあれば、複数ある場合もある。

山田さん は いつも 難しい 本 を 読ん で いる ようだ よ。

文節
自立語
付属語

そこで文が切れるか続くか、また続く場合、どのような語が続くかによって、語の形が変化することを活用という。

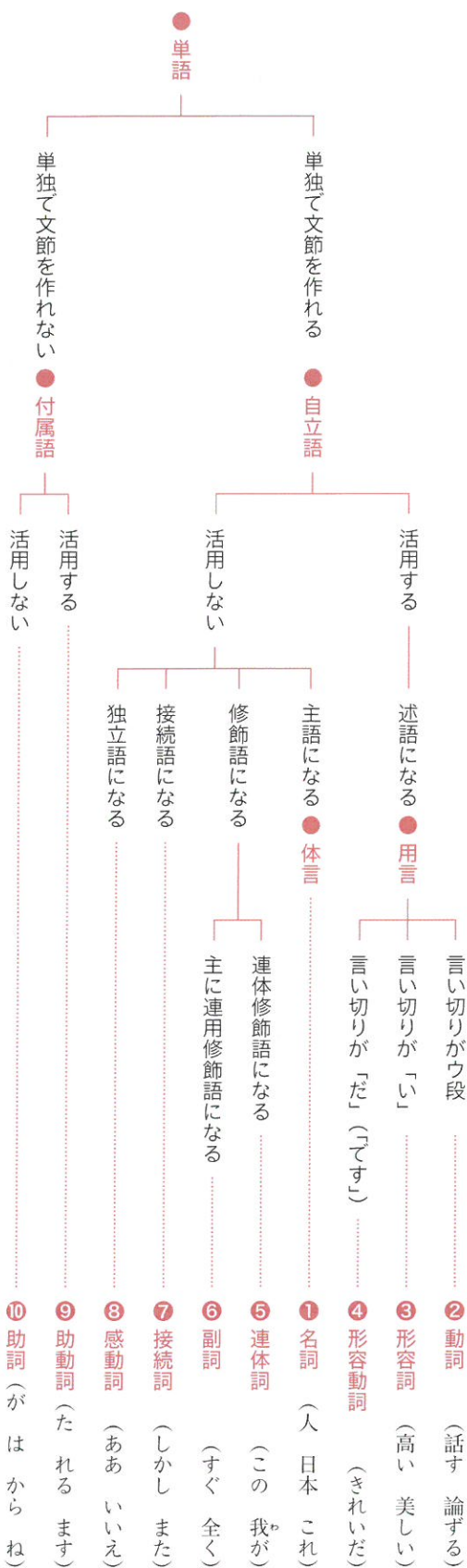
【活用する語の例】

読む ↓ 読まない 読もう 読みます 読んだ 読むとき 読めば 読め

ようだ ↓ ようだろう ようだった ようでございます ようになる ようなとき ようならば

【活用しない語の例】

山田さん は いつも 本 を だから わあ 大きな



敬語

文法の窓 30ページ

1 敬語の種類

話し相手や話題に上った人物に対する敬意を示す表現を、**敬語**という。敬語には次の三種類がある。

① 尊敬語

ある人の動作や、ある人に関係のある人や物や事柄を高めることで、その人に対する敬意を示す表現。

② 謙譲語

自分や自分に近い人の動作や、自分に関係のある人や物や事柄をへりくだって言う（書く）ことで、相手に対する敬意を示す表現。

③ 丁寧語

話し方（書き方）を丁寧にすることで、聞き手（読み手）に対する敬意を示す表現。

尊敬語・謙譲語の表現の仕方（動詞に関わるもの）

A 特別な動詞を使う

尊敬語

謙譲語

「行く・来る」

いらっしゃる

参る・伺う

「いる」

おいでになる

おる

「言う・話す」

おっしゃる

申す・申しあげる

「見る」

ご覧になる

拝見する

「聞く」

召しあがる・あがる

伺う・承る

「食べる・飲む」

召しあがる・あがる

いただく

「もらう」

くださる

頂戴する

「くれる」

くださる

さしあげる

「やる・与える」

なさる・あそばす

いたす

イ 接頭語表現を使う

お……になる・する

お読みになる

ご……になる・する

ご着席になる

ご案内する

ウ 助動詞を使う

……れる・られる

読まれる・来られる

助動詞「です」「ます」を用いる。

彼が学級委員です。私が行きます。

「でございます」を用いる。

おはようございます。さようでございます。

1 敬語の種類

● 敬語を使う対象と程度

敬語を使うときには、「誰の」動作・事柄なのかを常に意識する。自分から遠い関係であったり、相手との親しさの度合いが低かったりするほど、敬意を強めるのが普通である。

① ② 敬意の度合い

一般に、敬意の度合いはAが最も強く、イ→ウの順に弱くなる。

① ② 補助動詞としての用法

敬意を表す特別な動詞には、補助動詞として用いられるものがある。

（上の表で、の付いたもの）

● 先生が教えてくださる。

① ② 「なさる」「いたす」

イの形に「なさる」「いたす」を用いることも多い。

● 先生がご着席なされた。（尊敬語）

● 私がご案内いたします。（謙譲語）

問題

下の傍線部の敬語の種類を答えよう。

- (1) 私が校長室に伺う前に、校長先生が教室にいらっしゃった。
 (2) 最近お描きになった絵を見せていただけますか。
 (3) お話ししたことは全て本当のことです。
 (4) 先生から承つたとおりにいたします。
 (5) お風呂に入ろうとしたとき、先生からお電話をいただいた。

● 謙譲語と丁寧語は、それぞれ更に二種類に分けて区別することがある。

【謙譲語の二種類】

(1) 謙譲語Ⅰ

自分側からある人に向かう動作をへりくだって言うことで、動作の向かう相手を高める表現。

(2) 謙譲語Ⅱ (丁寧語)

自分側の動作をかしこまって言うことで、聞き手(読み手)を高める表現。

【丁寧語の二種類】

(1) 丁寧語

丁寧に言うことで聞き手(読み手)を高める表現。

(2) 美化語

接頭語「お」「ご」を使って柔らかくきれいに言う表現。

接頭語「お」「ご」を用いる。

お菓子

おみそ汁

お水

ご近所

ご褒美

先生に学級会の結論を申しあげる。
 先生、ご質問してよろしいですか。

私は田中と申します。

明日から家族で旅行いたします。

今日は水曜日です。

明日の予定は伺っています。

おすしはお好きですか。

ご本はよくお読みになりますか。



10

5

① ② 名詞の尊敬語・謙譲語

ア 特別な名詞の例

【尊敬語】

貴社 尊父 令息

【謙譲語】

芳名 高覧 光臨

【謙譲語】

拙宅 小生 拝見

【謙譲語】

弊社 粗品 愚考

【謙譲語】

接頭語・接尾語の例

【尊敬語】

ご住所 お体 み心

【謙譲語】

高田様 私ども

① ③ 尊敬語と丁寧語の「お」

同じ「お」でも、使われ方によって敬語の種類は異なる。敬意を示す相手に関わるものは、尊敬語になる。

● 先生のお話はとてもおもしろい。

(尊敬語)

● このお話はとてもおもしろい。

(丁寧語)

用言の活用

1 活用形の種類

後に続く言葉によって語の形が変化することを活用といい、変化した形を活用形という。活用形は六種類ある。

① 未然形

まだ動作や状態が実現していないことを表す形。

② 連用形

別の用言や「た」「て」などが続くときの形。

③ 終止形

言い切るときに形。

④ 連体形

体言が続くときの形。

⑤ 仮定形

「もし……ならば」と仮定する形。

⑥ 命令形

命令して言い切るときの形。

用言とは、活用のある自立語で、それだけで述語になることのできる単語である。用言には、動詞・形容詞・形容動詞の三種類がある。活用するとき、形が変わらない部分を語幹といい、変わる部分を活用語尾という。

動詞「書く」			形容詞「暑い」			形容動詞「元氣だ」		
語幹			語幹			語幹		
活用語尾			活用語尾			活用語尾		
か	か	か	か	か	か	か	か	か
け	け	く	く	い	き	こ	か	
	バ	トキ		タ	マス	ウ	ナイ	
	あつ	あつ	あつ	あつ	あつ	あつ		
	けれ	い	い	う	く	かろ		
	バ	トキ		マス	ナル ゴザイ	ウ		
	げんき	げんき	げんき	げんき	げんき	げんき		
	なら	な	だ	で	に	だろ		
	バ	トキ		マス	ナル ゴザイ	ウ		

1 活用形の種類

①② 後に続く言葉

未然形と連用形は、動詞と形容詞・形容動詞とで、後に続く言葉に違いがある。

連用形	未然形	
タリ タイ など	マス ウ・ヨウ セル・サセル レル・ラレル ナイ など	動詞
ゴザイマス ナイ テ タ など	ウ	形容詞・形容動詞

② 連用中止法

連用形には、文を途中で止めて後とちゅうに続ける用法（連用中止法）もある。

- 手紙を書き、本を読む。
- 外は暑く、風もない。
- 彼は元気で、よく働く。

2 動詞の活用

動詞の活用の仕方には、次の五種類がある。

① 五段活用
五十音図で、ある行のアイウエオの五つの段にわたって変化する活用。

② 上一段活用
ある行のイ段で変化する活用。

③ 下一段活用
ある行のエ段で変化する活用。

④ 力行変格活用（力変）
「来る」だけの特殊な活用。

⑤ サ行変格活用（サ変）
「する」と、「察する」「勉強する」などのように、他の語に「する」が付いてきた語だけの、特殊な活用。

動詞の活用表

基本形 (辞書の見出しの形)	活用形		未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
	語幹	主な 続き方						
書く	か	ナイ レル ラレル ヨウ	こ	い	く	く	け	け
走る	はし		ろ	っ	る	る	れ	れ
読む	よ		も	ん	む	む	め	め
起きる	お		き	き	きる	きる	きれ	きよ
見る	(み)		み	み	みる	みる	みれ	みよ
受ける	う		け	け	ける	ける	けれ	けよ
出る	(で)		で	で	でる	でる	でれ	でよ
来る	(くる)		こ	き	くる	くる	くれ	こい
する	(する)		させ	し	する	する	すれ	せよ

10

5

2 動詞の活用

● 活用の種類の見分け方

動詞に「ない」を付け、そのすぐ上の語尾で見分ける。

- 書かないーア段 ↓ 五段活用
- 起きないーイ段 ↓ 上一段活用
- 受けないーエ段 ↓ 下一段活用

① 五段活用動詞の音便

五段活用動詞の連用形の「い・っ・ん」は、「た」や「て」「たり」に続くとき、発音しやすいように音が変化したもので、音便という。動詞の音便には次の三種類がある。

- イ音便 書きた ↓ 書いた
走った ↓ 走った
- 促音便 読みた ↓ 読んだ
- 撥音便 と、ガ行（「注ぐ」など）のイ音便のとき、続く「た」「て」「たり」は「だ」「で」「だり」と濁音になる。

②③④⑤ 語幹と活用語尾の区別

「ない」を付けたときに、その上が一音しかない動詞は、語幹と活用語尾の区別がない。

- み
- ない
- こ

可能動詞

五段活用動詞がもとなった下一段活用動詞で、「……できる」という可能の意味を表す。

他動詞と自動詞

何かに対して働きかける意味を持つ動詞を他動詞、働きかける意味を持たない動詞を自動詞という。

3 形容詞の活用

形容詞の活用の仕方は、一種類だけで、命令形はない。



書く (五段) ↓ 書ける (下一段)
走る (五段) ↓ 走れる (下一段)
飛ぶ (五段) ↓ 飛べる (下一段)
言う (五段) ↓ 言える (下一段)



果物を食べる。 (他動詞) 子供が遊ぶ。 (自動詞)
人を集める。 (他動詞) 人が集まる。 (自動詞)
テントを張る。 (他動詞) おながが張る。 (自動詞)

形容詞の活用表

基本形 (辞書の見出しの形)	活用形		未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
	語幹	主な 続き方						
暑い	あつ		ウ	ダ ナル	言い切る カラ	トキ コト	バ	
うれしい	うれし		かろ	うく かつ	い	い	けれ	○

10

5

●可能動詞にならないもの

「食べれる」「来れる」のように、五段活用以外の動詞を可能動詞にすることは、「ら抜き言葉」とよばれ、書き言葉では一般的ではない。

●他動詞と「を」

他動詞には「名詞+を」の連用修飾語が付くことが多い。ただし、自動詞に付くこともある。
・話を聞く。(他動詞)
・二時過ぎる。(自動詞)

3 形容詞の活用

●形容詞のウ音便

形容詞の連用形は、「ございます」などに続くときに、ウ音便になる。
・お暑うございます。

4 形容動詞の活用

●形容動詞の語幹

形容動詞は、語幹だけで用いられることがある。
・まあ、きれい。

問題

- 1 下の傍線部の動詞を基本形に直し、活用の種類と活用形を答えよう。
 - 2 可能動詞になるものはどれだろうか。
 - 3 下の動詞の連用形は、どの種類の音便になるだろうか。
 - 4 下の傍線部の品詞と活用形を答えよう。
- (1) 家にいます。
 - (2) まだ秋が来ない。
 - (3) 勉強を教える。
 - (4) 庭を掃除しよう。
 - (5) 飛べ。走れ。
 - (6) 分かればいいよ。
 - (7) 広場で遊んだ。
 - (8) 歌うのが好きだ。
 - (1) 受ける
 - (2) 鳴く
 - (3) 読む
 - (4) 見る
 - (5) 過ぎる
 - (6) 会う
 - (7) 経る
 - (8) 買う
 - (9) 延びる
 - (10) 勉強する
 - (1) 勝つ
 - (2) 飲む
 - (3) 取る
 - (4) 泳ぐ
 - (5) 始まる
 - (6) 転ぶ
 - (7) 炊く
 - (8) 咲く
 - (9) 編む
 - (10) 待つ
- (1) 非常に細かい砂粒だ。
 - (2) 今年の冬は暖かだった。
 - (3) 彼は真面目で勤勉だ。
 - (4) とてもきれいでした。
 - (5) 部屋を暖かくする。
 - (6) それでようございます。

4 形容動詞の活用

形容動詞の活用の仕方は、「うだ」という普通の形と、「です」という丁寧な形の、二種類がある。形容詞と同じく、命令形はない。また、丁寧な形の活用には仮定形もない。用言の中で形容動詞だけが、終止形と連体形の形が異なる。

形容動詞の活用表

元気です	元気だ	基本形	活用形
げんき		語幹	主な 続き方
でしよ	だろ	ウ	未然形
でし	にで	ナル ゴザイマス	連用形
です	だ	カラ 言い切る	終止形
(です)	な	ノ コト	連体形
○	なら	バ	仮定形
○	○		命令形

5

● 形容動詞と他の品詞の区別

「うだ」「うな」「うに」の三つの形になれば形容動詞と考えてよい。

● 巨大な

↓ ○ 巨大だ・巨大に (形容動詞)

● 大きな

↓ × 大きだ・大きに (連体詞)

● 急に

↓ ○ 急だ・急な (形容動詞)

● 直ちに

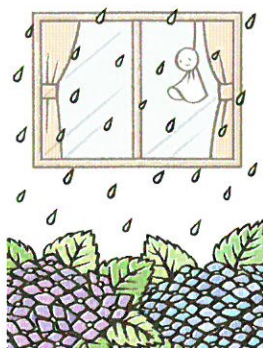
↓ × 直ちだ・直ちな (副詞)

助詞

1 助詞の種類

① 格助詞

が・の・を・に・と・へ・から・より・で・や



② 接続助詞

て(で)・と・ば・ものなら・から・ので・が・けれども(けれど)・のに・ても(でも)・ものの・し・たり(だり)・ながら・つつ・なり 等

助詞とは、活用のない付属語で、体言・用言・助動詞・他の助詞の後などに付く。助詞には、次のような種類がある。

格助詞は、主として名詞(体言)の後に付いて、後に続く言葉との関係を示す。

主語

雨が降る。

所有

妹の筆箱

対象

読書を楽しむ。

目的

旅行に行く。

相手

友達と遊ぶ。

方向

北へ向かう。

起点

今から始める。

比較

電車はバスより速い。

場所

部屋でくつろぐ。

列挙

風や雨

接続助詞は、活用する語(用言・助動詞)の後に付いて、前後をいろいろな関係でつなぐ。

並立

白くて小さい犬

条件

雨が降ると道がぬかるむ。

仮定の条件

一晩寝れば治る。

理由

早く起きたから眠い。

逆接

探したけれども見つからなかった。

10

5

↓ 文法の窓 111ページ

1 助詞の種類

●さまざまな関係を示す助詞

同じ助詞でも、使われ方によってさまざまな関係を示す。

●友達と遊ぶ。(相手)

●柿とぶどうを食べる。(列挙)

●「おはよう。」と挨拶する。(引用)

① ② 「て」の識別

●ここは静かである。

●「静かな」と言える

↓ 形容動詞の連用形の活用語尾

●ここが山頂である。

●名詞に付き、下に「ある」「ない」がある

↓ 助動詞「だ」の連用形

●山頂でひと休みする。

●名詞に付き、下に「ある」「ない」がない

↓ 格助詞「で」

●本を読んでいる。

動詞の連用形に付く

↓ 接続助詞「て」の濁ったもの

③ 副助詞

は・も・こそ・さえ・すら・でも・
だって・まで・だけ・ばかり・のみ・
しか・きり・ほど・くらい（ぐらい）・
など・とか・やら・なり・ずつ・か 等

④ 終助詞

か・かい・かしら・の・な（なあ）・こと・
ね（ねえ）・よ・さ・ぜ・ぞ・や・わ・
とも・な・ものか 等

問題

1 下の文中から、助詞を探そう。

2 下の各組の傍線部には、どのような違いがあるだろうか。

副助詞は、いろいろな語の後に付いて、その語にさまざまな意味を添える。

学校が始まるのは四月だ。 （題目） 野球も好きだ。 （同類）

君こそ適任だ。 （取り立て） 小学生でさえ解ける。 （他を類推）

子供にまで笑われる。 （強調） 一日だけ休める。 （限定）

宇宙は想像もつかなくくらい広い。 （程度）

終助詞は、文末に付いて、話し手・書き手の気持ちを表す。

いっしょに行きませんか。 （勧誘） いつ晴れたの。 （質問）

美しい絵だなあ。 （感動） よし、うまくできたぞ。 （強調）

- (1) こんな作業くらい、一時間もあればできるよ。
(2) 昨日からここにある自転車は、誰のですか。
(3) 気になるので本を調べたが、何も分からなかった。

- (1) 種をまいた。けれども、芽は出なかった。
(2) 紅茶は好きだけれども、コーヒーは好きではない。
(3) 誰か手伝ってください。机を運んでくれますか。
あの公園が、目的地だ。 電話をかけたが、誰も出なかった。

① ② 「から」の識別

・勉強したから遊ぶ。

・「だから」に置き換えられる（勉強した。だから、遊ぶ。）

↓ 接続助詞

・勉強してから遊ぶ。

・「だから」に置き換えられない
↓ 格助詞

① ③ 「が」と「は」の違い

だいたいな内容が主語の部分にあるときは格助詞「が」を、述語の部分にあるときは副助詞「は」を用いる。

・（どなたが）山田さんですか。

・僕が山田です。（格助詞）

・（あなたは）どなたですか。

・僕は山田です。（副助詞）

助動詞

↓ 文法の窓 150ページ

1 意味による分類

① れる・られる

【受け身】 他から何かをされること。

【可能】 そのことをできること。

【自発】 自然とそうなること。

【尊敬】 動作の主を敬うこと。

助動詞とは、活用のある付属語で、主に用言や他の助動詞の後に付く。助動詞には、次のようなものがある。

委員に指名される。 友達に助けられる。

朝五時には起きられない。

昔が思い出された。 先行きが案じられる。

先生が話される。 先生は会議に出られた。

② せる・させる

【使役】 他に何かをさせること。

重い荷物を持たせる。 電話をかけさせた。

③ た

【過去】 かつてそうであったこと。

【完了】 物事が既に終わったこと。

【存続】 そういう状態であること。

三年前には、あのビルはなかった。

出発の準備ができました。

冷えた水はいかがですか。

1 意味による分類

① 可能の意味を表す場合

五段活用動詞は、「五分で行かれる」のように「れる」を付けて可能を表すよりも、「五分で行ける」のように、可能動詞を使うことが多い。

① 自発の「れる・られる」

「自然と」「何となく」などの語を途中に入れられる。

• 昔が（自然と）思い出された。

② 放任の「せる・させる」

「せる・させる」は、放任（そのまま放っておくこと）の意味を表す場合がある。

• 魚を腐らせてしまった。

③ 存続の「た」

「……である」「……ている」に置き換えても、ほぼ同じ意味になる。

• 冷えた水はいかがですか。

↓ 冷えている水はいかがですか。

④ う・よう・だろう

【意志】これからしようとする気持ち。

【推量】不確実なことを推し量ること。

【勧誘】かんゆう 相手を誘うこと。

公園に行こうかな。

誰が予測できようか。

いっしょに帰ろう。

委員長に立候補しよう。

小雨が降るだろう。

テニスをしようよ。

⑤ まい

【打ち消しの意志】

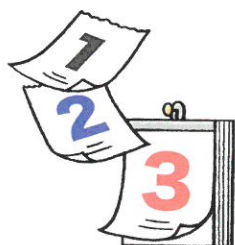
これからはそうしないという気持ち。

【打ち消しの推量】

そうならないだろうと推し量ること。

もう二度と約束を破るまい。

その計画は三日と続くまい。



⑥ らしい

【推定】ある根拠をもとに推し量ること。

⑦ ようだ・ようです

【推定】ある根拠をもとに推し量ること。

【たとえ】物事を何かにたとえること。

⑧ そうだ・そうです

【様態】物事の様子や状態。

投票の結果は、今日にも発表になるらしい。

新聞報道によると、今年の米は豊作らしい。

サイレンが鳴った。試合が始まるようだ(ようです)。

ぽっかり浮かぶ雲の形が羊のようだ(ようです)。

ひもが切れそうだ(そうです)。

心配そうに見つめている。

③ 「だ」になる「た」

五段活用動詞の連用形の撥音便と、ガ行(「注ぐ」など)のイ音便の下に付く「た」は、濁音の「だ」になる。

・読んだ。(撥音便)

・注いだ。(イ音便)

④ 推量の「う・よう」「まい」

推量の意味での「う・よう」は、現在では「だろう」を使うのが普通である。

・明日は雨になるう。

↓ 明日は雨になるだろう。

⑤ 打ち消しの推量の「まい」

打ち消しの推量の意味での「まい」は、現在では「ない」+「だろう」を使うのが普通である。

・明日は雨になるまい。

↓ 明日は雨にならないだろう。

⑥ 「らしい」の識別

「どうやら」を補えるのは助動詞。「いかにも」を補えるのは形容詞の一部。

・南半球は今頃(どうやら)春らしい。

↓ 助動詞

・今日の陽気は(いかにも)春らしい。

↓ 形容詞の一部

④⑤⑥⑦ 推量と推定

「推定」は「推量」よりも確かな根拠に基づいている。

⑨ そうだ・そうです

「伝聞」 人から伝え聞いたこと。

⑩ たい・たがる

「希望」 そうしたいという気持ち。

⑪ ない・ぬ（ん）

「打ち消し」 そうでないということ。

⑫ だ・です

「断定」 物事を確かなこと、もっともなこととして述べること。

⑬ ます

「丁寧」 動詞を丁寧に言うときに用いる。

平野さんが行くそうだ（そうです）。

入賞なさったそうで、おめでとうございます。

たくさんの本を読みたい。

食べたくないので、パンはいらない。

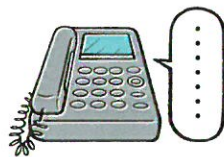
弟は、テレビばかり見たがる。

三週間も電話がかかってこない。

どうしても行かなければだめだ。

知らぬが仏。行かねばならない。

用事があつて出かけられません。



明日は学校の創立記念日だ（です）。

この映画は、すばらしい作品だった（でした）。

私がご案内します。

先日はお世話になりました。

⑧ 様態と伝聞の「そうだ」

「様態」の「そうだ・そうです」

が動詞に付くときには連用形に接続し、「伝聞」の「そうだ・そうです」は終止形に接続する。

⑩ 「たい」と「たがる」の違い

「たい」は話し手（書き手）のしたいことを表し、「たがる」は話し手（書き手）以外の人のしたいことを表す。

⑪ 「ない」の識別

「ない」の上に「は」などの助詞を入れられれば形容詞。上に助詞を入れられず、「ぬ（ん）」に置き換えられれば助動詞。

● 楽しく（は）ない。 ↓ 形容詞

● 楽しま（は）ない。

↓ 楽しまぬ。 ↓ 助動詞

⑫ 形容動詞の活用語尾「だ」

「だ」を「な」に置き換えて、その下に体言を続けられれば、断定の助動詞ではなく、形容動詞の活用語尾。
● 教室の中は静かだ。

↓ 静かな教室

↓ 形容動詞の活用語尾

● 助動詞の順番

一つの自立語に複数の助動詞が付くとき、その順番はだいたい決まっている。

● 行きたがらなかつたそうだ。

2 主な接続による分類

① 未然形に付くもの

れる・られる・せる・させる・う・よう・まい・ない・ぬ(ん)

② 連用形に付くもの

た・そうだ(様態)・そうです(様態)・たい・たがる・ます

③ 終止形に付くもの

だろう・まい・らしい・そうだ(伝聞)・そうです(伝聞)

④ 連体形に付くもの

ようだ・ようです

⑤ 体言に付くもの

だ・です

● 活用の仕方による分類

動詞型―れる・られる・せる・

させる・たがる

形容詞型―らしい・たい・ない

形容動詞型―ようだ・そうだ・だ

特殊活用型―た・ぬ(ん)・です・

ます

語形不変型―う・よう・だろう・

まい

(270ページ参照。)

問題

1 下の各文の中から、助動詞を探そう。また、それがどのような意味を表しているかを考えよう。

- | | |
|----------------------|---------------------------------------|
| (1) 晴れた日には、外で遊びたい。 | (2) 君が行かなければ、私が行こう。 |
| (3) 負けまいと、自分を奮い立たせる。 | (4) こっちが北なら、あっちは南だ。 |
| (5) その質問には答えられません。 | (6) 前を通り過ぎたのは、隣の ^{となり} 子らしい。 |
| (7) 今にも雨が降りそうだ。 | (8) 雨が強くて、まるでシャワーのようだ。 |

2 下の各文の文末に、後の三つの助動詞を、順番を考えて加えてみよう。

- | |
|---|
| (1) 商店街へ買い物に行く。「た　ない　らしい」 |
| (2) 食事の支度 ^{しだく} を手伝う。「ます　う　せる」 |
| (3) よい行いを褒める ^{ほめる} 。「ようだ　たい　られる」 |

3 下の傍線部の「れ」について、違いを説明しよう。

- | | | |
|---------------------------------------|---|---------------------------------------|
| (1) 妹は父に伴 ^{ともな} われて元氣よく出かけた。 | (2) 先生は、いつも穏 ^{おだ} やかな口調で話 ^は されます。 | (3) 難しく、私にはとても答 ^{こた} えられません。 |
|---------------------------------------|---|---------------------------------------|

動詞活用表

形容詞活用表

なり	うれしいやら悲しいやら。 どこへなりと行くがいい。 親なり友達なりに相談する。 一人に一枚ずつ配る。 いつかお会いしましたね。 海か山か、どちらに行こう。	(並立) (不確実) (並立) (割り当て) (不確実) (選択)
ずつ		
か	何時ですか。帰ろうか。 そんなことができようか。 夕日はこんなに美しいのか。 分かるかい。見るかい。 許してやるものかい。 今は何時かしら。 いつ帰るの。	(疑問・勧誘) (反語) (感動) (疑問・勧誘) (反語) (疑問) (質問)
かい		
かしら		
の		
な(あ)	本当に楽しいな(あ)。 静かだこと。よろしいこと。	(感動) (感動)
こと		
ね(え)	みごとな花だね(え)。 君も行くんだね。 さつき帰ったよ。 遊園地に行こうよ。 できてあたりまえさ。 じゃあ頼んだぜ。 さあ、出発するぞ。 あれ、誰もいないや。 そろそろ帰ろうや。 これはひどいわ。りっぱだね。 分かっているとも。	(感動) (念押し) (告知) (勧誘) (軽い強意) (強調) (強調) (確認) (勧誘) (感動) (軽い強意)
さ		
ぜ		
そ		
や		
わ		
とも		

270

270

編 料 資



読むこと

カメレオン

アントン・チエーホフ／原 卓也・訳 ……

272

白川郷——受け継がれる合掌造り

NHK「世界遺産」プロジェクト ……

278

読書活動を楽しもう／本と出会おう

286



古典

清少納言と紫式部

三角洋一 ……

290

漢詩の世界

日原 傳 ……

293

古典芸能に親しもう

296



話すこと・聞くこと／書くこと

話すこと・書くこと 題材例

…………… 298

発想・整理の方法

…………… 300

取材の仕方

(インタビュー・アンケート)

…………… 302

手紙の書き方

…………… 304

原稿用紙の使い方・推敲の観点

(条件作文)

…………… 306

【言葉の資料】

言葉を広げよう

…………… 307

学習用語一覧

…………… 311

新出漢字一覧

…………… 312

新出音訓一覧

…………… 324

常用漢字表

…………… 325



読む 作品に描かれている人物像に着目して読んでみよう。

カメレオン

アントン・チエーホフ
原 卓也・訳

真新しい外とうを着込んで、片手に包みを提げた区警察署長オチュメーロフが、今しも、市の立つ広場を突っ切っていく。その後に、押収したすぐりの実を山盛りにしたふるいを抱えて、赤毛の巡査がつき従う。辺りは静まり返っている……広場には人影ひとつ見当たらず……商店や居酒屋の開け放した戸口が、飢えた獣の口を思わせて、悲しげにこの浮き世を見つめている。

「よくもかみやがったな、この野郎！」

不意にオチュメーロフはこんな声を耳にする。

「おい、みんな、そいつを逃がすな！ この節はかむなんてまねは許されねんだ！ 捕まえろ！ おうい……あ！」

犬の悲鳴が聞こえる。オチュメーロフはその方を眺める。と、商人ピチューギンのまき置き場から一匹の犬が

足を引きずり、後ろを振り返りながら、逃げてくるのが目に入る。その後を追って、のりの効いたサラサのルバーシを着て、チョツキの前をはだけた男が走ってくる。男は犬を追いかけて、飛び込むように地べたに身を倒して、犬の後足をタックルする。再び犬の悲鳴と、「逃がすな！」という叫びが聞こえる。そこかしこの商店から寝ぼけ面がいくつものぞき、たちまちまき置き場の辺りには、まるで地から湧いたように、黒山の人垣が築かれる。

「どうやら騒動らしいですね、署長殿！」
巡査が言う。

オチュメーロフは左に向きを変え、人垣の方に歩み寄る。まき置き場の門のすぐ脇の所で彼は、チョツキの前をはだけた先刻の男が仁王立ちになり、右手を上げて、

血まみれの指を群集に見せているのを目にする。ほろ酔い機嫌きげんのその顔には、「今すぐ、きさまの指をちぎってやるわ、野良犬のらめ!」と書いてあるかのような。それにまた、指自体が勝利の印といった感じた。オチュメーロフはその男が金細工師フリーユキンであることに気づく。人垣ひとがきの中心に、この騒ぎさわぎの張本人が、前足を突っ張り、全身を震ふるわせながら、地べたに座すわっている——背中に黄色いぶちのある、鼻のとがった、白いボルゾイ④の子犬だ。涙ぐんだようなその目には、悲しみと恐怖きょうふの色が浮かんでいる。

「いったいどういうことなんだ?」

群集の中に割って入りながら、オチュメーロフは尋ねる。

「どうしたんだね? その指はどうしたんだ? 怒鳴どなっていたのは、誰だれだ?」

「いえ、あたしやただ歩いてただけなんです、署長さん。誰にもちよつかいなんぞ、かけやしません……。」

フリーユキンは拳こぶしを口に当ててせきをしながら、話します。

「ミトリイ・ミトリチとまきのことです話していると、だし

20

15

10

5

ぬけにこの犬が、これといった理由もなしに指にかみつ
きやがったんでさ……どうも申し訳ありません、署長さ
ん。あたしや、働いてる人間でして……何ぶん、手先の
仕事なもんでね。これじゃ、この指は一週間くらい使え
そうもありませんから、慰謝料いしやうを払はらわせるようにしてく
ださいませんか……動物どもの危害を我慢がまんしなけりやい
けないなんてことは、どこの法律にもありませんや、署
長さん……これでどの犬もかみつようになった日にや、
いっそ生きてないほうがましでさ……。」

「ふむ! ……よし……。」

オチュメーロフはせき払いをし、眉まゆをうごめかしなが
ら、いかめしい口調で言う。

「よろしい……これは誰の犬だ? こんなことを、その
まま捨ておくわけにやいかんぞ。犬を放し飼かきいすると
どんなめに遭あうか、思い知らせてやる! 法令に従おう
としない連中を、このへんで取り締しまろうと思つてたや
さきなんだ! そういう恥知はじらずどもから罰金ばつぎんを取り立
ててやりや、犬だの、そのほかの家畜かちくだのを放し飼かきいに
すると、どんなめに遭あうか、分かるだろうからな! こっ
ぴどいめに遭あわせてやる! おい、エルドゥイリン。」

40

35

30

25

署長は巡査を振り返る。

「これがどの犬か調べあげて、調書を作れ。犬は撲殺だ。すぐにやるんだぞ！ こいつはきつと狂犬にちがいない……おい、誰か、この犬がどのかわらないか？」

「これはジガーロフ將軍のところの犬じゃないかな！」

群集の中の誰かが言う。

「ジガーロフ將軍？ ふむ！ ……おい、エルドウイリン、わしの外とうを脱がしてくれ……恐ろしく暑いな！ どうも雨になるようだ……ただ、一つだけ腑に落ちないことがあるんだがね。いったいどうして、この犬がかんだりできるんだ？」

オチュメーロフはフリーキンに顔を向ける。

「この犬がおまえの指に届くかね？ 犬はこんなに小さいのに、おまえときたらそのとおりの大人道じゃないか！ きつとくぎでも刺して、後から、うそをつこうなんて悪知恵を起こしたんだろう。とにかくおまえは……有名だからな！ おまえらみたいな手合いは、よく承知してるんだ！」

「その男は犬の鼻面へふぎけてたばこを押つけようとしたんですよ、署長さん。ところが犬だってやりきれな

いから、がぶりとやったんでき……だいたい、悪ふぎの好きな男なんでき、署長さん！」

「いいかげんなことを言うな、うそつきめ！ 見てもいないのに、どうしてうそをつくんだよ？ 署長さんのように頭のいいかたには、誰がうそをついて、誰が神かけて正直に言ってるか、ちゃんと見通しなんだ……俺がうそをついてるって言うんなら、判事さんのお裁きを受けたっていいぜ。法律にや、ちゃんと書いてあるんだ……この節は人間みんな平等なんだぞ……こう見えたって俺にや、憲兵^⑤をやってる兄貴がいるんだ……ききたけりや教えてやるけどな……。」

「つべこべ言うんじゃない！」

「いや、これは將軍の犬じゃありませんよ。」

巡査がくそ真面目な顔で言う。

「將軍のところには、こんな犬はいませんよ。あそこはたいていセッターばかりですから。」

「それは確かか？」

「確かです、署長殿……。」

「わしだって、そりゃ知ってるさ。お屋敷にいるのは、血統のいい高価な犬ばかりだけど、この犬ときたら何だ



い、こりゃ！ 毛並みも悪けりや、かつこうも悪いし……汚らしいだけじゃないか。こんなのが飼う犬のはずはないだろ!? おまえらはどこに頭を付けてるんだ? こんな犬がペテルブルクなり、モスクワなりにいてみる、どうなると思う? あそこだったら、法律に照らすまでもなく、とたんにぶち殺されちまうんだ! おい、フ

5

リューキン、おまえは痛いめに遭わされたんだからな、この事件をうやむやにしちやいかんぞ……思い知らせてやらなけりやな! このへんでやつとく必要がある……。

「しかし、ひよっとすると、將軍の飼う犬かもしれないな……。」

巡査が自分の考えを口に出す。

「犬の顔には書いてないし……このあいだお屋敷でこんなを見たっけな。」

「決まったらあ、お屋敷のさ!」

群集の中から声が上がる。

「ふむ! おい、エルドウィリン、わしに外とうを着せてくれ……何だか風が出てきたな……ぞくぞくする……」

おまえ、この犬を將軍のところに連れて行って、きいてきてくれ。わしが見つけて、届けさせたと言うんだぞ

……放し飼いにしないように言ってきた……高価な犬かもしれないのに、そこらのいたずら者がたばこを鼻に突っ込んだりしたら、いっぺんで台なしにされちまうわ。犬というのは、おとなしい生き物だから……おい、手を下ろせ! ぼんやり指をひけらかしとくことはない

25

20

15

10

んだ！ 自分が悪いんじゃないか！」

「お屋敷のcockが来たから、あの男にきいてみましょう……おい、プロホル！ ちょっと来てくれねえか！」

この犬を見てくれよ……お屋敷のかい？」

「とんでもねえ！ こんな犬はついぞ飼ったことがねえよ！」

「こんなところで、四の五の言うのを聞いてることはないんだ。」

オチュメーロフが言う。

「これは野良犬だよ！ いつまでもこんなところで詮議せんぎしてることはないさ……野良犬だと言ったら野良犬なんだ……撲殺すりや、それで終わりさ。」

「お屋敷の犬じゃねえけどよ。」

プロホルが続ける。

「このあいだおいでになった、將軍の弟様の犬だよ。うちの將軍様はボルゾイは好きじゃないんだけど、弟様は好きでね……。」

「ほう、弟様がお見えになったのかい？ ウラジーミル・イワーヌイチ様がか？」

オチュメーロフが尋ねる。顔全体が感動の微笑びしょうに輝く。かがや

20

15

10

5



「そうだったのかい！ そりゃ知らなかったよ！ 遊びに見えたのかい？」

「はい、お遊びで……。」

「そうかい……お兄様が恋こいしくなられたんだな……そうとは知らなかったよ！ じゃ、そのおかたの犬なんだな？ そりゃよかった……さ、連れてってくれ……犬は

25

注

▼ 272 ページ

① すぐり

ここでは西洋すぐりのこと。低木の果樹で、丸い果実が食用になる。

② サラサ

動植物などの色とりどりの模様を描き込んだ綿布。

③ ルバーシカ

ロシアの男性が着るブラウス風の上着。

▼ 273 ページ

④ ボルゾイ

ロシア原産の犬。大形で毛が長い。オオカミ狩りの猟犬として、貴族や高官が好んで飼っていた。

▼ 274 ページ

⑤ 憲兵

軍隊内で警察的な役割を任務とする軍人。十九世紀後半のロシアでは、一般社会の治安維持のためにも利用さ

れ、人々から恐れられていた。

⑥ セッター

イギリス原産の犬。中形で毛が長い。鳥猟犬として優れ、家庭犬としても人気がある。

▼ 275 ページ

⑦ ペテルブルク

現在のサンクトペテルブルク。この小説が書かれた帝政ロシア時代の首都。



アントン・チェーホフ

一八六〇年～一九〇四年 ロシアの劇作家、小説家。作品に「かもめ」「桜の園」「退屈な話」などがある。

訳者 原 卓也

一九三〇〔昭和5〕年～二〇〇四〔平成16〕年 東京都出身。ロシア文学者。出典 「チェーホフ全集」

別に悪くないんだから……実に元気のいい犬じゃないか……こいつの指をがぶりとやったんだと！ ハ、ハ、ハ……こら、何を震えてる？ よし、よし……チビや……怒ってるのかい……そうか、そうか……」

コックが犬を呼び、まき置き場から連れ去る……群集

5

はフリーキンを笑いものにする。

「きさま、ひどいめに遭わせてやるからな！」

オチュメーロフは彼に脅し文句を投げつけ、外とうにくるまって、市の広場をよぎって歩いていく。

絵・小笠原あり



読む

「鯉節」——世界に誇る伝統食（60ページ）と併せて読んで、伝統を受け継ぐことの意味について考えよう。また、文章の書き方の特徴を捉えよう。

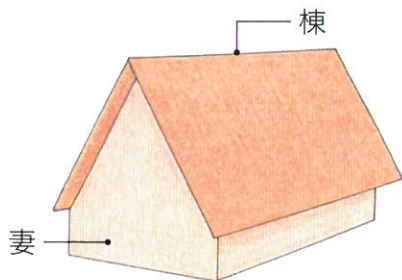
白川郷——受け継がれる合掌造り

NHK「世界遺産」プロジェクト

岐阜県北部の大野郡白川村荻町集落。古くから「白川郷」とよばれてきたこの地域には、大きな茅ぶきの三角屋根を持つ「合掌造り」の建物が百十四棟ある。集落の歴史的景観と周囲の自然環境が良好に保存されていることなどが評価され、一九九五年、富山県・五箇山の菅沼・相倉集落とともに「白川郷・五箇山の合掌造り集落」として世界遺産に登録された。

白川郷は、高山付近から富山に流れる庄川に沿った谷あいの村だ。夏は台風が、冬は強い季節風が谷を吹き抜けるうえに、日本でも有数の豪雪地帯でもある。そうした厳しい自然環境の中で、数百年にわたって、人々の暮らしを守り続けてきたのが、合掌造り家屋なのである。「合掌造り」の呼び方は、二枚の大きな茅ぶきの屋根面が、ちょうど手のひらを合わせて合掌しているように

見えることから名付けられた。建物の四方の面のうち、「棟」（屋根面が合わさった頂上の部分）を基準に、棟に直交する面を「妻」とよぶが、合掌造りの場合、妻面に屋根が掛かっておらず、三角形の特徴的な表情を創り出している。



「棟」と「妻」



特徴的な表情の合掌造り

◆読む 白川郷——受け継がれる合掌造り



妻面が皆ほぼ同じ南北方向を向いている



庄川の流れてカーブを描いている

山に抱かれた谷間に並ぶ茅ぶき屋根。白川郷独特の景観を俯瞰すると、立地に一つの特徴があることに気づく。合掌集落全体で、三角形の妻面が皆ほぼ同じ南北方向を向いているのだ。

なぜそのような配置になっているのだろうか。

5

一つの理由は、日照との関係にあるといわれている。合掌家屋の妻面はほぼ南北を向いている。つまり、屋根面は東西を向いていることになる。そのために太陽が、二枚の屋根面に均等に当たる。雨にぬれたり雪が積もったりしたときに、屋根が均等に乾くのだ。これが不均等

10

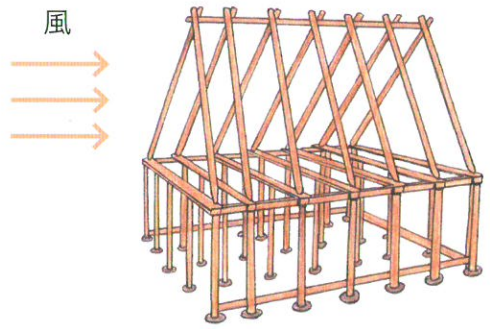
になると、片側の屋根の茅だけが早く劣化するということになる。両側の屋根を等しく長らえさせるための配置なのである。

15

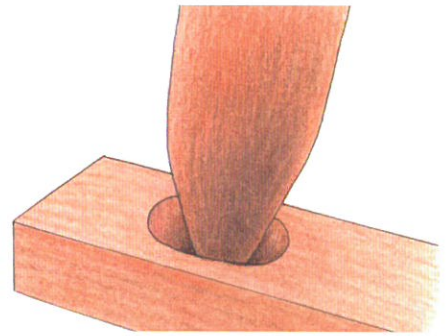
更にもう一つ、風への対策という理由もある。合掌造りの配置をよく見ると、完全に南北方向にそろっているわけではなく、微妙にカーブを描いている。このカーブは、谷を流れる庄川の流れにおおよそ沿っている。白川郷を襲う強い風は、この庄川の流れに沿って吹

25

20



合掌造りの構造



コマジリ



小屋組部分



互が互いの向きに掛けてあるネソ

き抜けるのだが、合掌家屋は、その風向きに、妻面を向けている。実は、一戸一戸の合掌家屋の屋根の構造に、妻面で風を受け止めながら巧みに風に耐える仕組みがあったのだ。

合掌造りの屋根には、厚さ一メートル近い茅がふかれている。重さ四十トンにもなるというその茅を支えているのは複雑に組みあげられた木材の骨組みだが、なかでも大きな荷重を担っているのが、「合掌材」とよばれる、三角形の斜辺に当たる丸太である。

5

屋根を△の形に支えている合掌材の根元は、こまの先のようにとがっており、コマジリとよばれている。その先端は二階の床の下にある梁のくぼみに刺さっているだけで固定されていない。

また、屋根面の骨組みもくぎなどで固定されているわけではなく、縄や、「ネソ」とよばれるマンサクの若木で結んであるだけである。もともと、合掌造りは、一階部分のみを大工を雇って造ってもらい、二階以上の部分は、住民が自らの手で造るものだった。専門の工具を使っ

15

10

て柱や梁を組みあげる一階の軸組部分に対し、二階以上の小屋組部分は、簡単な道具だけを用いて、粗く削った木材を組み、縄やネソで結んで造っているのだ。

こうした構造のため、妻面に風を受けると、合掌材はコマジリを中心に緩やかに動き、屋根全体が柔らかく傾くことになる。風が強い場合には、屋根が一メートル近くも動くという。風の力に逆らうのではなく、柔らかく受け止めることで、屋根が壊れるのを防いでいるのだ。

白川郷で屋根ふきの専門職人として、多くの合掌造りを見てきた和田利治さんによると、風を受けた屋根は激しく音を立ててきしむという。

「屋根が左右へ振れて、『ギギギツ』と、かなりしなってくるんですけども、それがまた風がやみますと元に戻る仕組みが工夫されているんです。」

風を受けた屋根は、どのようにして戻るのか。屋根の骨組みの結び目にその秘密がある。

結び目に使われているネソは非常に粘り強く、切り取った後、ねじってほぐし「練る」作業を経て屋根の材料として使う。このしなやかなネソが、風を受けて変形した骨組みを元に戻すばねの役割を果たすのである。

20

15

10

5

また、ネソは木材の交わる点に斜めに巻き付けて縛るが、その際、ネソを掛ける向きを互い違いになるようにすることで、どちら向きの風を受けてもバランスを取って中心に戻ってくるように工夫されている、と和田さんは言う。

「まあ、昔の人は、よく考えていらっしやるなと思いますね。私はそれをただ伝承しているだけなんですけど。結局、長い間、工夫を重ねてこういう家が建てられたんだろうと思っています。」

白川郷では、身近な材料を使った巧みな柔らかな構造が、どんな風にもびくともしない合掌造りを支えていたのだ。

世界遺産として、白川郷の合掌造りが特徴的なのは、その構造だけにとどまらない。更にユニークなのは、合掌造りには今も人が住んでいること、そして集落に暮らす人々が互いに助け合ってこの建物を維持してきたということである。

合掌造りの茅ぶき屋根は、およそ三、四十年に一度、ふき替えが必要になる。一メートルほどの厚さを持つものも珍しくないが、風雪にさらされるために少しずつ腐

40

35

30

25

食^{しょく}が進むのだ。

白川郷では、この屋根のふき替えという大仕事を、村人総出で助け合う「結^{ゆい}」とよばれる制度で行ってきた。

一軒^{けん}の家にとっては数十年に一度だが、村では毎年数軒ふき替えが行われることになる。雪解け後、農繁期^{⑥のうはんき}に入る前の時期に大勢の村人が集まって一気に屋根の茅をふき替えるのである。

「結」のルールでは、ふき替えの作業に協力してもらった家の主人は、将来、手伝いに来てくれた人々の家でふき替えが行われる際に、「結返し」として、今度は自らが手伝いに行かなければならない。つまり現金で労働力を雇うのではなく、無報酬^{ほうしゅう}で働いてもらう分を、等価の労働で返すという仕組みである。反対の立場から見れば、他家で行われるふき替えの手伝いをしてあげば、将来、自分の家の作業の際に協力を仰^{あお}ぐことができるのである。奉仕^{ほうし}的なボランティアというよりは、合理的な貸し借りのシステムであり、利子のない労働貯金ということもできる。

百人以上の人々が集まり、まる一日がかりで行うふき替えは、祭りのような大イベントだったという。昔は夜



屋根のふき替えの様子

明け前から屋根に登って働く人々のために、午前九時頃には食事を出すなど、主人の側もたいへんだった。

基本的にはお互いさまの合理的な貸し借りだとはいえ、「結」を頼む側には心労が付きものだった、と語ってくれたのは、合掌造りの民宿を経営する大谷昭二さんだ。

冬の間に、ふき替えの日取りを伝え、手伝いに来てもらえるよう、一軒一軒頼んで回る。その当日に雨が降ったらどうしたらよいか。百人以上の予定が関わってくるだけに、さまざまな心配で胃を痛めながら当日を迎える。そして無事にふき替えを終えると、体重が数キログラム落ちるといほど、疲れが出たものだという。

しかし、それでもなお、「結」によるふき替えは、多くの村人がいっしょに働きながらコミュニケーションを図るという意味でも、また合掌造りを伝承していくためにその構造を知るとい意味でも、住民にとって貴重な場なのだ、大谷さんは語ってくれた。

その合掌造りを支えてきた「結」が、時代とともに形を変えようとしつつある。

屋根のふき替えに当たって、「結」で無償の協力を依頼するのではなく、有償で専門の業者に頼むケースが増

えてきているのだ。

その背景にはいくつかの要因がある。一つは、「結」を依頼するときの心理的・物理的負担が大きいこと。また、「結」には、万が一け人が出た場合の責任などリスクがあること。あるいは、住人が高齢になり、自分が後々「結返し」に行けないために「結」を断念するケースもあるという。

なかでも、恐らく大きな要因は、地域の産業構造が変わったことだと考えられる。「結」はかつて、村民が農業で暮らしている状況を背景に生まれたが、現代では観光業などで収入を得ている人々が増えている。

また、白川郷が観光地化して、人々の気質が変わったことを原因に挙げる声もある。実際、世界遺産登録後、年間観光客は倍増し、白川郷の素朴な山村の雰囲気は多少なりとも変貌させている。

しかし、白川郷の人々にとって、観光を産業とすることは、白川郷で生き残るために必要な選択だったともいえる。戦後^⑧、生活の全てが経済の原理で押し流されようとしていた高度成長期^⑨、白川郷の周辺ではダム開発のために水没する村も多く、合掌家屋は取り壊されるなどし

20

15

10

5

40

35

30

25

て、その数は激減した。より豊かな生活を求めて離村する動きもあり、このままでは村が存続できなくなるという危機感が生まれた。そのときから、紆余曲折を経て、白川郷は観光立村を目指してきたのである。単純に昔の生活に戻るということは難しいだろう。

その一方で、白川郷の人々の多くは、やはり「結」によるふき替えは続けていくべきだと考えている。人と人のつながりを保つという意味や、建物を自分たちの手で維持していくノウハウを伝えていく役割は大切にしたいと考えているのだ。

では、「結」を未来に残していくにはどうしたらよいのだろうか。

前出の屋根ふき職人、和田利治さんと息子の茂さんは、「現代結」という形でその答えを模索している。和田さんたちが考えているのは、有償の専門職人と、無償の「結」による一般住民との協力という新しい形である。

和田さんたちが屋根ふきを請け負うとき、依頼主と相談し、合意が得られれば、作業の一部を「結」で行う。

全体の指揮や、特別な技術を必要とする部分は和田さんたちが担い、それ以外の作業を「結」の人々に依頼する

のだ。

「この屋根ふきというのは、やっぱり誰かが責任を持って技術を受け継いでいくことがないと、廃れてしまいます。『結』が存続していかないと、助け合いの心が失われて、自分の家を守るという精神がなくなりますので、残していくべきです。またみんながその気でおってもらわないと困ると思います。」

合掌造りに限らず、日本の木造建築は、材料の腐食や劣化という宿命を背負い、常に修復や再生維持の作業を必要としてきた。そうした作業で建物を支える人の手なしに、日本の建築は存在しえない。言い方を変えれば、日本の建物は、それを維持する人々と一体となって、生き続けているのである。

白川郷の合掌造りの場合、専門家集団ではなく、その家に住んでいる一般の人々がその担い手となる「結」という極めてユニークなシステムを守ってきた。そして、その維持作業に携わる中で、建物の構造の工夫も伝承されてきたのだ。

時代の移り変わりとともに、「結」の在り方は少しずつ変容してきているが、世界遺産に込められた先人の知

恵を、これからも住民の手で伝えていこうとする努力が、
白川郷で続いている。

絵・稲月ちほ



NHK「世界遺産」プロジェクト

出典 「日本の世界遺産 秘められた知恵と力」による。

「日本の世界遺産 秘められた知恵と力」は、二〇〇五年に放映されたドキュメンタリー番組の内容をもとに、書籍にまとめたもの。

注

▼ 278 ページ

① 茅

屋根をふくのを使う草の総称。イネ科のススキ・チガヤや、カヤツリグサ科のスゲなど。

② 高山

岐阜県北部の市。庄川は、正確には高山市の烏帽子岳を源流とする。

眺めること。

▼ 280 ページ

④ 梁

屋根や上階の荷重を支えるために架け渡す横木のこと。

⑤ マンサク

マンサク科の落葉小高木。日本各地の山地に生育する。

▼ 282 ページ

⑥ 農繁期

田植えや稲刈りなどで、特に農作業の忙しい時期。

▼ 283 ページ

⑦ 産業構造

各種産業の仕組みと、その相互関係を指す。

⑧ 戦後

ここでは第二次世界大戦後を指す。

⑨ 高度成長期

一九五〇年代半ばから一九七三年の石油危機までの、急激な経済成長期を指す。

▼ 284 ページ

⑩ ノウハウ

専門的な技術や知識。



読む 「読書への招待」(80ページ、174ページ、214ページ)と併せて、次のような読書活動を行おう。

読書活動を楽しもう

読んだ本について、感想や考えをまとめたり、クラスの中で紹介し合ったりする活動を通して、本に親しみ、読書体験を共有しよう。

本の広告カードを作ろう

1 本を読む

教科書中の「読書案内」などから本を選んで読もう。

2 宣伝文を考える

本の魅力^{みりょく}を伝える宣伝文を考えよう。

3 キャッチコピーを考える

その本を読みたくなるようなキャッチコピーを考えよう。

4 広告カードを仕上げる

文字の大きさや配置などを考えて、広告カードを仕上げよう。完成したら発表会を開いたり、学校図書館に掲示^{けいじ}したりするのもよい。

自分が考える、その本のおすすめのポイントを盛り込む。

キャッチコピーの代わりに、本文の中から、印象的な言葉を選んで引用してもよい。

10

5

▼ 広告カードの例



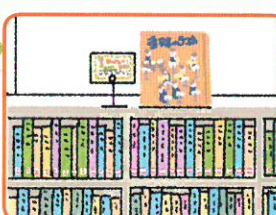
楽隊のうさぎ

中沢けい



中学1年，文化部男子。
夢中になって，強くなる。

主人公の克久は，なるべく学校にいる時間を短くするという
ことばかり考えていた。そんな彼が，吹奏楽部の活動を通して
少しずつ変わっていく。劇的な変化がなくても人は強くなれる，
と改めて気づかせてくれる小説だ。部活動や学校生活で悩んで
いる人に，ぜひ読んでもらいたい一冊。



キャッチコピー

宣伝文

ミニ読書会を開こう

1 本を読む

教科書中の「読書案内」などから、グループで本や作品を一つ選び、みんなで読もう。

2 メモをもとに調べる

一人一人、読んだ感想や疑問点をメモしておく。疑問点については調べてみよう。

3 調べたことを紹介する

グループで、調べたことや考えを紹介し合おう。また、感想を交換しよう。

調べるときには、本やインターネットなど、必ず複数の情報源に当たる。

▼ メモの例

「科学の考え方・学び方」
いけうちさとる 池内了

〈感想〉

- ・「1週間はなぜ七日か」の答えが興味深い。

〈疑問点〉

- ・「錬金術」(91~92ページ)について。

→インターネットや図書館で調べる。

- ・「自然にやさしい科学」(178ページ)の具体的事例。

→「自然に密着したエネルギー」にどんなものがあるかを調べる。

10

5

▼ ミニ読書会の様子



フィクション



友情・恋

パスタマシンの幽霊

川上弘美

「好き」って何？
恋する女子を描いた短編集。



市立第二中学校2年C組
10月19日曜日

椰月美智子

傷つきやすく、
傷つけやすい、
中二の一日。



ハチミツドロップス

草野たき

もうごまかさな
い！ 部活も恋
も友情も。

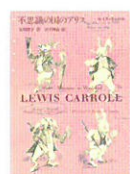


ファンタジー

不思議の国のアリス

ルイス・キャロル

「ウサギ穴」の
向こうは、ナン
センスの世界。



クマのあたりまえ

魚住直子

死ぬのが怖くて、
子グマは石にな
るうとした。



有頂天家族

森見登美彦

現代に生きるタ
ヌキと天狗と人
間の化かし合い。



時代・歴史

燃えよ剣

司馬遼太郎

新選組副長、土
方歳三。武士の
魂を持つ男。



のぼうの城

和田竜

忍城は難攻不落。
秘策は城主その
人にあり。



藩校早春賦

宮本昌孝

幕末、武家の少
年たちの爽快な
青春物語。



人生・生き方

アルジャーノンに花束を

ダニエル・キイス

手術で天才に
なった知的障が
いの青年は……。



医学のたまご

海堂尊

中一のぼくが医
学論文を発表？
痛快科学小説。



そして、ぼくの旅はつづく

サイモン・フレンチ

母とぼくはヴァ
イオリンを手に
人生の旅に出た。



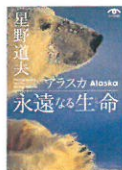


冒険

アラスカ 永遠なる生命

星野道夫

極北の自然が育む美しい生命のフォトエッセー。



いま生きているという冒険

石川直樹

世界の秘境を旅した著者が語る「冒険」とは。



プラントハンター

西島清順

若き植木屋、世界に飛ぶ。珍しい植物を求めて。



生き物

ファーブルの昆虫記

ジャン・アンリ・ファーブル

ハチ、カマキリ、小さな昆虫の大きな世界。



ゾウの時間 ネズミの時間

本川達雄

体のサイズでみると、生物学は愉快で神秘的。



働かないアリに意義がある

長谷川英祐

進化生物学者による、驚異の実験結果とは。



言葉

日本語とせとら

阿刀田高

鳥と雉の違いとは。日本語は豊かでおもしろい。



オツな日本語

金田一秀穂

知っているようで知らない、日本語の豆知識。



ポケットに名言を

寺山修司

映画や詩集、更に著者自身の名言まで。



芸術

ボクの音楽武者修行

小澤征爾

青年指揮者は、バイクーつて海を渡った。



「芸術力」の磨きかた

林望

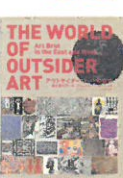
芸術は生きる力。まずは挑戦してみよう。



アウトサイダー・アートの世界

はたよしこ

障がいのある芸術家たちの、迫力の作品集。





古典

「枕草子」(122ページ)と併せて読み、女房文学が生まれた背景や作者の人物像について知ろう。

清少納言と紫式部

三角洋一

平安時代を代表する文学に、清少納言の「枕草子」^①と紫式部の「源氏物語」^②があります。作者である二人の女性^③は、ほぼ同時代に活躍し、女房として宮仕えをした人物です。

九世紀後半、娘を天皇の后にし、生まれた子供を次の天皇に立てて勢力を伸ばした藤原氏が、政治の実権を握りました。やがて、藤原氏が身内どうしで権力を争うようになると、競って娘に特別なお后教育を施しただけでなく、学芸などに秀でた女房を召し抱えて、才能を発揮させました。そこから、女房文学が生まれたのです。

清少納言は、藤原道隆の娘で一条天皇の皇后である定子に仕え、紫式部は、藤原道長(道隆の弟)の娘で一条天皇の中宮である彰子に仕えました。定子と彰子が皇后と中宮という対立関係にあったため、清少納言と紫式部

もライバルのように見られています。

「枕草子」には、当時の貴族の生活をのばせてくれるエピソードが多く書き留められています。なかでも、定子が女房たちに語った宣耀殿の女御の話は、貴族の女性の教養とたしなみがうかがえるものです。

宣耀殿の女御というのは、一条天皇の祖父に当たる、村上天皇の頃の人です。彼女は幼い頃、父の左大臣から、「まず第一に、お習字をしなさい。第二には、七絃の琴を誰よりも上手に弾けるように心がけなさい。第三には、『古今和歌集』二十巻の和歌を全部暗記することを、学問になさるように。」と命じられたそうです。このことを知った村上天皇は、「古今和歌集」を片手に、「これこれの月、何々の折、誰々が詠んだ歌は何か。」と尋ねるのですが、彼女はすらすらと答え、とうとう夜が更ける

まで試験をし続けても、間違えることがなかったそうです。

また、宮中の女性たちは、それまで男性の学問とされていた漢詩文の素養も持っていました。「枕草子」には、定子と清少納言の次のような機知に富んだやりとりが紹介されています。

雪のいと高う降りたるを、例ならず御格子まゐりて、炭櫃に火おこして、物語などして集まりさぶらふに、「少納言よ。香炉峰の雪いかならむ。」と仰せらるれば、御格子上げさせて、御簾を高く上げたれば、笑はせたまふ。人々も、「さる事は知り、歌などにさへうたへど、思ひこそよらざりつれ。なほこの宮の人にはさべきなめり。」と言ふ。

雪がたいへん高く降り積もっているのに、いつものようでもなく御格子をお下ろししたままで、炭櫃に火をおこして、（私たちが女房が）話などをしておそばに集まっていると、（定子様が）「少納言よ。香炉峰の雪はどんなふうであろう。」とおっしゃったので、（女官に）御格子を上げさせて、御簾を高く巻き上げたところ、につこりとなさる。女房たちも、「その詩句は知っており、歌な

15

10

5

どにまでも詠み込むのに、思いつきもしませんでした。やはりこの宮にお仕えする人としてはそう気が利くべきなのでしょう。」と言ふ。

唐の白居易の詩に、「香炉峰の雪は簾を撥げて看る」という一節があつて、定子はそれを踏まえて謎かけをしたのです。清少納言はみごとに答えたのでした。

紫式部もまた、確かな漢詩文の素養を持ち、高い見識を備えていました。彼女の父は、漢詩人の藤原為時です。「紫式部日記」には、子供の頃のこんなエピソードが書き留められています。

「弟の惟規が、幼い頃漢文を読み習っていたときに、覚えるのに手間取るようなところを、そばで聞いていた私がすらすらと理解するので、学問に打ち込んでいた父は、残念なことに、この子が男でなかったのは私に運がなかったのだ、と嘆いていらつしました。それなのに、『男でさえ、学識をひけらかす人はどうなのでしょう。立身出世しないようですよ。』と人が言うのを聞いてから、私は『一』という漢字さえ書いてみせることもしませんでした……。」

35

30

25

20

漢詩文の深い知識を持ちながら、彼女は人前でそれをひけらかさないように気を配っていたようです。

一方、清少納言は、学才を隠すことはせず、むしろ積極的に振る舞いました。しかし、歌はめったに詠まなかったといえます。歌人として名高い父、清原元輔を氣遣い、

もし下手な歌を詠んだならば、父の名声に傷がつくと考えたのです。

清少納言と紫式部、二人は、ともに豊かな才能に恵まれていただけでなく、細やかな心遣いのできる人物でもあったようですね。



三角洋一

一九四八「昭和23」年、岩手県出身。国文学者。著書に「物語の変貌」「源氏物語と天台浄土教」「王朝物語の展開」などがある。出典 本書のための書き下ろし

注

▼ 290 ページ

① 紫式部

生没年未詳。平安時代の物語作者、歌人。鋭い人間観察に基づいて「源氏物語」「紫式部日記」「紫式部集」を著した。

② 源氏物語

平安時代の、五十四帖から成る長編物語。桐壺帝の皇子で臣下となった光源氏の一生と、その子薫の実らぬ恋を描く。

④ 一条天皇

122 ページ参照。

⑤ 皇后

122 ページ参照。

⑥ 中宮

122 ページ参照。

⑦ 女御

平安時代の後の称号。

▼ 291 ページ

皇后は女御の中から選ばれ、また、女御より下の身分に更衣がある。

ある廬山の峰の一つ。

⑩ 白居易

七七二年～八四六年。字は樂天。中国の中唐の詩人、政治家。平易な詩風で「白氏文集」「白氏文集」ともを残す。

⑨ 香炉峰

現在の中国江西省に

⑪ 紫式部日記

平安時代の日記文学。一条天皇の中宮彰子が敦成親王(後一条天皇)を出産する前後の記録で、深い人間観察と自己省察がうかがえる。

● 古文の出典

「新編日本古典文学全集」



古典 「漢詩」(142ページ)と併せて読み、漢詩の味わい方を学ぼう。

漢詩の世界

日原 傳

江雪

柳宗元

千山鳥飛絶

万径人蹤滅

孤舟蓑笠翁

独り釣る寒江の雪

千山鳥飛絶

万径人蹤滅

孤舟蓑笠翁

独釣寒江雪

この詩は、雪景色を詠んだ叙景詩の名作として知られています。前半の二句は遠景、後半の二句は近景です。

連なる山々からは鳥の飛ぶ姿が消え、どの径から人も人の足跡が消えました。「人蹤」というのは、人の足跡です。ぽつんと浮かぶ一そうの小舟には、蓑と笠を着けた老人が乗っており、雪の降りしきる寒々とした川で、独り釣り糸を垂れているのです。

10

5

このような四句から成る漢詩の形を、絶句といいます。絶句は普通、「起承転結」という構成法で作られます。

第一句(起句)で歌い起こし、第二句(承句)でそれを承けて内容を発展させます。第三句(転句)は、場面を転換させ、詩の流れに変化をつけます。そして最後の第四句(結句)で全体をまとめるといって構成法です。

この詩では、起句と承句が対句になっており、生き物の姿の消えた山野の様子が描き出されています。続いて、転句では水辺の情景に転じ、川面に浮かぶ一そうの舟と、それに乗っている蓑と笠を着けた老人に焦点を当てます。更に結句では、老人が独りで釣りをしていることが明らかにされ、老人を降り包む雪の情景を見せて終わるのです。

この詩は、叙景に徹した詩です。喜怒哀楽に関する情

25

20

15

緒的な言葉は、二十字のうち一字も使われていません。

しかし、読み手の心に訴えかける力が、叙景に徹する姿勢から生まれています。平易な言葉を用いながら、奥深いものを感じさせる作品です。

雪の降りしきる中で釣り糸を垂れる老人の姿は、作者の孤独な心の投影なのでしょいか。各句にちりばめられた「絶」「滅」「孤」「独」という強い言葉が響き合って、引き締まった雰囲気を作りあげています。

作者の柳宗元は、若くして科擧の試験に合格し、エリートコースを歩んでいましたが、政治上の党派争いに巻き込まれて、三十三歳のときに永州に左遷されました。「江雪」は、そのときの作とされています。

⑤ 涼州詞
リョウシュウシ

⑥ 王翰
オウ

⑤ 涼州詞
⑥ 王翰
葡萄酒の美酒夜光の杯

飲まんと欲すれば琵琶馬上に催す

酔うて沙場に臥すとも君笑ふこと莫かれ

古来征戦幾人か回

葡萄酒美酒夜光杯

欲飲琵琶馬上催

醉臥沙場君莫笑

古来征戦幾人回

「涼州詞」というのは、樂府の題名です。樂府とは、民謡風の曲に合わせて作った詩をいいます。先にメロディーがあつて、それに歌詞を付けたのです。

涼州は、唐の西北の辺境にあり、国境防衛の要衝でした。唐代には、辺境地帯の風物や出征兵士の感慨を歌った詩がたくさん作られました。作者の王翰は、そうした詩を得意としました。

この詩の前半では、異国情緒たっぷりの華やかな世界が描かれます。起句はまず、「葡萄酒の美酒」から歌い始めます。ぶどう酒は、西方から伝わった酒で、当時としてはまだ珍しいものでした。「夜光の杯」は、白玉で作った杯とされます。あるいは、西方から伝わったガラス製の杯という説もあります。承句の「琵琶」も、西方から伝わった弦楽器です。「催す」とは、せき立てるように弾くことをいいます。杯に満たしたぶどう酒を一気に飲み干せ、とせき立てるように馬上で琵琶をかき鳴らすのです。宴会の光景が思い浮かびますが、馬上で琵琶を弾いていることから、普通の酒盛りではないことが想像されます。

注

▼ 293 ページ

① 柳宗元

七七三年～八一九年
唐代の文人、政治家。
唐宋八大家の一人。

② 絶句

一句が五字のものを
五言絶句、七字のものを
七言絶句という。

▼ 294 ページ

③ 科挙

中国で行われた官吏

⑤ 涼州

今の甘肅省武威市。

④ 永州

今の湖南省永州市。

⑥ 王翰

六八七年頃～七二六
年頃 唐代の詩人。

⑦ 唐

六一八年～九〇七年
中国の王朝名。長安（今の
陝西省西安市）に都

を置いた。

● 漢詩の出典

「唐詩三百首」



日原 傳

一九五九「昭和34」年、山梨県出身。中国文学者、俳人。
著書に「玩鷗先生詠物百首注解」「海外見聞集」「句集 此君」などがある。
出典 本書のための書き下ろし

後半は、思わぬ方向に話が展開します。転句は、したたかに酔っ払って砂漠に倒れ込んでも、笑わないでくれ、と読み手に語りかけます。「沙場」は砂漠、「君」は読者への呼びかけです。そして結句で、作者は今戦場において、明日をも知れぬ命であることが明かされます。「古来」は昔から、「征戦」は戦争に征くこと。「幾人か回る」と

は、「幾人が無事に帰ってくるだろうか、ほとんど帰ってこない。」という意味です。
前半で描かれた華やかさは、死と隣り合わせに日々を過ごす兵士たちの不安を裏に秘めた華やかさであることが、最後に明らかにされるのです。戦場に身を置く兵士の悲哀の情をみごとに描ききった作品といえるでしょう。



古典

能・狂言・浄瑠璃・歌舞伎を朗読して、古典芸能に親しもう。

古典芸能に親しもう

日本の古典芸能は、七五調の言葉の響きの美しさや、優れた言い回しから、人々に親しまれてきた。いくつかの作品を朗読し、耳に心地よい調べを感じてみよう。

能「高砂」より

肥後の国（熊本県）阿蘇神社の神主の一行は、松の精の靈験を受けて高砂の浦を出発し、住の江にたどり着きます。

狂言「神鳴」より

空から落ちて腰を痛めた神鳴から、治療するよう命じられた医師は、恐れながらも鍼を打とうと決心します。



小尉の能面

姥の能面



祝いの舞を舞う住吉大明神

高砂や、この浦舟に帆を上げて、この浦舟に帆を上げて、月もろともに出て潮の、波の淡路の島影や、遠く鳴尾の沖月の出とともに満ちてくる潮に乗って舟出して過ぎて、はや住の江に着きにけり、はや住の江に着きにけり。早くも住の江に着いたことだ

5

医師「まづお横にならせられい。」
神鳴「心得た。エイエイ、ヤットナ。」
医師「それならば必ず光らせらるるな。」
神鳴「オオ、光ることではない。」
医師「鳴らせらるるな。」
神鳴「オオ、鳴ることではない。」
医師「この辺りでござるか。」
神鳴「オオ、その辺りぢや。」
医師「この辺りでござるか。」
神鳴「オオ、その辺りぢや。」
医師「オオ、その辺りぢや。」
神鳴「オオ、その辺りぢや。」
医師「立てまするぞ。」
神鳴「早う立てい。」
医師「クワツシ、クワツシ、クワツシ。」
神鳴「ア痛、ア痛、ア痛。早う取れ、早う取れ。」



神鳴に鍼を打つ医師



神鳴の狂言面

恋と忠義はいづれが重い、
かけて思ひははかりなや。
てんびんに掛けても量りかねるほど恋は重い
忠と信の武士に、君が情け
と預けられ、しづかにしの
ぶ都をば、後に見捨てて旅
立ちて、つくらぬ形もよし
つねの、御行く末は浪花津
の、浪に揺られて漂ひて。
今は吉野と人づてのうわさ
を道のしをりにて、大和路
さして慕ひ行く。

10



義経を思い、舞を舞う静御前と忠信



静御前に寄り添う忠信

浄瑠璃「義経千本桜」より

「道行初音の旅」の場面。都落ちした源義経を追って、義経の恋人静御前と家臣佐藤忠信は、奈良の吉野山を旅します。

歌舞伎「楼門五山桐」より

京都南禅寺の山門の上に大泥棒石川五右衛門が現れ、煙管をくゆらせながら、満開の桜を眺めて言うせりふです。

絶景かな絶景かな。春の眺めは価千金とは、小せえ小せえ。この五右衛門の目から見れば、価万両、万々両。日も西山に傾きて、雲とたなびく桜花、あかね輝くこの風情、はて麗らかな眺めじやなあ。

夕日に赤く輝く



山門の上で桜を眺める五右衛門



宿敵久吉に挑む五右衛門





話す・聞く／書く

話すこと・書くことの題材を見つけよう。

話すこと・書くこと 題材例

話すことや書くことが見つからないときや、はつきりしないときには、この題材例を参考にしてみてください。

自分

- ・私の趣味
- ・一年間に読んだ本のリスト
- ・私のボランティア体験
- ・私の「今月のトップニュース」

生き物・自然

- ・我が家のペットの生態
- ・〇〇池の生物
- ・もやしの秘密
- ・秋の星座の観察

生活

- ・おいしいお茶のいれ方
- ・お菓子の歴史
- ・将棋とチェスを比較する
- ・我が家の掃除の知恵

学校

- ・クラスでよく読まれている雑誌
- ・部活動年間活動記録
- ・委員会活動報告
- ・給食の歴史

言葉

- ・日本語に同音異義語が多いのはなぜか
- ・歌詞によく出てくる言葉
- ・どうしてアユの漢字は「鮎」なのか
- ・よくある言葉遣いの誤り

地域・社会

- ・たぬきうどん・たぬきそばの地域差
- ・〇〇商店街の今と昔
- ・新聞広告についての調査
- ・職場訪問のときのインタビューメモ

記録・報告・説明・紹介

主張

趣味・勉強

- ・歴史小説とSFはどちらがためになるか
- ・映画やドラマの原作は見る前に読むべきか
- ・勉強はなぜ大切か
- ・テストについて考える

人間関係

- ・真の友情とは
- ・言葉で伝えることの大切さ
- ・先輩・後輩関係の意義
- ・リーダーが注意すべきこと

メディア

- ・新聞の投書を読んで反論する
- ・こんなテレビ番組を作るべきだ
- ・インターネットの功罪
- ・このベストセラーの本はなぜ売れたのか

感想・創作

自分

- ・私^{わたし}にもし○○があったら
- ・夏休み、とっておきの話
- ・楽しい休日の過ごし方
- ・自分の心境を短歌で表す

芸術作品

- ・映画○○を見て
- ・物語を読んで登場人物どうしの対談を書く
- ・物語の一場面をもとに俳句を作る
- ・写真や絵画をもとに短い物語を作る

自然・光景

- ・通学路の光景
- ・今の季節を感じさせるもの
- ・校外学習で見た風景
- ・身近な自然を詩で表す

学校生活

- ・球技大会を終えて
- ・私にとつて部活動とは
- ・今いちばん興味のある教科
- ・職場体験で学んだこと

友達・家族など

- ・○○さんと私
- ・心に残る友達の言葉
- ・私の尊敬する人
- ・もし物語の登場人物が家族だったら

社会・メディア

- ・どんな職業に就きたいか
- ・私の住んでいる町
- ・近頃^{ちかごろ}のニュースで気になったこと
- ・理想のテレビ番組のシナリオを作る

通信・手紙

連絡・案内

- ・留守番電話に用件を吹き込む^{ふくこ}
- ・小学校のクラス会の案内

依頼・お礼

- ・職場訪問の依頼状
- ・職場でお世話になったかたへのお礼状

挨拶・気持ち

- ・暑中見舞^{みま}い状
- ・卒業する三年生へ

意見

生き方・考え方

- ・個性を生かすということ
- ・こんな大人にはなりたくない
- ・遊びのすすめ
- ・○○学習で学んだこと

ルール・マナー

- ・乗り物の優先席はあったほうがよい
- ・図書館でのマナー
- ・マニュアル化した挨拶^{あいさつ}は必要ないか
- ・うそをついてもよい場合はあるか

社会・文化

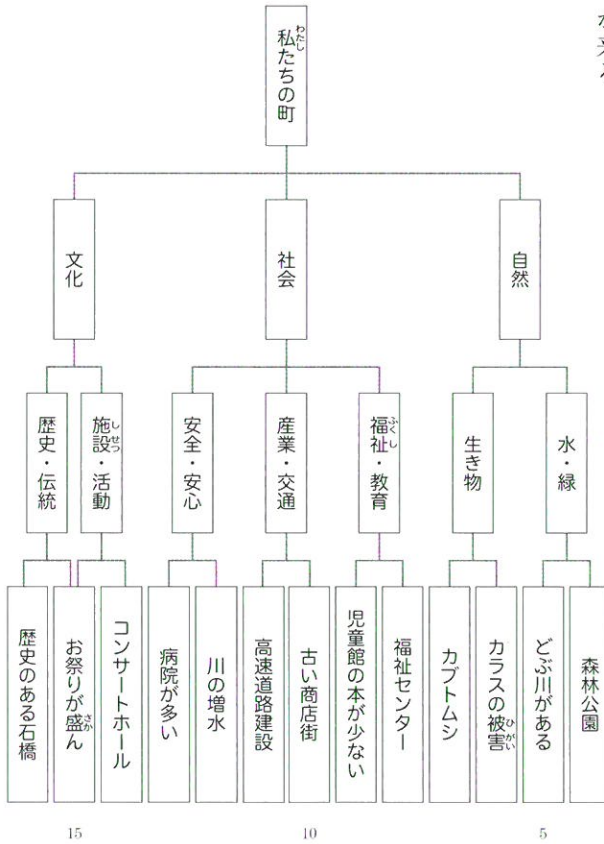
- ・私^{わたし}たちと環境問題^{かんきょうもんだい}
- ・中学生に携帯電話は必要か
- ・少子高齢^{こうれい}社会を考える
- ・伝統を守ることはどんな意味があるか



発想・整理の方法

樹形図

大きな題材を、下位項目に分けていく。最後に最も具体的な材料が来る。

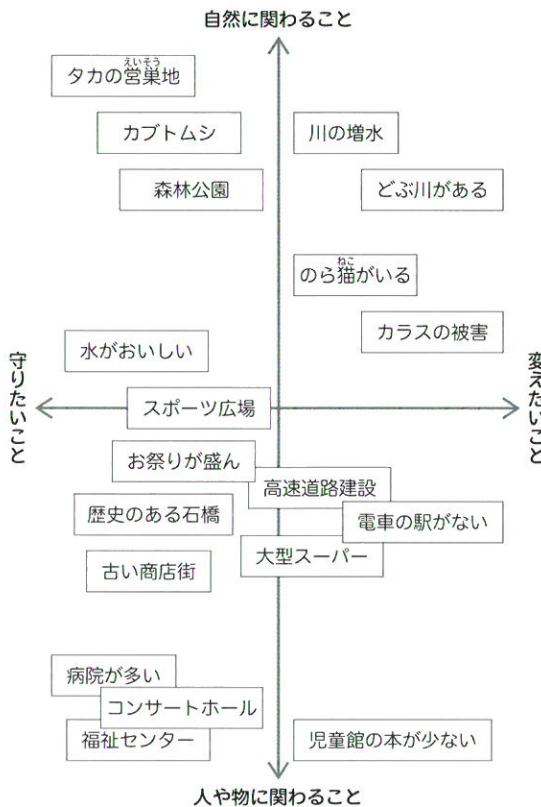


下位項目の立て方はいろいろ考えられるよ。



座標軸法

対を成す観点（新旧や是非など）を、縦と横の座標軸に据え、座標上のどの位置にどのような材料が来るかを考える。



どんな観点を座標軸に据えるかがポイントだよ。

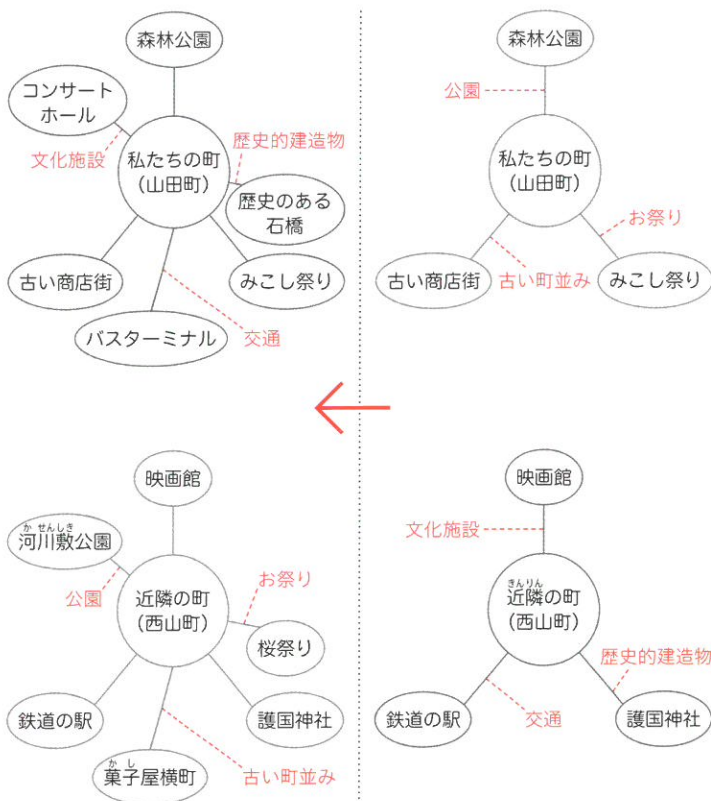


ね。

イメージを広げるための観点が見つけやすくなる



5



ダブルイメージマップ

類似した複数の題材を並べ、まずそれぞれについて思いつく材料を出し、次に思いついた材料の観点を交換して、材料を増やす。

いね。

人口の増減の原因が、駅の有無にあるとはいえない



県内の市町村の人口増減（最近5年間）と駅の有無

	人口が増加している市町村	人口が減少している市町村
駅がある市町村	上山市 野原市 田丸市 新川町 三船町 5	高山市 中島市 村田市 川田市 丸島市 五条市 西山町 7
駅がない市町村	東野市 平和町 王子町 大空村 4	山田町 遠山町 恩多町 山辺村 小谷村 5

私たちの町（山田町）には、バスターミナルはあるが電車の駅はない。そして、ここ数年、町の人口は減少している。このことから、「人口が減少しているのは、電車の駅がないからだ。」といえるだろうか。

四分割表

二つの事柄の間に関係があるかどうかを見るために、それぞれの事柄を二つの場合に分けて、四ますの表にして考える。



話す・聞く インタビューの仕方やアンケートのとり方を知り、活用しよう。

取材の仕方（インタビュー・アンケート）

インタビューの仕方

1 調べたいことの確認

「どんなテーマで」「何を知るために」「どんな場所で」「どんな人に」「どんなことを」ききたいのかをはっきりさせる。

2 訪問先の決定

調べたいテーマについて、どこで、誰にきくのが有効なのか、具体的に複数の候補を挙げて話し合う。

3 電話やメールなどの予約

- 訪問先が決定したら、電話で予約を取る。メールを用いてもよい。
- 自己紹介ののち、電話・メールの目的を伝える。
- 担当のかたにインタビューの要件や主な内容を伝える。
- 複数の訪問希望日を伝え、相手の都合をきいて、日時を決める。
- 訪問当日、どこに、誰を訪ねたらよいかをきく。
- 代表者名、訪問人数、連絡先を伝える。
- 録音や撮影の許可をもらう。
- いただける資料などがあるかをきく。
- 電話では、最後に内容を復唱し、確認する。

15

10

5

4 正式依頼

電話やメールでの予約の後、正式な依頼文書を送る。

- 学校から正式な依頼文書を送付する。
- 主な質問内容を事前に文書などで連絡する。
- 訪問日の前日に確認の電話を入れる。

5 インタビュー計画の作成

質問内容を整理し、仕事の分担などを決める。

インタビュー計画書

3班 メンバー：田中、林、木村、西

日時	5月10日（火）午後2時
訪問先	施設等名称：中央駅 駅長室 所在地：〇市本町1-1-1 担当者：広報室 平井さん 電話：□□□-7350
集合	中央駅東口に午後1時30分に集合。
分担・持ち物	班長：田中、質問：西（全員）、 メモと録音：木村、ビデオ：林、 カメラ：田中 [持ち物] 協力願：西、ノート： 全員、インタビュー計画書：田中、 レコーダー：木村、ビデオ：林、 カメラ：田中
主な質問	・駅にあるバリアフリーの設備は何か。 ・それはいつ頃設置されたか。 ・1日何人くらい使っているか。 ・利用している人の反応。 ・設備ができてからの変化。

担当の先生：原先生（確認サイン：原）

- 質問を考える前に、知っていることや意見をグループで出し合う。
- 訪問先について事前学習を行い、予備知識を持っておく。
- 柱になる大きな質問を選んでおく。話が広がる質問や、現場でないときけない質問を考える。

25

20

6 インタビューの実施

♠ このエレベーターはホームと直結しています。車椅子のかたは、改札口を通らずに、これに乗って直接ホームに行けます。

♣ 普通のエレベーターと操作は同じですか。

♠ いいえ、まず、このブザーを鳴らして、横のインターホンで駅員を呼んでいただきます。エレベーターのところに駅員が行き、いっしょに乗るんです。そして、駅員だけが操作できるボタンで、そのままホームに上がります。

♣ 駅員のかたは、どのような手助けをするんですか。

♠ 電車とホームの間に、列車昇降用スロープ板という、鉄製の渡し板を架け、乗車を手助けします。

...

- 挨拶をしつかり行い、丁寧な言葉遣いで、はっきりと話す。
- 聞き取りメモは簡潔に。相手を見ながら聞くことを意識する。

7 インタビューのまとめ

分かったことを、レポートにまとめたり発表したりする。

8 訪問先へのお礼

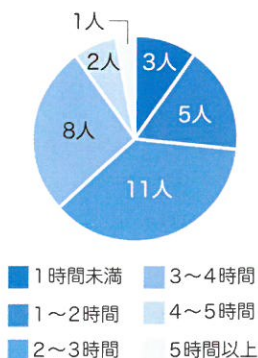
取材時の写真、まとめたレポートなどを同封し、訪問先にお礼状を書く。

15

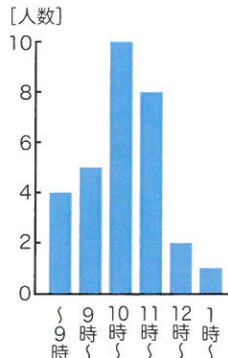
10

5

土曜日のテレビ視聴時間



平日の就寝時間



睡眠時間についてのアンケート

総合的な学習で、「中学生の生活」というテーマで調べ学習をすることになりました。私たちの班では、睡眠時間とテレビを見る時間との関係を調べたいと考えています。ぜひご協力をお願いします。

なお、調べた結果は、学年別・男女別に集計して、授業の中で発表します。

- ① 学年と性別を教えてください。
年生 男・女
- ② 平日、土曜日、日曜日の、だいたいの就寝時間を教えてください。
平日 時頃/土曜日 時頃/日曜日 時頃
- ③ 平日、土曜日、日曜日の、だいたいの起床時間を教えてください。
平日 時頃/土曜日 時頃/日曜日 時頃
- ④ 平日、土曜日、日曜日に、それぞれ1日何時間くらいテレビを見ますか。

アンケートのとり方

アンケートは、ある話題について、多くの人の考えや実情などをきき、集計するものである。全体の傾向を捉えるのに有効である。

1 アンケート対象の確定

● 年齢別・性別などの集計をする場合、調査項目に入れる。

2 質問の設定

● 選択式：集計しやすいが、質問や選択肢をしつかりと考える必要がある。

● 自由記述式：自由な考えを引き出せるが、集計の仕方に工夫が必要となる。

＊両者を組み合わせてもよい。

実施上の注意

● 記名が無記名かによって結果が変わる可能性がある。

● 協力者のプライバシーを守る。

● 対象・日時・方法・調査総数や回答数を明らかにする。数値については、上のようにグラフで示すと分かりやすい。

40

35

30

25

20



書く「依頼状やお礼状を書く」(146ページ)などで参考にしよう。

手紙の書き方

横書きの手紙

日付を右に寄せて書き、宛名を左に寄せて書く。

伝えたい項目が多いときには、「下記のとおり」「別記のとおり」などとして、後ろのほうに「記」として箇条書きなどで示す。

署名を最後の行の右に寄せて書く。(事務的な手紙では、宛名の次の行の右に書くこともある。)

平成28年10月12日
動物愛護センター所長
坂本直樹様

拝啓 秋も深まり、日がだんだん短くなってまいりました。いかがお過ごしでしょうか。私は、先日お電話をさしあげました、西中学校2年の松山敏江と申します。

さて、私たちの学年では、昨年より、「思いやり」をテーマに、さまざまな調べ学習を行ってきました。そこで、私たち2年2組3班は、「動物への思いやりの現場」を小テーマに選び、貴所をお訪ねすることになりました。電話ではご快諾いただきまして、本当にありがとうございました。つきましては下記のとおりお伺いしたいと思いますので、改めてご確認ください。

お忙しい中とは存じますが、どうぞよろしくお願いします。

敬具

・記

- 1 訪問日時 平成28年11月16日 午後2時～3時半
- 2 訪問目的 動物の世話などの様子を見学したり、どんな理由で動物を預かっているのかなどをインタビューで調べたりして、レポートにまとめる。
- 3 訪問者氏名 2年2組3班 班長 松山敏江
班員 井田昌男 大谷さやか 佐倉一樹
鈴木雄太 町沢清美
- 4 連絡先 西中学校 2年2組担任 高松福夫
(TEL ○○○・○○○・○○○○)

・西中学校2年2組 松山敏江

縦書きの手紙

①頭語・②結語

拝啓→敬具(改まった手紙のとき)
前略→草々(前文を省略するとき)

③時候の挨拶・④安否の挨拶

頭語の後、季節の気候や自然などに触れ、相手の安否(元気がどうか)を尋ねる。

⑤日付・⑥署名・⑦宛名

日付は上から2字くらい下げて書く。署名は下に寄せて書く(下を1字くらい空けるとよい)。宛名は上に寄せて書く。

⑦ 動物愛護センター所長
坂本直樹様

⑤ 平成二十八年十二月七日
西中学校二年二組 松山敏江

⑥ 敬具

④ 拝啓 すっかり外は冬の景色になってまいりました。皆様がつたにはいかにお過ごしでしょうか。こちらは期末テストも終わり、ようやくほっとしているところです。さて、先日はお忙しい中、私たちの所内見学やインタビューをお受けいただきまして、ありがとうございました。おかげさまで、動物保護の実態を間近に見ることができ、たいへん勉強になりました。何よりも、皆様の熱心な動物愛護のお姿に接したことは、私たちの学習テーマである「思いやり」についてますます深く考えさせられるきっかけとなりました。

③ 撮らせていただいた写真やインタビュー記事とレポート

② ① ④ ⑤ ⑥ ⑦

にまとめました。コピーを二部同封いたしますので、どうぞ所内の皆様でご覧ください。

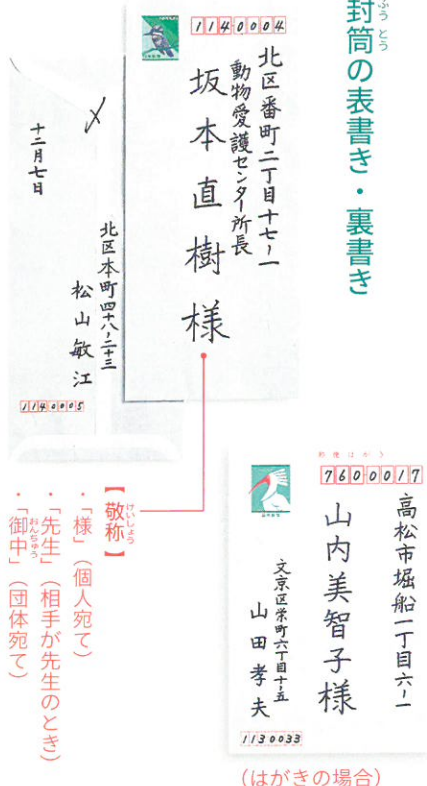
これから寒さの厳しい季節となります。風邪などひかれませんように、お体を大切になさってください。

後付け 末文 主文 前文

時候の挨拶の例

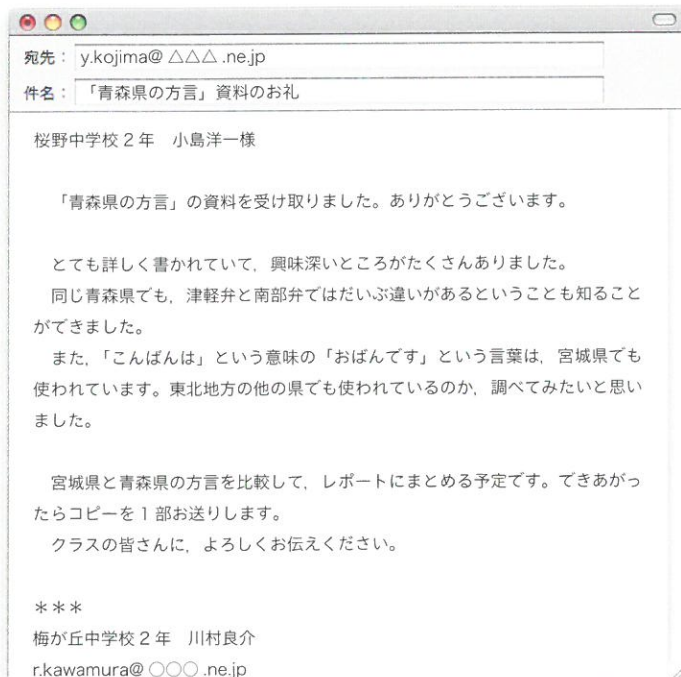
● 一月	・ 厳寒の候	・ 寒さが身にしみる今日このごろです
● 二月	・ 春寒の候	・ 梅の花のほころぶ季節となりました
● 三月	・ 早春の候	・ 日増しに暖かくなってきました
● 四月	・ 陽春の候	・ 花々が色とりどりに咲く季節となりました
● 五月	・ 新緑の候	・ 若葉の緑が鮮やかさを増してきました
● 六月	・ 梅雨の候	・ あじさいの花の美しい季節となりました
● 七月	・ 盛夏の候	・ 焼けつくような暑さを感じる毎日です
● 八月	・ 晩夏の候	・ 残暑の厳しい日々が続いております
● 九月	・ 初秋の候	・ 爽やかな秋風の吹く頃となりました
● 十月	・ 秋冷の候	・ 紅葉の鮮やかな季節となりました
● 十一月	・ 晩秋の候	・ 木々が葉を落とし始める頃となりました
● 十二月	・ 初冬の候	・ 冷たい木枯らしの吹く今日このごろです

封筒の表書き・裏書き



電子メールを送るとき

- 宛先 (メールアドレス) は正確に入力する。
- メールの内容が分かりやすいように、件名 (タイトル) を付ける。
- 冒頭に宛名を書き、次に用件を簡潔にまとめ、末尾に署名を加える。
- 書き終わったら、送信する前に、文章に誤りがないか、相手に失礼なところがないかなどをよく確かめる。
- 改まった内容のメールでは、顔文字や絵文字などは使わず、伝えたいことを言葉で丁寧に示すようにする。





書く 条件作文などの文章を書くときや、推敲するときの参考にしよう。

原稿用紙の使い方・推敲の観点（条件作文）

条件作文の書き方のポイント

- 「〇〇について、自分の意見を四百字以内で書きなさい。一行目から本文を書くこと。」などと条件が示されていたら、それに従って書く。
- 意見を求められているときには、自分の主張を示すとともに、その根拠を明確に書く。
- なるべく制限字数の八割以上は書くようにする。（例えば、四百字以内であれば、三百二十字以上。）

書いた文章をチェックしてみよう（推敲の観点）

- 条件に当てはまっているか。
- 主張がよく分かる内容か。根拠がしっかりしているか。
- 分かりやすい構成になっているか。
- 常体（「だ・である」体）と敬体（「です・ます」体）が交じっていないか。
- 主語と述語が対応しているか。文法的な間違いはないか。
- 言葉の意味の間違いはないか。
- 漢字の間違いや仮名遣いのおかしなところはないか。
- 段落や一文の長さは適切か。（一文は四〜五行まで。段落は、四百字以内の作文なら二〜四段落程度が一般的。）
- 句読点や符号の用い方は適切か。数字の書き方は正しいか。（縦書きでは漢数字が一般的。）

20

15

10

5

誤字を訂正する。

語句の順番を変える。

漢数字を用いる。

日本語では、現在、外国語の単語をそのまま取り入れたカタカナ語がよく用いられている。しかし私は、新しいカタカナ語はなるべく用いないほうがよいと考える。

第一に、新しいカタカナ語には意味が分かりにくいものが多い。先日、新聞を読んでいたら「コンセンサス」とという言葉が出てきた。母にきいても分からないというので、辞書を引いてみたところ、「合意」という意味だということが分かった。合意なら分かりやすいのに、わざわざどうしてカタカナ語を使うのか、不思議に思った。

第二に、カタカナ語は字数が多くなりがちである。「ブランドデザイン」という言葉は「全体構想」という意味らしいが、漢字で書けば八文字が四文字に縮まる。このように、分かりにくいうえに長くなるカタカナ語は、できるだけ多用しないのが望ましい。

別の日本語に言い換えるように心がけたいものである。

*修正に使っている記号は、「校正記号」という。

通常の作文の場合は、一行目に上から二、三ます空けて題名を書き、二行目に下から一、二ます空けて氏名などを書く。

段落をつなぐ。

段落を改める。

文字を追加する。

不要な文字を取り、

間を詰める。

◆ 言葉

本編の「広がる言葉」に取り組む際に、活用しよう。また、「書くこと」の学習で参考にするのもよい。

言葉を広げよう

たくさんのお言葉を知ること、考えを深め、表現の幅を広げることができる。さまざまなお言葉に触れ、文章を読んだり書いたりするときに生かそう。

人物像を表す言葉

↓ 53 ページ

よい特徴を表すことが多い言葉

哀れみ深い 捨て犬を放っておけない人。
生き字引 父は車についてはうだ。
偉大 父は車についてはうだ。
一芸に秀でた 彼は走馬の選手だ。
一騎当千 うのつものになりた。
器が大きい 社長にはう人がふさわしい。
打てば響く ような受け答えをする人。
英傑 一代のうが世に現れる。
エキスパート その分野のうに話を聞く。
おもしろい 物事にこだわらない人。
奥ゆかしい 彼のう心配りに感心する。
温厚篤実 うな部長は皆に慕われている。
穏和 母はうでめつたに怒らない。
快活 うて行動力のある人。
気概に満ちた 新事業を起こそうという人。
鬼才 推理小説のうとよばれる作家。
気さく 誰にでも話せるうな人柄。
巨匠 映画界のうが新作を制作する。
謹厳実直 うな人は結局信頼される。
勤勉 うな働きぶりが評価される。
口が堅い 姉はうから安心して話せる。

屈託のない

謙虚 人の意見にうに耳を傾ける。
賢人 徳がない人はうとはよべない。
高潔 坂本龍馬はうの士だと思ふ。
豪傑 弁慶は史上有名なうだ。
好々爺 怖い社長も孫の前ではうだ。
孤高 周りに流されないうの人。
心優しい う兄が幼い弟をかわいがる。
才気煥発 話しぶりからうさが分かる。
爽やか うて、気持ちのよい青年だ。
しとやか 彼女は立ち居振る舞いがうだ。
社交的 うな母は人と話すのが趣味だ。
淑女 古風といえるほどのう。
殊勝 手伝いが大好きといううな子。
純朴 うて親切な、近所のお兄さん。
上品 お花の先生のうさを見習う。
思慮深い う人は軽々しく騒ぎ立てない。
紳士 落ち着いた物腰のりっぱなう。
辛抱強い 選手の間を待つう監督。
誠実 丁寧な手紙からうさが伝わる。
清廉潔白 うな生き方に共感する。
先駆者 時代のうたらんと奮起する。
先賢 古代のうに多くを学ぶ。

造詣が深い

第一人者 先生はオオカミ信仰にう。
大家 イルカ研究のうに話を聞く。
大器 画壇のうとして誰もが認める。
タフ 昔は未完のうと評された選手。
通 試合に出続けるうな選手。
慎重深い 母は芝居に關してはうだ。
天真爛漫 決して自慢をしないう人。
篤志家 決して自慢をしないう人。
情け深い 多額の寄付をしているう。
博識 うからと彼に甘えてはだめだ。
腹の据わった 知らぬことはいないうだ。
ひょうきん 彼は気弱そうに見えてう人だ。
品行方正 一見もの静かだが実はうな人。
懐が深い うな彼が生徒会長に適任だ。
骨のある 反対意見も受け入れるう人。
無垢 う人は最後までやり遂げる。
虫も殺さない 子供のうなうな心を持つ。
名手 兄はうのような優しい性格だ。
明朗闊達 叔父は尺八のうだ。
礼儀正しい うて誰からも好かれる人柄。
悪い特徴を表すことが多い言葉 後輩にも敬語を使うう人。

あさましい

厚かましい 利益を求めるだけの人はう。
威圧的 許可なく食べるとはう人だ。
意地汚い 上司がうだと部下は萎縮する。
意志薄弱 一円でも得をしたいとはう。
陰気 兄はうでうで誘惑に負ける。
横柄 無口だとうに見られがちだ。
おせっかい 新人なのに敬語も使わずうだ。
大人げない 何にでも口を出すうな人。
口が軽い 些細なことでも怒るう人。
口が減らない う人なので話すのに気を使う。
軽薄 うのて彼には秘密は話せない。
高圧的 妹はうのでよく口論となる。
厚顔無恥 うな人は結局信頼されない。
業突く張り あの人には目下に対してはうだ。
腰巾着 うあまりにうな客に立腹する。
事なかれ主義 うて少しも損をしたがらない。
斜に構える 彼は生徒会長長のうだ。
性悪 私の上司はうて摩擦を避ける。
ずぼら 誰に對しても、素直でない人。
怠惰 わざと怒らせるとはうだ。
高飛車 姉はうていつも時間に遅れる。
飽きっぽい 家で全く勉強しないうな人。
うな態度で断られた。

つんけん	うたぐり深い
てくのぼう	うたぐり深い
鉄面皮	うたぐり深い
鈍感	うたぐり深い
泣き虫	うたぐり深い
猫をかぶる	うたぐり深い
恥知らず	うたぐり深い
ひきょう	うたぐり深い
非常識	うたぐり深い
引つ込み思案	うたぐり深い
無愛想	うたぐり深い
無粋	うたぐり深い
不誠実	うたぐり深い
ふてぶてしい	うたぐり深い
ぶりっ子	うたぐり深い
偏屈	うたぐり深い
傍若無人	うたぐり深い
間抜け	うたぐり深い
みえっぱり	うたぐり深い
身勝手	うたぐり深い
三日坊主	うたぐり深い
無節操	うたぐり深い
無鉄砲	うたぐり深い
ものぐさ	うたぐり深い
優柔不断	うたぐり深い
欲張り	うたぐり深い
礼儀知らず	うたぐり深い
冷淡	うたぐり深い
その他	うたぐり深い
あけつっぽろげ	うたぐり深い

うたぐり深い	うたぐり深い
内気	うたぐり深い
奥手	うたぐり深い
押しが強い	うたぐり深い
おっとり	うたぐり深い
おとなしい	うたぐり深い
おませ	うたぐり深い
我が強い	うたぐり深い
駆け出し	うたぐり深い
寡黙	うたぐり深い
頑固	うたぐり深い
肝が太い	うたぐり深い
口が達者	うたぐり深い
口下手	うたぐり深い
潔癖	うたぐり深い
厳格	うたぐり深い
腰が低い	うたぐり深い
子煩悩	うたぐり深い
地獄耳	うたぐり深い
したたか	うたぐり深い
シャイ	うたぐり深い
ストイック	うたぐり深い
早熟	うたぐり深い
血の氣が多い	うたぐり深い
照れ屋	うたぐり深い
貪欲	うたぐり深い
ナイーブ	うたぐり深い
内向的	うたぐり深い
涙もろい	うたぐり深い
晩成	うたぐり深い
風来坊	うたぐり深い

筆不精	うたぐり深い
筆まめ	うたぐり深い
ペテラン	うたぐり深い
井が立つ	うたぐり深い
凡人	うたぐり深い
真面目	うたぐり深い
無口	うたぐり深い
無邪気	うたぐり深い
もの静か	うたぐり深い
律儀	うたぐり深い
若手	うたぐり深い
名詞	うたぐり深い
アキレス腱	うたぐり深い
足がかり	うたぐり深い
足踏み	うたぐり深い
暗雲	うたぐり深い
糸口	うたぐり深い
上塗り	うたぐり深い
遅咲き	うたぐり深い
温床	うたぐり深い
開花	うたぐり深い
風当たり	うたぐり深い
空振り	うたぐり深い
教科書	うたぐり深い
雲行き	うたぐり深い
視野	うたぐり深い
斜陽	うたぐり深い
終止符	うたぐり深い
縮図	うたぐり深い

潤滑油	うたぐり深い
処方箋	うたぐり深い
隙間風	うたぐり深い
裾野	うたぐり深い
スパイス	うたぐり深い
脱帽	うたぐり深い
網渡り	うたぐり深い
峠	うたぐり深い
等身大	うたぐり深い
特効薬	うたぐり深い
隣り合わせ	うたぐり深い
土俵際	うたぐり深い
扉	うたぐり深い
難産	うたぐり深い
背景	うたぐり深い
白銀	うたぐり深い
風化	うたぐり深い
萌芽	うたぐり深い
骨抜き	うたぐり深い
摩擦	うたぐり深い
満身創痍	うたぐり深い
見切り発車	うたぐり深い
道筋	うたぐり深い
脈	うたぐり深い
免疫	うたぐり深い
雪解け	うたぐり深い
羅針盤	うたぐり深い
枠組み	うたぐり深い
動詞	うたぐり深い
仰ぐ	うたぐり深い

たまさか	この地では、雪が降る。
ちよくちよく	ゝ家事の手伝いをする。
ときおり	ゝ友人が遊びにやってくる。
ときたま	ゝ白い猫が家の前を通る。
ときとして	冬だが、暖かい日もある。
ときには	真面目な彼も、冗談を言う。
二度三度	彼の家を訪ねたこともゝある。
まま	父が料理することゝもある。
空前絶後	ゝの大ヒットになる。
千載一遇	ゝのビジネスチャンスを得る。
全然	父は納豆をゝ食べない。
前代未聞	こんな不祥事はゝだ。
ほとんど	姉が遅刻することはゝない。
まず	母が寝過ぐすことはゝない。
全く	彼が学校を休むことはゝない。
周期的	春にはゝに気温が変わる。
定期的	ゝに検査が行われる。
定例	今日はゝの会議が開かれる。
毎週	父はゝジムに通っている。
毎月	委員会がゝ開かれる。
毎度	彼はゝラーメンを注文する。
毎年	ゝ正月には親戚が集まる。
毎日	犬の散歩をゝ行う。
喜怒哀楽を表す言葉	
喜ぶ	
足取りも軽く	欲しい服を買い、ゝ帰宅する。
浮かれる	先生に褒められてゝ。
元々	予定どおり進み、ゝ。

↓ 170 ページ

悦楽 えつらく	好物を食べ、の表情になる。
快哉 かいざい を叫ぶ	試合で勝って思わず。
会心の笑み	うれしくなり、を漏らす。
嬉々 きき として	うわき話を話す。
喜色満面	よい結果が出て、彼はうだ。
狂喜乱舞	メダル獲得に皆うしている。
欣喜雀躍	合格の知らせが届くする。
声が弾む	遠足の朝、子供たちの。
小躍りする	彼はうど喜んだ。
ご満悦	全とうまくいっての体だ。
したり顔	妹はうて成績表を見せた。
ぬか喜び	彼女の勘違いのせいでした。
はしゃぐ	子供たちの声が聞こえる。
万々歳	優勝し、記録も更新し、うだ。
ほくほく顔	好調な売れ行きになる。
舞い上がる	有名人に話しかけられて。
怒る	いいかげんな態度に。
青筋を立てる	反省もせず、親に。
悪態をつく	むしやくしゃして周囲に。
当たり散らす	正義感の強い彼は不正に。
憤る	彼女は彼を許さない。
息巻く	一方的な決定に。
いきり立つ	生徒のふざけた態度に。
色をなす	口論の後、彼はすっかりうだ。
お冠	心ない言葉に。
顔がこわばる	不真面目な態度に。
かちんこくる	彼は失敗するとうを起こす。
かんしゃく	うまく事が運ばず、。
気が立つ	身勝手な人にうを覚える。
義憤	

口をとがらす	何気ない言葉に反応して。
激昂	ひどい仕打ちにうする。
気色ばむ	気に入らない意見に。
血相 けつさう を変える	いわれのないうわき話に。
剣幕	母がすごいやってきた。
業を煮やす	審議が進まないことに。
舌打ち	不満を隠しめずうする。
怒気	うをはらんだ顔つきでにらむ。
怒号	会議の場てうが飛び交う。
怒鳴りつける	危ない遊びをしている子を。
怒髪天をつく	理不尽な扱いを受けて。
なじる	小さなミスをしつこく。
煮えくり返る	親友のうそにはうわたが。
罵る	口げんかになりお互いを。
腹立たしい	三度も約束を破るとは。
膨れつ面	怒られた子供がうをする。
仏頂面	文句を言われてうになる。
ふて腐れる	と、妹は返事もしない。
憤激	対戦相手のやり方にうする。
憤然	否決されてうとして席を立つ。
憤怒	父はうの形相で説教した。
へそを曲げる	つまらないことでうにう。
むきになる	負けず嫌いな弟はすぐ。
八つ当たり	失敗した腹いせにうする。
立腹	失礼な質問にうする。
悲しむ・哀れむ・泣く	
うなだれる	あまりにきつく叱られて。
うるうるする	感動のあまり目が。
おえつ	愛人の死にうを漏らす。
感涙	美しい景色に思わずうする。

悔し泣き	試合で負けてうする。
号泣	周りを気にせずうする。
込み上げる	ラストシーンで涙が。
忍び泣く	告別式では姿が多くあった。
しょげる	弟は叱られるとすぐに。
すすり泣く	隣の部屋からうがする。
袖を絞る	悲しみに夜な夜なう。
嘆息	不運が続く、うを漏らす。
慟哭	人目とはばからずうする。
泣き崩れる	悲しい知らせを受けて。
泣きぬれる	演奏のあまりの美しさに。
泣きはらす	一晩中泣いてまぶたをう。
泣きわめく	子供がだだをこねて。
涙がにじむ	悔しくて目に。
涙に暮れる	別れがつらくて。
涙も枯れる	うくらい彼女は泣き続けた。
頬をぬらす	感動のあまり涙で。
枕をぬらす	失恋てう日々が続く。
むせび泣く	卒業式で生徒たちが。
目が潤む	すばらしい映画を見て。
目を赤くする	高校野球の試合に感動して。
もらい泣き	彼女の涙にうしてしまった。
落涙	悲しくてただうしてしまふ。
涙腺が緩む	心温まる話を聞いて。
楽しむ・笑う	
愛想笑い	人の機嫌を気にしてうする。
あざ笑う	人の失敗をうのはよくない。
一笑に付す	的外れな意見に。
薄笑い	彼は意味ありげなうをした。
えびす顔	祝勝会が皆うだ。

笑みをこぼす	旧友に会い、思わず。
大笑い	落語を聞いてうする。
顔がほころぶ	かわいい子犬を見て。
片腹痛い	努力せずに夢を語るとは。
苦笑	弟の無理な学習計画にうする。
失笑	場違いな発言でうを買う。
忍び笑い	思わずうを漏らす。
スマイル	彼女は誰に對してもうを返す。
せせら笑う	陰て人の失敗をうとはひどい。
高笑い	彼の朗らかなうが響く。
嘲笑	他人の失敗をうする。
作り笑い	うてその場を取り繕う。
照れ笑い	褒められてうを浮かべる。
泣き笑い	その話を聞いて彼はうした。
苦笑い	ミス指摘されてうする。
にんまり	狙いどおりの結果にうする。
破顔一笑	うれしい知らせにうする。
鼻で笑う	たいした敵ではない。
腹を抱える	その話はうどおもしろい。
微苦笑	反応に困ってうを浮かべる。
微笑	謎めいたうを浮かべる。
吹き出す	おかしくて、つい。
含み笑い	気の利いた話にうする。
不敵に笑う	自信家の彼はいつも。
抱腹絶倒	おかしい失敗談にうする。
頬が緩む	プレゼントを開けて思わず。
ほくそ笑む	うまくいったとひそかに。
ほほ笑む	子供の元気な姿を見て。
目を細くする	生徒たちの満足の表情に。
やに下がる	人におだてられて。
冷笑	下品な振る舞いをうする。

学習用語一覧

*この教科書に出てくる、学びたい用語の一覧。数字は、用語が出てくる主なページ。

話すこと・聞くこと/
書くこと・読むこと/
学びの扉・学びを支える
言葉の力

相手・聞き手・読み手	67, 108, 194
後付け	147, 304
アンケート	75, 303
言い換え	69, 234
意見(文)	99
一般化	91
依頼状	146
インタビュー	75, 302
引用	75
思い	36, 52
お礼状	147
会話文	194, 207, 253
書きだし	194
隠れた前提	200, 246
考え	56, 74, 96
擬音語・擬態語	207
客観	56
句切れ	25
具体例	69, 234
結論	96, 98, 242
原稿用紙	306
広告カード	286
考察	74
構成	67, 74, 103, 108
行動・態度	36, 169, 207
言葉(選び方)	27, 192, 194
根拠	56, 96, 98, 101, 242
座標軸法	300
参考資料	74
司会者	199
事実	56, 74, 192
視点	205
修正提案	200
主観	56
樹形図	300
主人公	205
主張	101, 103
主文	147, 304
順序	192, 194, 251
情景	25, 169, 206
情景描写	206, 253
情報	73, 194, 251
資料・機器	109
心情	25, 36, 207
人物像	169, 171, 205, 248
人物描写	207, 253

新聞記事	191
心理描写	207, 253
推敲	146, 194, 306
随筆	36, 118, 127
数値	56, 108, 109
説得力	98, 108, 243
前文	147, 304
想像を誘う	202, 251
ダブルイメージマップ	301
短歌	25, 26, 203
調査結果	74
調査方法	74
提案理由	107, 108
定型(詩)	25, 26
提示(問いや話題の)	67
データ	200
テーマ	70, 72, 74, 198, 239
手紙	146, 304
デメリット	198, 200
展開	169
問い	67, 72
登場人物	36, 169, 205
読書会	287
独断的	196, 245
ナンバリング	75, 103
場面	169, 203, 207
反対の主張	102
反例	92, 96, 102
反論	100, 102, 196, 245
比較	72, 93
表現技法	25, 207
表現の仕方	169, 202, 251
描写	169, 194, 202, 207
プレゼンテーション	105
文末表現	194
補足	69, 234
末文	147, 304
まとめ	67, 74
まとめ	67, 103
水かけ論	196, 245
見出し・小見出し	75, 194
メール	305
メモ	55, 287
メリット	198, 200
目的	67, 194
要約	67, 69, 234
四分割表	301
リンクマップ	197
レポート	71
論証	96, 98, 242
論の進め方	96

話題	67
----	----

古典

歌舞伎	297
係りの助詞	126
係り結び	126
語り物	141
漢詩	142
起承転結	145
狂言	296
軍記物語	128
五言絶句	145
五言律詩	145
古典芸能	296
七言絶句	145
七言律詩	145
浄瑠璃	297
随筆	118
絶句	145
能	296
平曲	128
律詩	145

言葉(日本語探検/
文法の窓・文法解説/
漢字道場/広がる言葉)

音便	259, 260
書き言葉	148
力行変格活用	259
格助詞	262, 269
活用	77, 255, 258
活用形	258
活用語尾	258
活用の種類	259
仮定形	258
可能動詞	260
上一段活用	259
感動詞	255
喜怒哀楽を表す言葉	170, 309
共通語	28
敬語	30, 256
形容詞	255, 260, 268
形容動詞	255, 261, 268
謙譲語	256
語幹	258
五段活用	259
言葉の単位	254
サ行変格活用	259
自動詞	260
下一段活用	259
終止形	258
修飾語・修飾部	254

修飾・被修飾の関係	254
終助詞	263, 269
主語・主部	254
主・述の関係	254
述語・述部	254
助詞	111, 255, 262, 269
助動詞	150, 255, 264, 270
自立語	255
人物像を表す言葉	53, 307
接続語・接続部	254
接続詞	255
接続助詞	262, 269
接続の関係	254
接頭語・接尾語	256, 257
尊敬語	256
対義語	173
体言	113, 255
他動詞	260
単語	254
段落	254
丁寧語	257
丁寧語	256
同音異義語	210
同訓異字	112
動詞	77, 255, 259, 268
独立語・独立部	254
話し言葉	148
美化語	257
比喩的に使われる言葉	68, 308
頻度を表す言葉	97, 309
副詞	255
副助詞	263, 269
付属語	255
文	254
文章	254
文節	254
文の成分	254
並立の関係	254
方言	28
補助の関係	254
未然形	258
名詞	255
命令形	258
用言	77, 112, 255, 258, 268
類義語	172
連体形	258
連体詞	255
連体修飾語	255
連文節	254
連用形	258
連用修飾語	255

新出漢字一覧

●この表は、新出漢字を提出順に配列したものである。漢字の上の数字は、本文での提出ページを示す。
●複数の書き方がある場合、(一)を用いて二通りの字形を示す。どちらで書いてもよい。ただし、「遜」は、(一)の中の字形で書くのが普通であり、画数・筆順も(一)の中の字形のものを示す。
●部首・画数・筆順・各音訓についての用例が示してある。本文で学んだときにまとめて学習しよう。
(この部首の漢字かは辞典によって違うことがある。また、用例は本文のものと違うことがある。)
「記号の意味」 付Ⅱ「常用漢字表」の「付表」の語

メッセージをどう聞くか

18 郊 コウ

郊外に住む
近郊農業

9画 [下] 郊 郊 郊 郊 郊 郊

朽 キュウ
くちる
不朽の名作
老朽家屋
土台が朽ちる

6画 [木] 朽 朽 朽 朽 朽 朽

16画 [土] 壁 壁 壁 壁 壁 壁
ヘキ
かべ
岸壁 絶壁 壁面
間税障壁
鉄壁の守り
壁紙 土壁

替 タイ
かえる
かわる
代替 交替
建て替える 両替
司会が替わる
付為替(かわせ)

12画 [日] 替 替 替 替 替 替

6画 [白] 白 白 白 白 白 白
キユウ
うす
白歯
脱白(だつぱう)
石白

13画 [隔] 隔 隔 隔 隔 隔 隔
カク
へだてる
間隔 遠隔操作
間を隔てる
陸から隔たる
へだたる

12画 [奥] 奥 奥 奥 奥 奥 奥
おく
おく
山奥 奥地
心の奥底 奥歯
奥の手を出す
奥行き

19 壊 カイ
こわす
こわれる
破壊 全壊
壊滅(かいめつ)
物を壊す
機械が壊れる

16画 [土] 壊 壊 壊 壊 壊 壊

20 澄 すむ
すます
水が澄む
澄みきった空気
澄を澄ます
耳を澄ます

15画 [水] 澄 澄 澄 澄 澄 澄

16画 [凝] 凝 凝 凝 凝 凝 凝
ギョウ
こらす
凝固 凝縮 凝集
料理に凝る
工夫(くふう)を凝らす
目を凝らす

23 翼 ヨク
つばさ
両翼 主翼
小心翼々 最右翼
一翼を担(に)ぐ
翼 飛行機の翼

短歌を楽しむ

21 鑑 カン
名画を鑑賞する
図鑑
印鑑
美術品の鑑定

23画 [金] 鑑 鑑 鑑 鑑 鑑 鑑

8画 [山] 岡 岡 岡 岡 岡 岡
おか
岡山県
静岡県
福岡県

22 滑 カツ
コツ
なめらか
円滑 滑走路
滑稽(こけい)
足が滑る
滑らかな表面

13画 [水] 滑 滑 滑 滑 滑 滑

32 娘 むすめ
孫娘
一人娘

10画 [女] 娘 娘 娘 娘 娘 娘

方言と共通語

28 疲 ヒ
つかれる
疲労 疲弊(ひへい)
体が疲れる
気疲れ
疲れた服

10画 [疒] 疲 疲 疲 疲 疲 疲

29 頻 ヒン
使用頻度
入試頻出問題
事件が頻発する
頻繁(ひんぱん)

17画 [頁] 頻 頻 頻 頻 頻 頻

7画 [辛] 辛 辛 辛 辛 辛 辛
シン
からい
辛勝 辛苦
辛抱(しんぼう)
辛酸をなめる
辛み 塩辛い

字のない葉書

32 娘 むすめ

10画 [女] 娘 娘 娘 娘 娘 娘

拳 ケン
こぶし
拳銃(けんじゅう)
拳法
拳骨(けんこつ)
握(にぎ)り拳

10画 [手] 拳 拳 拳 拳 拳 拳

33 威 イ
威力 威厳 威圧
威信に間わる
虎(こ)の威を借る
きつね

9画 [女] 威 威 威 威 威 威

12画 [足] 疎 ソ
疎遠 疎開 過疎
疎外
疎の別なく
空疎な話

313

43 俺 おれ 俺たち

10画 人 俺 俺 俺 俺 俺 俺 俺

45 悔 カイ 後悔 前非を悔いる 過去を悔やむ 悔しい敗戦

9画 心 悔 悔 悔 悔 悔 悔 悔

尽 ジン 尽力 縦横無尽 全力を尽くす 社会のために尽くす 思いを言い尽くす 力が尽きる 興味は尽きない 愛想(あいさ)を尽かす

6画 尸 尽 尽 尽 尽 尽 尽 尽

惜 セギ 惜敗 愛惜 惜別 おいしい 口惜しい 時間が惜しい 労を惜しむ

11画 心 惜 惜 惜 惜 惜 惜 惜

緩 カン 規制緩和 緩急 蓋(ふた)が緩い 規則が緩い 緩い球 緩やかな坂 気が緩む 寒さが緩む ねじを緩める 基準を緩める

15画 糸 緩 緩 緩 緩 緩 緩 緩

16画 頁 頰 頰 頰 頰 頰 頰 頰

46 暇 カ 休暇 余暇 休暇を惜(お)しむ 暇な時間 暇つぶし

13画 目 暇 暇 暇 暇 暇 暇 暇

47 怖 フ 恐怖 怖い話 後が怖い 怖いもの 知らない 怖 怖 怖 怖 怖 怖 怖

8画 心 怖 怖 怖 怖 怖 怖 怖

15画 人 儀 儀 儀 儀 儀 儀 儀

48 儀 ギ 礼儀 儀式 親しき仲にも礼儀あり 地球儀 威儀(いぎ)を正す

11画 手 据 据 据 据 据 据 据

18画 頁 顎 顎 顎 顎 顎 顎 顎

11画 手 掲 掲 掲 掲 掲 掲 掲

ケイ 掲示 掲載(けいさい) 掲揚(けいよう) 旗を掲げる

53 摯 シ 真摯

15画 手 摯 摯 摯 摯 摯 摯 摯

13画 人 傲 傲 傲 傲 傲 傲 傲

嫉 シツ 嫉妬(しつど) 嫉妬心

13画 女 嫉 嫉 嫉 嫉 嫉 嫉 嫉

10画 心 惱 惱 惱 惱 惱 惱 惱

10画 心 悦 エツ 悦楽 愉悅(ゆえつ) 満悦 悦(えつ)に入る

16画 心 憾 カン 遺憾の意を表する

9画 心 怨 オン 怨念 怨霊(おんりょう)

10画 心 怨 怨 怨 怨 怨 怨 怨

10画 人 俸 ホウ 俸給 俸 俸 俸 俸 俸 俸 俸

13画 心 慄 リツ 慄然 戦慄

15画 心 慄 慄 慄 慄 慄 慄 慄

15画 心 慄 ショウ 慄慄(しょうけい) 慄れ(しょうけい) 慄れの地

15画 心 慄 ケイ 慄慄(しょうけい)

15画 心 慄 ケイ 慄慄(しょうけい)

形の似た漢字

57 侮 フ 侮辱(ぶじやく) 輕侮

8画 人 侮 侮 侮 侮 侮 侮 侮

10画 人 俸 俸 俸 俸 俸 俸 俸

10画 人 俸 俸 俸 俸 俸 俸 俸

10画 人 准 ジュン 条約を批准する 准看護師 准教授

13画 大 奨 ショウ 推奨 読書を奨励(しょうれい)する 奨学金

11画 水 涉 ショウ 交渉 他人に干渉する 渉外係

11画 水 涉 ショウ 渉 渉 渉 渉 渉 渉 渉

10画 手 抄 チョウ 進捗 進捗状況(じようききょう)

14画 竹 箒 ボ 簿記 名簿 家計簿 帳簿

10画 手 抄 チョウ 進捗 進捗状況(じようききょう)

14画 竹 箒 ボ 簿記 名簿 家計簿 帳簿

12画 言 詠 エイ 朗詠 詠嘆(えいたん)の声

10画 刀 劑 ザイ 薬剤師 錠剤(じようざい) 洗剤 栄養剤

10画 刀 劑 ザイ 薬剤師 錠剤(じようざい) 洗剤 栄養剤

10画 刀 劑 ザイ 薬剤師 錠剤(じようざい) 洗剤 栄養剤

315

瀬

せ
瀬
瀬
瀬
瀬
瀬
瀬
(きむ)に立つ
立つ瀬がない
瀬戸物
瀬戸際
浅瀬
早瀬

11画
舟

舶

ハク

舶来 船舶

是
ゼ

是認（せんにん）
是非 是正
是々非々の立場をとる

画[日] 口 足 是 早 是 是 是 是

廉
レン
廉壳
清廉潔白
廉価
低廉

拘

コウ
ウ

拘束時間
拘留所 拘留
点数に拘泥(こうてい)する

8画 [手] 拘 拘 拘 拘 拘 拘 拘 拘

小さな労働者

80

缶

カン
缶詰(かんづめ)
空き缶

6画

缶 缶 缶 缶 缶 缶 缶

11画

殻

カク
から
地殻
卵殻(らんかく)
甲殻(こうかく)類
貝殻

11画

殻 殻 殻 殻 殻 殻 殻

10画

凍

トウ
こおる
冷凍 凍傷 凍結
水が凍る
凍りつく
手が凍える
こごえる

10画

凍 凍 凍 凍 凍 凍 凍

15画

撮

サツ
とる
撮影(さつえい)
空撮
写真を撮る

15画

撮 撮 撮 撮 撮 撮 撮

81

雇

コ
やとう
雇用
社員を雇う

12画

雇 雇 雇 雇 雇 雇 雇

5画

奴

ド
奴隷(どれい)
守銭奴

5画

奴 奴 奴 奴 奴 奴 奴

16画

隷

レイ
奴隷(どれい)
隷属

16画

隷 隷 隷 隷 隷 隷 隷

11画

慘

サン
悲惨な光景
大惨事 惨劇
事故の惨状
戦争の惨禍(さんか)

11画

慘 慘 慘 慘 慘 慘 慘

9画

侵

シン
おかす
侵入
侵略
他国を侵す

9画

侵 侵 侵 侵 侵 侵 侵

15画

潜

セン
ひそむ
潜水 潜在能力
潜伏(せんぷく)
森の中に潜む
海に潜る

15画

潜 潜 潜 潜 潜 潜 潜

10画

紡

ボウ
混紡
紡績工場

10画

紡 紡 紡 紡 紡 紡 紡

8画

枠

わく
枠窓
枠をはめる
枠組み
予算の枠内

8画

枠 枠 枠 枠 枠 枠 枠

7画

坑

コウ
炭坑
坑道
坑内

7画

坑 坑 坑 坑 坑 坑 坑

17画

齢

レイ
年齢
高年齢
樹齢
馬齢を重ねる

17画

齢 齢 齢 齢 齢 齢 齢

14画

摘

テキ
つまむ
指摘
摘発
摘要
花を摘む
茶摘み

14画

摘 摘 摘 摘 摘 摘 摘

11画

袋

ふくろ
紙袋 手袋 胃袋
袋小路
袋のねずみ
付足袋(たひ)

11画

袋 袋 袋 袋 袋 袋 袋

15画

踏

トウ
ふむ
雑踏 前人未踏
踏襲(とうしゅう)
土を踏む 値踏み
事実を踏まえる

15画

踏 踏 踏 踏 踏 踏 踏

13画

(僅)僅

キン
わずか
僅少
僅か三人
僅かばかり

13画

(僅)僅 (僅)僅 (僅)僅 (僅)僅 (僅)僅 (僅)僅 (僅)僅

6画

企

キ
くわだてる
企画
悪事を企てる

6画

企 企 企 企 企 企 企

9画

哀

アイ
あわれ
哀願
悲哀 哀切
哀れな話
小鳥を哀れむ

9画

哀 哀 哀 哀 哀 哀 哀

10画

秩

チツ
社会秩序
秩序を乱す

10画

秩 秩 秩 秩 秩 秩 秩

17画

瞳

ドウ
ひとみ
瞳孔(どうこう)
つぶらな瞳
瞳を凝(こ)らす

17画

瞳 瞳 瞳 瞳 瞳 瞳 瞳

哲学的思考のすすめ

90

哲

テツ
はじる
哲学
哲学者
哲人
先哲の教え

10画

哲 哲 哲 哲 哲 哲 哲

10画

恥

チ
はじる
厚顔(こうがん)無恥
行いを恥じる
恥をかく
赤恥
花も恥じらう
恥ずかしい思い

10画

恥 恥 恥 恥 恥 恥 恥

91

湧

ユウ
湧出
湧水
温泉が湧く
勇気が湧く

12画

湧 湧 湧 湧 湧 湧 湧

92

挑

チヨウ
いどむ
挑戦
挑発(てうはつ)にのる
記録に挑む

9画

挑 挑 挑 挑 挑 挑 挑

6画

劣

レツ
おとる
劣勢 劣悪
下劣 劣等感
優劣をつける
勢いが劣る

6画

劣 劣 劣 劣 劣 劣 劣

93

較

カク
比較の対象
比較対照する
比較的読みやすい
文章

13画

較 較 較 較 較 較 較

94

粧

シヨウ
化粧粧
化粧(けしょう)品
雪化粧

12画

粧 粧 粧 粧 粧 粧 粧

17画

鍵

ケン
かぎ
鍵盤(けんぱん)
白鍵
鍵穴
鍵を握(にぎ)る

17画

鍵 鍵 鍵 鍵 鍵 鍵 鍵

97

曾

ソウ
曾祖母
曾孫
未曾有(みぞう)

11画

曾 曾 曾 曾 曾 曾 曾

抽

チュウ

抽象的
抽選
毒物を抽出する

8画

抽 抽 抽 抽 抽 抽

遍

ヘン

普遍(ふへん)的
遍歴
通一遍

12画

遍 遍 遍 遍 遍 遍

殊

シュ

特殊 殊勝
三人寄れば文殊の
知恵(ちえ)
殊においしい
こと

10画

殊 殊 殊 殊 殊 殊

析

セキ

調査結果を分析す
る
解析

8画

析 析 析 析 析 析

踐

セン

実践を通して学ぶ
理論を実践に移す
実践的

13画

踐 踐 踐 踐 踐 踐

倣

ホウ

模倣
模倣犯

10画

倣 倣 倣 倣 倣 倣

瞭

リョウ

明瞭
一目瞭然

17画

瞭 瞭 瞭 瞭 瞭 瞭

曖

アイ

曖昧(あいまい)

17画

曖 曖 曖 曖 曖 曖

味

マイ

曖昧(あいまい)
読書三昧(さんまい)

9画

味 味 味 味 味 味

同訓異字

112

碁

ゴ

碁石
碁を打つ
碁盤(ごばん)
囲碁

13画

碁 碁 碁 碁 碁 碁

銃

ジュウ

銃声
銃を撃つ
小銃 銃身
猟銃(りやうじゆう)

14画

銃 銃 銃 銃 銃 銃

執

シツ

執筆 確執 執務
執念 執心 執着
筆を執る
指揮を執る

11画

執 執 執 執 執 執

患

カン

患部
患者
患患
内憂(ないゆう)外患

11画

患 患 患 患 患 患

診

シン

診察 打診
健康診断
病人を診る
脈を診る

12画

診 診 診 診 診 診

計

フ

計報

9画

計 計 計 計 計 計

併

ヘイ

併用 併記
あわせる
両者を併せて検討
する

8画

併 併 併 併 併 併

溪

ケイ

溪流
溪谷(けいこく)
雪溪

11画

溪 溪 溪 溪 溪 溪

搾

しぼる

牛の乳を搾る
油を搾る

13画

搾 搾 搾 搾 搾 搾

痕

コン

痕跡(こんせき)
血痕
傷痕
弾(たま)の痕

11画

痕 痕 痕 痕 痕 痕

冒

ボウ

冒険 小説の冒頭
危険を冒して出発
する
病に冒される

9画

冒 冒 冒 冒 冒 冒

諮

シ

諮問
はかる
委員会に諮る

16画

諮 諮 諮 諮 諮 諮

勸

カン

入会の勧誘(かんゆう)
勧善懲惡(かんぜんちやうあく)
勧告 勧業
入部を勧める

13画

勸 勸 勸 勸 勸 勸

薦

セン

推薦する
よい本を薦める
候補者として薦める

16画

薦 薦 薦 薦 薦 薦

卸

おろす

商品を卸す
そうは問屋が卸さ
ない
卸商

9画

卸 卸 卸 卸 卸 卸

唄

うた

小唄
長唄

10画

唄 唄 唄 唄 唄 唄

枕草子・徒然草

118

随

ズイ

随意 随筆
随時 随所
他の追随を許さな
い

12画

随 随 随 随 随 随

鎌

かま

鎌首
鎌倉時代
鎌を掛(か)ける

18画

鎌 鎌 鎌 鎌 鎌 鎌

紫

シ

紫紺(しこん)の優勝
旗
紫外線
紫外線
紫色 赤紫

12画

紫 紫 紫 紫 紫 紫

螢

ケイ

螢光灯
螢雪の功
螢
螢狩(が)り

11画

螢 螢 螢 螢 螢 螢

霜

しも

霜
霜柱
初霜

17画

霜 霜 霜 霜 霜 霜

趣

シュ

趣味 趣意書
趣向を凝(こ)らす
情趣に富む
趣のある庭

15画

趣 趣 趣 趣 趣 趣

嘆

タン

感嘆の声 嘆息
悲嘆に暮れる
不運を嘆く
なげかわしい事件

13画

嘆 嘆 嘆 嘆 嘆 嘆

謙

ケン

謙虚(けんきよ)な態度
謙讓(けんじやう)語
謙遜(けんそん)

17画

謙 謙 謙 謙 謙 謙

走れメロス

怪 カイ
怪獣(かいじゅう) 怪物
あやしむ 怪しい物音
怪談(きょうたん) 奇怪(きかい)
言動を怪(あ)しむ

拒 キョ
拒否
証言を拒む

吏 リ
吏員
官吏
警吏

眉 ミ
眉間
眉毛
眉をひそめる

孤 コ
孤独
孤高の人
孤軍奮闘(ふんとう)
孤立無援(むえん)

塊 カイ
金塊
水塊
土の塊
私欲の塊

塊 カイ
塊地
地塊
塊塊

乞 コウ
慈悲(じ)を乞う
命乞い
雨乞い

刑 ケイ
刑罰(けいばつ)
処刑
終身刑
刑事

召 ショウ
国会を召集する
召集令状
夕食を召しあがる
王城に召す

睡 スイ
睡眠(すいみん)
熟睡
一睡もしない

到 トウ
到着
到達
殺到
用意周到
好機到来

壇 ダン
壇上
壇演
祭壇
花壇
文壇

諾 ダク
参加の諾否を確かめる
承諾
快諾
許諾を得る

誓 セイ
誓約
選手宣誓
再会を誓う
心に誓う

誓 セイ
誓約
選手宣誓
再会を誓う
心に誓う

覆 フク
覆面
覆水盆(はん)に返らず
転覆
顔を覆う
目を覆う

吉 キチ
大吉
思い立ったが吉日
吉報
不吉
吉兆

豪 Gow
文豪
強豪
集中豪雨
豪快に笑う
豪勢な料理

宵 ヨイ
宵の口
宵宮
今宵(こんや)
宵闇(よいや)が迫る

醉 スイ
心酔
陶醉(とうずい)
麻酔(まいずい)
酒に酔う
船酔い

汜 ハン
氾濫(はんらん)
川が氾濫する
怪(あや)しい情報
が氾濫する

氾 ハン
氾濫(はんらん)
川が氾濫する
怪(あや)しい情報
が氾濫する

濫 ラン
濫用
濫発
濫獲(らんかく)

濁 ダク
濁流
濁音
濁点
清濁あわせのむ
川が濁る
言葉が濁す

桁 ケタ
二桁
橋桁
桁違(ちが)い
桁外れ

狂 キョウ
狂言
熱狂
狂喜乱舞(らんぶ)
時計が狂う
狂おしい思い

渦 ウズ
渦潮
渦巻き
興奮の渦

迅 ジン
迅速
迅速に行動する
奮迅
迅雷(じんらじ)

胴 ドウ
胴体
胴上げ
胴乱
胴震(ぶる)い

峠 トウゲ
峠道
寒さも峠を越(こ)した

峠 トウゲ
峠道
寒さも峠を越(こ)した

賊ゾク
盗賊(とうぞく)
山賊
海賊

斉 セイ
斉唱
一斉に走りだす

殴 なる
横殴りの雨
殴り倒(たお)す

殴 なる
横殴りの雨
殴り倒(たお)す

仰 ギョウ
信仰
空を仰ぐ
師と仰ぐ

萎 イ
萎縮
草花が萎える
氣持ちが萎える

芋 イモ
芋虫
芋掘(ほ)り
芋づる式
芋を洗うような混雑

卑 ヒ
卑屈(ひく)く
卑劣(ひれ)つ
卑近な例
卑下

卑 ヒ
卑屈(ひく)く
卑劣(ひれ)つ
卑近な例
卑下

歴史の物差し
——水月湖の年縞

致

致命的 極致
一致 滿場一致
合致 招致
いたす 思いを致す

10画 [至] 一致 致 致 致 致 致

膨

ボウ	
ふくらむ	膨大な資料
ふくれる	予算が膨張する
	つぼみが膨らむ
	腹が膨れる

肉

月

肝

肺

腎

腸

膀胱

膨

津

つ

津波
津々浦々（うらうら）
津軽

9画 [水]

津
津
津
津
津
津

「正しい」言葉は
信じられるか

堤

187

12画

[土]

つみ テイ

堤防
波堤
築く
切れる

9画 水

洪

コウ

洪水
洪積世

肯
コウ
首肯できる話
意見を肯定する
肯定的

188
衝
シヨウ
ウ
衝突(しょうとつ)
衝動的
衝撃(しょうげき)
意気衝天

[illegible]

7画 **人** 伴 伴 伴 伴 伴 伴 伴

ともなう

妹を伴う

同 伴
伴 奏
マラソンの伴走

伴

ハン
バン

9画 [木] 某

ボウ

市内某所
某月某日
某国
某氏

11画
車

軟

ナン

硬軟（こうなん）

軟化 軟式野球

やわらか

軟らかなご飯

やわらかい

軟らかい土

融

金融機関
融合
融解
融通が利(き)く
融和を図(はか)る

ユウ

190

戒

カイ

いましめる

戒めを守る

警戒を要する

戒律を守る

破戒 自戒

戒 戒 戒 戒 戒 戒 戒 戒 戒 戒

欺ギ あざむく 詐欺(ギギ) 友を欺く

同音異義語

18画
[米]
米 糧
米 糧
米 糧
米 糧
米 糧
米 糧

糧
リョウ
食糧
糧食

訂
テイ
改訂
訂正箇所(かしよ)

12画 [手]

掌

シヨウ
ウ

掌中の玉
合掌
車掌
掌握(しやうあく)

邦 ホウ

邦画 邦楽 本邦 邦人 連邦 異邦人

尉 イ 大尉

郭 カク
城郭
外郭団体
顔の輪郭
計画の輪郭

13画
[人] 債 債 債 債 債 債 債

負債 国債 債務

サイ

10画
示
祥
祥
祥
祥
祥
祥
祥

祥
ショウ
不祥事
発祥の地

概

ガイ

概略 概要
概念 概観
天気概況 (がいきよう)

享

キヨウ

享樂的な人
自由を享受する
權利を享有する
享年八十歳(さい)

8画
[上]
享
享
享
享
享
享
享

慈

慈悲
慈善事業
千天の慈雨
慈愛 慈母

13画
「心」

慈 慈 慈 慈 慈 慈 慈 慈 慈 慈

10画
肉

脅	キヨウ おどす	脅威(きょうい) 脅し文句 人を脅す
つ	おどかす	友人を脅かす
カ		
脅		
脅		
脅		
脅		

矯キョウ
齒並びを矯正する

17画
[矢]
ニ矯
矢矯
矯矯
矯矯
矯矯
矯矯

10画
人 儉 儉 儉 儉 儉 儉

儉
ケン

儉約
勤儉貯蓄(ちよちく)

10画 手

捜 捜査
ソウ
さがす
迷子を捜す

捜 捜索（そうさく）

囁

シヨク

周囲の人から将来を囁望される
委員を委囁される

覇

ハ

連覇
霸氣がある
霸権を握（にぎ）る
全国制覇

19回 [西] 覇 覇 覇 覇 覇 覇 覇 覇

措 ソ
措定
措置を講じる

逮

タイ

犯人を逮捕(たいほ)する

11画

フ

逮

逮

申

逮

逮

逮

逮

逮

新出音訓一覽

- この表は、二年の教科書に出てきた新出音訓（小学校で学んだ漢字の新しい読み）を、提出順に配列し、その用例を示したものである。
- 漢字の上の数字は、本文での提出ページを示す。
- 用例は、本文のものと異なることがある。

18	蔵	くら	蔵 蔵元
21	器	うつわ	器が大きい
23	対	ツイ	一対 対句
33	性	ショウ	根性 相性
37	川	セン	河川 川柳
45	笑	えむ	笑み
48	納	ナツ	納得
58	忘	ボウ	忘却 忘我
61	探	さぐる	真相を探る
65	技	わざ	技あり
78	盛	セイ	盛大 盛衰
79	背	そむく そむける	主君に背く 目を背ける
	相	ショウ	外相 首相
	暴	バク	暴露
80	提	さげる	ランプを提げる
81	辞	やめる	委員を辞める
83	試	ためす	力を試す
94	化	ケ	変化 化粧
112	討	うつ	討ち死に
	敵	かたき	敵を討つ
	後	おくれる	後れ毛
	体	テイ	体裁 風体
	調	ととのう	支度が調う
	何	カ	幾何学
113	究	きわめる	学問を究める
	断	たつ	鎖を断つ
120	度	タク	支度
122	宮	グウ	参宮 竜宮
128	戦	いくさ	負け戦
129	精	ショウ	精舎 精進
130	承	うけたまわる	ご意見を承る
137	紅	くれない	皆紅 紅の梅
	損	そこなう	健康を損なう
	面	おもて	面を上げる
152	装	ショウ	衣装 装束
153	質	シチ	人質 質屋
154	民	たみ	民 民草
157	訪	おとずれる	春の訪れ
159	守	もり	渡し守 子守
	誠	まこと	誠にうれしい
161	紅	ク	真紅
165	片	ヘン	断片 一片
176	黄	コウ	黄砂 黄河
179	並	ヘイ	並行 並列
180	費	ついやす	時間を費やす
	推	おす	最優秀作に推す
210	厚	コウ	厚生 厚意
216	役	エキ	役務 使役
217	謝	あやまる	平謝り
218	早	サツ	早速
220	神	かん	神主

◆ 常用漢字表

案 アン	安 ヤン	嵐 アラシ	宛 アデル	扱 アツカウ	圧 アツ	握 アク にぎる	悪 アク わるい	暖 アイ	愛 アイ	挨 アイ	哀 アイ あわれむ	亜 ア	あ
210	3	3	3	33	1	1	97	1	83	79			
尉 イ	胃 イ	畏 オイ おそれる	為 イ	威 イ	委 イ ゆだねる	依 イ (イ)	医 イ かこむ	圉 イ くら	位 イ ころも	衣 イ ころも	以 イ	い	暗 アン くら
域 イキ	緯 イ	遺 イ こ	慰 イ なぐさめる	維 イ	違 イ ちがえる	意 イ	(彙) 彙 イ	椅 イ	偉 イ えらい	萎 イ なえる	移 イ うつす	異 イ こと	
員 イン	姻 イン	咽 イン (イン)	因 イン しるし	印 イン	引 イン ひける	芋 イモ	(茨) 茨 イ いばら	逸 イツ	壺 イチ	一 イチ ひとつ	育 イク そだつ はぐくむ		
3	113						3	1	66	3			
鬱 ウツ	唄 ウタ	雨 アメ あめ	羽 ウ はね	宇 ウ	右 ミダリ ユウ	う	韻 イン かくな	隠 イン かくす	飲 イン のむ	陰 イン かげる	(淫) 淫 イン (みだら)	院 イン	
1	57												
影 エイ かげ	詠 エイ (エ)	営 エイ いとなむ	栄 エイ (はえ)	映 エイ うつる	英 エイ	泳 エイ およぐ	永 エイ ながい	え	雲 ウン くも	運 ウン はこぶ	浦 ウラ	畝 ウネ	
延 エン のべる	円 エン まるい	関 エン	謁 エン	越 エツ こえる	悦 エツ	駅 エキ	液 エキ	益 エキ (ヤク)	疫 エキ (ヤク)	易 エキ やさしい	衛 エイ	鋭 エイ するどい	
演 エン	塩 エン しお	鉛 エン なまり	遠 エン とおい	猿 エン さる	煙 エン けむり	園 エン その	援 エン	媛 エン	宴 エン	怨 オン (エン)	炎 エン ほのお	浴 エン そく	
3	34	1	1	1	1	39	3	152	53	1			
欧 オウ	旺 オウ	押 オウ おさえる	往 オウ	応 オウ こたえる	央 オウ	凹 オウ	王 オウ	汚 オウ (けがす) きたない	お	艶 オン つや	縁 エン ふち	緑 オウ なぐる	
113	43	1	3	1	1	21	18	3					
卸 オロシ	俺 オレ	乙 オツ	虞 オク おそれ	臆 オク	憶 オク	億 オク	屋 ヤク や	岡 コウ おか	横 ヨウ よこ	奥 オウ (オク)	翁 オウ	桜 オウ さくら	殴 オウ なぐる

常用漢字表

- この表は、「常用漢字表」(平成二十二年内閣告示)を、五十音順に配列したものである。
- 漢字の上の数字(13以外)は、二年の教科書のそのページで学習することを示す。
- 13は、それぞれ一年、三年の教科書で学習することを示す。
- は小学校六年で学んだ漢字を示す。何も付いていない漢字は小学校一〜五年で学んだ漢字である。
- 複数の書き方が通用している漢字については、(一)を用いて二通りの字形を示す。どちらの字形で書いてもよい。ただし、「邇」「遜」「謎」は、(一)の中の字形で書くのが普通である。
- 漢字の下に片仮名は音、平仮名は訓(太字は送り仮名)を示す。
- は小学校で学んだ漢字の中学校で学習する音訓を示す。
- (一)は小、中学校では学習しなくてもよい音訓を示す。
- は、特別な音訓、用法のごく狭い音訓を示す。

「本教科書の新出漢字数」
 一年 三百七十七字
 二年 三百七十五字
 三年 三百七十八字(うち九十四字は資料編のみの提出)

吸 すう キョウ	休 やすむ キョウ	旧 きゅう キョウ	丘 おか キョウ	弓 ゆみ キョウ	及 およぶ キョウ	久 ひさしい キョウ	九 このつ キョウ	虐 ギヤク キョウ	逆 さか キョウ	脚 あし キョウ	客 キヤク キョウ	却 キヤク キョウ	詰 つめる キョウ	喫 キツ キョウ	吉 キツ キョウ	菊 キク キョウ	議 ギ キョウ	犧 ギ キョウ	擬 ギ キョウ	戲 たわぶれる キョウ	儀 ギ キョウ		
168 許 ゆるす キョウ	虚 あがる キョウ	拳 こぶ キョウ	挾 こぶ キョウ	拒 こぼ キョウ	居 いる キョウ	巨 キョウ キョウ	去 さる キョウ	牛 うし キョウ	窮 きゆう キョウ	嗅 かぐ キョウ	給 キョウ キョウ	球 たま キョウ	救 すく キョウ	宮 みや キョウ	糾 きう キョウ	級 キョウ キョウ	急 いそ キョウ	泣 なく キョウ	究 きゆう キョウ	求 もと キョウ	白 くしろ キョウ	朽 くち キョウ	
強 つよめる キョウ	脅 おどかす キョウ	胸 むね キョウ	恭 こう キョウ	恐 おそ キョウ	狭 せまい キョウ	挟 はさ キョウ	峡 キョウ キョウ	沉 しず キョウ	協 キョウ キョウ	供 とも キョウ	享 キョウ キョウ	京 キョウ キョウ	狂 くる キョウ	叫 きけ キョウ	共 とも キョウ	凶 リョウ キョウ	漁 リョウ キョウ	御 おん キョウ	魚 うお キョウ	距 キョウ キョウ			
金 かね キョウ	近 ちか キョウ	均 キン キョウ	斤 キン キョウ	巾 キン キョウ	玉 たま キョウ	極 きよく キョウ	局 キョク キョウ	曲 まがる キョウ	凝 こる キョウ	業 わざ キョウ	曉 あかつ キョウ	仰 おほ キョウ	驚 おどろ キョウ	響 ひび キョウ	競 きよう キョウ	鏡 かがみ キョウ	矯 たの キョウ	橋 はし キョウ	境 さかい キョウ	郷 ごう キョウ	教 おし キョウ		
空 あかる キョウ	愚 おろ キョウ	惧 グ キョウ	惧 グ キョウ	具 グ キョウ	驅 か キョウ	苦 くる キョウ	句 く キョウ	区 ク キョウ	銀 ギン キョウ	吟 ギン キョウ	襟 エリ キョウ	謹 キン キョウ	錦 キン キョウ	緊 キン キョウ	禁 キン キョウ	(僅) ワザ キョウ	僅 ワザ キョウ	筋 スジ キョウ	琴 コン キョウ	勤 キン キョウ	菌 キン キョウ		
係 か キョウ	茎 ケイ キョウ	径 ケイ キョウ	系 ケイ キョウ	形 カタ キョウ	刑 ケイ キョウ	兄 ケイ キョウ	け ケイ キョウ	群 グン キョウ	郡 グン キョウ	軍 グン キョウ	薰 カウ キョウ	勲 クン キョウ	訓 クン キョウ	君 クミ キョウ	繰 くる キョウ	熊 クマ キョウ	窟 クツ キョウ	掘 ほ キョウ	屈 クツ キョウ	串 クシ キョウ	隅 すみ キョウ	遇 グウ キョウ	偶 グウ キョウ
鷄 ケイ キョウ	警 ケイ キョウ	鷄 ケイ キョウ	鷄 ケイ キョウ	鷄 ケイ キョウ	鷄 ケイ キョウ	鷄 ケイ キョウ	繼 ツグ キョウ	携 タズ キョウ	傾 カタ キョウ	輕 かる キョウ	景 ケイ キョウ	敬 うや キョウ	螢 ケイ キョウ	經 ケイ キョウ	溪 ケイ キョウ	揭 ケイ キョウ	啓 ケイ キョウ	恵 めぐ キョウ	計 ケイ キョウ	契 ケイ キョウ	型 ケイ キョウ		
研 ケン キョウ	建 ケン キョウ	肩 カタ キョウ	券 ケン キョウ	見 ケン キョウ	件 ケン キョウ	犬 ケン キョウ	月 ゲツ キョウ	潔 ケツ キョウ	傑 ケツ キョウ	結 むす キョウ	決 ケツ キョウ	血 ケツ キョウ	穴 アナ キョウ	欠 ケツ キョウ	朽 く キョウ	激 ハゲ キョウ	擊 ウツ キョウ	劇 ゲキ キョウ	隙 スキ キョウ	鯨 クジラ キョウ	迎 ムカ キョウ	芸 ゲイ キョウ	
懸 ケン キョウ	驗 ケン キョウ	頭 ケン キョウ	繭 ケン キョウ	鍵 カギ キョウ	謙 ケン キョウ	賢 ケン キョウ	憲 ケン キョウ	権 ケン キョウ	遣 ツカ キョウ	絹 ケン キョウ	献 ケン キョウ	嫌 ケン キョウ	檢 ケン キョウ	堅 ケン キョウ	圈 ケン キョウ	險 ケン キョウ	健 ケン キョウ	軒 ケン キョウ	拳 ケン キョウ	劍 ケン キョウ	兼 ケン キョウ	儉 ケン キョウ	梟 ケン キョウ
故 コ キョウ	孤 コ キョウ	孤 コ キョウ	虎 コ キョウ	股 コ キョウ	固 カタ キョウ	呼 コ キョウ	古 コ キョウ	戸 コ キョウ	己 コ キョウ	こ コ キョウ	嚴 ゲン キョウ	源 ゲン キョウ	減 ヘン キョウ	舷 ゲン キョウ	現 ゲン キョウ	原 ゲン キョウ	限 ゲン キョウ	弦 ゲン キョウ	言 ゲン キョウ	玄 ゲン キョウ	幻 マヨ キョウ	元 ゲン キョウ	

公 コウ おやけ	工 コウ ク	口 コウ クチ	護 ゴ コ	誤 ゴ あやまる	語 ゴ カタ	基 ゴ コ	悟 ゴ サ	娛 ゴ コ	後 ゴ アト ウシ	吳 ゴ コ	午 ゴ コ	互 ゴ タ ガイ	五 ゴ イツ イツ	顧 コ カ エリ ミ	銅 コ コ	鼓 コ ツ ツ ミ	誇 コ ホ コ	雇 コ ヤ トウ	湖 コ ミ ヅ ウ ミ	庫 コ コ	個 コ コ	枯 コ カ レ
更 コウ カ サ	攻 コウ セ メル	抗 コウ コ	孝 コウ コ	坑 コウ コ	行 コウ イ ク ユ ク	考 コウ カン ガ エ	江 コウ エ	好 コウ コ ノ ム	后 コウ コ	向 コウ ム ク ム カ ウ	光 コウ ヒ カ リ	交 コウ マ ジ エ ル	甲 コウ カン	広 コウ ヒ ロ ミ ル	巧 コウ タ ク ミ	功 コウ コ	孔 コウ コ	勾 コウ コ				
康 コウ コ	高 コウ タ カ マ ル	降 コウ オ ロ ス	貢 コウ ミ ツ	航 コウ コ	耕 コウ タ ガ ヤ ス	校 コウ コ	候 コウ ソ ウ ロ ウ	香 コウ カ オ ル	郊 コウ コ	荒 コウ ア ラ イ	紅 コウ ベ ニ	皇 コウ オウ	洪 コウ コ	恒 コウ コ	厚 コウ ア ツ イ	侯 コウ コ	肯 コウ コ	拘 コウ コ	幸 コウ サイ ワ イ	効 コウ キ ク		
号 ゴウ コ	乞 コウ コ	購 コウ コ	講 コウ コ	鋼 コウ ハ ガ ネ	衡 コウ コ	興 コウ オ コ ス	稿 コウ コ	酵 コウ コ	綱 コウ ツ ナ	構 コウ カ マ ウ	鉅 コウ コ	溝 コウ ミ ゾ	項 コウ コ	絞 コウ シ メ ル	硬 コウ カ タ イ	港 コウ ミ ナ ト	慌 コウ ア ワ テ ル	喉 コウ ノ ド	黄 コウ コ	梗 コウ コ	控 コウ ヒ カ エ ル	
根 ネ コン	恨 コン ウ ラ メ シ イ	昆 コン コ	困 コン コ マ ル	今 コン イ マ	頃 コン コ ロ	込 コン コ メ ル	駒 コン コ マ	骨 コン ホ ネ	獄 コン ゴ ク	酷 コン コ ク	穀 コン コ ク	黒 コン ク ロ	国 コン ク ニ	刻 コン キ ザ ム	谷 コン タ ニ	告 コン ツ ゲ ル	克 コン コ ク	豪 コン ゴウ	傲 コン ゴウ	剛 コン ゴウ	拷 コン ゴウ	合 コン ア ハ ワ ス
妻 サイ ツ マ	災 サイ ワ ザ イ	再 サイ フ タ タ ビ	才 サイ サイ	挫 ザ ザ	座 ザ ザ	鎖 サ ク サ リ	詐 サ サ	差 サ サ	唆 サ ソ ソ ノ カ サ	砂 サ サ ナ	査 サ サ	沙 サ サ	佐 サ サ	左 サ ヒ ダ リ	さ サ	懇 コン ネ ン ゴ ロ	壘 コン コン	魂 コン タ マ シ イ	紺 コン コン	痕 コン ア ト	混 コン マ ジ ル	婚 コン コン
剂 ザイ ザイ	材 ザイ ザイ	在 ザイ ア ル	埼 サイ サイ	際 サイ サイ	載 サイ ノ セ ル	歳 サイ サイ	塞 サイ フ サ ガ ル	催 サイ モ ヨ オ ス	債 サイ サイ	裁 サイ タ ツ	最 サイ サイ	菜 サイ サイ	細 サイ ホ ソ イ	斎 サイ マ ツ リ	祭 サイ サイ	济 サイ サ マ ズ	採 サイ サイ	彩 サイ イ ロ ド ル	栽 サイ サイ	宰 サイ サイ	碎 サイ ク ダ ク	采 サイ サイ
皿 ザイ サラ	雜 ザイ ザ ツ	擦 ザイ サ ツ	撮 ザイ サ ツ	察 ザイ サ ツ	殺 ザイ コ ロ ス	拶 ザイ サ ツ	利 ザイ セ ツ	札 ザイ サ ツ	冊 ザイ サ ツ	咲 ザイ サ ク	錯 ザイ サ ク	搾 ザイ サ ク	酢 ザイ サ ク	策 ザイ サ ク	索 ザイ サ ク	柵 ザイ サ ク	昨 ザイ サ ク	削 ザイ ケ ズ ル	作 ザイ ツ ク	崎 ザイ サ キ	罪 ザイ ツ ミ	財 ザイ サイ
仕 シ ツ カ エ ル	氏 シ ウ シ	止 シ ト ド マ ル	支 シ サ サ エ ル	子 シ コ シ	士 シ シ	し シ	暫 ザン ザン	斬 ザン ザン	残 ザン ノ コ リ	賛 ザン ザン	酸 ザン サイ	算 ザン ザン	散 ザン チ ラ ス	傘 ザン カ サ	産 ザン ウ ム	慘 ザン ミ ジ メ	蚕 ザン カイ コ	栈 ザン ザン	参 ザン マ イ ル	山 ザン ヤマ	三 ザン ミ ツ	
施 シ ホ ド コ ス	指 シ ユ ビ	思 シ オ モ ウ	姿 シ サ ガ タ	肢 シ シ	社 シ シ	枝 シ エ ダ	姉 シ ア ネ	始 シ ハ ジ メ ル	刺 シ サ ス	使 シ ツ カ ウ	私 シ ワ タ ク シ	志 シ コ ロ ザ シ	伺 シ ウ カ ガ ウ	至 シ イ タ ル	糸 シ イ ト	死 シ シ メ	旨 シ シ メ	矢 シ ヤ	市 シ イチ	四 シ ヨ ツ	司 シ シ	史 シ シ

耳 ^{ミミ} みみ	次 ^{ツギ} つぎ	寺 ^{テラ} てら	字 ^ジ じ	示 ^シ しめす	諮 ^シ はかる	賜 ^{ミタマハル} たまはる	摯 ^シ めす	雌 ^{メス} めす	誌 ^シ し	飼 ^{カウ} かう	資 ^シ し	詩 ^シ し	試 ^シ ためす	嗣 ^シ し	齒 ^{ハシ} はし	詞 ^シ し	紫 ^{ムラサキ} むらさき	視 ^シ し	脂 ^{アブラ} あぶら	紙 ^{カミ} かみ	(恣)恣 ^シ し	恣 ^シ し	師 ^シ し
室 ^{シツ} むろ	失 ^{シツ} うしなう	叱 ^{シツ} しかる	七 ^{シチ} なな	軸 ^{ジク} なな	識 ^{シキ} し	式 ^{シキ} し	鹿 ^{カシカ} かしか	璽 ^シ え	(餌)餌 ^{エサ} え	餌 ^{エサ} え	磁 ^ジ じ	辞 ^ジ やめる	慈 ^ジ いつくしむ	滋 ^ジ どき	時 ^ジ とき	持 ^{モツ} もつ	治 ^ジ おさめる	侍 ^ジ さむらい	事 ^ジ こと	児 ^ニ こ	似 ^ニ に	自 ^{ミヅカ} みずから	
借 ^{シヤク} かりる	尺 ^{シヤク} しゃく	蛇 ^{ジャ} へび	邪 ^{ジャ} だ	謝 ^{シヤ} あやまる	遮 ^{シヤ} さげ	煮 ^{シヤ} に	斜 ^{シヤ} ななめ	赦 ^{シヤ} ゆるす	捨 ^{シヤ} すてる	射 ^{シヤ} しや	者 ^{シヤ} もの	舍 ^{シヤ} しゃ	車 ^{シヤ} くるま	社 ^{シヤ} やしろ	写 ^{シヤ} うつす	芝 ^{シバ} しば	実 ^{シツ} み	質 ^{シツ} しち	漆 ^{シツ} しつ	嫉 ^{シツ} しめす	湿 ^{シツ} しめす	執 ^{シツ} しつ	疾 ^{シツ} しつ
受 ^{ジュ} うける	寿 ^{ジュ} ことぶき	趣 ^{シュ} おもむき	種 ^{シュ} たね	腫 ^{シュ} はれる	酒 ^{シュ} さけ	珠 ^{シュ} こ	殊 ^{シュ} こと	首 ^{シュ} くび	狩 ^{シュ} かる	取 ^{シュ} とる	朱 ^{シュ} しゅ	守 ^{シュ} まもる	主 ^{シュ} しゅ	手 ^テ て	寂 ^{シヤク} さびしい	弱 ^{ジュヤク} よわる	若 ^{ニヤク} わかい	爵 ^{ニヤク} しやく	爵 ^{ニヤク} しやく	釈 ^{シヤク} しやく	釈 ^{シヤク} しやく	酌 ^{シヤク} しやく	
衆 ^{シュウ} しゅ	就 ^{シュウ} しゅ	週 ^{シュウ} しゅ	習 ^{シュウ} しゅ	羞 ^{シュウ} はる	終 ^{シュウ} はる	袖 ^{シュウ} そで	修 ^{シュウ} おさめる	臭 ^{シュウ} におう	秋 ^{アキ} あき	拾 ^{シュウ} ひろ	宗 ^{ソウ} しゅ	周 ^{シュウ} まわり	秀 ^{シュウ} ひいでる	舟 ^{フネ} ふね	州 ^{シュウ} しゅ	囚 ^{シュウ} おさめる	収 ^{シュウ} おさめる	樹 ^{ジュ} しゅ	儒 ^{ジュ} しゅ	需 ^{ジュ} しゅ	授 ^{ジュ} しゅ	呪 ^{ジュ} のろ	
祝 ^{シユク} いわう	叔 ^{シユク} しゅく	縦 ^{ジュウ} たて	獸 ^{ジュウ} けもの	銃 ^{ジュウ} しゅ	洪 ^{ジュウ} しゅ	従 ^{ジュウ} したが	重 ^{ジュウ} かさなる	柔 ^{ジュウ} やわらか	住 ^{ジュウ} すまう	充 ^{ジュウ} あつめる	汁 ^{ジュウ} じゅう	十 ^{ジュウ} とお	襲 ^{ジュウ} おそ	蹴 ^{ジュウ} ける	醜 ^{シュウ} みにくい	酬 ^{シュウ} しゅ	愁 ^{シュウ} しゅ	集 ^{シュウ} あつまる					
潤 ^{ジュン} うる	準 ^{ジュン} じゅん	順 ^{ジュン} じゅん	循 ^{ジュン} じゅん	純 ^{ジュン} じゅん	殉 ^{ジュン} じゅん	准 ^{ジュン} じゅん	盾 ^{ジュン} たて	巡 ^{ジュン} めぐる	旬 ^{ジュン} じゅん	瞬 ^{ジュン} またた	春 ^{シュン} はる	俊 ^{シュン} しゅん	術 ^{ジュツ} じゅつ	述 ^{ジュツ} じゅつ	出 ^{シュツ} でる	熟 ^{ジュク} じゅく	塾 ^{ジュク} じゅく	縮 ^{シュク} ちぢまる	肅 ^{シュク} じゅく	淑 ^{シュク} じゅく	宿 ^{シュク} やど		
匠 ^{シヨウ} めす	召 ^{シヨウ} めす	少 ^{シヨウ} すくない	升 ^{シヨウ} あが	小 ^{シヨウ} ちひさい	除 ^{シヨウ} のぞく	徐 ^{シヨウ} じょ	叙 ^{シヨウ} じょ	序 ^{シヨウ} じょ	助 ^{シヨウ} たすける	如 ^{シヨウ} じょ	女 ^{ニョウ} おんな	諸 ^{シヨウ} しよ	緒 ^{シヨウ} お	署 ^{シヨウ} しよ	暑 ^{シヨウ} あつい	庶 ^{シヨウ} しよ	書 ^{シヨウ} かく	所 ^{シヨウ} ところ	初 ^{シヨウ} はじめて	処 ^{シヨウ} しよ	遵 ^{ジュン} じゅん		
勝 ^{シヨウ} かつ	訟 ^{シヨウ} しよ	紹 ^{シヨウ} しよ	章 ^{シヨウ} しよ	涉 ^{シヨウ} あき	商 ^{シヨウ} あき	唱 ^{シヨウ} とな	笑 ^{シヨウ} わらう	称 ^{シヨウ} しよ	祥 ^{シヨウ} しよ	症 ^{シヨウ} しよ	消 ^{シヨウ} きえる	将 ^{シヨウ} しよ	宵 ^{シヨウ} よい	昭 ^{シヨウ} しよ	沼 ^{シヨウ} ぬま	松 ^{シヨウ} まつ	昇 ^{シヨウ} のぼる	承 ^{シヨウ} うけたま	招 ^{シヨウ} まねく	尚 ^{シヨウ} しよ	肖 ^{シヨウ} しよ	抄 ^{シヨウ} しよ	床 ^{シヨウ} どこ
鐘 ^{シヨウ} かね	礁 ^{シヨウ} しよ	償 ^{シヨウ} つぐな	賞 ^{シヨウ} しよ	衝 ^{シヨウ} しよ	憧 ^{シヨウ} あこが	障 ^{シヨウ} しよ	彰 ^{シヨウ} しよ	詳 ^{シヨウ} くわしい	照 ^{シヨウ} てれる	奨 ^{シヨウ} いためる	傷 ^{シヨウ} きず	象 ^{シヨウ} ゾウ	証 ^{シヨウ} しよ	詔 ^{シヨウ} みこと	粧 ^{シヨウ} しよ	硝 ^{シヨウ} しよ	焦 ^{シヨウ} こが	焼 ^{シヨウ} やく	晶 ^{シヨウ} しよ	掌 ^{シヨウ} しよ			

色 いろ シヨク シキ	3 釀 ジャウ カモウ	214 讓 ジョウ ユズル	57 錠 ジョウ ナワ	3 嬢 ジョウ ナワ	3 壤 ジョウ ナワ	3 繩 ジョウ ナワ	• 蒸 ジョウ ナワ むす
----------------------	----------------------	------------------------	----------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---

◆ 常用漢字表

3	3	33	●	128	●	3	35	58	●	●	1	97	3	1	58	1	211	●					
踪	槽	遭	総	層	想	僧	装	葬	瘦	喪	創	窓	爽	曾	曹	掃	巢	桑	挿	搜	倉	送	草
ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ
ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ
測	側	速	捉	息	則	促	足	束	即	臍	贈	蔵	憎	増	像	造	藻	騷	霜	燥	操	●	●
はかる	がわ	すみやか	とらえる	いき	ソク	うながす	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク
はかる	がわ	すみやか	とらえる	いき	ソク	うながす	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク	ソク
3	3	1	211	1	●	●	121	●	●	●	●	●	●	●	●	●	160	●	●	●	●	●	●
情	墮	唾	妥	汰	多	他	た	(遜)	遜	損	尊	孫	村	存	率	卒	続	賊	属	族	俗	●	●
ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ
ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ
台	代	大	戴	態	滯	隊	貸	替	逮	袋	堆	泰	帶	退	胎	怠	待	耐	体	対	太	駄	●
ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ
ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ	ダイ
3	●	58	1	1	3	41	173	3	159	157	1	3	3	39	68	1	●	68	●	●	●	●	●
胆	炭	単	担	旦	誰	棚	奪	脱	達	但	濁	諾	濯	託	拓	卓	沢	択	宅	滝	題	第	●
タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン
タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン	タン
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
値	知	池	地	ち	壇	談	暖	彈	断	段	男	団	鍛	誕	綻	端	嘆	短	淡	探	●	●	●
ネ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ
ネ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ
138	3	●	58	1	1	3	83	64	3	1	1	1	1	1	3	1	176	90	●	●	●	●	●
冲	虫	仲	中	嫡	着	茶	室	秩	築	蓄	逐	畜	竹	緻	置	稚	痴	遲	致	恥	●	●	●
チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ
チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ
3	1	1	92	●	●	●	78	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
釣	眺	彫	張	帳	挑	長	町	兆	庁	弔	貯	著	駐	铸	酎	衷	柱	昼	注	抽	忠	宙	●
チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ
チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ	チュウ
3	1	1	57	3	216	1	●	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
朕	珍	沈	(抄)抄	勅	直	懲	聴	調	澄	潮	(嘲)嘲	徵	跳	腸	超	貼	朝	鳥	頂	●	●	●	●
チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン
チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン
●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
底	定	弟	廷	呈	低	て	鶴	爪	坪	漬	塚	痛	通	墜	椎	追	つ	鎮	賃	陳	●	●	●
テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ
テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ

敵 テキ かたき	適 テキ したたる	滴 テキ つむ	摘 テキ ふえ	笛 フエ	的 テキ まじ	泥 ドロ どろ	諦 テイ あきらめる	締 テイ しめる	艇 テイ しめる	程 テイ ほど	提 テイ ひき	堤 テイ つみ	偵 テイ み	停 テイ み	逋 テイ み	庭 テイ にわ	訂 テイ み	帝 テイ み	貞 テイ み	亭 テイ み	邸 テイ み	抵 テイ み	
斗 ト	と	電 デン デン	殿 デン どの	伝 デン つた	田 デン た	(填)填 デン	転 デン ころ	添 デン そ	展 デン てん	点 デン み	店 デン み	典 デン み	天 デン あま	撤 テツ み	徹 テツ み	鉄 テツ み	哲 テツ み	迭 テツ み	(溺)溺 デキ おぼれる				
156	到 トウ	東 トウ ひがし	豆 マメ まめ	投 ナゲル なげる	当 アタ あたる	灯 トウ ひ	冬 フユ ふゆ	刀 カタ かな	怒 イカ おこる	度 タク た	努 ツト つとめる	奴 ド ど	土 ツチ つち	(賭)賭 カケル	塗 ヌル ぬる	渡 ワタ わたる	都 ミヤコ みやこ	途 ミチ みち	徒 ト と	妬 ネタ ねたむ	吐 ハク はく		
1	統 トウ すべ	筒 ツツ つつ	等 トウ ひとしい	答 コタ こたえる	登 トウ のぼる	痘 トウ とう	湯 ユ ゆ	棟 トウ むね	搭 トウ た	塔 トウ た	陶 トウ た	盗 ヌス ぬすむ	悼 トウ いたむ	党 トウ た	透 トウ すく	討 トウ つ	桃 モモ もも	島 シマ しま	唐 カラ から	凍 コウ こえる	倒 オタ たおれる	逃 トウ のがす	
3	得 トク える	特 トク トク	匿 トク トク	峠 トウ とうげ	瞳 ヒトミ ひとみ	導 ドウ みち	銅 ドウ どう	働 ハタ はたらく	道 ミチ みち	童 ドウ わらわ	堂 ドウ どう	動 ドウ うごく	胴 ドウ うごかす	洞 ドウ ほら	同 ドウ おなじ	騰 トウ トウ	聞 キ き	藤 フジ ふじ	膳 テン テン	頭 カシラ かしら	糖 ドウ とう	踏 フム ふま	稻 イネ いね
1	(謎)謎 ナゾ	梨 ナシ なし	内 ウチ うち	奈 ナイ な	那 ナ な	な	井 イ い	曇 クモ くも	鈍 ドン にぶい	貪 ドン むさぼる	頓 トン トン	豚 ブタ ぶた	屯 トン トン	届 トキ とどく	突 ツク つ	凸 ツツ ツツ	栃 トチ とち	読 ヨミ よみ	独 ドク ひとり	毒 ドク どく	篤 トク とく	德 トク とく	督 トク とく
1	年 ネン とし	熱 ネツ あつい	寧 ネイ ネイ	ね	認 ニン しる	忍 ニン しのぶ	妊 ニン にん	任 ニン まかす	尿 ニョウ にょう	乳 ニユウ にゅう	入 ニュウ いれる	日 ニチ ひ	虹 ニジ にじ	肉 ニク にく	匂 ニオイ にお	式 シキ しき	尼 ニ に	二 ニ ふた	に	難 ナン むずかしい	軟 ナン やわらか	南 ナン みなみ	鍋 ナベ なべ
3	杯 ハイ さかずき	拝 ハイ おがむ	罵 ハ ののしる	婆 バ ば	馬 ウマ うま	霸 ハ は	破 ハ やぶれる	派 ハ は	波 ハ なみ	把 ハ は	は	濃 ノウ こい	農 ノウ のう	脳 ノウ のう	能 ノウ のう	納 ノウ おさめる	悩 ノウ なやむ	の	燃 ネン もえる	粘 ネン ねばる	捻 ネン ねん	念 ネン ねん	
170	(剥)剥 ハク はが	迫 ハク せまる	泊 ハク とまる	拍 ハク はく	伯 ハク はく	白 ハク しろ	賠 ハク しら	買 バイ かう	媒 バイ ばい	陪 バイ ばい	培 バイ ばい	梅 バイ うめ	倍 バイ ばい	売 バイ うる	輩 バイ はい	廢 ハク すた	敗 ハク はく	排 ハク はい	配 ハク くばる	俳 ハク はい	肺 ハク はい	背 ハク せ	
3	半 ハン なか	反 ハン はん	閥 ハツ ハツ	罰 ハツ ハツ	拔 ハツ ハツ	伐 ハツ ハツ	髮 ハツ ハツ	発 ハツ ハツ	鉢 ハツ ハツ	八 ハチ ハチ	肌 ハダ はだ	畑 ハタ はたけ	(箸)箸 ハシ はし	箱 ハコ はこ	爆 ハク はく	縛 ハク はく	漠 ハク はく	麦 ムギ むぎ	薄 ハク はく	博 ハク はく	舶 ハク はく		

◆ 常用漢字表

番	晩	藩	繁	範	頒	煩	搬	飯	斑	販	般	畔	班	版	板	阪	坂	判	伴	汎	帆	犯	汜
バン	バン	ハン	ハン	ハン	ハン	ハン (わづらわす)	ハン	めし ハン	ハン	ハン	ハン	ハン	ハン	ハン	いた バン	ハン	さか (ハン)	ハン	ハン	ハン	はん ハン	はん ハン	ハン
3	1	1	1	3	3	1	1	1	1	3	1	3	3	3	1	3	3	3	189	3	3	159	3
罷	碑	費	扉	悲	被	秘	疲	飛	卑	非	肥	披	彼	批	否	妃	皮	比	ひ	盤	蠻		
ヒ	ヒ	ヒ (いやす)	ヒ (とびら)	ヒ (かなしい)	ヒ (こうむる)	ヒ (ひめる)	ヒ (つかれる)	ヒ (とぶ)	ヒ (いやしむ)	ヒ	ヒ (こえる)	ヒ (こやす)	ヒ (かれ)	ヒ	ヒ (いな)	ヒ	ヒ (かわ)	ヒ (くらべる)	ヒ	ヒ (パン)	ヒ (パン)		
1	138								162														
苗	標	漂	評	票	俵	表	氷	百	姫	筆	泌	必	匹	肘	膝	鼻	微	備	美	眉	尾	避	
ミョウ	ヒョウ	ヒョウ	ヒョウ	ヒョウ	ヒョウ	ヒョウ	ヒョウ	ヒャク	ヒメ	フデ	ヒツ	ヒツ	ヒツ	ヒジ	ヒザ	ハナ	ビ	ビ	ミ	ミ	ビ	ヒ	ヒ
112	1	1	47	3	3	3	57	1	3	3	1	152	29	3	3	1	1	1	1	1	1	1	
負	訃	附	阜	怖	府	扶	布	付	父	夫	不	ふ	瓶	敏	頻	賓	貧	浜	品	猫	描	病	秒
フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ	フ	ビン	ビン	ビン	ビン	ビン	ハマ	シン	ネコ	ビョウ	ビョウ	ビョウ
175																							
復	幅	副	服	伏	風	封	舞	部	武	侮	譜	賦	膚	敷	腐	普	富	符	婦	浮	赴		
フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
平	丙	へ	聞	文	分	奮	憤	墳	噴	雰	紛	粉	物	仏	沸	払	覆	複	腹	福			
ヘイ	ヘイ	ヘイ	ブン	モン	ブン	ブン	ブン	ブン	ブン	ブン	ブン	ブン	モノ	ブツ	フツ	ハツ	フク	フク	フク	フク	フク	フク	フク
39	3	3	18	1	3	170	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	157	3	3	3	3	3	
返	辺	片	蔑	別	癖	壁	壁	米	(餅)餅	(蔽)蔽	弊	幣	堀	閉	陞	柄	並	併	兵				
ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	ヘン	
57	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
包	方	簿	暮	慕	墓	募	母	舗	補	捕	哺	保	歩	ほ	勉	便	弁	編	遍	偏	變		
ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	ホウ	
33	1	3	68	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
亡	縫	褒	飽	豊	蜂	報	訪	崩	砲	峰	倣	俸	胞	泡	法	放	抱	宝	奉	邦	芳		
ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	
45	3	178	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
(頼)頼	謀	膨	暴	貌	貿	棒	帽	傍	望	紡	剖	冒	某	肪	房	防	忘	妨	坊	忙	乏		
ホ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	ボウ	

枚 妹 毎 魔 磨 摩 麻 ま 盆 凡 翻 奔 本 堀 勃 没 撲 墨 僕 睦 牧 朴 木 北

眠 民 妙 脈 蜜 密 岬 魅 味 未 み 漫 慢 満 万 抹 末 又 枕 膜 幕 埋 味

麵 綿 面 免 滅 鳴 銘 盟 冥 迷 明 命 名 め 娘 霧 夢 無 務 矛 む

薬 訳 約 役 厄 弥 野 夜 冶 や 問 紋 門 黙 目 網 猛 耗 盲 妄 毛 模 茂 も

誘 雄 遊 裕 猶 湧 郵 悠 幽 勇 有 友 唯 癒 輸 論 愉 (喻) 愉 油 由 ゆ 闇 躍

溶 陽 葉 揺 揚 庸 容 要 洋 妖 羊 用 幼 預 誉 余 予 与 よ 優 融 憂

雷 来 羅 裸 拉 ら 翼 翌 欲 浴 沃 抑 曜 謡 擁 養 窯 踊 瘍 様 腰

立 陸 離 璃 履 裏 痢 理 里 利 吏 り 欄 藍 濫 覧 卵 乱 辣 酪 落 絡 頼

僚 量 陵 獵 涼 料 良 両 了 慮 虜 旅 侶 硫 隆 粒 竜 留 流 柳 略 慄 律

冷 礼 令 れ 類 墨 累 涙 瑠 る 臨 隣 輪 倫 厘 林 緑 力 糧 瞭 療 寮 領

常用漢字表とは

新たに加えられた漢字の中には、複数の書き方が通用しているものがあります。教科書の「新出漢字一覧」(312ページ)や「常用漢字表」(325ページ)などで、()を用いて二通りの字形が示されているのが、複数の書き方がある漢字です。書く場合には、どちらの字形を用いてもかまいません。

彙彙

例
(逆)逆

逆

●明日	あす	●母さん	かあさん	●八百屋	やおや
3 小豆	あずき	□神楽	かぐら	1 大和	やまと
□海女	あま	□河岸	かし	●弥生	やよい
□海士	あま	□鍛冶	かじ	□浴衣	ゆかた
硫黄	いおう	222 風邪	かぜ	1 行方	ゆくえ
1 意気地	いくじ	□固唾	かたず	□寄席	よせ
39 田舎	いなか	1 仮名	かな	●若人	わこうど
□息吹	いぶき	□蚊帳	かや		
海原	うなばら	●為替	かわせ		
乳母	うば	●河原	かわら		
□浮気	うわき	●川原	かわら		
浮つく	うわつく	●昨日	きのう		
笑顔	えがお	●今日	きょう		
3 叔父	おじ	●果物	くだもの		
3 伯父	おじ	●玄人	くろうと		
●大人	おとな	●今朝	けさ		
1 乙女	おとめ	●景色	けしき		
3 叔母	おば	●心地	こころ		
3 伯母	おば	●居士	こじ		
お巡りさん	おまわりさん	●今年	ことし		
□お神酒	おみき	●早乙女	さおとめ		
□母屋	おもや	●雑魚	ざこ		
□母家	おもや	●栈敷	さじき		
		220 差し支える	さしかえる		
		●五月	さつき		
		●早苗	さなえ		
		3 五月雨	さみだれ		
		●時雨	しぐれ		
		3 尻尾	しっぽ		
		3 竹刀	しな		
		●老舗	しにせ		
		1 芝生	しばふ		
		●清水	しみず		
		●三味線	しゃみせん		
		●砂利	じやり		
		□数珠	じゆず		
		●上手	じょうず		
		3 白髪	しらが		
		●素人	しろうと		
		□師走	しわす(しはす)		
		□数寄屋	すきや		
		□数奇屋	すきや		
		216 相撲	すもう		
		1 草履	ぞうり		
		□山車	だし		
		●太刀	たち		
		●立ち退く	たちのく		
		●七夕	たなばた		
		1 足袋	たび		
		□稚児	ちご		
		●一日	ついたち		
		□築山	つきやま		
		63 梅雨	つゆ		
		●凸凹	でこぼこ		
		●手伝う	てつだう		
		□伝馬船	てんません		
		□投網	とあみ		
		●父さん	とうさん		
		□十重二十重	とえはたえ		
		●読経	どきよう		
		●時計	とけい		
		●友達	ともだち		
		□仲人	なこうど		
		3 名残	なごり		
		3 雪崩	なだれ		
		●兄さん	にいさん		
		●姉さん	ねえさん		
		□野良	のら		
		□祝詞	のりと		
		●博士	はかせ		
		137 二十(歳)	はたち		
		●二十日	はつか		
		●波止場	はとば		
		●一人	ひとり		
		●日和	ひより		
		●二人	ふたり		
		●二日	ふつか		
		●吹雪	ふぶき		
		●下手	へた		
		●部屋	へや		
		●迷子	まいご		
		●真面目	まじめ		
		●真つ赤	まっか		
		●真つ青	まっさお		
		●土産	みやげ		
		1 息子	むすこ		
		222 眼鏡	めがね		
		●猛者	もさ		
		3 紅葉	もみじ		
		●木綿	もめん		
		●最寄り	もより		
		●八百長	やおちよう		

言葉の力一覧 (「」は載っているページ)

◆各領域の言葉の力

と		話すこと・聞くこと			
証・説得	伝達	詩歌創作	話し合う	話す	聞く
● 根拠を示す意見文 ● 根拠を明確にして書く	● 材料を集める ● 材料を整理し、文章を構成する	● 小さな発見を詩にしよう ● 表現を工夫する	● 話し合いで理解を深めよう ● グループディスカッション ● 体験や考えを出し合う ● 相手の考えを受けて話す	● 具体例を挙げて伝えよう ● 「ことわざ」スピーチ ● 順序立てて話を組み立てる ● 聞き取りやすく効果的な話し方をする	● 会話が弾む質問をしよう ● メモを取り、質問する
● 反論を考える [102] ● 意見文	● テーマを設定する [72] ● レポートの構成を工夫する [74] ● 反対意見を想定して書く	● 短歌のリズムで表現しよう ● 描き方を工夫する [27]	● 話し合いで問題を検討しよう ● リンクマップによる話し合い ● テーマを決め、メリットとデメリットを出し合う [198] ● テーマについて検討する [200]	● 説得力のある話を組み立てる [108] ● 資料や機器を活用する [109] ● 説得力のある話を組み立てる [108] ● プレゼンテーション	● 問題意識を持って聞こう ● 聞き取ったことを吟味する [56]
● 複数の対象を比較する ● 批評文	● 内容を膨らませて書く ● 推敲して読みやすい文章に仕上げる ● 観察・分析して論じよう	● 俳句を作って句会を開こう ● 読み合って評価する ● 「環境」のミニ雑誌	● 話し合いで問題を解決しよう ● チャート式討論 ● 論点を整理する ● お互いの考えを生かし合う	● 場面に応じて話そう ● 条件スピーチ ● 目的や相手、時間を意識する ● 場の状況や相手の様子に応じて話す	● 評価しながら聞こう ● 話をさまざまな観点から評価する

◆学びを支える言葉の力

実用的な言葉の力			
する力	説明する力	整理する力	
えを区別する	順序立てて説明する	分類する	一年
立てを捉える [242]	テーマを立てて説明する [239]	要約する [234]	二年
的に読む	目的や相手に応じて説明する	比較する	三年

代表

三角洋一 大正大学特命教授、
東京大学名誉教授
相澤秀夫 宮城教育大学名誉教授

秋田哲郎 筑波大学附属中学校教諭
池田修 京都橋大学准教授

伊藤明美 千葉県浦安市立中央図書館司書

岩間正則 鶴見大学准教授

大内善一 茨城キリスト教大学特任教授、
茨城大学名誉教授

川村 湊 文芸評論家・法政大学教授

木村まり子 東京都港区立三田中学校主任教諭

香西秀信 元宇都宮大学教授

佐藤明宏 香川大学教授

白石壽文 佐賀大学名誉教授

鈴木健一 学習院大学教授

高際尚子 東京都杉並区立荻窪中学校副校長

筑田周一 女子聖学院中学校高等学校教諭

千々岩弘一 鹿児島国際大学教授

寺井英子 元お茶の水女子大学附属中学校教諭

中西一彦 関西国際大学教授

榎原義顕 富崎大学大学院准教授

成田雅樹 秋田大学教授

難波博孝 広島大学大学院教授

野矢茂樹 東京大学大学院教授

馬場 誠 東京都八王子市立野田中学校主幹教諭
語り部・かたりすと、
大阪芸術大学教授

平野啓子 岩手大学教授

藤井知弘 東京都国分寺市立第一中学校教諭

藤本梨紗 作家・早稲田大学教授

堀江敏幸 兵庫教育大学大学院教授

堀江祐爾 熊本大学教員

堀畑正臣 広島大学大学院教授

間瀬茂夫

松崎正治 同志社女子大学教授

道浦母都子 歌人

矢島正浩 愛知教育大学教授

矢田 勉 大阪大学大学院准教授

山田圭一 千葉大学准教授

山田 進 聖心女子大学教授

和田征文 山口短期大学客員教授

渡邊春美 高知大学教授

渡部洋一郎 上越教育大学大学院准教授

東京書籍株式会社

新編 新しい国語 2

平成二十七年三月六日検定済
21東書一国語827
平成二十八年一月二十日印刷
平成二十八年二月十日発行

著者 三角洋一・相澤秀夫

発行者 東京書籍株式会社
代表者 川畑慈範
東京都北区堀船二丁目十七番一
号

印刷者 株式会社リーブルテック
代表者 酒井 隆
東京都北区堀船一丁目二十三番三十一
号

発行者 東京書籍株式会社
東京都北区堀船二丁目十七番一
号
〒一四八五二四

定価 文部科学大臣が認可し官報で告示した定価
(右記の定価は、各教科書取次供給所に表示します。)

電話 本社 広報〇三五六七三 編集〇五九〇七五五
供給販売〇五九〇七五七

支社・出張所 札幌〇二五六七三 仙台〇三九六六
東京〇五九〇七五七 金沢〇六三三七八
名古屋〇五九〇七五七 大阪〇六九六三三
広島〇八五六七三 福岡〇九二七二五三
那覇〇九八四八〇四

本書の解説書・ワークブック並びにこれに類するものの
無断発行を禁ずる。

Copyright © 2016 by Tokyo Shosetsu Co., Ltd. Tokyo
All rights reserved. Printed in Japan

本書の解説書・ワークブック並びにこれに類するものの
無断発行を禁ずる。

Copyright © 2016 by Tokyo Shosetsu Co., Ltd. Tokyo
All rights reserved. Printed in Japan

本書の解説書・ワークブック並びにこれに類するものの
無断発行を禁ずる。

Copyright © 2016 by Tokyo Shosetsu Co., Ltd. Tokyo
All rights reserved. Printed in Japan

本書の解説書・ワークブック並びにこれに類するものの
無断発行を禁ずる。

Copyright © 2016 by Tokyo Shosetsu Co., Ltd. Tokyo
All rights reserved. Printed in Japan

読むこと

言葉とメディア	文学二	吟味・判断	構成・展開	文学一	言語感覚	感性・創造	情報発信	通信手
● ニュースの見方を考えよう ● 情報を見極める	● 少年の日の思い出 ● 伏線に着目する	● スズメは本当に減っているか ● 事実と筆者の考えを区別する	● オオカミを見る目 ● 段落の役割や段落どうしの関係を捉える	● 飛べ かもめ ● さんちぎ ● 表現を手がかりにして考える	● 詩の心——発見の喜び ● 詩を鑑賞する	● 作品のよさを表現しよう ● 歌の鑑賞文 ● 作品を鑑賞し、考えをまとめる ● 感じたことや考えたことを表現する	● 学校新聞の記事を書こう ● 図表を用いて情報を伝える	● 掲載する情報を選択する
● 「正しい」言葉は信じられるか ● 事実と言葉の関係を意識する [192]	● 走れメロス ● 人物像に着目する [169]	● 哲学的思考のすすめ ● 論証を吟味する [96]	● 鰻節——世界に誇る伝統食 ● 文章の構成を捉え、要約する [67]	● 字のない葉書 ● 卒業ホームラン ● 登場人物の言葉や行動の意味に注意する [36]	● 短歌を楽しむ ● 短歌を鑑賞する [25]	● いきいきと描き出そう ● 短歌から始まる物語 ● 豊かに描写する [207] ● 意見交換の観点を持つ [208]	● タウン誌の記事を推敲しよう ● より効果的に伝わるように推敲する [194]	● 手紙を推敲する [146]
● 情報をもより深く捉える	● 故郷 ● 人間関係の変化に着目する	● 黄金の扇風機 ● サハラ砂漠の茶会 ● 読み比べて自分の考えをまとめる	● 絶滅の意味 ● 説得力を高めるための論の進め方を捉える	● 形 ● 百科事典少女 ● 作品を批評する	● 俳句の読み方、味わい方 ● 俳句を鑑賞する	● 今の思いをまとめよう ● 時を超える手紙 ● 書きたい内容を考える ● 手紙の書きだしと結びを整える		

創造的な言葉の力		論理的な言葉の力	
表現する力	解釈する力	議論する力	事
● 鮮やかに表現する	● 文脈を捉え、伏線に気づく	● 質問する	
● 想像を誘うように表現する [251]	● 人物像を捉える [248]	● 反論する [245]	論証
● 素材を生かして表現する	● 人物どうしの関係に着目する	● 合意を形成する	

年 組

この教科書は、教育基本法に掲げられた「平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」という教育の目的を達成するために、学習指導要領で定められた国語科の目標や内容に基づいて作成しています。

この教科書は、以下のような工夫や配慮を行っています。

- 全ての生徒の色覚特性に適合するようにデザインしています。
- 再生紙・植物油インキを使用しています。

この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。



9784487122127



1924381000000

ISBN978-4-487-12212-7
C4381 ¥00000E



東京書籍

未来へ

谷川俊太郎
たにかわしゅんたろう

道ばたのこのスミレが今日咲くまでに

どれだけの時が必要だったことだろう

この形この色この香りは計りしれぬ過去から来た

遠く地平へと続くこの道ができるまでに

どれだけのけものが人々が通ったことだろう

足元の土に無数の生と死が埋もれている

照りつけるこの太陽がいつか冷え切るまでに

目に見えないどんな力が働くのだろう

私たちもまたその力によって生れてきた



人は限りないものを知ることとはできない

だが人はそれを生きていることができる

限りある日々の彼方かなたを見つめて

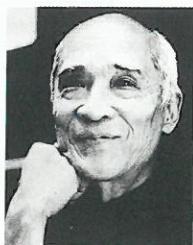
未だ来ないものを人は待ちながら創いっていく

誰もきみに未来を贈おくることはできない

何故なぜならきみが未来だから

15

10



谷川俊太郎

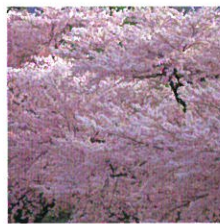
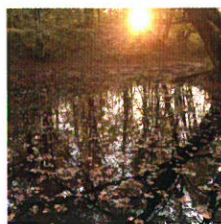
一九三一「昭和6」年、東京都出身。詩人。

詩集に「二十億光年の孤独」「どきん」「こころ」などがある。

出典「すき」

〇 時を表すさまざまな表現に注意して詩の意味を捉え、読み方を工夫して音読しよう。





1 桜ばないのち一ぱいに咲くからに生命をかけてわが眺めたり いのち
岡本かの子 おかもとこ

2 草わかば色鉛筆の赤き粉のちるがいとしく寝て削るなり いろえんぴつ
北原白秋 きたはら はくしゅう

3 夏木立ひかりちらしてかがやける青葉の中にわが青葉あり おき
荻原裕幸 おきはら ひろゆき

4 虹よ立て夏の終りをも生きてゆくぼくのいのちの頭上はるかに にじ
早坂類 はやさか るい

5 おくやまに紅葉踏み分けなく鹿の声きくときぞあきは悲しき もみぢ
猿丸大夫 さるまる だゆう

6 ほんとうにおれのもんかよ冷蔵庫の卵置き場に落ちる涙は なみだ
穂村弘 ほむら ひろし

7 卒業生最後の一人が門を出て二歩バックしてまた出ていった ちば
千葉聡 ちば さとし

新編

新しい国語

2

